ニテ死ニ至ラシメ、後投水シ、或ハ兇器ヲ以テ自殺セントシテ果タサズ、溺死シテソノ目的ヲ達スルコトアリ。負傷後誤テ溺死スルコトアリ、投身ノ際ニ橋桁等ニ衝突シテ受傷後、投水死ニ至ルコトアリ。溺死後水底ノ岩石、水車、汽船ノ推進器ニ衝突シテ受傷シ、或ハ溺死體ガ水鼠、魚類等ニヨリテ咬傷サルヽコトアリ、此等ノ際ハ注意シテ傷ノ狀態、生活反應ノ有無等ヲ檢査シテ、誤見ニ陷ラザル樣注意ヲ怠ルベカラズ。

四、爾餘ノ變死々體檢査

イ、餓死

常人ニ在リテハ自由拘束ノ場合、小兒及重病者ニ在リテハ、往々他殺ノ目的ニ飢エシメ、精神病者及囚人等ハ自殺ノ目的ニテ、食ヲ拒絕スルコトアリ。通常吾人々類ノ食ヲ取ラズシテ生命ヲ保チ得ル最長時間ハ小兒ニテハ十日內外、大人ニテハ約十五日ニシテ、水ノミヲ與ヘ身體ヲ使用セザル時ハ、大人ニテハ六十餘日モ饑餓ニ耐ユルコトヲ得ルト云フ。

餓死々體ヲ檢スレバ、强度ノ羸瘦、乾燥セル蒼白色ノ皮膚、胃腸ノ空虛及收縮、內臟ノ貧血、膽囊ノ怒張、尿ニあせとんノ反應等アリ。此ノ如キ所見アリ且ソノ他身體ニ死因トナリ得ベキ病變或ハ損傷ナキニ於テハ、此死體ハ餓死ナラントノ診定ヲ附スルコトヲ得。

ロ、火傷死、湯潑死及燒死

火傷ハ熱約セル固體、或ハ火焰ニ依リテ起リ、湯潑ハ種々ノ蒸氣、或ハ沸騰セル液體ニ觸レテ生ズルモ

ノトス。

燒死トハ猛火中ニ陷リ、身體ニ火傷ヲ被ルト同時ニ、呼吸ニ不適當ナル瓦斯ヲ吸入シ窒息急死スルモノヲ云フ。

火傷及湯潑ニ於テ、生命ニ對スル危險度ハ、ソノ深サニ關スルコト少ク、寧ロ廣サニ大關係ヲ有ス、通常身體表面ノ三分ノ一以上ヲ火傷スレバ、死ニ至ルモノナリト云フ。ソノ死因ハ恐ラク各臟器ニ於ケル破壞セル赤血球ノ栓塞、或ハ蛋白質ノ分解產物ノ中毒等ニ依ルモノナルベシ、小兒ハ比較的小部分ノ火傷ニテモ死ニ至ルコトアリ、又燒死セル死體ノ甚シキ硬直ヲ來スコトアルハ、筋肉內ノみおりんガ熱ニヨリ凝固シタル結果ナリ。

火傷死、湯潑死及燒死死體ノ外表所見トシテ特記スベキハ、身體各部ニ第一乃至第四度ノ火傷ヲ有スルコトナリ。通常皮膚ノ紅斑（第一度）ハ死後消失ス。第二度ノ水泡形成ハ、內ニ漿液ヲ含有シ、漿液破壞後ハ眞皮革皮狀ニ乾固シ、第三度ニ在リテハ痂皮ヲ形成シ居リ、第四度ニ至リテハ皮膚、筋肉等炭化ス。

內景所見、急ニ燒死セシモノニ在リテハ、窒息急死ノ徵標ノ他、特記スベキ異常所見ノナキコトアリ。或ハ身體各部ニ種々ノ度ノ火傷ヲ認ムルコトアリ。

火傷或ハ湯潑後二三日ニシテ死亡セルモノハ、所々ノ粘膜或ハ漿膜ニ溢血ヲ生ジ、栓塞性肺炎、肝、腎、脾等ニ脂肪變性ヲ來シ、又尿ニ血色素ヲ出シ、腸出血或ハ血尿等アリ。臟器細尿管內ニハへまといでいんノ結晶ヲ見ルコトアリ。ソノ他腦水腫、胃腸潰瘍ヲ來シ居リ、血液ハ暗赤色濃厚ニシテ、時トシテ固ク凝固シ、鏡檢スレバ崩解セル血球ヲ含有シ、時トシテ血液鮮紅色ヲ呈スルコトアリ。此時ハ容易ニ酸化炭素

火傷ガ生前或ハ死後ニ生ゼシヤ

へもぐろびんノ吸收線ヲ檢出スルコトヲ得ルモノナリ。

燒死ハ多クハ災厄死ニシテ、自殺ニ此方法ヲ取ルハ甚ダ稀ナリ。併シ注意スベキハ、他ノ方法ヲ以テ人ヲ殺傷シ、之ヲ隱蔽セシガ爲メ、往々火中ニ投ズルコトアリ。此時ニハ火傷ノ生前或ハ死後ナルコトヲ區別セザルベカラズ。

第一度ノ火傷紅斑ハ死後多クハ消失スルヲ以テ、此所ニハ殆ンド問題トナラズ、第二度ノ水疱形成ニ於テソガ生前或ハ死後ニ生ジタルカヲ鑑別スベキ點ハ、生前ニ生ジタルモノハ周圍ハ引赤シ、蛋白含量多キ漿液ヲ含有シ、中ニ淋巴球ヲ混ユ、然ルニ死後生ジタル水疱、例ヘバ腐敗瓦斯胞ノ如キハ、周圍ノ引赤ナク、内ニ帶赤淡綠色ノ蛋白少キ漿液ヲ含有シ、更ニ硫化水素ノ小量ヲ含ム。尙第二度ノ水疱ヲ、水疱ヲ形成スル諸種ノ皮膚病、例ヘバぺんひぐす或ハ發疱性皮膚炎等ト區別セザルベカラズ。次ニ生前ニ生ジタル第三度ノ痂皮ニハ、著明ナル血管網アリ、死後ノモノニハナシ。第四度ノ炭化ハ夫レ自身ノミニテハ、到底生前或ハ死後ノ何レニ生ジタルカヲ鑑別スルコト能ハザルモ、他ノ第一乃至第三度ノ火傷ヲ併存スル場合多ケレバ、之ニ依リテソノ區別ヲ附スルコトヲ得。尙人體ヲ、生前ニ火中セルモノナレバ、血液中ニ酸化炭素ヘもぐろびん、氣管内ニ煤煙ヲ證明スルコトヲ得、或ハ疑ハシキ部ノ組織學的標本ヲ作リテ檢スレバ毛細管ノ充盈或ハ血管中ニ血液ノ栓塞ヲ作リ居ル狀態ヲ見ルコトヲ得、死後投入セラレタルモノニハ上記ノ所見ナキヲ以テソノ鑑別容易ナリ。

次ニ火焰ニ依リテノ火傷ハ、皮膚ニ煤煙ヲ附着シ、毛髮ハ焦ゲ、種々ノ度ノ火傷アリ、湯潑ノ際ハ煤煙ノ附着ナク、又炭化ヲ見ズ、此等ノ點ヲ注意スレバ、ソガ火傷ナルヤ、湯潑ナルカヲモ鑑別スルコトヲ得ルナリ。

熱射病及日射病死

凍死

ハ、熱射病死及日射病死

熱射病ハ高溫ニシテ風ナク、溫度多キ陰鬱ナル日ニ、强甚ナル筋肉作業ヲ行フ時ニ起ルモノニシテ、體溫鬱積ガ原因トナリ、人事不省ニ次デ痙攣來リ、死ニ至ル。日射病死ハ前者ト相似タルモノナルモ、日光ノ直射ニ依リ、體溫非常ニ上昇シ、心臟硬直ヲ起シテ死ニ至ルモノナリ。此兩者ニハ窒息急死ノ徵標アルノ他特有ナル異常所見ナシト雖、古來ノ記載ニ依レバ、死體ノ强直及腐敗早ク來リ、腦膜ニハ血液多ク水腫狀ヲ呈シ、往々溢血アリ、左心ハ空虛ニシテ、右心ハ血液ニ滿タサル、時トシテ全身及諸臟器ニ大小種々ノ溢血點存スルコトアリト。熱射病及日射病ニ罹ル人ハ、死前已ニ心臟ニ缺陷ヲ有スルモノニ多シ。

二、凍死

人類ハ被服食料等十分ナレバ、零下五十度ノ所ニテモ生活スルコトヲ得。凍死シ易キ條件ハ被服ノ少キコト、老年者、初生兒、過勞、寒中ノ睡眠、あるこほるノ使用等ニシテ、初メ皮膚血管收縮シ血液ノ循環少クナリ、内臟ニ於ケル鬱血ヲ來シ、最後ニ神經中樞ノ麻痺ニ依リテ死ニ至ルモノナリ。

剖檢所見、皮膚、蒼白ニシテ身體硬クナリ、全身ニ赤色斑アリ、腦室内ニ氷塊ヲ作リ、縫合ノ離解セルヲ見ルコトアリ。肺心ニ血液多量ニ存在ス、一般ニ云ヘバ窒息急死ノ徵標ヲ主トシ、凍死々體ニハ特有ナル異常所見ナシ。

凍死ナル鑑定ヲ下スニハ、醫師自身現場ニ於テ死體ノ狀態ヲ檢視シ、且當時ノ氣候ヲ合セ考ヘ、凍結セル死體ハ之ヲ溫キ室ニテ十分融解セシメテ解剖ニ着手シ、其所見ト、凍死シ易キ條件ノ下ニ在リシカヲ併

セ考ヘ、診斷ヲ下スベシ。

未、雷死及電擊死

雷死電擊死

雷死ニ於テハ身體ニハ何等損傷ナク、只皮膚ニ樹枝樣ノ電紋ヲ生ジ居リ、或ハ被服燒ケ、時計、ないふ、銅貨等ノ融解シ居ルコトアリ、或ハ電擊死ト同ジク電流ノ出入口ニ第一乃至第四度ノ火傷ヲ作リ居ルコトアリ、解剖所見トシテハ窒息急死ノ一般徵標アリ、各臟器ニ鬱血シ、肺水腫ヲ來スヲ認ムルコトアリ。電流ノ爲メニ死ニ至ルヲ電擊死ト云ヒコハ電壓ニ關係スルモノナルガ、コレ亦人ノ體質ニ依リテ非常ニ差アリテ、例ヘバ二〇〇ヴオルトノ電流ニヨリテ直ニ死ニ至リシモノアルカト思ヘバ、三〇〇〇・〇ヴオルトノ電流中ニ身體ヲ挿入シテ死ニ至ラザリシモノアルガ如シ、一般ニ直流ヨリモ交流ニ對シ人體ハ抵抗强キモノナリト云フ。

第四十九圖

電紋

へ、感動死

感動死

感動死トハ一種ノ「精神的しよつく」死ナレバ、剖檢上窒息急死ノ標徵ノ他、何等ノ異狀所見ナキモノナルガ、醫師ハソノ身體的及精神的素質、生前ニ於ケル諸種ノ病氣及感動死ヲ起スニ至リシ原因ヲ精査シ彼是ヲ綜合シ、精神的ニハ大打擊ヲ被リ、身體的ニハ感動死ニ陷リ易キ素質ヲ有シ、且剖檢上此他ニハ何等死因トナルベキモノナキ時ニ於テ始メテ感動死ナリト診定スベキモノトシ、非常ナル注意ヲ以テ診斷ヲ下スベキモノナリ。

五、殺兒死體檢査

日本ノ刑法ニハ殺兒ナル條項ナシ、夫レ人トシテ此世ニ產レ出デタルモノヲ殺害スルニ於テハ、如何ニ產出後間モナキ小兒ナリトテモ、之ヲ殺人罪ニ問フハ理ノ當然ナルコトナリ。然レドモ產直後ニ產婦ガ初生兒ヲ殺害スル場合ニハ、種々ノ事情ニ依リテ輕期ノ罪ヲ課セラル、モノナリ、之レ殺害ノ本體ガ小兒ナリトノ故ニ非ラズシテ、產婦ハ產ノ爲メニ興奮シ、或ハ失血ノ爲メニ普通ノ判斷力ヲ缺ケルガ爲メニ起ル犯罪ニシテ、情狀酌量スベキモノアレバナリ。獨逸刑法ノ如キハ、殺兒 Kindmord ナル文字ヲ有シ、產直後ニ私生兒ヲ殺シタルモノノ罪ハ輕減サル、コト、ナリ居レリ。

殺兒ノ際ニ於ケル死體檢査ハ、稍他ノ解剖檢査ト異ナル點アルヲ以テ、予モ亦特ニ本章ヲ設ケ之ヲ述ブル必要アルモノト信ズ、醫師ガ注意シテ檢スベキハ次ノ條項ナリ。

一、初生兒ノ徵候アルヤ否ヤ、

二、發育程度卽チ母體外ニテ生存機能ヲ營爲シ得ルヤ否ヤ、

三、生死產ノ別、

四、死因、

五、生産ナラバ産後何日間生存セシヤ、

イ、初生兒ノ徴候アルヤ否ヤ

初生兒ノ徴候

出産ノ直後嬰兒ハ血液ヲ以テ掩ハレ、表皮特ニ關節屈面脊面等ニハ乾酪樣物卽胎垢ヲ附着シ、僅カノ洗滌位ニテハ除去スルコト能ハズ、胎盤及新鮮ナル長キ臍帶ノ尙臍部ニ附着スルハ、初生兒ノ徴標ナリ。特ニ臍帶ノ性狀ハ注意スベキモノニシテ、産後間モナキ時ハ、臍帶ハ液質ニ富ミ、强ク緊張シ、外面ハ白タシテ光澤ヲ有ス、産後時日ヲ經過スルニ從ヒ、臍帶ハ次第ニ乾燥シ、赤褐色次イデ淡黑色トナリ、枯稠シ四五日ニシテ脫落スルヲ常トス。次ニ胃ノ空虛ナルコトモ亦初生兒ノ徴標ニシテ、普通成熟胎兒ノ胃中ニハ粘キ硝子樣ノ淡赤色粘液少許アルノミナルガ、時トシテ胃中ニ白キ胎垢ノ存スルコトアリ、コレト凝固セル乳汁トハ一見類似ノ點アルヲ以テ混同スベカラズ、ソノ一部ヲ取リテ鏡檢スレバ、已ニ物品檢査ノ部ニ於テ述ベタルガ如ク、一見ソノ何レナルカヲ鑑別スルコトヲ得。

次ニ胎便ハ産後凡ソ四五日ニシテ、全部排泄サルヽモノナレバ、大腸内ニソガ殘存スルコトヲ知レバ産後數日ヲ出デザルコトヲ知リ、又頭腫ノ存在モ産出後間モナキコトヲ證スルモノナリ。

ロ、發育程度

發育程度

産出兒ガ成熟ナルカ、若クハ少クトモ母體外ニ於テ獨立ニ生存スルコトヲ得ルヤ否ヤヲ決定スルコトハ甚ダ必要ニシテ、胎兒ガ普通三十週ヲ經過スレバ、母體外ニ於テ生存スルコトヲ得ルモノト見做シテ可ナリ、但シ疾病アル小兒、或ハ發育不全ノモノハ此限リニ非ラズ、體外ニ於テ生活機能ヲ有スルトハ、呼吸筋充分ニ發育シ、且消化器ガ食物ヲ攝取スルコトヲ得ル程度ニ發育スルヲ云フモノニシテ、然ラザレバ假令十分ナル姙娠月數ヲ經ルモ、母體外ニ生存機能ヲ營爲スルコト困難ナリ。

出産兒ガ姙娠何ケ月ヲ經シカヲ知ルニハ、ソノ身長、體重、頭首ノ大サ、頭毛ノ長サ、瞳孔膜ノ有樣、及諸所ノ骨端軟骨ニ於ケル化骨核ノ大サ、指趾ニ於ケル爪甲發育ノ程度、大腦門ノ大サ等ニ依ルモノトス。今三十週以後ノ胎兒ノ特徴ヲ示セバ左ノ如シ。

八ヶ月胎兒

○八ヶ月―三十週ノ胎兒、身長四十糎、體重一五〇〇乃至二〇〇〇・〇瓦、表皮ハ赤クシテ毳毛ヲ以テ掩ハレ、頭毛ハ少クシテ短ク、瞳孔膜ハ全ク消失セルカ、或ハ少シク痕跡アリ、睾丸ハ已ニ陰囊内ニ下降シ、女兒ニ於テハ陰核ハ尙大陰唇ノ間ニ突出ス。腦ニハ著シキ皺襞アリ、大腸中ニハ胎糞ヲ存ス、爪甲ハ殆ンド指端ニ達シ、踝骨内ニハ三粍徑ノ化骨點アリ、臍帶ハ長サ約四十六糎ニシテ、胎盤ハ四百五十瓦ヲ算ス。

九ヶ月胎兒

○九ヶ月―三十六週ノ胎兒、身長四十五糎、體重二〇〇〇・〇瓦内外ヲ算シ、顏面ハ丸味ヲ帶ビ、皮膚ハ淡赤色ニシテ、頭毛ハ一糎長餘トナリ、毳毛ハ少クナリ、踝骨内ノ化骨核ノ大サハ五・〇―六・〇粍ヲ算ス。

成熟兒

○成熟兒、皮下脂肪層增加シ、毳毛ハ肩胛部、鼠蹊部等ニ殘存スルノミ、頭毛ハ密生シテ二・五糎長トナリ、睾丸ハ陰囊中ニ在リ、大陰唇ハ小陰唇ヲ掩ヒ、指爪ハ指端ヲ越エ、趾爪ハ趾端ニ達ス、大腿骨下骨端内ノ化骨點ハ三乃至五粍徑ヲ算シ、瞳孔膜全ク消失ス。

小兒ノ死體ニ就テ尙注意スベキハ、畸形或ハ病的變化ノ有無ナリ。是等ヲ有スル初生兒ハ、出産後、二三日ニシテ死亡スルコトアレバナリ。

今成熟兒ノ數字的大サヲ示セバ左ノ如シ。

瞳孔膜檢査法

	日本人	獨逸人
體重	二七七八・二瓦	三〇〇〇・〇瓦
身長	四九・七糎	五〇・〇糎
頭毛ノ長サ	二・一九糎	一・五—三・〇糎
頭前後徑	一〇・八糎	一一・〇糎
頭左右徑	八・五糎	八・五糎
頭斜徑	一二・七糎	一三・〇糎
頭圍	三三・三糎	三四・五糎
大顖門徑	一・九糎	二・〇—二・五糎
肩幅	一一・七糎	一二・〇糎
膽幅	八・一九糎	八・〇—九・五糎
臍帶長	五五・五糎	五〇・〇糎
胎盤ノ重サ	三八四・〇瓦	五〇〇・〇瓦
大腿骨下骨端内ノ化骨核ノ大サ	四・三粍	五・〇粍
腿骨内化骨核	八・五粍	八・〇—九・〇粍

茲ニ瞳孔膜及必要ナル化骨核檢査法ヲ述ブベシ。

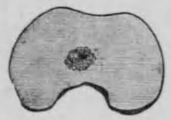
瞳孔膜ヲ檢スルニハ、先ヅ眼球ヲ剔出シ、剪刀ヲ以テ前後兩半球ニ切斷シ、前半球ヲ取リテ水ヲ盛レル平皿ニ容レ、毛樣體ヲ紅彩膜ト共ニ分離針ニ叮嚀ニ取出シ、之ヲ載物硝子板上ニ水ノ助ケニ依リテ廣ゲ、覆蓋硝子板ニテ掩ヒ、鏡檢スレバ紅彩膜ヨリ出デ又之ニ返ル弓狀或ハ天幕狀ノ血管ヲ見ル、此血管ハ所謂瞳孔膜ノ遺殘セルモノニシテ、瞳孔膜ハ通常姙娠第三個月ニ生ジ、七ケ月ニ消失スルモノナリ。

化骨核ノ檢査法

次ニ初生兒死體檢査ノ際必要ナルハ、大腿骨下骨端内ニ在ル化骨核及跟骨内ノソレナリ、前者ヲ檢スルニハ、先ヅ兒體ノ下肢ヲ膝關節ニテ曲ゲ、ソノ下方二三糎ノ所ニテ、水平ニ皮切ヲ施シ皮膚ヲ上下方ニ索引スレバ、膝關節腔ヲ開ケバ、大腿骨ノ下骨端ヲ露出ス、此下骨端ヨリ上方ニ向ヒ更ニ二、三糎計リ筋肉ヲ剝離シ、軟骨ヲ出シ得レバ、此軟骨端ヨリ骨ノ長軸ニ直角ニ、軟骨ヲ二粍位ヒノ厚サニせり樣ニ切斷シ、骨體ニ達シテ止ム、而シテ此軟骨薄片中ニ在ル、最大骨核ノ大サヲ計リテ、大腿骨下骨端内ノ下骨點ノ大サトナス、此際軟骨部ハ寒天樣ノ觀ヲ呈シ、骨核ハ骨髓樣ニ見ユルヲ以テ、直ニ鑑別スルコトヲ得ルモノナリ。

第五十圖

第五十一圖



頭骨測定法

跟骨内ノ化骨核ハ、踵ノ中央ヲ左右切開シ、ソレヨリ外側ニ向ヒテ大腿骨軟骨ト同樣ニ薄片ヲ作リ、其中最モ大ナル骨核ヲ選ビテ、跟骨内ノ化骨核ノ大サトナス。

次ニ頭首ノ大サ計測法ノ大要ヲ述ベン、頭圍ヲ計ルニハ紐尺ヲ以テシ、各直徑ハ兩脚器ヲ以テ計測ス。

頭圍ハ前頭結節ト外後頭結節ト通過シ、水平ニ紐尺ヲ以テ頭部ノ最大圍ヲ計ルモノトス。

頭横徑ハ兩顳頂結節間ノ直徑。

頭縱徑ハ鼻根ト外後頭結節ノ直徑。

頭斜徑ハ顱部中央ト外後頭結節トノ直徑。

大顳門ノ大サハ各邊ノ中點ヲ結合セル最短直徑。

肩幅ハ左右ノ烏喙突起ノ直徑。

幅ハ左右ノ前上腸骨棘間ノ直徑。

八、生死産ノ別

生死産ノ別

初生兒ガ生産ナルヤ否ヤヲ決定スルニハ、呼吸ヲナセシヤ否ヤ、換言スレバ肺中ニ充分空氣ヲ吸入シ居ルヤ否ヤヲ決定スルニ在リ。

胎兒ノ肺

胎兒ノ肺ハ小ニシテ胸腔ノ後方ニ退縮シ表面帶紫淡褐色ヲ呈シ、觸ルヽニ肉樣ノ感アリ、邊緣鋭薄、斷面亦肉樣血液ヲ流出スルノミニシテ毫モ氣泡ヲ漏ラサズ、胎兒ガ産出セラレテ産聲ヲ發シ、第一呼吸ヲ營ムヤ否ヤ、肺ハ一時ニ膨大シテ邊緣鈍トナリ、ソノ前緣ハ心囊ヲ掩フニ至リ、同時ニ横隔膜ハ押シ下ゲラレ、第四肋間ヨリ第五、六、肋間ニ至ル、從テ肺ノ表面ハ淡赤色トナリ豐隆シ、るーペヲ以テ檢スレバ、小ナル肺胞ノ開張シ居ルヲ認ム、實質ハ柔ク彈性ヲ

第一呼吸後ノ肺

第五十二圖

空氣呼吸ノ行ハレタル後ニ於ケル初生兒肺臟表面ノ一片ヲ「るーペ」ニテ廓大視セルモノ
平等ニ空氣ヲ含有シ「眞珠泡」トシテ現ハル、所ノ肺胞ヲ見ル

帶ビ來リ、指觸スルニ嚢嚢ヲ感ズ、斷面ノ色亦表面ノ如ク變化シ、壓肺スレバ小氣泡ト血液トノ混合液多量ヲ流出スルニ至ル、肺全體ノ重量ハ增加ス、胎生時中ノ肺ノ比重ハ一・〇五内外ナルガ、一度空氣ヲ吸入スレバ、肺ハ通常水ヨリ輕クナリ、冷水上ニ浮揚スルニ至ル、之レ生産死ヲ區別スルニ最モ重要ナル肺浮揚檢査ノ原理トスル所ナリ、極メテ少許ノ空氣ヲ吸入サルレバ、肺ハ已ニ浮揚スルニ至リ、充分ノ呼吸ヲナシタル肺ハ、心臟等ヲ保持シテ尙水面上ニ一部ヲ凸出浮上スルニ至ル。

肺浮揚檢査

此所ニ於テ生死産ヲ鑑別スル諸種ノ檢査法ヲ述べ、且ツ其レニ對スル注意及批評ヲ爲サントス。

甲、肺浮揚檢査

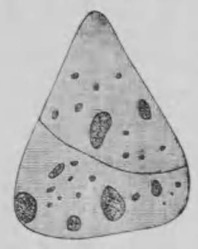
本檢査ヲ行フニハ、先ヅ頸胸臟器ヲ一連ニ剔出シテ冷水中ニ投シ、ソガ浮上スルヤ否ヤヲ試ミ、モシ浮上スレバ次ニ心臟、胸腺等ヲ除去シテソノ浮揚力ヲ試ミ、更ニ各肺、次ニ各葉トナシテ投水シ、尙浮上スレバ之ヲ小指頭大ノ切片トナシ投水シ、浮上スレバ更ニ悉ク取出シ指間或ハ板ノ間ニテ强壓ヲ加ヘ、再ビ投水シテ尙浮上スル時ハ、肺浮揚試驗ハ陽性ナリ、卽産出兒ハ呼吸ヲ營ミシモノナルコトヲ知ル、實際呼吸ニヨリテ開張セシ肺胞内ノ空氣ハ强壓ヲ加ヘテモ逸出セザルニ、腐敗瓦斯ナレバ壓力ニ依リテ逃散シ、一見陽性ノ如ク見エシモノモ、直ニ然ラザルコトヲ知ルヲ得。肺浮揚檢査ノ成績ヲ判定スルニ際シ次ノ注意ヲ要ス。

肺浮揚檢査ニ對スル注意

(イ)生活力弱キ小兒、或ハ氣道ガ粘液若クハ血液ヲ以テ充タサレタル時ニ於テハ、呼吸不充分ナル故、肺ノ表面ハ空氣ヲ含メル部ハ淡紅ニシテ豐隆シ、肺胞開張シ、此部ノ切片ハ浮揚檢査ノ際水上ニ浮ビ、空氣ヲ含マザル部ハ暗赤色ニシテ觸ルヽニ肉樣ノ感アリ。嚔嚔ナク此部ノ切片ハ冷水中ニ沈降ス。

(ロ)呼吸ヲナサヾル肺ト雖、腐敗瓦斯生ズレバ、ソノ爲メニ冷水上ニ浮揚スルニ至ル、然ルニ腐敗瓦斯ハ肋膜下ニ大小不同ノ氣胞トナリテ存在シ、且膜下ヲ移動ス、此細片ヲ捻壓シテ水中ニ投ズレバ沈降スルニ至ル、然ルニ實際呼吸ヲナセシ肺ノ表面ニハ肺胞眞珠樣均等大ノ小胞トナリテ透見シ、此細片ヲ捻壓シテ投水スルモ沈降セズ、卽チ肺浮揚檢査ガ實際陽性ナルカ、將タ腐敗瓦斯ニ依リテ一時陽性ノ如ク現ハレシカヲ、直ニ鑑別スルコトヲ得。

第五十三圖



肋膜下ノ腐敗瓦斯胞

(ハ)肺ノ腐敗ガ甚シク進行シテ、ソノ切片ヲ指間ニ捻壓スレバ、實質ハ泥樣トナリテ流出シ、最後ニ殘存スルモノハ氣管或ハ血管ノ如キ抵抗强ク、且比重重キモノノミナレバ、此細片ガ沈降シタリトテ、肺浮揚檢査ハ陰性ナリト云フコト能ハズ卽チ腐敗甚シク進行セル際ハ、肺浮揚檢査ノ結果ニ重キヲ置ダ能ハズ。

(ニ)氣候非常ニ寒クシテ肺凍結シ居ル場合ニハ、生死產ノ別ナク、ソノ切片ハ水上ニ浮揚ス、此際ハ死體ヲヨク融解セシメテ、肺浮揚檢査ヲ行フベシ。

(ホ)空氣ヲ死產兒ノ肺中ニ消息子等ニテ吹キ込メバ、肺ハ空氣ヲ含ミ水上ニ浮上スルニ至ル、此時ハ通常空氣ガ各肺胞迄行キ居ラズ、且消息子ヲ挿入シタル痕跡ヲ殘シ居ルモノナレバ、ソヲ鑑別スルコトヲ得、又死產兒ノ口ニ術者ノ口ヲツケテ空氣ヲ吹キ込メバ、空氣ノ大部分ハ胃腸ノ方ニ進入シ、肺ニハ極メテ小量ノ空氣ガ進入シ居ルノミナリ。

(ヘ)死產兒ニ發啼術或ハ蘇生術ヲ施ス時ト雖、決シテ各肺葉ニ平等ニ空氣ガ進入スルモノニ非ラズ、卽チ生產兒ガ呼吸ヲナシタル時ノ如ク、各肺胞ガ充分ニ開張ヲ來サズ。

(ト)モシ肺浮揚檢査ガ陰性ナリトモ、子供ノ氣管、氣管枝、肺等ニ大便ノ成分、塵埃、羊水ノ成分等、非常ニ多ク進入シテ居レバ、產兒ハ產後最初ノ呼吸ヲナス暇ナクシテ、該異物ヲ混ズル液體中ニ陷リ死ニ至リタルモノナルコトヲ知ルベシ。故意ニ小兒ヲ糞壺中ニ生ミ落ス場合ニ、多ク肺浮揚試驗ハ陰性ニシテ、氣管、氣管枝等ニ多クノ糞便成分ヲ見出スコトハ、實際甚ダ多ク遭遇スル所ナリ。

(チ)充分發育セサル胎兒ハ生產ニシテ尙呼吸スルコト能ハズ、又能ク發育セル成熟兒ニテモ、產後假死ニ陷リ呼吸ヲ營マザルコトアリ、卵膜羊水ニ鼻口ヲ塞ガレテ呼吸シ能ハザルモノ、故意ニアラズシテ衣服蒲團或ハ產婦ノ大腿部等ニ鼻口ヲ掩ハレ、呼吸ヲ開始シ能ハザルモノ、生產後二十四時間確ニ生存シタル小兒ノ肺ニ全ク空氣ヲ存ゼザリシモノ、胎內ニテ已ニ肺炎ニ罹リ生產後呼吸ヲナシ能ハザルモノ、反之、種々ノ手術ニ依リ子宮ニ空氣ヲ侵入セシメ、未ダ產出ニ至ラズシテ已ニ呼吸ヲ開始シ。空氣ヲ吸入セルモノ等、實際上ニ於テハ甚ダ種々ノ場合アレバ、肺浮揚檢査ノ結果ノミニ偏重シテ、初生兒ノ生死產ヲ直ニ決定セントスルハ甚ダ早計ナリ、故ニ仔細ニ剖檢シ、周圍ノ事情ヲ併セ考ヘテ斷定ヲ下スベシ。

予ハ茲ニ肺浮揚試驗施行法ノ合式ナラザルヨリ、誤レル診定ニ陷リシ一例ヲ擧ゲム。

一殺兒事件アリ、掛リ官ハ或醫師ニ命ジテ、初生兒ノ生產ナルヤ將タ死產ナルヤヲ鑑定セシメシニ、該醫師現場ニ至ルヤ、僅ニ其兒屍ニ一瞥ヲ與ヘタルノミニシテ、直ニ刀ヲ執リ、其胸腔ヲ開キ肺臟ノミヲ別出シテ、其膨脹ノ度ヲ云々シ、直ニ浮揚檢査ヲ行ヒ、而モ全肺ガ冷水中ニ沈降スルヤ、彼ハ直ニ死產ナリ

ト斷定シ、更ニ掛リ官ノ面前ニ於テ、肺中ニ硝子管ヲ以テ空氣ヲ吹キ込ミ、之ヲ水中ニ投ジテ其浮揚スルヲ見ルヤ、得々トシテ曰ク、呼吸セシモノ、肺ハ此ノ如ク浮揚シ、死產兒ノ肺ハ前ノ如ク沈降スト、其他何等ノ方法ヲ盡サズシテ剖檢ヲ終レリ。然ルニ司法官ハ此醫師ノ鑑定ガ事實ニ符合セザル所アルヲ以テ、當教室ニ再鑑定ヲ命ゼリ、依リテ再解剖ヲ行ヒ肺ヲ檢スルニ、氣管、氣管枝及細氣管枝ノ末端迄、糞便ノ成分ニ滿チ、前鑑定醫ガ空氣ヲ吹キ込マザリシ部ハ浮揚試驗陰性ナリ、ソノ他全剖檢所見ヲ考慮シテ、該兒ハ生產ニシテ、產後直ニ糞汁中ニ陷リ、溺死セルモノナリト鑑定セラレタリ、ソレ兒屍ノ肺臟ノミヲ剔出シ、且單ニソガ冷水中ニ沈降セシノミヲ以テ、直ニソノ死產ナルコトヲ斷言スルハ、思ハザルノ甚シキモノト云フベシ。

胃腸浮揚檢査

乙、胃腸浮揚檢査

本檢査ノ原理トスル所ハ、胎兒ガ生產スルヤ直ニ嚥下運動ヲ行ヒテ空氣ヲ胃腸中ニ送入スルモノニシテ死產兒ニハ決シテ胃腸中ニ空氣ヲ含有セズト云フニ在リ、本檢査ヲナスニハ胃ノ兩端及腸ノ諸所ヲ結紮シテ剔出シ、冷水中ニ投ズレバ死產兒ノソレハ沈降シ、生產兒ナレバ浮上ス、而シテ腸ノ何レノ部分迄空氣ヲ含有スレバ、略何時間產後生存セシモノナリトノ診定ヲ下スコトヲ得ト云フト雖、一般ニ胃腸ハ甚ダ早ク腐敗瓦斯ヲ生ズル所ナレバ、コノ爲メ死產兒ノ胃腸モ往々浮上スルニ至リ、本檢査法ノ價値ヲ減ジ、肺浮揚檢査ノ如ク重キヲ措ク能ハズ。

大腸膀胱檢査

丙、大腸膀胱檢査

大腸中ニ胎便ナク、膀胱中ニ尿ナキ時ハ、小兒ハ生產後相當時間生存シタルモノナリトノ檢査ニシテ、コハ悉クハ信ヲ措クニ足ラズ、何トナレバ胎便及尿ハ已ニ產前消失スルコトアレバナリ。

皷室檢査

丁、皷室檢査

胎生時中ハ皷室ハ粘液ヲ以テ滿サル、モノナルガ、小兒ガ呼吸シ始ムルヤ、嚥下運動ニ伴ヒテ空氣ハ皷室內ニ入リ込ムモノニシテ、コレヲ原理トシテ初生兒ノ皷室內ニ空氣アレバ生產ニシテ、否ラザレバ死產ナリト診定スルヲ本法ノ大體トス、然レドモ胎兒生產後第一呼吸ニ依リテ、已ニ皷室內ニ空氣ガ侵入スルヤ否ヤハ尙疑問ニシテ、從テ本檢査ハ肺浮揚試驗程重キヲ措カレズ、且皷室ヲ檢スルコトハ甚ダ手數多キモノナレバ、普通ハ本法ヲ使用スルコトナシ。

肺鐵檢査

戊、肺鐵檢査

生產兒ノ肺乾燥物質中ノ鐵ノ含有量ハ、死產兒ノソレニ比シ遙ニ多シ、之レ胎兒生產後直ニ肺循環ヲ初ムルガ故ナリ、此原理ヲ利用シテ、初生兒ノ生死產ヲ鑑別セントセリ、コハ肺血量檢査ニヨリ生死產ヲ區別セントスルモノト同理ニシテ、肺鐵檢査法ハ腐敗ノ程度甚シク、肺浮揚檢査ヲ行フコト能ハザルモノニ施行シテ効アリト云フ。

初生兒死因

二、初生兒ノ死因

產前ノ死

イ、產前ノ死

姙娠中胎兒ノ死亡スルハ、母體ノ重病、子宮及胎兒附屬物ノ病的狀態、母體ノ下腹部ニ加ハル暴力等ニ依ルモノニシテ、鈍體ガ母體ノ下腹部ニ作用スル時ハ母體ニハ何等ノ損傷ヲ與ヘズ、內部ニ在ル胎兒ニ甚シキ障害ヲ附與シ死ニ至ラシムルコトアリ、例ヘバ母體ガ高所ヨリ墜落シタル時ノ如シ、子宮內ニテ死亡

浸軟胎兒

セル胎兒ハ、直ニ產出セラルヽコトナク、暫時ノ後所謂浸軟胎兒トシテ產出セラルヽモノナレバ、產前已ニ死亡シ居タルコトハ判定スルニ難カラズ、浸軟セル胎兒ハ一種甘味樣ノ臭ヲ有シ、表皮ハ容易ニ剝脫シテ赤銅色ノ眞皮ヲ露出シ、腹部ハ柔軟トナリ頭骨ハ移動シ易ク、頭部ハ扁平トナリ居ルヲ常トス、軟部及軟骨ハ血色素ノ浸潤ニ依リテ淡赤色ヲ呈ス、此狀態ニ在ル胎兒ヲ空氣中ニ放置スレバ、其特有ノ所見ヲ失ヒ、通常ノ腐敗ニ移行ス。

乙、產中ノ死

產中ノ死

普通ノ娩產ニテ小兒ノ生命ヲ脅カスモノハ、窒息頭部壓迫及出血等ナリ今此等ニ付テ順次述ブル所アラントス。

胎內窒息

胎內窒息ハ母體ヨリ酸素ニ富メル血液ガ、小兒ノ血行內ニ充分ニ輸入サレザル場合ニ起ルモノニシテ、胎兒ノ血中ニ炭酸多クナリ、遂ニ呼吸中樞ヲ刺戟シテ呼吸ヲ始ム、然ルニ子宮內ニハ吸入スベキ空氣ナキ爲メ、其所ニ存在スル羊水等ヲ吸入シテ、遂ニ小兒ハ死亡ス、之ヲ剖檢スレバ細氣管枝ノ末端及胃中ニ羊水ノ成分ヲ見出シ、モシ破水後ニ窒息死ニ至レバ、小兒ハ血液ノ混ジタル羊水ヲ吸入ス、故ニ此時剖檢スレバ胎兒ノ肺中ニハ小氣管枝內ニ至ルマデ血液ヲ發見スルコトアリ、尙是等胎兒ノ死體ハ、窒息急死ノ一般徵標アルハ言ヲ俟タズ、此ノ如ク胎盤循環ノ中絕スルハ、胎盤ノ早期剝離、臍帶ノ壓迫、子宮ノ長期痙攣等ニ依リテ來ルモノナリ。

產中ノ頭部壓迫死

頭部壓迫ハ胎兒ガ產道ヲ通過スル時ニ一程度迄ハ來ルモノナルガ、ソノ度ヲ越エ頭部ノ壓迫甚ダ强クナレバ、頭骨縫合ノ所ニテ頭骨ハ相重疊シ一程度迄ハ之ニ適應スルコトヲ得ルモ、尙壓力强クナル時ハ遂ニ

重疊セル縫合部ノ血管ハ引キチギレ出血ヲ來シ、時トシテ頭骨ニ骨折ヲ來シ、胎兒ノ死ニ至ルコトアリ。或ハ尙僅ニ生命ヲ保チテ出產シ、數時間生存シ死亡スルコトアリ、此際ハ胎兒ニ死後暴力ヲ加ヘテ死ニ致シタルモノトノ鑑別甚ダ困難トナル、故ニ產ノ輕重ヲ參考ニ供シ、注意シテ判定ヲ下スベシ、ソノ他胎兒ノ頭骨ニハ往々化骨缺損ナルモノ自然ニ存在シ骨折ト錯誤シ易キ故注意スベシ。

第五十四圖

二箇ノ側部胎生的翠隙ノ結合ニ由テ橫斷セラレタル初生兒後頭骨鱗狀部

第五十五圖

初生兒後頭骨鱗狀部ニ於ケル胎生的翠隙

第五十六圖

初生兒ノ頭蓋ニシテ副囟門及矢狀縫合後三分一部ニ於ケル翠隙並ニ兩顱頂骨ノ三角縫合緣ニ於ケル左右相稱的胎生的翠隙ヲ有スル者

初生兒ノ顱頂ニ於ケル化骨缺損

一般ニ新ラシキ骨折ハ折緣尙銳ニシテ、化骨放線ノ方向ト一致シ居ラザルモ、自然ニ存在スル化骨缺損ハ化骨放線ト一致シ、且

産中出血死

第五十七圖

初生兒ノ顱頂骨後部ニ於ケル高度ノ左右相稱性徑隆形成

緣端鈍圓トナルヲ常トス。

次ニ産中胎兒ノ失血死ニ至ルハ、臍帶ノ異常附着、或ハソガ非常ニ短キ時ナリ、前者ニ於テハ破水ノ際大血管破碎シテ失血シ、後者ニ於テハ早期胎盤剥離ニ依リテ、出血死ニ至ルコトアルモノナリ。

醫師ノ手術不適當ナルニ依リ胎兒ノ死ヲ招クコトアリ、例ヘバ鉗子ヲ用ヰテ兒頭ニ皮膚剥離、骨折或ハ皮下出血ヲ起シ、又ハ兒頭ノミ外陰部ニ露ハレタル際、取扱ノ不注意ニヨリテ骨折、脱臼等ヲ來スコトアリ、剖檢ノ際吾人ハ此等ノ點ニモ注意ヲ向クル必要アリ、又産婦ガ自身ニ産兒ヲ取上ゲシ時ハ、指爪ノ痕跡ガ子供ノ皮膚ニ殘存スルコトアリ、之ヲ扼死ノ痕跡ト注意シテ鑑別スベシ、産婦ガ産兒ヲ産中ニ殺害スルハ出來得ベキ事ナレドモ、此際産婦ニハ産ナル大事業ノ進行中ナレバ此ノ如キコトヲ試ムルハ非常ニ稀ナルコト、云フベシ。

墜落産

産後ノ死

丙、産後ノ死

生活力不充分ナル爲メ、畸形或ハ疾病ニヨリ、又ハ姙娠中或ハ産中ニ受ケタル損傷ニ依リ、初生兒ガ産後間モナク死亡スルコトアルハ已述ノ如シ、此所ニハ産後ニ起リシ原因ニヨリテ死ニ至ルモノヽミニ就テ述ベム。

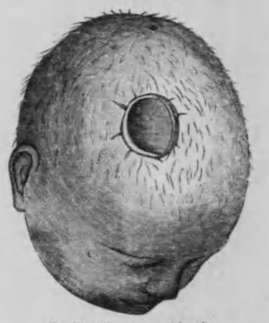
娩産ニ經驗ナキ婦人、又ハ豫想ヨリモ非常ニ早ク來ル娩産ニ於テハ、往々墜落産ヲ來ス、卽チ一ハ徹頭徹尾産ノ早ク終ルモノニシテ、他ハ幾分ノ陣痛等アリタル後、急ニ産道ヲ胎兒ガ通過シ終ルモノナリ。

墜落産ハ廣キ骨盤ヲ有スル婦人ガ、小サキ胎兒ヲ産出スル場合ニ來ルモノニシテ、經産婦ガ陣痛アリテモ未ダ産ニ至ラズト思ヒ居ル中ニ、墜落産ヲ來ス事多シ、腹工合惡キ爲メ便所ニ行キ、急ニ墜落産ヲ來スコトアリ、之ト故意ニ胎兒ヲ便所中ニ産出シテ糞壺中ニ陷シ死ニ至ラシムルトハ、醫學的ニ區別スベキ範圍外ナリトス。

墜落産ニヨリ死亡セル胎兒ノ剖檢所見ハ、頭腫ナク頭部ニ大ナル出血、鈍器乃至鋭器損傷アリ、臍帶ハ或ハ切斷シ、或ハ否ラザルコトアリ、切斷シタル場合ハ末端ハ甚シク不正トナリ居ルモノナリ、臍帶ヲ産婦等ガ故意ニ引キチギリタル場合ニハ多クハソノ中央部ニテ切斷サレ、且手ニ握リタル痕跡アレバ前者ト鑑別スルコトヲ得ルモノナリ、又前述ノ如ク、骨折ト化骨缺損トヲ混同セヌ樣注意ヲ怠ルベカラズ。

次ニ産兒頭部ヲ故意ニ枕ニテ打ツトカ、柱

第五十八圖



流産セル胎兒ニ於ケル頭皮ノ先天性類圓形缺損（自然大）

第五十九圖

急墜娩産ニ於テ斷裂セラレタル臍帶ノ胎盤端（自然大）

第六十圖

剪刀ヲ以テ横ニ且ツ平滑ニ斷截セル臍帶上斷端ノ直下ニ於テ之ト交叉ニ並行セル鋭緣性裂傷アリ

臍帶ヲ結紮セザル結果

ニ叩キ付ケルトカシテ死亡セシムルコトアリ、此際ハソノ頭部ニ鈍器損傷骨折出血等ノ痕跡アレバ、直ニ鑑別スルコトヲ得、ソノ他内臓ヲ裂キ、頸部ヲ切ル等ノコトニ依リテ、產兒ヲ殺害スルコトアルモ、コハ甚ダ稀有ナルコトナリ。

初生兒ガ產出後直ニ臍帶ヲ結紮セザレバ失血シテ死亡スルカト云フニ、コハ非常ニ稀ナルコトニシテ、胎兒ガ產出セラレ呼吸始マルト共ニ、血液ノ多クハ肺循環ノ方ニ行キ、ソノ爲メニ產後間モナク臍動脈ハ搏動セザル樣ニナルモノナルガ故ニ、モシ產兒ニシテ十分ナル呼吸ヲ營ミシナラバ、臍帶ヨリ出血シテ死亡スルコトハ殆ンドナキコトナリ、然ルニ若シ呼吸ヲ充分ニ營マヌ時ハ、血液ガ肺循環ニ移行スルコト少キ故、臍帶ヨリ出血シテ死ニ至ルコトアリ、臍帶ヲ故意ニ結紮セザリシカ、或ハ助產婦ノ所置十分ナラザリシ爲メ、結紮ガ離脫セシカ、ソレ等ノ點ノ檢查ハ、已ニ醫術的檢查ノ範圍外ニ在リ、又死體ノ臍帶ニ結紮ナキトテ、直ニ始メヨリ結紮ナカリシト斷定スルコト能ハズ、何トナレバ臍帶結紮ハ死後ニ至リテ、甚ダ離脫シ易キモノナレバナリ。ソノ他初生兒ヲ種々ノ方法ニテ死ニ至ラシムルコトアリ。例ヘバ蒲團、產婦ノ大腿、平手、濕紙等ニテ鼻口ヲ閉ヂ、或ハ頸部ヲ絞扼シ、或ハソノ他ノ暴行ヲ加ヘ致死セシムルコトアリ、是等ニハ皆夫レ相當ノ痕跡ヲ殘シ、或ハ全ク何等犯跡ヲ遺サヾルコトアリ。

老幼者遺棄

初生兒ノ產出後、相當ノ扶養ヲ怠リテ死ニ至ラシムルモノモ、亦、刑法二百十七條乃至二百十九條ノ問フ所トナル、例ヘバ初生兒ノ鼻口内ヲ閉塞セル粘液ヲ故意ニ除去セズ、或ハ充分ナル衣服、食物ヲ與ヘザリシ爲メ、死ニ至リシ場合ノ如キ之レナリ。

第二百十七條　老幼、不具又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十八條　老者、幼者、不具者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲サヾルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十九條　前二條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

產後ノ生存時間

當教室ニテ遭遇セシ一例ヲ述ブレバ、或ル醫師一個ノ死因不明ナル初生兒屍ヲ剖檢シテ、窒息急死ナリト鑑定セシモノニ付、再鑑定ヲ命ゼラレタルコトアリ、之ヲ剖檢セシニソノ死因ハ確ニ肺炎ナリシコトヲ發見シ、加害嫌疑者ノ放免サレタルコトアリキ。

ホ、產後ノ生存時間

初生兒ガ生產後何時間位ヒ生存シタリヤトノ問題ハ甚ダ大切ニシテ、殺兒ナルカ將タ殺人ナルカノ依ツ岐ル、所ナリ、產直後トハ何程位ノ時間ナルカト云フコトハ、法官ノ定ムベキ事柄ニシテ、產婦ノ狀態ニ依リ、或ハ產ノ終レル瞬間ヲ指スコトアリ、或ハ數時間後ヲ云フコトアリ、各個ノ場合ニ依リテ異ナルナリ。

初生兒ノ產直後ナル徵標ハ已述ノ如ク、臍帶ノ狀態胃腸ガ空氣ヲ上部ヨリ下部ニ次第ニ含有シ行クコト、食物ガ胃中ニ在ルコト、胎便ガ二日目ニハ已ニ大腸ヲ去ルコト、生後二、三日間ハ尿酸栓塞ガ腎臓ニ存在スルコト、生後一週間位ニシテ卵圓孔、ぼたりー氏管、あらんちー氏管ガ閉塞スルコト、生後數日間ハ體重ノ減少スルコト、已ニ生後第一日ニハ產脈ハ外見上消失スルコト等ニ依リテ大約ノ生產後ノ時間ヲ判定スルヲ得ルモ、是等モ各個人ニ依リテ異ナレバ、一概ニハ論ズベカラザルモノアリ。

ヘ、死後解剖時間迄ノ經過時間

死體ノ在場所、腐敗程度ト其當時氣象トヲ綜合シテ、之ヲ判定スベキモノナルモ、多クハ經驗ニヨリテ之ヲ知ルノ外ナシ、尙注意スベキハ、小兒ノ死體ハ大人ノ死體ヨリモ、腐敗ノ運行早ク、且小兒腦ノ如キハ最モ腐敗ノ早ク來ルモノナルコトナリ。

七ケ月胎兒鑑定書例

卜、鑑定實例

檢案書

住所氏名不詳男性兒

右ハ大正元年十月三十日京都市鴨川ノ三條大橋西詰ヨリ三十間餘ノ下流ノ所ニ浮ビ在リシヲ發見シタルモノニシテ京都府五條警察署長警視Mハ之ヲ解剖シテソノ死因ヲ確定スベキ旨ヲ予ニ命ゼリ依テ翌三十一日午後零時四十分乃至同一時四十五分京都帝國大學醫科大學法醫學教室ニ於テ同屍ヲ剖檢セルニソノ所見左ノ如シ

甲、解剖檢査記錄

第一、外　表　檢　査

一、男兒身長約三六・〇糎(但シ腐敗高度ニシテ頭骨ノ浮動甚シキ爲メ確測スル事能ハズ)頭首ノ大サ不明(同上)肩幅六・〇糎體幅五・〇糎ヲ算ス　皮色ハ前面汚穢淡紫赤色ニシテ後面ハ之ニ綠色ヲ帶ブ四肢ニハ汚灰色古綿樣ノモノ(水苔)ヲ附着シ皮下脂肪層及筋肉ノ發育貧、皮下ニ嗜噬ヲ觸レ(腐敗瓦斯)表皮ハ容易ニ剝脫シテ汚赤色ノ濕潤セル眞皮ヲ露出ス

二、頭毛ノ長サ〇・六糎毛間ニハ灰白色ノ汚物(胎垢)ヲ附着シ頭皮下ニ多量ノ腐敗瓦斯アリ頭骨ハ容易ニ移動ス頭皮及顏面ニ損傷ナク眼閉ヂ結膜汚赤色、角膜濁濁シテ眼球軟ナリ鼻梁ハ扁平ナリト雖內ニ異物ヲ認メズ、口腔前庭內ニモ異物無ク舌ハ尙脈ノ後方ニ在リ耳殼ニハ未ダ軟骨ヲ觸レズ、外聽道內ニハ灰白色ノ汚物(胎垢)多量アリ

三、頸胸及腹部ニハ表皮剝脫シ易キノ他損傷異常無ク臍部ハ四五・〇糎長帶鴉紫赤色ノ臍帶ニ依テ汚穢帶綠紫赤色ノ軟化セル胎盤ト連續ス外陰部ニ損傷ナク陰部ニハ未ダ睪丸ヲ觸レズ肛門膨開シ周圍ニ汚染無シ脊面ニ於テハ表皮容易ニ剝離シ損傷ナシ

四、四肢ニ損傷ナク指爪ハ爪床ノ半ニ達シ趾爪ハ表皮ト共ニ脫離シテソノ形ヲ止メズ大腿骨下骨端內ニ化骨點ナシ

第二、內　景　檢　査

上、胸腹腔剖檢

五、胸腹ノ皮膚ヲ式ノ如クソノ正中ニ於テ切開スルニ皮下脂肪層薄ク筋肉ノ發育少シ腹腔ノ上半ニ肝臟ヲソノ下半ニ腸管ヲ見、臟器ハ一般ニ汚赤色ヲ呈シ(血液浸潤)ソノ位置ニ異常ナシ腹膜モ亦汚赤色ニ染ミ到ル所橫隔下ニ腐敗瓦斯ヲ透見ス腹腔內異常ノ內容ナシ橫隔膜ノ高サハ胸腔內瓦斯蓄積ノ爲メ之ヲ確定スル事能ハズ

貝、頭　胸　臟　器

六、式ノ如ク胸腔ヲ開檢スルニ兩肺共後方ニ退縮シテ觀ル事ヲ得ズ胸腔內異常ノ內容ナク前縱隔ノ上半ニ胸腺ヲ下半ニ心囊ヲ觀ル

七、心囊內ニハ異常ノ內容ナク心臟管狀內ニ嗜噬アリ心室部ヲ橫斷スルニ泡沫狀ノ血液少許アリ內膜滑澤、汚赤色ニ染ム

八、頸部ノ諸臟器ヲ肺心ト共ニ一連ニ剔出檢視スルニ咽頭、食道喉頭、氣管及氣管枝空虛、粘膜ハ一般ニ汚赤色ニ染ミ膜下ニ腐敗瓦斯ヲ存スル所アリ

九、兩肺小、肺緣鈍、表面汚赤色、滑澤乎等ニシテ肺胞ノ開張ヲ認メズ觸ルヽニ嗜噬ナシ斷面略表面ノ如ク壓スレバ泡沫ヲ含マザル汚赤色液少許ヲ漏出ス全肺、左右肺、各葉及ソノ細片ハ何レモ冷水中ニ沈降ス

呂、腹　腔　臟　器

十、脾臟著シク軟ニシテ壓スレバ實質ハ汚赤色ノ糊樣物トナリテ漏出シ細檢スル事能ハズ

十一、腎臟蠶豆大軟化シテ細檢スルニ由ナシ膀胱空虛內膜汚赤色ニ染ム

十二、肝臟ハ冷水上ニ浮上シ壓スレバ實質ハ泥樣物トナリテ漏出シ細檢スル事能ハズ

十三、胃腸ハ冷水上ニ浮揚シ胃空虛腸管ハ汚赤色ノ糊樣物少許ヲ含ミ粘膜ハ通ジテ汚赤色ナリ

下、頭　腔　剖　檢

十四、頭皮ヲ式ノ如ク切開スルニ頭皮ハ易ク頭骨ヨリ脫離シ頭骨ハ容易ニ個々別々ニ離レ腦實ハ汚赤色ノ汁粉樣物トナリテ漏出シ細檢スル事能ハズ頭骨ニ損傷ナシ

附記

十五、解剖後遊離セル頭骨四肢骨等ヲ測リテ左ノ數ヲ得タリ

顱頂部
- 高サ(結節ヲ通ジ上下緣ノ中點ヲ結合セル距離)　右 六・〇糎　左 六・〇糎
- 長サ(結節ヲ通ジ前後緣ノ中點ヲ結合セル距離)　右 六・〇糎　左 六・〇糎

前頭骨鱗狀部
- 高サ(上眼窩孔ヨリ正中線ニ平行ニ上緣迄ノ距離)　右 四・三糎　左 四・五糎
- 幅(前頭結節ヲ通ズル水平線ガ正中線及外緣トヲ合スル距離)　右 三・八糎　左 三・八糎

顳顬骨鱗狀部
- 高サ(鑢骨突起後緣部ヨリ垂直ニ上緣迄ノ距離)　右 一・六糎　左 一・四糎
- 長サ(顳顬截面ヨリ水平ニ前緣迄ノ距離)　右 二・四糎　左 二・四糎

下顎骨兩隅ノ距離(兩下顎隅ノ直徑)二・八糎

同　長サ(頤部中央ヨリ下顎隅迄ノ直徑)左右共二・七糎

肩胛骨
- 長サ　左右共二・二糎
- 幅　左右共一・八糎

鎖骨長サ　左右共、三・二糎

上膊骨長サ　左右共、四・四糎

尺骨長サ　左右共、四・二糎

撓骨長サ　左右共、三・六糎

大腿骨長サ　左右共、四・八糎

脛骨長サ　左右共、四・三糎

腓骨長サ　左右共、四・二糎

但シ長骨ハ骨端軟骨ヲ除キテ測定セリ

乙、檢　案

上記ノ解剖所見ニ依リ左ノ如ク檢案ス

一、本兒ハ身體ノ發育程度ニ依レバ未ダ成熟ニ至ラズ姙娠第七ケ月ニ於テ產出セルモノナリ

二、本兒ニハ產後呼吸ヲ營ミタルノ徵標ナシ然レ共コレノミヲ以テ本兒ハ死產ナリト云フ事ヲ得ズ何トナレバ斯ノ如キ未熟兒ハ假令生產ナルモ呼吸ヲ營マズシテ死亡スル事アレバナリ

三、本兒ノ死因ハ腐敗顯著ナル爲メ之ヲ確定スル事能ハズ

四、本兒ハ產後(死後)約二週間ヲ經過セルモノト推測ス

此檢案ハ大正元年十月三十一日着手
同年十二月十一日終了

鑑定人　岡本梁　松雄

成熟兒鑑定書例

鑑　定　書

大正〇年〇月〇日〇〇地方裁判所淺審判事〇〇〇〇〇ハ杉〇ッ〇殺人及死體遺棄被告事件ニ付己ニ一度剖檢セラレタル初生兒屍ヲ再檢シテ

一、本產兒ノ發育程度
二、生死產ノ區別
三、死因
四、死後ノ經過時間
五、產兒ハ母體外ニ於テ獨立呼吸ヲ營ム前手足ヲ動カスコトアリヤアリトセバ其理由及斯ノ如キ場合生死產ノ孰レニ屬スルヤ
六、產兒ガ生活機能ヲ具備シテ母體ヲ脫壁シ未ダ獨立呼吸ヲ營マザル前之ヲ不能ナラシムルコトヲ得ルヤ
七、胎兒ハ死亡シタル時ハ直ニ母體ヨリ分離スルモノナリヤ

ヲ鑑定スベキ旨ヲ予ニ命ゼリ依テ予同日午前十時三十分乃至正午同裁判所機內ニ於テ同判事立會ノ上同兒屍ヲ解剖シソノ所見ニ依リ此鑑定書ヲ作ル

甲、解剖檢査記錄

第一、外表檢査

一、初生女兒屍
黑色ノ土壤ヲ附着セル圓形柔纖毒ノ囊ヲ去レバ最上部ニ破レタル油紙アリ胎盤ハ非常ニ腐敗シテ此油紙片中ニ混在ス次ニ臍帶セル大人ノ衣服二枚ヲ充塡シ其下ニ兒屍アリ此兒屍ヲ取出スニ壺底ニ軟化セル腦質ノ少許ト顱頂骨及肺臟ノ一部ヲ殘存セルヲ見ル

二、屍體ハ一般ニ淡紫色トナリ頭部顏面及胸腹部等ハ淡暗綠色ヲ呈シ表皮ハ粉ンド狀脫シテ濕潤セル眞皮ヲ露出ス右顳顬部ヨリ顱頂部中央ニ至ル一皮切アリ此皮切ヨリ頭腦內ヲ窺フコトヲ得頭胸腹部ノ皮膚ニモソノ正中ニ一大皮切アリテ貴縫合セラレズシテ存シソノ咯開口ヨリ內臟ヲ露出ス死體強直ナシ此ノ如キ狀態ナルヲ以テソノ身長、體重頭首ノ大サ等ヲ測定スルコト能ハズ

三、頭皮ハ粉ンド狀脫シ二・五糎長ノ毛髮少許ヲ殘ス顏面ハ一般ニ汚綠色ヲ呈シ眼閉チ結膜蒼白、角膜濁濁シテ瞳孔ヲ透見スル能ハズ眼球甚シク軟化シ袋狀トナル鼻腔ハ壓平セラレ內ヨリ汚血色液少許ヲ漏ラス右頰部ニハ一大皮切アリ前鑑定醫ノ施セルモノナリト云フ口腔咯開シ舌ハ後方ニ退縮ス口腔內ニハ異物ナク咽頭內ニハ汚血色泡沫液少許アリ外耳及外聽道ニ異常ナシ

四、頸胸腹部ノ外表ハ前記一大皮切ノ爲メ之ヲ檢スルコト能ハズ脊面及四肢ニハ表皮剝脫ノ他損傷ナク外陰部ニモ異常ヲ認メズ大陰唇ハ陰核及小陰唇ヲ掩ヒ肛門咯開シ汚褐色ノ粘稠物少許ヲ漏ラス爪甲ヲ檢スルニ指爪ハ指端ニ達シ趾爪ハ未ダ少シク趾端ニ達セズ大腿骨下骨端內ノ化骨點ノ大サハ左右共三・〇—二・〇粍程ヲ算ス

第二、內景檢査

上、頭腔剖檢

五、前記(第二項)ノ顱頂部ニ於ケル皮切ヲ擴張シテ頭腔內ヲ檢スルニ硬腦膜ハ三指ヲ通ズル位切開セラレ其中ヨリ汁粉樣ノ腦質滴出スヲ之ヲ全部取出シテ檢スルニ軟泥樣トナリテ細檢スルコトノ如シ篩試ハ已ニ切開セラレテソノ內容ヲ存セズ粘膜蒼白ナリ子宮及腟ノ內面赤蒼白ニシテ異常ヲ認メズ

十一、胃ハ已ニ切開セラレテ內容ナク粘膜汚綠色ニ染ム小腸內ニハ褐色ノ濃稠物少許アリ粘膜同色ニ染ム大腸內ニハ濃褐色ノ胎便稍多量アリ、粘膜同色ニ染ムト雖腐敗高度ノ爲メソノ性狀ヲ細檢スルコト能ハズ

乙、顏面檢査記錄

十二、第三項ニ記載セル咽頭部ニ在タル汚血色泡沫液ヲ載物硝子板上ニ取リ蓋硝子板ヲ被セ鏡檢スルニ多數ノ類球地アルノ他異物ノ存在ヲ認メズ

十三、第八項ニテ採集セル肺臟片ヲふるまりんニテ固定シ次ニふるまりんヲ除去後薄片ヲ作リ鏡檢スルニ恰モ退行性變化ヲ被レル實質性組織ヲ見ルガ如クニシテ毫モ肺胞ノ開張スルヲ認メズ切片ノ周邊ニハ赤黑色不正形板狀ノ結晶樣物アリコハ血色素ノ變性セルモノナリソノ他肺胞氣管枝內等ニハ異物ノ存在スルヲ認メズ

丙、鑑　定

上記檢査ノ結果ニ依リ左ノ如ク鑑定ス

一、頭毛ノ長サ(第三項)外陰具及爪甲發育程度并ニ大腿骨下骨端內ノ化骨核ノ大サ(第四項)及頭骨ノ大サ(第五項)ニ依レバ本兒ハ姙娠第十ケ月ニ於テ產出セラレタルモノニシテ腐敗高度ノ爲メ予ハ之ヲ知ルヲ得ズト雖身體ニ病變畸形等ナキニ於テハ(前鑑定醫ノ鑑定ヲ參照スベシ)通常ノ保護ニ依リ母體外ニ於テモ獨立ニ生存スルコトヲ得ルモノナリ

二、肺ノ性狀特ニソノ浮揚試驗ノ成績(第八項)并ニ顏面檢査ノ結果(第十三項)ニ依レバ本兒ハ產出後呼吸ヲナシタルノ證標能ハズト雖ソノ中ニ大出血等アリタルノ痕跡ナシ頭骨ヲ檢スルニ損傷破裂等ヲ認メズ脫離セル各頭骨ノ大サハ成熟初生兒ノソレニ相當ス

下、胸腹腔剖檢

(い)頸　胸　腹　器

六、食道及氣管ハ尙未檢ノマヽソノ位置ニ存在スルヲ以テ一連ニ剖出シテ檢スルニ食道氣管共ニ全ク空虛、注意シテ檢スルモ異物ノ存在ヲ認メズ粘膜汚赤色ニ染ム

七、前胸壁ハ肋軟骨部ヲ切斷シ前下方ニ轉轉セラレ胸腔ノ中央ニハ軟化シテ殆ンド細檢スルコト能ハザル心臟ヲ存スソノ他ニハ胸腔全ク空虛、胸壁肋膜下ニ大小不同ノ腐敗瓦斯胞數多移動スルヲ認ム

八、壺中ニ在リタル肺臟ヲ檢スルニ表面紫褐色ニシテ二葉ニ分レ(左肺)肋膜下ニ大小不同ノ腐敗瓦斯胞移動スルヲ認ムト雖肺胞ノ開張ナク按壓スルニ嘩嗦ヲ觸レズ肉樣ノ感アリ斷面又氣泡ヲ漏ラサズ全肺ヲ冷水中ニ投ズルニ浮上スト雖丁寧ニ大ナル腐敗瓦斯胞ヲ剪去シ投水スルニ上葉ハ浮上シ下葉ハ沈降ス各葉ヲ細片トナシテ投水スレバ大部分ハ沈降シソノ浮上セルモノニモ輕壓ヲ加ヘテ投水スレバ全部沈降ス肺片一部ヲ檢査材料トシテ採集ス

(ろ)腹　腔　臟　器

九、腹腔ヲ檢スルニソノ上半ニ肝臟ヲ下半ニ帶灰褐色ノ腸管ヲ見ル肝臟ハ帶黑綠色ニシテ實質ハ軟泥樣トナリテ細檢スルコト能ハズ脾臟ハ甚ダ小、ソノ色及性狀ハ略肝臟ノ如シ

十、左腎莢膜剝離シ易ク表面紫褐色ニシテ實質ハ軟化シ細檢スルコト能ハズ右腎ハ莢膜下ニ大ナル腐敗瓦斯胞アルノ他性狀左腎

ナシサレド之ノミヲ以テ死産ト斷言スルハ聊カ早計ノ嫌ナキニアラズ卽チ本兒ノ如ク已ニ一度剖檢サレ且腐敗高度ナルモノニ在リテハ予ノ得タル所見ノミニテハ生、死産ノ孰レカヲ斷言スルコト能ハズ

三、腐敗高度ナルト全臓器ヲ完全ニ檢査スルコト能ハザリシヲ以テ本兒ノ死因ハ全ク不明ナリ

四、當時ノ氣象ト腐敗進行ノ狀態ニ依リ本兒ハ死後予ノ剖檢時迄凡ソ二十日內外ヲ經過セルモノナラム

五、一般ニ産兒ハ母體外ニ於テ獨立呼吸ヲ營ム前手足ヲ動カスコトアリ之レ全ク生理的現象ニシテ此ノ如キ場合ハ産兒ガ假死ニ陷リ居ルニセヨ或ハ殆ンド死ニ近キ狀態トナリ居ルニセヨ生命ノ纖維シ居ル限リ肺浮揚試驗ノ成績如何ニ拘ハラズ産兒ハ生産ナリト云フベシ

六、通常産兒ガ生活機能ヲ具備シテ母體ヲ脫離後二、三十秒間ハ獨立呼吸ヲ營マザルモノナレバ此期間ヲ極メテ巧ニ利用シ温潤セル紙或ハ手掌、大腿等ニテ産兒ノ鼻口ヲ閉塞スル時ハ何等暴行ノ痕跡ヲ殘サズシテ呼吸ヲ不能ナラシメ産兒ヲ死ニ致スコトヲ得ルモノニシテ此ノ如キ場合ハ剖檢上肺浮揚試驗陰性ナリト雖モ生産ニシテ面モ他人ノ手ニヨリテ致死セシメタルモノナリ

七、胎兒ガ母體內ニテ死亡シタル時ト雖直ニ産出セラルヽモノニアラズ多クハ死後數日ニシテ母體ヨリ分離スルモノナレドモ人々ニヨリテソノ時間ヲ一ニセズ胎兒ガ死後二三日乃至二三週間モ母體內ニ止マルコトアリ一概ニ云フベカラズ而シテ胎兒ガ死後長ク母體內ニ止マル時ハ所謂浸軟狀態トナリテ産出セラルヽヲ以テ産後直ニ兒體ヲ檢スレバ浸軟ノ程度ニ依リ胎兒ガ死後母體內ニ止マリシ時間ノ長短ヲ推定スルコトヲ得ルモノナリ

此鑑定ハ大正〇年〇月〇日着手

同年同月〇日結了

同月七日　鑑定人　小南又一郎

六、姙娠檢査

姙娠檢査

民法第七百六十七條　女ハ前婚ノ解消又ハ取消ノ日ヨリ六ケ月ヲ經過シタル後ニ非ザレバ再婚ヲ爲スコトヲ得ズ

女ガ前婚ノ解消又ハ取消ノ前ヨリ懷胎シタル場合ニ於テハ其分娩ノ日ヨリ前項ノ規定ヲ適用セズ

同　第七百八十二條　第七百六十七條ノ規定ニ違反シタル婚姻ハ前婚ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ六ケ月ヲ經過シ又ハ女ガ再婚後懷胎シタルトキハ其取消ヲ請求スルコトヲ得ズ

同　第八百三十條　妻ガ婚姻中ニ懷胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス

婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日內ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懷胎シタルモノト推定ス

同　第八百二十一條　第七百六十七條第一項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女ガ分娩シタル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ其子ノ父ヲ定ムルコト能ハザルトキハ裁判所之ヲ定ム

同　第八百二十二條　第八百二十條ノ場合ニ於テ夫ノ子ノ嬰出ナルコトヲ否認スルコトヲ得

同　第八百三十一條　父ハ胎內ニ在ル子ト雖モ之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テハ母ノ承諾ヲ得ルコトヲ要ス

父又ハ母ハ死亡シタル子ト雖モ其直系卑屬アルトキニ限リ之ヲ認知スルコトヲ得此場合ニ於テ其直系卑屬ガ成年者ナルトキハ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス

産兒ノ父ヲ定メ、或ハ再婚セントスル婦人ガ姙娠セルヤ否ヤ、或ハ刑法上墮胎ノ罪等ニ關シ、婦人ノ姙娠ヲ決定セザルベカラザル場合アリ、今産婦人科學ノ敎ユル所ニ從テ、姙娠ニ付法醫學上必要ナル部分ヲ述ベム。

(甲)婦人ガ姙娠セルノ疑アル徵標ハ次ノ如シ。

(イ)惡心、嘔吐。

(ロ)月經閉止、コハ姙娠ノ大切ナル徵標ナレドモ、絕體的價値アルモノニ非ラズ、慢性消耗性疾患、急性傳染病、體質異常、精神病、甚シキ精神感動、或ハ住居職業ノ變更等ニ依ル月經閉止アリ。反之、姙娠後月經樣出血ノアルアリ、姙娠ニ非ラズシテ成熟セル婦人ニ於テ生來規則正シカリシ經行ガ、惡心嘔吐ヲ伴ヒ突然閉止スルコトアリ、其他處女時代ヨリ一度モ月經ヲ見ズシテ姙娠セルモノアリ、或ハ月經ノ一回モ閉止セズシテ姙娠セルモノアリ、或ハ産後一回モ月經ヲ見ズシテ姙娠セルモノアル等ノ如キ之レナリ。

(ハ)外陰唇及子宮ノ腟部腫脹シ、或ハ色素ヲ增加シ來ルコト。

(ニ)子宮ノ球狀腫大、往々子宮肉腫等ニ依リテ子宮ノ腫脹シ來ルコトアレバ、之トテモ姙娠ノ確徵ニアラズ。

同　第九百六十八條　胎兒ハ家督相續ニ付テハ既ニ生マレタルモノト見做ス

前項ノ規定ハ胎兒ガ死體ニテ生マレタルトキハ之ヲ適用セズ

あぶでるはるでん氏姙娠診斷法

(ホ)乳腺膨大シ色素ヲ增加シ、且初乳樣ノモノヲ出スコト。

(ヘ)あぶでるはるでん氏姙娠反應ノ陽性。

本反應ハ法醫學的檢査上稍興味アルモノナレバ、茲ニソノ原理ト大體ニ就テ一言セント欲ス、ぁ氏ノ研究ニ依レバ、動物ノ血行內ニ輸入セラレタル異種蛋白ハ、直ニ血行中ニ對酵素ヲ發生セシメ、ソレニヨリテ血行中ニ入レル異種蛋白ヲ分解同化シ盡スモノニシテ、此對酵素ハソレニ對シテ發生シタル蛋白質ヲノミ分解スル力アリ全ク特殊性ノモノナリ、然リ而シテ此特殊酵素ノ發生スルハ、體外ヨリ血行中ニ輸入サレタル異種蛋白質ニ依ルノミナラズ、自家體內ノ蛋白ト雖、苟モ血行中ニアル蛋白ト何等カノ差異アルニ於テハ、常ニ對酵素ノ發生ヲ促スベシ、茲ニソノ適例ト見做スベキハ、姙娠ノ際ニ於ケル絨毛樣突起ナリ換言スレバ、胎盤組織ハ常ニソノ幾分ヲ母體ノ血行中ニ移入セシメ、母體ハ之ニ對スル特殊酵素ノ微量ヲ生ジ、血行中ニ循環シツヽアルモノナリ、今此微量ノ特殊酵素ヲ發見シテ、姙娠ノ診斷ヲ下サントスルハぁ氏反應ノ原理トスル所ナリ。

ぁ氏ハソノ獨特ノ法ニヨリ製出セル胎盤べぷとんヲ取リ非姙婦血清ト混ジ、偏光觀測器ニ依リ窺フニソノ偏光面ニ變化ナシ、然ルニ姙婦血清ト胎盤べぷとんトヲ混ジ、同樣ニ所置スルニ、偏光面ノ角度著シク回轉變化ス、之レ胎盤べぷとんガ姙婦ノ血清中ニ在ル微量ノ特殊酵素ニ依リテ分解セラレ、ソノ光學的性質ヲ變ジタルニ依ルモノナリ、然ルニ此光學的方法ハ一定ノ裝置ヲ有シ、又施行法ニ相當ノ熟練ヲ要スル故簡單ニ之ヲ試ムルコト困難ナリシガ、ぁ氏ハ間モナク同原理ニ依レル所謂透析法ヲ發表セリ、ソハ新鮮ナル胎盤ヲ取リ、十分水洗シテ血清及血液ヲ去リ、小切片トナシ、多量ノ弱酸性ノ水ニテ洗滌シ、ソノ洗滌水ガ再ビびゆうれつと或ハにんびとりんノ反應ヲ呈セザルニ至リテ、此小切片ヲ無菌的ニ貯藏シ、用ニ臨ミソノ一片ヲ取リ出シ姙婦ノ疑アルモノヽ血清ヲ加ヘ透析法ヲ行ヒ、透析液ガびゆうれつと或ハにんびとりん反應ヲ呈スレバ本反應陽性ナリト云フ、之レ非姙婦ノ血清中ニハ特殊ノ對酵素ナキ故、胎盤べぷとんハ分解セラレザルモ、姙婦ノ血清中ニハ之ヲ分解スルモノ存在スル故胎盤べぷとんハ分解セラレ、透析筒ヲ通ジテ筒外ニ滲透シ、にんひとりん反應陽性ヲ來スモノナリ、卽チ本法陽性ナレバ姙娠ナリトノ疑ヲ抱クコトヲ得ベシ。

茲ニぁ氏姙娠診斷法ノ中、透析法ニ付稍具體的ニ記載スレバ、新鮮ナル胎盤ヲ布ニ包ミテ流水中ニ壓搾シツヽ洗滌シ、ソガ灰白色ヲ呈スルニ至リテ之ヲ剪刀ヲ以テ細切シ、成ルベク卵膜及大血管等ヲ去リ一二滴ノ醋酸ヲ加ヘタル蒸餾水ニテ煮沸シ、煮沸水ヲ交替シ、同樣ニ所置スルコト數回、煮沸水五cc ニ一%ノにんひどりん溶液一cc ヲ加ヘテ煮沸シ、最早藍紫色ヲ呈セザルニ至リテ煮沸ヲ止メ、此胎盤切片ヲ消毒セル小管內ニ移シ、最後ノ煮沸水ト共ニくろゝほるむ及とるをーるヲ加ヘテ保存シ、用ニ臨ミソノ一片ヲ取出シ、にんひどりん反應ヲ試ミソガ陰性ナル時使用ニ供スベシ。

透析筒ハしゆる、しゆらいへる製 No. 1250a ヲ用ユルヨシトス、先ヅ之ニ五%ノ卵白水ヲ入レテ一晝夜式ノ如ク透析シ、滲出液ハにんひどりん反應ニ對シテ陰性ナルヲ必要トシ、次ニ〇・一%ノういつてぺぷとん溶解液ヲ入レ同樣ニ透析シ、滲出液ハにんひどりんニ對シ陽性ナルヲ必要トス、換言スレバ透析筒ハ大ナル分子ノ蛋白質通過ヲ許ルサズシテ、ソノ分解產物タルぺぷとんノ通過容易ナルモノタルベシ。

次ニ姙婦及非姙婦ヨリ數耗ノ血液ヲ取リ、暫時放置後、血液ヲ析出セシメ、前記檢査濟ノ胎盤組織一・

○瓦ヲ同ジク檢査濟ノ透析筒ニ入レタルモノ二個ヲ作リ、ソノ一ニ姙婦ノ血清、他ニ非姙婦血清各二ccヲ注加シ、ソノ上ニとるをーるヲ積層シ、之ヲ約二〇ccノ蒸餾水ヲ容レタル廣口瓶ニ垂下シ、十六時間孵卵器内ニ入レ、式ノ如ク透析シタル後、透析液一〇ccヲ取リ、一蚋ノ一%ノにんひどりん〇・二ヲ加ヘテ一分間煮沸シ冷後三十分ニシテ檢スルニ、姙婦血清ヲ用ヒタルモノ、方ハ陰性トナル、此反應ヲナスニ注意スベキハ常ニ多クノ對照試驗ヲナシ、且相當ノ熟練ヲ要ス。

あ氏反應ノ確否

本法ノ姙娠診斷ニ對スル確否ニ就テ、諸學者ニ論難セラルヽヤ、あ氏ハ本法ヲ正確ニ行フニハ、自己ノ檢査濟ノ材料ヲ用ヒ、且自己ノ直接教導ヲ受ケザルモノハ、技術上ノ間違ヲ來スコト多シト述ベタリ、本法ハ姙娠一ケ月ヨリ産後二週間迄ハ確ニ陽性ナリト、然レドモ姙婦ノ血清ニシテ往々陰性ヲ示シ、或ハ非姙婦ニ於テ陽性トナルコトアリ、あ氏ハ之レ技術ノ誤リヨリ來ルト辯難スト雖、予ハ尙本反應ハ姙娠ノ豫備診斷ニ用ユルニ足ルノミニシテ、法醫學的ニハ本法陽性ヲ以テ、直ニ姙娠確實ナリト斷言シ能ハザルモノト信ジ、本章下ニ述ブルコトヽセリ、何トナレバ、本法ハ姙娠ニ關係ナキ肺結核、生殖器ノ化膿性疾患癌等ノ患者ノ血清ヲ以テスルモ、往々陽性ヲ呈スルコトアレバナリ。

本法發見以來甚ダ種々ノ方面ニ應用サレ、精神病學方面ニテハ、早發痴狂ノ患者ノ血清中ニハ生殖腺ヲ分解スル特有ナル酵素アリ、又假性半陰陽者ノ血清中ニハ自己ニ特有ナル生殖腺分解酵素アリ、又一度交接ヲ試ミタルコトアル婦人ニテハ、ソノ血清中ニ精液ヲ分解スル酵素ヲ含有ス等ノ假想ノ下ニ、本法ヲ應用シテ精神病麗腸及半陰陽ノ診斷、血痕ノ男女鑑別、并ニ婦人ノ處女問題決定ヲ試ミントセシモノアルモコヽ餘リ本法ヲ過信シタルモノニアラザルトキカ、後日ノ研究ヲ俟ツベキモノトス。

木内氏反應

獨逸ニ在リテあ氏反應ノ共同研究ニ從事セシ木内氏ハ、歸朝後ソノ研究ヲ續行シ、彼ノ特殊酵素ハ尿ニ移行スルモノナリトノ見解ノ下ニ、あ氏反應ノ一變法トモ云フベキ木内氏尿濾過法ヲ公表セリ。同氏ハ的確簡便、材料ノ廉價、患者ニ無苦痛等ノ條件ニ依リ、此診斷法ヲあ氏反應ヨリ理想的ノモノトナセリ。本法ガ果シテあ氏反應ト同樣ノ價値アルヤト云フニ、淺田、横井、島村、松葉、秋葉等諸氏ノ研究ニ依レバ、成績不確ナリト云フト雖、木内氏ノ最新法ニヨレバ略診斷ノ用ニ供スルコトヲ得ト云フ。次デ木内氏法ノ一變法トシテ、淺田氏ハ所謂尿稀釋法ヲ發表セリ、緒方氏ノ此兩方法ヲ折衷シタル法ハ姙娠ノ豫診ヲ下スニハ適當ナル方法ナリトセリ。

淺田氏尿稀釋法

姙娠ノ確徵

(乙)姙娠ノ確徵トシテハ、胎兒ヲ直接觸ルヽコト、胎兒ノ運動ヲ感ズルコト、或ハソノ心音及臍帶雜音ヲ聞クコト等ナリ。

(丙)次ニ姙娠月數ヲ定ムルニハ、月經閉止、初メテ胎動ヲ感ジタル時期、胎兒ノ大サ並ニ子宮ノ大サ等ヲ參考シテ診定スベシ。コハ産科學ノ述ブル所ナルモ、ソノ大體ヲ述ブレバ左ノ如シ。

子宮ノ大サ

第一月、子宮ハ少シク大トナリ球狀ヲ帶ビ、子宮ノ腟部ハ稍柔軟トナル。

第二月、子宮ハ鶏卵大トナリ、尙稍堅ク子宮口ハ柔軟トナリ、囲形ニシテ乳房ハ腫大シ、乳暈及姙娠瘢痕ハ褐色トナリ始ム。

第六十一圖

姙娠第二月ノ初期ニ於ケル卵
(A)羊膜
(Uh)胞衣
(N)臍胞

姙娠期間

第三月、子宮ハ小兒頭大トナリ、柔軟トナル。

第四月、子宮ハ大人頭大トナリ、耻骨弓ノ上ニ現ハレ、双合診ニヨリ胎兒ヲ觸知シ、子宮雜音ヲ聞キ胎動ヲ聽取ス。

第五月。子宮底ハ臍窩ト耻骨弓トノ中央ニ達シ、姙娠婦ハ胎動ヲ感ズ、此頃ヨリ胎兒ノ心音ヲ聞クコトヲ得。

第六月、子宮底ハ臍窩ニ達シ、胎兒ノ各部分ヲ外診上明ニ觸知シ得ル樣ニナリ、生殖器等ニ色素益々加ハリ、乳房愈堅クナル。

第七月、子宮底ハ臍窩ヨリ三横指徑程上方ニ登リ、臍窩ハ消失シ、子宮腟部ハ短ク、胎兒頭ノ浮動明ナリ。

第八月、予宮底ハ臍窩ト心窩トノ中央ニ達シ、腹壁甚ダ緊張シ來ル。

第九月、子宮底ハ心窩ニ達シ、初産婦ニテハ外子宮孔僅ニ開キ經産婦ニテハ內子宮口迄開ク。

第十月、子宮底ハ心窩ト臍窩ノ中央迄下リ來リ、稍前方ニ傾キ、初産婦ニテハ前腟穹隆部消失シ經産婦ニテハ內子宮口ニ二指ヲ通ズルニ至ル、腟粘膜ハ柔軟トナリ、粘液ノ分泌多シ。

(丁)姙娠期間トシテハ平均二百六十九日乃至二百七十一日ナリト云フ、一般ニハ二百八十日或ハ四十週、モシクハ月齡月十ケ月ト云フヲ普通トス、民法八百二十條ニ依レバ婚姻成立ノ日ヨリ二百日後、又ハ婚姻解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日內ニ生レタル子ハ、婚姻中ニ懷胎シタルモノト推定シ有リ、獨逸ノ民法ニテハ姙娠ノ最長期限ヲ三百日、若クハ三百二日トセリ。然レドモ實例ニヨレバ三百二十日間姙娠ヲ持續シタルコトアリシト云フ。產科學ニ於テ最後ノ月經日ヨリ打算シ(M)ヲ最後ノ月經日ノ月トシテ(T)ヨソノ日ヲ示スモノトスレバ(M−3)ヲ月トシ、(T+7)ヲ日トスレバ、ソノ月日ハ略分娩期日ニ相當スト云フ、分娩ノ後幾日ニシテ更ニ姙娠スルコトヲ得ルカト云フニ、最モ早キハ第四日目ニ已ニ姙娠セルモノアリト云フ。

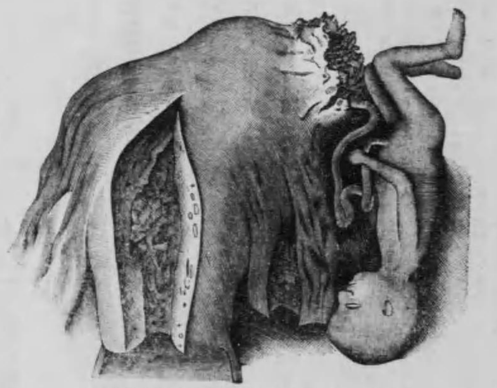
異常姙娠

重復姙娠

子宮外姙娠

鬼胎

第六十二圖



第四月ニ於テ子宮壁破裂ヲ來セル組織間姙娠

戊、異常姙娠

(イ)重復姙娠　同經期重復姙娠トハ一月經期間ニ二以上ノ胎兒ヲ姙娠スルモノ異經期重復姙娠トハ月經期ヲ異ニシテ排泄セラレシ卵ガ受胎セルモノヲ云フト雖、現今多クノ學者ハコハ不能ナリト主張セリ。又重復姙娠ニテ一兒ガ白人ノ子ニシテ、一兒ガ黑人ノ子ナリシ例アリ。

(ロ)子宮外姙娠(通常喇叭管姙娠)ノ破裂シテ流產ニヨリ婦人ガ急死シ、往々法醫學上ノ問題トナルコトアリ、或ハ此時胎兒ガ都合ヨク腹腟內ニ落チ時トシテ腹腟姙娠トナリ、所謂石胎兒ヲ形成シ、十數年モ母體內ニ止マリシ例アリ。

(ハ)鬼胎(葡萄狀鬼胎)　コハ卵膜ノ疾患ヨリ來ル

モノニシテ、是等ハ姙娠ノ始メニハソガ眞ノ姙娠ナルヤ否ヲ鑑別スルコト困難ナレドモ、時日ヲ經過スルニ從ヒ、胎兒ノ身體ヲ觸知スルコトナク、又ソノ心音ヲ聞クコトナク、運動ヲ感ゼザルヲ以テ、實際ノ娠姙ト區別スルコトヲ得ルナリ。

想像姙娠

(二)想像姙娠　姙娠ヲ欲シ或ハ恐怖スル婦人ガ、想像ニヨリテ姙娠ト思フコトアリ、之レ腹壁ニ脂肪ノ蓄積セルヨリ或ハ皺膨又ハ腫膨ヲ姙娠ト想像シ、此ノ如キ人ニアリテハ往々乳房變化陣痛等スラ感ズルニ至ルコトアリ。

(ホ)其他人事不省ノ間ニ交接サレテ姙娠シ、或ハ姙娠シナガラ之ヲ知ラザルコトアリ、ソレニ依リテ種々ノ法律上ノ問題ヲ引起スコトアレバ注意スベシ。

分娩檢査

七、分　娩　檢　査

民法第一條　私權ノ享有ハ出生ニ始マル
同第七百三十三條　子ハ父ノ家ニ入ル
父ノ知レザル子ハ母ノ家ニ入ル
父母共ニ知レザル子ハ一家ヲ創立ス
同第七百三十四條　父ガ子ノ出生前ニ離婚又ハ離緣ニ因リテ其家ヲ去リタルトキハ前條第一項ノ規定ハ懷胎ノ始ニ遡リテ之ヲ適用ス
前項ノ規定ハ父母ガ共ニ其家ヲ去リタル場合ニハ之ヲ適用セズ
但母ガ子ノ出生前ニ復籍ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラズ
同第八百二十五條　否認ノ訴ハ夫ガ子ノ出生ヲ知リタル時ヨリ一年內ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス
刑法施行法
第四十八條　刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ
第三百十八條ノ二　死刑ノ執行ハ檢事及ビ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ズ但檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラズ
第三百十八條ノ三　死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其痊癒ニ至ルマデ執行ヲ停止ス
死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルニ非ザレバ執行ヲ爲スコトヲ得ズ

殺兒或ハ墮胎ノ場合、被告ガ近時經產セルモノナルヤ否ヤヲ定ムルコト必要ナル場合アリ、產中ニ於ケル婦人ヲ見レバ、彼ガ娩產中ナルコトハ明カナレドモ、法醫學的ニテハ產後相當ノ時間ヲ經テ、經產セルヤ否ヤヲ知ル必要アリ、一般ニ產後檢查時迄ノ經過時間短ケレバ短キ程、明カニ之ヲ診定シ得ルモノニシテ、產直後ニハ外陰部ノ周圍ハ尙血液ヲ以テ汚染セラレ、陰唇ハ腫脹シ、陰門ハ開キ、往々裂傷アリ、腟粘膜ニハ皺襞少ク子宮口開キ、此處ニモ裂傷アリ、ソノ他體溫上昇シ婦人ノ全身貧血シ、腹壁弛緩シ、禍線及姙娠瘢痕著明ニシテ、乳房ハ大トナリ、初乳ヲ漏出ス。

此等經產ノ徵標ハ時間ヲ經ルニ從テ不明瞭トナリ、產後十日位ニシテ子宮口ハ閉ヂ、裂傷ハ一週間位ヒニシテ治癒シ、六乃至八週ニシテ子宮ハ原形ニ復シ、惡露ハ產後三、四日ハ血液樣、六日目頃ヨリ透明ノ肉汁樣トナリ、九日目頃ニハ灰白色トナリ、次第ニ粘液性トナリ、略三週間ニシテ全ク惡露消失ス。產兒ニ哺乳スレバ一般ニ惡露ハ早ク消失スト云フ。處女膜ハ大抵下半部破裂ス、經產ノ徵標トシテ最モ長ク殘存スルハ、禍線、子宮口及會陰ニ於ケル瘢痕ナリ、併シ此三者ハ經產以外ノコトニテモ出來ルコトアリ。

第六十三圖

十四歲ノ處女ノ子宮口　橢圓形橫裂

十六歲ノ處女ノ子宮口子宮頸ノ長サニ由ル長側壁ノ擴入ヲ有シ前子宮口唇ハ少シク後子宮口上ヲ掩フ

六十歲ノ處女ノ外子宮口　圓形平滑ノ開口

經產婦ニ於テ、耻骨弓ヨリ子宮底迄ノ長サ、子宮腟ノ長サ等ニ依リテ產後幾日ヲ經過セシカヲ知ルヲ得

ルコトアリ、今ソノ一例ヲ擧グレバ左ノ如シ、但シ之レトテモ尿ノ充盈ノ度（尿量百竓ニテ一cmノ差アリ）或ハ各個人ニ依リテ若干ノ差異アルモノナリ。

産後ノ經過日數	恥骨弓ヨリ子宮底迄ノ距離	子宮腔ノ長サ	子宮壁厚
一日	一三・五〇糎	—	—
二日	一二・二五糎	—	二・五糎
三日	一一・〇〇糎	—	二・二糎
四日	九・七五糎	一四・〇糎	二・〇糎
五日	八・五〇糎	一三・七五糎	一・八糎
六日	七・七五糎	—	一・六糎
七日	七・七五糎	—	一・四糎
八日	七・五〇糎	一二・五糎	一・二糎
九日	六・七五糎	一一・五糎	一・〇糎
十日	六・〇〇糎	—	〇・八糎
十一日	五・五〇糎	一〇・〇糎	〇・六糎

産後ノ經過日數ト子宮ノ大サ

尙經産婦ヲ檢査シテ注意スベキハ、産ノ輕重遲速、胎兒ノ位置、骨盤ノ狀態、出血ノ大小、裂傷ノ有無手術ヲ加ヘシヤ否ヤ及産婦ノ精神狀態等ナリ。

死體ニ於テ經産婦ナルヤ否ヤヲ定ムルニハ、重ニ子宮ノ狀態ニ依ルモノニシテ、産直後ナレバ子宮、産道ヲ一見スレバ、直ニ判定ヲ下シ得ルモ、産後時間ヲ經過シタルモノナレバ子宮ノ大サ重量ヲ計リテ、ソヲ決定スルコトヲ得ルモノナリ、例セバ次ノ如シ。

	非經産婦	經産婦
子宮ノ長サ	七・八—八・一糎	八・七—九・四糎
子宮ノ廣サ	三・四—四・五同	五・四—六・一同
子宮ノ厚サ	一・八—二・七同	三・二—三・六同
子宮ノ重サ	三三・〇—四一・〇瓦	一〇二・〇—一一七・〇瓦

八、墮胎檢査

第二百十二條　懷胎ノ婦女藥物ノ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十三條　婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十四條　醫師、産婆、藥劑師又ハ藥種商、婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ三月以上五年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百十五條　婦女ノ囑託ヲ受ケズ又ハ其承諾ヲ得ズシテ墮胎セシメタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百十六條　前條ノ罪ヲ犯シ因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

墮胎トハ醫學的ニ云ヘバ、胎兒ガ母體外ニ未ダ獨立ニ生存ヲ營ム能ハザル時期、例ヘバ雄娠二十八週以內ニ於テ、故意ニ藥物或ハ器械ヲ用ヒテ未成熟兒ヲ産出セシムルモノニシテ、法律上ニハ墮胎ノ罪ハ、自然ノ分娩期ニ先チ、人爲ヲ以テ胎兒ヲ母體ヨリ分離セシムルニ依テ成立シ、ソノ結果トシテ胎兒ガ死亡ス

ルト否トハ、犯罪ノ成否ニ影響ヲ及ボスコトナシト解釋シアリ。墮胎ノ疑アル場合、醫師ノ檢査スベキハ次ノ四項ナリ。

一、婦人ハ實際姙娠ナリシヤ否ヤ、

二、墮胎ヲ試ミシヤ、或ハ之ニ成功セシヤ、

三、墮胎ハ自然ニナリシモノナルヤ、或ハ故意ニ行ヒシモノナルヤ、

四、墮胎ノ結果、

婦人ガ實際姙娠セリヤ否ノ徵標ハ已ニ述ベタリ、姙娠セザル婦人ニ墮胎ノ試ミヲナシタル際ハ自ラ本問題ト異ナレバ、先ヅ以テ姙娠ノ有無ヲ決定スルノ必要アルナリ、次ニ墮胎ヲ試ミシヤ否ハ、母體ト胎兒ト共ニ檢スレバ甚ダ容易ナリト雖、一方ノミヲ以テ之ヲ判定スルハ困難ナル事業ナリ。

母體檢査

(イ)母體檢査

姙娠日數多クナル程、墮胎後母體ニ於ケル變化著シクナル故診斷容易ナリ、姙娠後四乃至八週ニテハ卵ハ小サク、分娩セラルヽモ生殖器ニハ著變ヲ起サヾル故、之ヲ月經又ハ病的出血ト區別シ難シ、四乃至七ケ月ノ胎兒分娩ト成熟兒ノソレトハ、ソノ娩產作業及ソノ徵標ニ輕重アルノミナリ、二十八週以前ノ胎兒ノ產出ハ殆ンド腟及會陰ニ裂傷ヲ來スコトナシ、墮胎後卽產後幾日ヲ經過セシカヲ知ルニハ、已述ノ經產徵候ニ依ルベシ。

產出物ノ檢査

(ロ)產出物ノ檢査

產出物ノ血塊ナルヤ胚胎ナルヤハ、之ヲ白色平血內ニテ水ニ浮游セシメ檢査スベシ、一般ニ卵ハ姙娠三ケ月以前ニハソノマヽ娩出サレ、第四月ヨリハ普通ノ如ク破水シ、陣痛アリテ胎兒ヲ出シ、亞デ胎盤ヲ產出スルモノナリ。時トシテ第一ケ月ノ卵ニテモ破水シ出ヅルコトアリ、此際ハヨク精檢セザレバ膜樣性月經困難ト誤ルコトアルベシ、又單ナル子宮出血ト墮胎後ノ出血トハ、之ヲ鏡檢スレバ絨毛樣突起或ハ脫落膜片ヲ發見スルモノナレバ、直ニソガ何レナルカヲ知ルコトヲ得、絨毛樣突起ヲ檢スルニハ、之ヲ水中ニテヨク廣ゲ、載物硝子板上ニ載セ、覆蓋硝子板ヲ被セ、ソノマヽ或ハめちれん青等ニテ染色シ或ハ組織學的標本ヲ作成シテ之ヲ鏡檢スベシ、然ル時姙娠ノ初期ニハ絨毛突起ニハ血管ヲ認メザルモ、三週以後ハ血管ヲ生ジ、又細胞ノ配列モ初メハ單ナルモ次第ニ複雜トナル、是等ノ狀態ヲ仔細ニ檢スレバ、絨毛樣突起ノ狀態ニ依リテ、ソガ姙娠ノ初期ナルカ末期ナルカヲモ知ルコトヲ得、同樣ニシテ脫落膜細胞ヲモ檢査スベシ。

胎兒ノ大サト姙娠月數

モシ胎兒ヲ見出セバ、其大サ重量等ニヨリテ姙娠月數ヲ判定スベシ、今胎兒ノ大サ、胎盤ノ重サ、臍帶ノ長サ等ニ依リテ姙娠月數ヲ判知スベキ表ヲ示セバ左ノ如シ。

姙娠月數	胎兒ノ大サ	胎兒ノ重サ	胎盤ノ重サ	臍帶ノ長サ
十四日	四・〇粍	—	—	—
一ケ月	一—二糎	二・〇瓦	〇・五—一・〇糎	—
二ケ月	三—四	四・〇	九・〇瓦	一八・〇
三ケ月	七—九	二〇・〇	一八・〇	二・〇
四ケ月	一〇—一七	一二〇・〇	三六・〇	七・〇
			八〇・〇	一九・〇

五ヶ月	一八—二七糎	二三〇・〇瓦	一七八・〇瓦	三一・〇糎
六ヶ月	二八—三四	六三四・〇	二七三・〇	三七・〇
七ヶ月	三五—三八	一二一八・〇	三七四・〇	四二・〇
八ヶ月	三八—四三	一五〇〇・〇	四五一・〇	四六・〇
九ヶ月	四六—四八	二五〇〇・〇	五〇〇・〇	五〇・〇
十ヶ月	四八—五二	三〇〇〇・〇	五〇〇・〇—六〇〇・〇	五〇・〇—六〇・〇

此等檢査ノ場合、子宮、產道、胎兒ニ損傷或ハ異物ヲ存ゼザルカヲ注意シテ檢シ、姙娠中絕ヲナセシコト確實トナレバ、次デソノ自然ニ來リシモノナルヤ、將タ故意ニ犯行的ニ來リシモノナルヤヲ檢スベシ。

流產

(八)流　產

自然ニ來ル流產ハ二乃至四ヶ月ニ最モ多ク起リ、ソガ原因トナルハ母體ニ於テハ過勞、房事過度、子宮內膜炎、母體ノ急性熱性病、心臟病及梅毒等ナリ、胚胎ノ方ノ原因トシテハ、卵膜ノ疾患、胎盤ノ出血、梅毒及變位等ニシテソノ他ノ子宮ノ機械的刺戟ニ由リ、惡意ナクシテ流產スルコトアリ。例ヘバ高所ヨリ落チ、或ハ下腹部ヲ災厄ニヨリ打擊シタル時ノ如シ、尙醫師ガ治療ノ目的ニ母體ノ危險ヲ慮リ、胎兒ヲ墮胎セシムルコトアリ、例ヘバ姙娠中ノ蛋白性網膜炎、惡性貧血、糖尿病、心臟疾患、腎臟炎、肺結核、癲癇、ひよれあ、てたにー、すとるーま、わせどー氏病、强度ノ惡嘔等ヨリ、母體ヲ危險ニ瀕セシメ、胎兒ヲ墮胎スレバ、母體ヲ救助スルコトヲ得ル望アル時ハ、醫師二人以上ノ立會ニ依リ、治療ノ目的ニ墮胎術ヲ施スベシ。此等ハ刑法ノ問フ所ニアラズ。

治療的墮胎

犯法的墮胎

墮胎藥

(二)犯法的墮胎

故意ニ犯罪的ニ來ル墮胎ノ原因ニハ、藥物ヲ用ユルモノ、器械的ニ墮胎スルモノ及折衷法ノ三アリ。

(甲)藥物學的墮胎　獨特ニ墮胎ノミヲ來ス藥品ハ未ダ發見セラレズ、多クノ藥品ハ內臟ニ甚シキ障害ヲ起シ、ソノ反射作用トシテ子宮ノ收縮ヲ來シ、次デ墮胎ヲ招來スルモノナリ、卽チ藥物學的墮胎ト稱セラル、モノハ全身ニ中毒作用ヲ起シ、ソノ爲メニ直接或ハ反射作用ニヨリ子宮ノ運動ヲ來シ、胎兒ヲ娩出セシムルモノナリ、次ニ胎兒ヲ死ニ致シ、墮胎セシムルモノアリ、例ヘバもるひね中毒ノ時ノ如キ之レナリ、今墮胎藥ノ重ナルヲ擧グレバ、すとりきにーね、にこちん、石炭酸、こつふわいん、蘆薈、さびな、もるひね、沃度加里、水銀、麥角等ニシテ俗用トスルモノニハにほひゝば、てれびん、さふらん、燐、沃度、芥子、紅、虻ノ日影干、艾菊、芸香、芫菁、桃仁、鐵液、なべすみ等ナリ。

(乙)器械的墮胎　此方法ハ卵ヲ損傷シ、或ハ子宮ヲ器械的ニ刺戟シテ墮胎ヲ來サシムルモノニシテ、最モ効アリ、之ヲ行フニハ人手ヲ借リルコトアリ、或ハ姙婦一人ニテナスコトアリ、例ヘバ劇シキ勞働、腹部打擊下腹部ニ灸ヲスエルコト、故意ノ轉倒、腹部ニ對スル粗暴ノ行爲、腹部按摩法、破水、子宮腔內ニ消息子、或ハ異物ヲ挿入スルコト等種々ノ方法アリ、子宮內ニ入レル異物トシテハ俗間ニテハ編棒、針金、筆軸傘骨、火箸、葉肋、莖幹等ヲ用ユ。

(丙)折衷方法　コハ藥物的ニモ亦器械的ニモ作用スルモノヲ合セ用ユ、卽熱水或ハ藥液ノ子宮腔注入、胡椒、菲球ヲ腟內ニ入レ、電流ヲ子宮ニ通ズル等種々ノ方法アリ。

此等種々ノ方法ヲ試ミタル後、墮胎ヲ招來スル時間ハ甚ダ不定ニシテ、多クハ犯人ノ自白ニ依ルノ外ナ

墮胎ニヨル損傷

シ、器械的墮胎ヲナス場合、多クハ秘密ニ且生殖器ノ解剖的關係ヲ知ラザルモノガ行フ故、尚異物ヲ子宮腔内ニ殘シ、或ハ後腟穹隆、子宮底等ニ損傷ヲ來シ居ルモノナレバ、ソガ墮胎ヲナセル診斷ヲ附スルコトヲ得、故ニ墮胎ヲナセシ疑アル場合ハ、婦人ノ居室等ニ斯タ如キ疑ハシキ物品ノ殘存セザルヤ、腟粘膜、子宮ニ損傷ナキヤ異物ヲ存ゼザルヤヲ注意シテ檢査スベシ。

第六十四圖

（姙娠第三月ニ於ケル流産、腹膜炎ノ爲メ流産ヨリ十日ノ後ニ死亡セル者
（挿入セル器械ニ由テ内子宮口ニ損傷セリ）

第六十五圖

其邊緣ニ壞疽性軟化ヲ呈スル子宮底ノ多發的穿孔

ホ、墮胎ノ結果

墮胎ノ結果

墮胎ノ結果トシテハ大出血、ゐんぱりー、産褥熱、敗血病、中毒死及生殖器ニ於ケル損傷等アリ、例ヘバ子宮底ヲ穿通シテ細菌ヲ腹腔ニ送リ、腹膜炎ヲ來シ、死亡スルコトアルガ如シ之レナリ。

墮胎ニ依リテ死亡セルモノヲ剖檢スル時ハ、子宮ノ狀態或ハ夫レニ存スル損傷ニテ診定シ、若シゐんぱりーニテ死ニ至リシ疑アル時ハ、心臟及大血管内ニ空氣胞ナキヤヲ注意スベシ、此際腐敗瓦斯ト錯誤スベカラズ、尚毒物學的ニ胃腸内容ヨリ疑ハシキ毒物ヲ發見スルコトアリ、時トシテ子宮ノ自然破裂ト、墮胎ニ依リテ來リシ損傷ト鑑別ノ必要アルコトアリ、子宮ノ自然破裂ハ多クハ子宮頸ト子宮體トノ境界邊ニ在リテ、横徑或ハ斜徑ニ在ルヲ常トシ、墮胎ノ時ニ見ル創傷ハ、多クハ子宮底ニ在リ、刺創ノ形狀ヲ有シ、モシ又人工ノ爲メニ破裂セルモノハ、場所一定セズシテ來ル故多クハ鑑別シ得ルモノナリ。

墮胎死體ノ生殖器ヲ檢スル場合ハ、之ヲ大腸膀胱等ト共ニ一連ニ或ルベク骨盤壁ニ沿フテ剔出シ、ソノ際決シテ暴力ヲ用ユベカラズ、而シテ後光線ノ都合ヨキ所ニテ檢スベシ、余ノ實見セル墮胎ノ一例ハ、通經劑ヲ用ヒテ成効セシモノニシテ、姙婦ハ窃ニ通經劑ノ大量ヲ用ヒテ胎兒ヲ娩産シ、間モナクソノ中毒ニ依リテ母體自己モ死亡セリ、剖檢スレバ肝腎ニハ脂肪變性ヲ來シ、胃腸内ニハ黑色ノ軟泥樣物多量アリ、肝腎ニ甚シキ脂肪變狀ヲ來シ、之ヲ化學的ニ檢スレバ、蘆薈、硫酸基及鐵ノ多量ヲ發見セリ、依ツテ、彼女ハ通經劑ヲ用ヒテ墮胎ニハ成功セルモ、ソノ中毒ニ依リテ死亡セルモノナルコトヲ知レリ。通常通經劑トシテ販賣セルモノニハ、ソノ多量ヲ服用スル時ハ往々墮胎スルコトアリ、注意セザルベカラズ。

通經劑ト墮胎

九、生殖機能ニ關スル檢査

民法八百二十三條　妻ガ婚姻中ニ懐胎シタル子ハ夫ノ子ト推定ス
婚姻成立ノ日ヨリ二百日後又ハ婚姻ノ解消若クハ取消ノ日ヨリ三百日内ニ生レタル子ハ婚姻中ニ懐胎シタルモノト推定ス
第八百二十一條　第七百六十七條第一項ノ規定ニ違反シテ再婚ヲ爲シタル女ガ分娩シタル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ其子ノ父ヲ定ムルコト能ハザルトキハ裁判所之ヲ定ム
第八百二十二條　第八百二十條ノ場合ニ於テ夫ノ子ノ嫡出ナルコトヲ否認スルコトヲ得

生殖機能ニ關スル檢査ハ離婚問題、初生兒認知、相續問題及猥褻姦淫ニ關スル罪ニ對シ必要ナルコトアリ。

イ、交接機能

交接機能

(甲)男子ノ交接機能ハ外陰具ノ發育、ソノ勃起中樞及ソノ傳導路ノ正常ナルヤ否ヤニ關ス、生理學上ノ交接遂行ハ、陰莖ノ腟内挿入ト射精トニヨリテ成立スルモ、法律的ニハ單ニ陰莖ノ腟内挿入ノミヲ以テ交接ヲ遂行シタリト見做セリ。陰莖發育ハ一見シテ正常ナルヤ否ヤヲ知ルコトヲ得ベク、モシ陰莖ヲ手ニテ摩擦シ輕打ナドシテ勃起シ來ラザレバ、中樞或ハ傳導經路ニ障害ナキヤノ疑ヲ起スベシ、精神的障害ニ依リテ交接不能トナルハ、驚愕、自己ノ好マヌ婦人、精神的反射制止等ニ依リ、機械的ニ交接不能トナルハ陰莖ノ畸形、腫脹、瘢着、包皮、象皮病、尿道ノ上下裂、へるにあアルカ或ハ陰莖ガ全ク缺如スルカ、或ハ小サキ時ニ見ルコトナリ。病氣ニテハ重病、あるこほる中毒、神經衰弱、脊髄勞等ニテ交接不能來ル、是等男子ノ交接不能ガ永久的ノモノナルヤ、將タ一時性ノモノナルヤハ、ソノ原因ニヨリテ斷定スベシ。尙男子ハ交接不能アリトモ、必ズシモ授胎不能ニ在ラズ、之レ婦人ヲ懐胎セシムルニハ、只腟口ニ健康ナル精蟲ヲ射出スレバ夫レニテ充分ナレバナリ。

女子ノ交接不能

(乙)女子ノ交接不能ハ腟ノ有無ニ關ス、併シ腟ナキ婦人ガ往々交接ニ尿道ヲ用ユルコトアリ、腟ハ頗ル狹

張シ易キモノナレバ、大抵ノ陰莖ハ之ニ適合スルモノナレドモ、腟ノ廣サト陰莖ノ大サガ餘リ差アル時ハ、腟ニ損傷ヲ來シ交接不能トナルコトアリ。

其他腟ハ存在スルモ、陰唇處女膜ガ瘢着スルニ依リテ交接不能トナルコトアリ、子宮下垂及腟壁轉ハ大抵原位ニ復シ交接ハ營ムモノナリ。

わぎにすむす

婦人ニ於テ精神的ニ交接不能トナルハ、わぎにすむすニシテ、之ハ神經的原因ノ下ニ、腟口、大腿ノ諸筋等ノ强キ痙攣ニ依リテ交接不能トナルモノニシテ、破瓜ノ際或ハ交接中ニ於ケル婦人ノ驚愕等之レガ原因トナルコト多シ。

(ロ)受胎及授胎不能

授胎不能

甲、授胎不能

授胎不能ハ睾丸ガ健康ナル精蟲ヲ分泌セザルカ、尿道ニ病的變化アル時ニ來ルモノニシテ、兩睾丸ガ全ク缺如スル時ハ絶對的授胎不能ナリ、但シ一方ノ睾丸アル時ハ授胎ニ關シテハ何等ノ差支ヘナシ、又實際睾丸ノナキモノト、ソガ腹腔中ニ潜在スルモノトハ誤診スベカラズ、要之、精液中ニ健康ナル精蟲存在スレバ、授胎能力アルハ確カナリ、精蟲ノ檢査法ハ已ニ述ベタルガ如シ、男子ガ健全ナル精蟲ヲ分泌スルハ、十四歳ヨリ最高年ニ達スル迄ニシテ、假令、精液ヲ分泌シタレバトテ精蟲ノ有無健否ヲ檢セザレバ、授胎能力ノ有無ヲ決定スベカラズ、何トナレバ攝護腺ノ分泌液ノミニテモ、充分射精スルコトヲ得レバナリ。

睾丸ヲ犯シテ授胎不能ヲ來スモノハ、睾丸萎縮、結核、梅毒、酒精及もるひね中毒等ニシテ、尿道ヲ犯シテ同狀態トナルニ淋毒、尿道上下裂、癇癪等ナリ。

(乙)姙娠不能(受胎不能)

姙娠不能

女子ガ受胎スルヲ得ルニ至ルハ月經ノ來ルヲ以テ確兆トス、コハ十三乃至十五歳ヨリ(平均十四歳八ケ月)始マリ、四十乃至五十年ニテ終ル、但シ數多ノ例外アルハ言フマデモナキコトナリ。月經ハ年齢、營養、氣候等ニ依リテソノ發來、出血量、閉止等異ナリ、月經血ハ暗赤色ニシテ疑固シ難ク、鏡檢スレバ血球、粘液、子宮及腟ノ上皮細胞アリ、死體ニ於テ月經期ナリシ徴標ハ、卵巣ハ大トナリ、ぐらーふ氏胞腫大シ、黄體ヲ見ルコトアリ、子宮モ亦腫大シ、粘膜ニ肥厚シ、血量多クナリ、所々ニ血液凝固物ヲ附着シ腺ハ退縮シ居ル故、子宮粘膜ハ恰モ篩ノ如ク見ユ、上皮細胞ハ所々剝脱シ、毛細血管ハ破裂シ血液ヲ漏シ居ル故鑑別シ得ベシ。

ソノ他姙娠不能ノ起ルハ卵巣缺如スルカ、或ハ卵巣ハ存在スルモ病的ニ破壞サル、カ卵ヲ輸出スルコト能ハザル狀態ニ在ルカ、喇叭管ノ疾患ニヨリテ受胎ヲ障害スルカ、子宮ニ卵ヲ宿セシムル能ハザル際ナリ例ヘバ卵巣囊腫、喇叭管炎、子宮ノ變位及子宮内膜炎等ニ於テ姙娠不能ナルガ如キ之レナリ。交接不能ナレバトテ必ズシモ授胎若クハ受胎不能ナラズ、何トナレバ陰門ノ近傍ニ健康ナル精蟲ヲ射出スレバ已ニ姙娠スルコトヲ得ル場合アレバナリ。

(八)産　出　不　能

産出不能

假令交接及受胎及姙娠能力供ハレリト雖、産出不能ナルコトアリ、例ヘバ子宮外姙娠、狹骨盤、重病者産道ニ大ナル瘢痕アルモノ等之レナリ。

欠

ソノ他婦人ノ體格、健否、精神狀態及身體ニ於ケル他ノ損傷ノ有無等ヲモ注意シテ檢査スベシ。

乙、加害者檢査

第一ニ精神ノ健否ヲ檢シ、次デ體格、營養、花柳病及損傷ノ有無等ヲ診定スベシ。

中、交接ハ犯法的ナリシヤ否ヤ

犯法的交接

暴行ニ依リ交接ヲ遂行セシ時ハ、加害者及被害者ノ身體ニ抵抗ノ痕跡アリ。例ヘバ婦人ノ大腰內面ニ爪或ハ手指ニ依レル表皮剝脫及溢血等アリ、ソノ他加害者及被害者ノ身體所々ニ種々ノ損傷ヲ來シ居ルモノナリ。一般ニ婦人ガ暴行脅迫ニヨリ强姦サレタリト云フ場合、抵抗ノ痕跡ナキニ於テハ、詐僞ノ申立ニ非ラザルヤヲ餘程注意シテ檢スベシ。次ニ加害者被害者ノ身體發育及健否ノ狀體ニモ注意スベシ、通常發育中等健全ナル一女子ヲ、略同體格ノ一男子ニテハ、到底强姦スルコト能ハザルモノナリト云フ。但シ婦人ガ防禦不便ノ位置ニ在ルカ、又ハ體力ニ大ナル差異アル時ハ、往々ソノ目的ヲ達スルコトヲ得、多クノ男ガ一人ノ女ヲ强姦シ得ルハ明ナル所ナルガ、三人ノ男ニテ一女子ヲ强姦シ能ハザリシ報告アリ。姦淫ノ事ニ關シテ婦人ハ往々詐僞ノ申立ヲナスニ依リテ注意スル必要アリ、余ノ實見例ニ依レバ、九歲ノ一小女ヲ一青年ガ强姦セリトノ訴ヘニ依リ、某醫師之ヲ鑑定シテ處女膜破裂セルヲ以テ强姦セラレタルモノナリト診斷セシモノヲ再鑑定ヲナセルコトアリ。ソノ少女ヲ檢スルニ處女膜完全ニ存シ、ソノ他種々ノ檢査ヲ行ヘルモ强姦セラタレリシ徵標ナカリシガ、後ニ至リテ該女ノ母ガ、或目的ノ爲メニ該青年ニ對シ誣告セルモノナルコト明カトナレリ。此ノ如キ誤リヲ來ス事アレバ、處女膜ヲ檢スル如キ場合ニハ必ズ目光ノ充分ナル場所ニテ行フベキモノトス。

欠

交接忍容

次ニ婦人自身、或ハ子供等ヲ目的トシテ脅迫ヲ加ヘ、不止得、婦人ニ交接ヲ忍容セシムルコトアリ、是又強姦ヲ以テ論ゼラル、モ、之ニ就テハ醫學範圍外ノ事情ニ依リテ決定スベキモノトス。人事不省、或ハ麻痺ニ陷ラシメ、或ハソガ陷リ居ルニ乘ジテ行ヒタル交接モ亦同樣ニ強姦ヲ以テ論ゼラル、モ、婦人生殖器ニ就テハ、前述以外特記スベキコトナシ。茲ニ注意スベキハ麻醉ニカ、リシ婦人ニ往々交接妄覺ノ存在スルコトアリ、故ニ醫師ガ麻醉ヲ行フ場合ニハ、必ズ立會人ヲ置カザレバ後日累ヲ招クコトアリ。ソノ他

應醉時ノ交接

睡眠中ノ交接

催眠術ニカ、リシモノ、精神病者、白痴等ニ對スル交接モ強姦ヲ以テ論ゼラル。

深キ睡眠ニ陷レル婦人ニ對シ、婦人ノ全ク知ラヌ間ニ交接ヲ行ヒ、又ハ夫ト誤認セシメテ交接ヲ遂行スルコトハ往々成功スルモノニシテ、是亦強姦ヲ以テ罰セラル。

下、強姦ノ結果

強姦ノ結果トシテハ婦人ヲ死ニ致シ、或ハ精神的ニ致命傷ヲ與ヘ、損傷ヲ來シ、懷胎セシメ、又ハ花柳病ヲ傳染セシムルコトアリ。

強姦ノ結果

鑑定書

○○市○○區○○町○○番戸○○○○長女

平○ふ○

十一歳

右者明治○○○年○月○○日午前○○時頃○○府○○郡○○村山林中ニ於テ發見シ掛リ官臨場檢屍セルニ他殺ノ疑アルヲ以テ○○地方裁判所檢事判事○○○○ハ上記屍體發見ノ場所ニ於テ右ふ○ノ死體ヲ檢視シ左記ノ事項

一、創傷ノ部位、程度及創傷ノ生ゼシメタル方法并ニ其方法中自働健働ノ別アリヤ

二、本屍ノ陰門其他ノ檢査又別ニ付與シタル第五號證ノ鑑巻ニ依リ强姦セラレタル跡アリヤ又本屍ガ生前抗拒シタリト認ムベキ點アリヤ

三、死因

ヲ鑑定スベキ旨ヲ子ニ命令セリ依テ同日午後三時三十分ヨリ同所ニ於テ同判事、檢事○○○○及裁判所書記○○○○立會ノ上檢屍セシニソノ所見左ノ如シ

第一　外表檢査

一、女、兒屍、身體ノ表面ニハ少許ノ塵埃（牛ノ朽糞セル木葉等）ヲ附着シ皮色ハ前面ニ於テハ蒼白ニシテ背面ハ淡紫色ヲ帶ブト雖特ニ濃色ノ部ナク禁錮中等死體强直ハ頑嚼筋及四肢ノ諸關節ニ强ク存ス

二、頭皮ニ損傷ナク毛髮ニハ蝨卵ヲ存ス顏面ノ左半ハ右半ニ比シ淡暗紫色ヲ呈ス左右兩眼瞼閉鎖シ左上眼瞼ハ暗紫赤色ニシテ著シク腫起シ結膜下ニ粟粒大ノ溢血點數個ヲ存ス左下眼瞼特ニソノ內半ハ淡暗赤色ヲ呈シ此部ノ結膜下ニハ大豆大ノ出血トソノ周圍ニ數個ノ溢血點アリ右眼結膜ハ淡赤色ニシテ溢血點ノ有セズ角膜ハ左右共透明ニシテ瞳孔ノ大サ中等ナリ鼻梁モ亦淡紫色ヲ呈ス左外背ヨリ外方約一・〇糎ノ所ニ米粒大淡紅色ノ表皮剝脫一個アリ夫レヨリ下方二・〇糎ノ所ニモ同狀ノ皮傷一個アリ鼻孔ニハ白色ノ泡沫液檸多量存在ス口唇緣ハ一般ニ淡紫色ヲ呈シ左半部ハ檸濃ナリ上唇緣ノ左三分ノ一ノ部ニハ大豆大下唇ノ對側ニハ小米粒大ノ深サ漸ク結膜下組織ニ達スル淺ト實質缺損アリ此部ニハ暗色ノ凝血少許ヲ附着ス又下唇緣ノ右半ニ亘リ左右徑二・五糎上下徑約〇・五糎ノ同狀傷アリ創緣及創面ハ何レモ不正凹凸ナリ右各部ノ切開スルニ皮下組織ハ一般ニ淡紅色ヲ呈スト雖組織間出血ヲ認メズ口腔齒列前ニハ身體前面ト同樣ノ塵埃少許ヲ存シ舌ハ少シク齒間ニ挿入ス

三、頭部ニハ二重ニナシタル淺黃色ノ布片ヲ以テ絡縛トナシ强ク絞壓シ結節ハ右側前頭部ノ下部ニ存シ其左端ハ上左方ニ、右端ハ右下方ニ向フ此布片ヲ除去シ頭部ノ細檢スルニ布片ノ徑路ハ約二・〇糎ノ幅ニ於テ一般ニ徐々陷凹シ天咽喉頭ノ高サニ存シテ水平ニ圍繞シ（索溝）前頭部ニ於テ最モ著シ此部ノ皮膚ハ縮褶狀ニ縮縮シ且正中線ノ左右殊ニソノ右方ニ接シ粟粒大乃至大米粒大ノ表皮剝脫數個散在シ右側耳前部紅頭熊部ノ濃內ニモ稀薄大不正形ノ暗紫色斑一個アリ又上記索溝ノ下緣ニ接シ右鎖骨內端ノ上方ニ約拇指頭大ノ淡褐色斑一個アリ後部ノ溝中ニハ變色部及表皮剝脫等ヲ認メズ

四、胸腹部ノ皮膚ニ損傷ナク腹部稍膨脹ス脊面ニモ損傷ナシ

五、大陰唇ハ小陰唇及陰核ヲ全ク掩ヒ會陰部ニ少許ノ流動血ヲ附著シ大陰唇ヲ左右ニ開キ前庭部ヲ檢スルニ小陰唇ハ淡紅色ニシテ內緣ノ下三分ノ一少シク挫滅ノ狀ヲ呈シ處女膜及其周圍ハ暗赤色ニシテ明ニ組織間出血アリ且處女膜ノ右下部ニハ約三糎長ノ裂傷アリ會陰ハ其正中ニ於テ陰口ノ後壁ヨリ後方ニ向テ破裂シ少シク哆開シ破裂部ノ前後徑約一・五糎創底ハ皮下組織ニ達シ創緣創面頗ル不正ニシテ且暗色ノ流動血少許ヲ遍ラス

六、肛門少シク哆開シ周圍ニハ黃色ノ軟便ヲ附着ス

七、左上肢上膊ニハ損傷ナク前膊ノ內側ニシテ肘關節ヨリ二橫指徑下部ニ米粒大ノ赤色斑二個アリ此部ヲ切開スルニ真皮ハ淡赤色ノ呈スト雖皮下組織間ニハ出血ヲ見ズ手皮ハ一般ニ紫變ヲ呈シ手掌ハ白色ニシテ少許ノ血液附着ス左示指第一節背面ノ內側ニ米粒大ノ皮創一個アリ創底ハ上下方ニ向ヒ壺狀ニ指入シ深サ約・〇五糎此部ヲ切開スルニ輕度ノ皮下出血アリ又同指第一指骨間關節背面ノ外緣ニ米粒大ノ表皮剝脫二個アリ此部ヲ切開スルニ組織間出血ナシ

八、左右下肢ニハ損傷ナク足皮ノ性狀ハ手皮ニ同シ

右上膊及前膊ニハ損傷ナシ中指第一節ノ背面ニ於テ米粒大ノ表皮剝脫一個アリ又小指第一節背面ニ深サ漸ク皮下組織ニ達スル靈豆大ノ質實缺損一個アリ底面頗ル凹凸ヲ呈シ此部ヲ切開スルニ組織間出血ヲ認メズ

第二、內景檢査

胸腹腔剖檢

九、頸胸腹部ノ皮膚ヲ正中ニ從ヒ切開スルニ脂肪層貝ク發育シ筋肉ノ發育中等ナリ頸皮ヲ筋肉ヨリ剝離スルニ右鎖骨內端上方ノ皮下組織間ニ鶏豆大ノ輕キ出血アリ其他ノ皮下組織ニハ毫モ出血ヲ認メズ切斷セル靜脈ヨリハ暗色ノ流動血多量ニ流出ス

十、大網膜脂肪量中等、腹腔臟器ハ常ノ位置ニ存シ腸管ハ一般ニ淡紅色ニシテ癒着ナク腹膜滑澤ニシテ腹腔內ニハ異常ノ內容ヲ存セズ橫隔膜ノ高サハ右第四肋間、左第五肋骨ニ達ス

其一、頸胸臟器

十一、胸腔ヲ開檢スルニ左肺ノ前緣ハ見ルコトヲ得ズ右肺ノ前緣ハ僅ニ露出ス肋膜ニ癒着ナク胸腔內ニハ異常ノ內容ヲ存セズ

十二、心囊內ニハ豌豆色ノ透明液約一〇瓦ノ存シ內面ハ一般ニ滑澤ナリ心臟ノ大サハ本屍ノ手拳ニ略相等シク表面ニハ脂肪質ハ乏小米粒大ノ溢血點數個散在ス左心壁ク右心室ハ暗色ノ流動血多量ニ存在シ左心內ニモ同狀血少量ヲ存ス房室間孔ニハ一指ヲ通ズベシ心臟剝出ノ際ニモ附屬ノ血管ヨリ同上血多量ニ漏出ス內膜滑澤筋色常ノ如シ瓣膜何レモ柔軟ナリ

十三、左肺ノ表面ハ帶紅紫色ニシテ滑澤微細ナル溢血點數個存在ス各部呼吸アリ斷面ハ暗赤色ヲ呈シ輕壓スルニ血管ノ斷端ヨリ多量ノ暗色流動血ヲ漏ス氣管枝內ニハ異常ノ內容ナク粘膜淡紅色ナリ右肺表面ノ性狀ハ葉間ニ溢血點數多散在スルノ外左肺ニ同ジク斷面ノ性狀モ亦左肺ニ同ジ

十四、頸部ノ筋肉ニハ損傷出血ナク左右總頸動脈近部ノ組織ヲ細檢スルニ右總頸動脈ノ管壁內ニハ甲狀腺ノ高サニ於テ鶏豆大ノ溢血アリ左右總頸動脈ノ內膜ニハ損傷ナシ食道內ニハ異常ノ內容ナク粘膜蒼白ナリ喉頭粘膜ハ淡紫色ヲ呈ス甲狀軟骨右上角部ノ筋肉間ニハ小豆大ノ組織間出血アリ其他舌骨甲狀軟骨翼狀軟骨ニハ損傷ヲ認メズ頭椎側面ノ結締組織間ニハ喉頭ノ高サニ於テ左右徑約一〇糎上下徑約三糎ノ輕ト出血アリ

其二、腹腔臟器

十五、脾臟大サ及硬サ尋常、表面帶褐淡紫色ヲ呈シ斷面ノ色柔、脾髓脾材ノ別明ニシテまるびぴー氏小體著明ナリ壓ハルモ斷面ニ液ノ漏出ヲ認メズ

十六、胃中ニハ多量ノ半ば消化セル食物ヲ存ス（飯雜魚豆等）粘膜ハ淡紅ニシテ記スベキノ異常ヲ呈セズ

十七、橫間膜脂肪量中等、血管內ニハ少量ノ血液ヲ存ス小腸上部ノ內容ハ帶灰淡黃色ノ粘稠物ニシテ二、三條ノ蛔虫ヲ混ズ下部ニ到ルニ從ヒ漸次黃色ノ度ヲ增シ粘膜ハ一般ニ淡紅ニシテ孤腺稍著明、大腸內ニハ灰黃色ノ軟便多量ニ存在シ粘膜ニハ記スベキ異常ヲ存セズ

十八、肝臟大サ及硬サ尋常ニシテ表面紫褐色ヲ呈シ斷面帶赤淡褐色ニシテ潤濁ナク血量多ク小葉ノ別明ナリ膽囊內ニハ稀薄ノ膽汁少許ヲ存シ粘膜ニハ記スベキノ異常ナシ

十九、左腎大サ尋常ニ莢膜稍ヤ剝離シ難ク表面帶紫褐色ヲ呈シ斷面少シク潤濁シ血量中等、右腎ハソノ色稍濃ナルノ他左腎ニ同ジ

二十、膀胱內ニハ約五〇瓦ノ少シク潤濁セル尿ヲ存シ粘膜蒼白

二十一、骨盤腔ノ諸臟器ヲ一聯ニ剝出スルニ耻骨縫際ノ前方ニ二大豆大ノ輕キ筋肉間出血アリ腔腔ニハ淡汚赤色ノ結綿物質多量ニ存在シ粘膜ハ潮紅ストッ難裂傷出血等ヲ認メズ子宮、輸卵管、卵巢等ニハ記スベキノ異常ナシ直腸ノ前壁ニハ粘膜江潤ニハ

出血ソノ他ノ損傷ナシ

附記　綾卷ノ臀部ニ適スル部ニハ手掌大ノ廣サニ亘リ灰白色純屑ノ汚物ヲ附著ス此汚物及腟腔ノ內容（記錄第二十一項）ヲ顯微鏡下ニ細檢セルニ精虫ヲ發見セズ

說　明

一、本屍ノ死因ハ絞頸ニ基ケル窒息ニ在リ即チ血液ノ暗色流動性ナルコト（記錄第九、十二、十三項）心臟殊ニ右心內肺臟肝臟等ノ血量ニ富ムコト（記錄第十二、十三項）心臟及心臟ノ表面ニ數多ノ溢血點散在スルコト（記錄第十二、十三項）等ハ何レモ窒息死ノ徵標ナリ面シテ此窒息ガ頸部ノ絞縊ニ基ケルコトハ本屍ノ頸部ニ布片ノ強ク緊絡シアリシコト其直下ノ皮膚ハ溝狀ニ陷凹シ前頸部ニ於テハ縊痕狀ニ皺縮シ且ツ數個ノ表面剝脫アルコト右鎖骨內端ノ皮下組織甲狀軟骨右上角附近ノ筋肉間、右總頸動脈管鞘內并頭椎前面ノ結締織間ニ溢血アルコト（記錄第三、九、十四項）及コノ他ニハ窒息ヲ由來スベキ所見巻モコレナキトニ依リ充分ニ推知スルコトヲ得

二、（イ）左右小陰唇內緣ノ下三分ノ一ハ稍挫滅ノ狀ヲ呈シ處女膜ノ右下部ニハ三・〇粍長ノ裂傷アリ處女膜及其周圍ハ暗赤色ニシテ明ニ組織間出血アリ且會陰ニハ一・五糎長ノ深ト裂創アルコト（記錄第五項）耻骨縫際前ノ筋肉間ニ出血アリ腟腔粘膜ノ潮紅（記錄第二十一項）スルコト等ヲ綜合スル時ハ陰唇若クハ之ニ類大ノ鈍體ヲ暴力ヲ以テ示〇ノ腟內ニ挿入セルコトハ疑ノ容レズト雖コノ鈍體ガ果シテ陰唇ナリシヤ否ヤハ腟內容及ビ疑卷ノ汚痕中ニ精虫ヲ檢出セザルガ故ニコレヲ鑑別シ難シ但シ加害者ノ生殖器ニ異常アリテ精虫ノ缺乏シ若クハ輸精管ノ閉塞スル者ニ於テハ假令陰唇ヲ女子ノ腟內ニ挿入シ此處ニ交接ヲ遂グルモ其漏液中ニハ精虫ヲ存セズ從テ腟內容中并ニ上記ノ漏液ヨリ生ゼル痕跡中ニ精虫ノ存在セザルコトアリト雖コハ女子側ノ檢査ノミニテハコレヲ證明スルコト能ハズ又一旦陰唇ヲ腟內ニ挿入セルモ腟外ニ於テ射精セル場合ニ於テハ生殖器ノ官能ニハ異常ナキモ腟內容中ニ精虫ノ缺乏スルコト勿論ナリトス

（ロ）左右上肢ノ損傷（記錄第七項）ハふ〇ガ前記ノ暴行ヲ抗拒セントスルヲ加害者ガ其手ヲ押ヘ付ケントセル際周圍ノ堅體ニ觸レテ生ジタルモノナリト推測ス

三、頸部（第一項）及陰部（第二項（イ））ノ他鼻襞左眼瞼左頰部口唇左右上肢ニ存スル損傷ノ部位ハ記錄第二及七項ニ記載セルガ如シ此ノ各傷ハ何レモ僅微ニシテ致死ノ原因トナルベキ程ノモノニアラズ而シテ其內數個ヲ除ク他ハ生活反應著明ナラザルヨリ推考スル時ハ一分ハふ〇ガ瀕死ノ狀態ニ在リシ時若クハ死後ニ至リ生ジタルモノナラン

右記ノ各傷ハ何レモ鈍器ノ作用ニ依リ生ジタルモノナリ而シテ眼瞼鼻襞、口唇等ニ存スルモノハ頸部絞壓ノ餘力及ニ及ビタルモノナラン又左右上肢ノ損傷ニ就テハ前項（ロ）ニ說明セルガ如シ

鑑　定

前記說明セル如キ理由ニ依リコレヲ鑑定スルコト左ノ如シ

一、本屍ノ死因ハ頸部ノ絞壓ニ基ケル窒息ニ在リ（命令第三項ノ答）

二、本人ふ〇ノ腟內ニ暴力ヲ以テ鈍器ヲ挿入セルノ直接充分ニ存スト雖コノ鈍體ガ陰唇ナリシヤ否ハ鑑別シ難シ（命令第二項前半ノ答）

三、頸部及陰部ノ他顏面及左右上肢ニ存スル損傷ノ部位ハ記錄第

二及七項ニ記スルガ如シコノ各傷ハ何レモ鈍體ノ作用ニ依リテ生ジ輕度ニシテ致死ノ原因トナル程ノモノニ非ラズ而シテ此内顏面ノモノハ絞頸ノ餘力此所ニ及ビ上肢ノモノハ抗拒動作ノ爲メニ受傷セルモノナリト推測ス（命令第一項及第二項ノ後半ノ答）

此鑑定日數ハ明治〇〇〇年〇月〇日ヨリ同年同月〇〇日ニ至ル十五日間トス

明治〇〇〇年〇月〇日

宿　所

鑑定人　岡本　樓　松座

鑑　定　書

明治〇〇〇年〇月〇〇日〇〇地方裁判所豫審判事〇〇〇〇〇〇ハ〇〇府〇〇〇警察署ニ於テ吹〇佐〇〇強姦致傷及殺人被告事件ニ付被告吹〇佐〇〇ノ身體ヲ檢査シ左ノ事項

一、本年〇月〇〇日頃ニ於テ十一歳位ノ幼女ニ對シ暴力ヲ以テ姦淫ヲ逢行シタリト認ムベキ形跡アリヤ又其際相手ノ抗拒ニ遭ヒタリト認ムベキ形跡アリヤ

ヲ鑑定ス可キ旨ヲ予ニ命ゼラレタリ依テ同日午後八時三十分同警察署ニ又翌日午前十時三十分〇〇地方裁判所豫審廷ニ於テ同判事檢事〇〇〇〇及裁判所書記〇〇〇〇〇立會ノ上右佐〇〇ノ檢診セルニツノ所見左ノ如シ

身長ハ年齡ニ比シ大ナル方ニシテ體格榮養共ニ佳良ナリ顏付ハ實齡ヨリモ年嵩リテ見ユ右内踝ノ前方二〇糎ノ所ニ約一・五糎長線狀横走ノ結痂一條アリ陰莖ハ常大ニシテ其下面ニハ擊帶ニ接シ小豆大ノ隅ニ淡暗赤色ヲ呈スル部アリト雖外皮ノ剝脫腫起等ヲ認メズコノ他身體ノ各部ヲ精査スルニ表皮剝脫皮下出血等外力關來ノ結果ト認ムベキモノ毫モ存在セズ

左右手指ノ爪垢ヲ採集シコレニ新製ノ瘧藥木丁幾古キてれびん油酸ヲ加ヘ加溫蒸發セシメタルニへみん結晶ヲ檢出セズ以上ノ所見ニ依レバ佐太郎ノ身體ニハ彼ガ本年九月〇〇日頃ニ於テ十一歳位ノ幼女ニ對シ暴力ヲ以テ姦淫ヲ逢行シタリト認ムベキ形跡ナク又其際相手方ノ抗拒ニ遭ヒタリト認ムベキ形跡ナシ

此鑑定ハ明治〇〇〇年〇月〇〇日ヨリ同年同月〇〇日ニ至ル十六日間トス

明治〇〇年〇月〇〇日

宿　所

鑑定人　岡本　樓　松座

十、猥褻行爲ニ關スル檢査

第百七十四條　公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第百七十五條　猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物ヲ頒布若クハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同ジ

第百七十六條　十三歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ六月以上七年以下ノ懲役ニ處ス十三歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

猥褻行爲

公然猥褻行爲ヲナシタルモノハ刑法上罰セラル、日本ニ於テハ獸姦等未ダ刑法ノ問フ所ニ在ラザルモ、獨逸等ニテハ假令之ヲ秘密ニ行フトモ、發見セラル、ニ於テハ刑法上論罪セラル、一般ニ公然猥褻ノ行爲ヲナスモノハ、精神發育ノ不充分ナルモノ、痴愚、白痴或ハ精神病者等ニ多ク、色慾ノ倒錯モ多クハ精神ノ不完全ナルモノニ見ルトコロナリ。

イ、手淫ヲナセル徴標

手淫

男兒ニ於テハ其年齡ニ比シ外陰部ニ色素沈着多ク、發毛密、陰莖ハ大ニシテ、龜頭圓ク弛緩シ、僅ニ之ニ觸ルレバ直ニ勃起スル等ヲ以テ手淫ヲナセル徴標トナセドモ、常ニ必ズシモ然ラズ。女兒ニ於テハ小陰唇長ク、陰核大ニシテ赤色トナリ、刺戟サレ易ク、處女膜ハ擴張シ易ク、年齡ニ比シ外陰部ノ發毛及色素沈着多キ時ハ手淫ヲナセル疑アリ。

ロ、陰部曝露症

陰部曝露症

コハ異性ノ前ニ陰部ヲ曝露シ、或ハ手淫ヲ行フモノニシテ、此際ハヨクソノ陰部ヲ檢シテ性ヲ定メ、且ソノ精神狀態ヲ檢査スベシ、本病ハ變質者、神經衰弱者、ひすてり、癲癇、あるこはる中毒者、老耄狂等ニヨク見ルトコロナリ。

ハ、陰部玩弄症及大腿交接

陰部玩弄症
大腿交接

コハ他人ノ陰部ヲ弄シ、或ハ大腿ノ間ニ射精スルモノニシテ、ソノ部ニ於ケル小ナル損傷、或ハ精液ノ存在等ヲ檢シテ、診定スベキモノトス。

ニ、擦淫及鶏姦（肛門交接）

擦淫

婦人ニシテ擦淫ヲ行フモノニハ別ニ客觀的所見ナキモ、多クハ男性ノ如キ體格ヲ有シ、且外見ヲ有スルモノナリ。

鷄姦

鷄姦トハ腟ノ代リニ肛門ヲ用イテ交接スルモノニシテ、往々精神發育ノ少キモノ、或ハ缺陷アルモノニ行ハレ、被姦者ハ女子ノ如キ體格外見ヲ有シ、女子ノ如キ習慣ヲ好ミ、又化粧ニ凝ル等ノ事アリ。常習被姦者ノ肛門ノ括約筋ハ弛緩シ、往々漏斗狀トナリ、且直腸ノ深部ニ裂傷或ハ花柳病、炎症等ヲ有シ、時トシテ其內ニ精液ヲ發見スルコトアリ。常習姦者ハ犬ノ陰莖形ノ陰莖ヲ有スト云フ。

獸姦

ホ、獸姦(獸類トノ交接)

コハ姦者ノ外陰部ヨリ動物ノ毛、或ハ爪痕等ヲ發見シ、被姦動物ノ生殖器ヨリ人種ノ精蟲ヲ發見スルコト等ニヨリ診定ス。

さでー症

へ、さでー症(對手ヲ殺傷シテ性的快美ヲ感ズルモノ)

被姦者ノ陰部等ニ意外ノ損傷アル場合ハさでー症ノ疑ヲ起シ、姦者ニ就テハソノ精神狀態ヲ檢スベシ。但シ精神的他ノ方面ニ何等缺陷ナク、さでー症ノミヲ有スルモノアリ。

ソノ他色慾異常者トシテハ、まそひすむす(對手ニ苦メラレテ性的快美ヲ味フモノ)、ふぇちいすむす(異性ノ所持品ヲ窃盗シテ性的快美ヲ感ズルモノ)、血族相姦、屍姦(死體ヲ姦スルモノ)、像姦(紀念碑等ヲ姦スルモノ)等アレドモ此等ノ異常者ニハ、之ニ對スル客觀的所見ハ多クハ見當ラザルモノニシテ、單ニ精神狀態ニ注意スベシ。

ト、鑑定實例

さでー症鑑定實例

檢案書

○○縣○○郡○○○村大字○○○○第○○番屋敷
平民人力車夫M妹　K、　三十五年

右者精神病(色情狂ナリトノ噂)ニ罹リ居リシガ大正○年六月三日午前七時三十分頃○○縣○○郡○○○村大字○○小字○○○ノ田中ニ在ル小溝ノ內ニ(コノ溝ハ人若シソノ內ニ陷レバ身動キモ出來ザル位ノ深サ及幅ヲ有ス)死亡シ居ルヲ發見セルモノニシテ試溝及周圍ニハ血液多量ニ存在セリト云フ最初檢屍セシ醫師I氏ノ談ニ依レバ「R」ノ死體ハ前記溝內ニ指入シ仰臥位ニ在リ四肢ハ血液ニテ汚染シ兩下肢ハ前方ニ屈シ陰門內ニハ古キ竹棒ヲ挿入シソノ末端約一〇・〇仙迷計リ外部ニ突出シ居ルヲ以テ試ニ之ヲ凍キ拔カントセルモ强キ抵抗ヲ感ジ強イテ之ヲ引キ出シタルニソノ全長ハ約五〇・〇仙迷體內ニ存セル部ハ約四〇・〇仙迷長ニシテ此部ニハ血液ヲ附着セリト云フ

翌四日O地方裁判所檢事Mハ右「R」ノ屍ヲ解剖シテ

一、創傷ノ有無
二、死因

ヲ檢案ス可キ旨ヲ予ニ命ゼリ依テ同日午前十一時乃至午後一時○○縣○○郡○○○村大字○○○○、○○○傳染病隔離所庭內ニ於テ同檢事及裁判所書記H立會ノ上之ヲ剖檢セルニソノ所見左ノ如シ

甲、解剖檢査記錄

第一　外表檢査

一、女屍、體格及營養中等、全身ニ泥土ヲ附着シ且多數ノ蟻走行ス皮色ハ顏面一般ニ蒼白ニシテ鼻骨部ハ微ニ淡綠色ヲ呈ス後面ハ淡紫色ナリ身體ノ所々ニ米粒大乃至鶏卵大不正形組織面ノ表皮缺損無數アリテ蒼白ノ眞皮ヲ露出シ切檢スルニ皮下組織ニ異常ナシ(蟻ノ咬傷)死體强直ハ足關節ニ於テノミ輕ク存ス

二、頭毛ハ約一〇・〇糎長ニシテ頭皮ニ損傷ナク左顳顬部ニ血液少許ヲ乾着ス顏面ニ損傷ナク前額部ハ微ニ淡紫色ヲ呈シ粟粒大淡黑色ノ斑多數散在ス(ソバカス)眼閉チ結膜蒼白、角膜輕濁ス瞳孔ハ左右同大ニシテ中等大ナリ唇及口腔齒列前ニハ異物ナク舌ハ齒列ノ後方ニ在リ耳殼ニハ前記(第一項)蟻咬傷多數アルノ他損傷ナク外聽道內異物ナシ

三、頸胸腹部ニモ前記(第一項)蟻咬傷ノ數多散在スルノ他損傷ナク陰毛粗ニシテ肛口ノ左下方約三糎ノ所ニ小指頭大、不正三角形ノ表皮剝脫一個アリテ暗赤色ヲ呈ス、切檢スルニ略同大ノ皮下溢血ヲ認ム大陰唇ニ損傷ナク左右小陰唇下半部ノ上皮ハ不正形ニ缺損シテ汚赤色ノ下層ヲ露出シ少許ノ凝血ヲ附着ス處女膜ハ僅ニ痕跡ヲ止ム肛門略開シ周圍ニ汚染ナシ(前檢屍醫ハ徑及ソノ周圍ヲ洗滌セリト云フ)

四、脊面ハ淡紫色ヲ呈シ蟻咬傷多數存在スルノ他(臀部特ニ多シ)

異常ナシ四肢ニハ薄層ノ乾血及泥土乾着スルヲ以テ之ヲ拭除シテ檢スルニ右足ノ中央ヲ細キ汚レタル布片ニテ堅縛シ兩足禮ノ中央ニ雀卵大淡黑色ノ繊維(柔毛)各一個アルノ他損傷ナシ

第二　內景檢査

上、胸腹腔剖檢

五、胸腹部ノ皮膚ヲ式ノ如クソノ正中ニ於テ切開スルニ皮下脂肪層及筋肉ノ發育中等、頭部ノ皮下ヲ細檢スルニ出血斑傷等ナク觸診スルニ骨折ヲ認メズ、腹腔ヲ開檢スルニ大網膜脂肪量中等血量少ク腸管ハ五斯ニ依リテ膨滿シソノ淺在部ハ蒼白ニシテ深在部ハ血液ヲ以テ汚染サル此等腸管ノ間ヲ縫ヒ一本ノ竹棒アリ

大網膜帷狀ニ掃マリシ狀態ヲ示ス

註、腹腔內ニ在リシ竹棒及ソノ製ケ目ニ掃マリタル大網膜ノ形狀

以、頭胸臟器

六、胸骨ヲ肋軟骨ト共ニ切除シテ胸腔ヲ開檢スルニ兩肺ノ前緣ハ殆ンド胸縱隔ノ全部ヲ掩ヒ下部ニ於テ僅ニ心囊ヲ露ル事ヲ得左肋膜ニ癒着ナク胸腔內ニハ暗赤色ノ流動血約五五・〇瓦ヲ容レ內ニ拇指頭大ノ壞疽多キ組織片一個(糜粘膜ガ竹棒ニチギリ取テレソレト共ニ此所ニ來リシモノカ)ヲ存ス右肺ハ强ク胸壁ト癒着シ强イチ之ヲ剝離スレバ肺實質ニ缺損ヲ生ズ

七、心囊內ニハ淡赤色液約一食匙アリ心臟大サ木綿ノ手拳ヨリ稍大、表面脂肪ニ富ミ淡褐色滑澤ニシテ前面ニ大豆大ノ斑斑二三個アリ筋質軟ナリ左右心室壁、房室間孔ハ左右共容易ニ二指ヲ通ズ大動脈口及肺動脈口ニ流水スルニソノ瓣膜能ク閉鎖ス內膜淡赤色ヲ呈シ滑澤ナリ腱糸束ニシテ肥厚セズ乳嘴狀ニ短縮、硬變等ノ異常ナシ

八、左肺表面帶灰淡褐色ニシテ所々ニ帶黑綠色ノ小豆大斑數多アリ(炭粉等沈着)按壓スルニ各部著ク空氣ヲ含ミ上葉ハ濕毛樣ニシテ指頭大ノ膨隆數多アリ壓スレバ空氣ノ肋膜下ニ移動スルヲ認ム(肺氣腫)斷面ノ色略表面ノ如シト雖稍濃ニシテ血量及液質ニ乏シ壓肺スレバ氣管枝ノ斷端ヨリ泡沫ヲ含メル汚赤色液血管ノ斷端ヨリ暗赤色ノ血液少許ヲ漏ラス氣管枝ノ粘膜汚赤色ヲ呈ス右肺ノ表面ニハ纖維樣物附着シ肋膜稍肥厚ス斷面ノ色左肺ニ比シ稍濃ナリソノ他ノ性狀ハ略左肺ニ同ジ

九、左側胸壁內面ノ肋膜下ニハ皺窩隊ニ近ク第六肋骨及第六肋間ニ跨レル鳩卵大暗赤色ノ溢血斑一個アリ(竹棒ノ上端衝突セシ所?)橫隔膜ノ左側肋骨部ノ略中央ニ於テ拇指ヲ通ズルニ足ル穿孔一個アリ孔緣甚シク不正ニシテ凹凸ヲ呈シ且孔內ニ組織ノ橋架セルモノアリ此穿孔ノ周圍ニハ上下面共ニ蠶卵大暗赤色ノ出血斑アリ切檢スルニ組織間ニ凝血ノ存在スルヲ認ム

十、咽頭、食道、喉頭、氣管及氣管枝內空虛、粘膜ハ通ジテ蒼白ナリ

呂、腹腔臟器

十一、脾臟大サ一〇・〇—五・五—二・〇糎程、管狀、表面帶淡淡褐色ニシテ皺襞ヲ呈シ斷面紫褐色血量ニ乏シク實質稍軟化ス

十二、左腎莢膜剝離シ易ク表面血色ニ著シク帶褐紫色ニシテ質軟、斷面ノ色略表面ノ如ク血量少ク輕濁シテ髓質、皮質ノ分界稍不明ノ腎盂粘膜蒼白ナリ右腎ノ性狀ハ略左腎ニ同ジ

十三、膀胱空虛ニシテ粘膜ハ汚血色ニ染ミソノ後壁ニハ二個ノ穿孔アリ一ハ略ソノ中央ニ位シ拇指頭大ニシテ他ハソノ後下部ニ在リテ三指ヲ通ズルニ足リ後揚(第十八項)稀空隧部ノ穿孔ト密接對向ス共ニ周緣著シク凹凸ヲ呈シ組織ノ搭架スル所アリ該孔ノ周圍ニハ明ニ組織間出血ヲ認ム(第十八項圖參照)

十四、十二指腸內ニハ淡褐色ノ濃稠液少許アリ輪膽管通ズ胃中ニハ汚黑色ノ濃稠液少許ト牛乳消化セル米飯ヲ存ス粘膜蒼白ナリ

十五、肝臟表面滑澤、帶灰褐色ニシテ左葉下面ノ略中央ニ暗赤色拇指頭大ノ膨隆一個アリ切檢スルニ實質間出血ヲ認ム質軟、捏粉樣ノ感アリ大サ二六・〇—一三・〇—四・〇糎程、斷面ノ色略表面ノ如ク血量ニ乏シ膽囊內ニハ褐色ノ膽汁少許アリ粘膜同色ニ染ム

十六、小腸管壁ノ漿膜下ニハ所々ニ暗赤色斑ヲ透見ス卽チソノ上端(幽門ノ下部)ヨリ約二〇・〇糎ノ所ニ示指頭大ノモノ一個、四五・〇糎ノ所ニ小指頭大ノモノ二三個、三一〇・〇糎ノ所ニ大豆大ノモノ二三個、三二五・〇糎ノ所ニ蠶豆大ノモノ二個、三六〇糎ノ部ニ拇指頭大ノモノ一個、五〇〇・〇糎ノ所ニ大豆大ノモノ二三個、六〇〇・〇糎ノ所ニ小指頭大ノモノ一個アリ切檢スルニ漿膜下ニ何レモ明ニ凝血アリ小腸ノ內容ハ上部ニ於テハ帶黃灰色ノ濃厚液ニシテ下部ニ至ルニ從ヒ漸次黃色トソノ硬度ヲ增シ且中ニ十數條ノ蛔虫ヲ混ズ粘膜ノ色ハ略ソノ內容ニ類シ他ニ異常ナシ大腸內ニハ黃色ノ軟便中等量存リ粘膜蒼白其他ノ性狀常ノ如シ

十七、腹腔ノ後壁ヲ檢スルニ鳥骨蝶ヨリ上方ニ向ヒ脊柱前面及大動脈稍ニ沿ヒ著シキ組織間出血アリソノ上下從一〇・〇糎、左右從三・〇糎ナリ大動脈內膜ニ出血ソノ他ノ異常ナシ

十八、骨盤腔臟器ヲ外陰部ト一連ニ別出シテ細檢スルニ直腸浮襞ニ於テ此所ヨリ腹腔ニ通達スル約三・五—四・〇糎深ノ穿孔アリ從テ此部ニハ大ナル腔壁缺損アリテ子宮口部ヲ覗見スル事ヲ得

孔緣甚シク不整凹凸ニシテ壞殘ノ組織橋狀ニ架走ス周圍ニハ約貳朔大ノ組織間出血アリ此裂孔ト膀胱後壁ノ後下部ニ在ル裂孔（第十三項）トハ密接對向セリ腟下部ノ粘膜蒼白ニシテ腟壁癒着

明ナリ

十九、子宮體狀ヲ切檢スルニ腔內ニハ灰白色ノ粘稠液少許アリ粘膜蒼白ニシテ異常ナシ卵巢及喇叭管ノ性狀常ノ如シ

腟及膀胱ニ在ル損傷略圖（左側方ヨリ見タル圖）

下、頭腔剖檢

二十、頭皮ヲ式ノ如ク切開剝離シテ之ヲ前後ニ轉ス頭骨ヲ鋸斷シテ頭腔內ヲ檢スルニ異常ノ內容ナク上矢狀竇殆ンド空虛ナリ蝶篩部硬腦膜透明ニシテ剝離シ易ク血管內血量中等ナリ腦ヲ式ノ如ク切檢スルニ左右側室及第三、第四室內空虛、脈絡叢血量少シ大腦神經節ニ異狀ヲ見ズ大小腦ノ斷面ニ血點少シ底面軟腦膜ノ性狀ハ脊髓部ニ同ジ基礎動脈及ジルビー氏滿動脈殆ンド空虛、壁質柔軟ナリ大腦脚ワロル氏橋及延髓ノ斷面ニ異常ナシ橫竇內ニハ暗色ノ流動血少許アリ頭蓋骨底ク板障厚シ頭骨ニ損傷ヲ認メズ

乙、說明

一、本屍ニ於ケル重ナル損傷ハ腟穹窿部、膀胱後壁并ニ橫隔膜ノ左側肋骨部ニ在ル裂孔（記錄第十八、十三、九項）及ソノ創圍ニ隣發セル出血、大網膜ノ漿裂等ナリ（記錄第十八、十三、九、五、十六項）上搗裂孔ノ周緣ハ何レモ不整凹凸ニシテ且創內ニハ壞疽ノ組織片橋狀ニ架走スルガ故ニ鈍器ノ作用ニ依テ生ジタル事明白ナリ彼ノ腟腔內ニ差込ミアリシ竹棒ハ此ノ如キ損傷ヲ致スニ適スルモノナリ

コノ他腟口ノ左下方約三・〇糎ノ所并ニ小陰脣ノ下半部ニ皮下溢血ヲ伴フ表皮缺損アリ（記錄第三項）ト雖前數者ニ比シ頗ル輕傷ナリ又身體ノ各所ニ存スル米粒大乃至鷄卵大不正形粗糙面ノ表皮缺損ハ死後ニ生ゼル蟻群ノ咬傷ナリ（記錄第一、二、三、四項）

二、本屍發見ノ場所ノミナラズ（係リ官及醫師ノ口話）體內即チ腹腔并ニ左胸腔內ニモ多量ノ血液溢流セル事（記錄第五、六項）及各臟器ニ於ケル血量甚ダ少キ事（記錄第二、五、七、八、十、十一、十二、十五、二十項）等ヲ綜合シテ考察スレバ本屍ノ死因ハ出血ナリ而シテ此ノ大出血ハ前述ノ腟穹窿部、膀胱、橫隔膜等ノ損傷（記錄第十八、十三、九項）ニ基因セルコト毫モ疑ヲ容レズ

丙、檢案

上記說明セル如キ理由ナルヲ以テ左ノ如ク檢案ス

一、「甲」「R」ノ身體內ニ存スル損傷ハ

「甲」腟穹窿部膀胱及橫隔膜ニ於ケル裂孔及コレニ隨發セル出血并ニ大網膜ノ漿裂等ソノ重ナルモノニシテ此等ハ生前鈍體ノ襲來ニ依リテ生ジタルモノナリ（說明第一項）

「乙」腟口附近ノモノハ前者ニ比シ遙カニ輕微ニシテ直接ノ死因トハ原因上關係ナキモノナリ（說明第一項）

二、「R」ノ死因ハ前記（檢案第一項「甲」）ノ損傷ニ起因セル出血ナリ（說明第二項）

此檢案ハ大正〇年六月四日着手

同年同月十一日結了

大正〇年六月十一日　鑑定人　小南又一郎

十一、中毒總論

甲、一般注意

中毒

刑法第百四十四條　人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

同第百四十五條　前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

毒物

我國ノ舊刑法ニハ明ニ毒物ナル文字ヲ使用シアリシガ（舊刑法二百四十三條乃至二百四十五條、二百九十

同第百四十六條　水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

三條、三百七條、二百五十三條—二百五十五條條參照)今日ノ學問ノ程度ニ於テハ、ソノ毒物ナル定義甚ダ漠然タルモノトナリシヲ以テ、新刑法ニテハ毒物ナル文字ヲ見出サヾルニ至レリ。卽毒物ヲ以テ人ヲ殺傷シタルモノハ、殺人或ハ傷害罪ヲ以テ論ゼラル、ニ至リシナリ(現行刑法百九十九條乃至二百十一條、百四十二條—百四十五條參照)。

毒物ノ法律的意義

毒物ナル言葉ニ對シ今日ニ至ル迄滿足ナル定義ナシト雖、一般ニハ毒物トハソノ極少量ニテモ、化學的作用ニ依リテ人ノ健康ヲ害シ、甚シトキハ人ヲ致死セシムルモノナリト解釋セラレタリ。然レドモソノ性質上絕對ニ人ノ健康ヲ害スルモノトテハナク、何レモ其量ノ關係ニ依リテ中毒ヲ來スモノナリ、尙ソノ他個人ノ性、年齡及體質ニモ大ナル關係ヲ有シ、或人ニハ治療量ナルモ他ノ人ニハ己ニ中毒ヲ來スコトアリ。法律家ハ如何ナル物質ニテモ其作用ノ化學的或ハ機械的何レニ基因スルニ拘ハラズ、之ヲ施用シテ人ノ健康ヲ傷害スル物質ヲ毒物ト見做シ、體外ヨリ體內ニ輸入サレテ毒力ヲ發揮シ、且加害者ガソガ人ノ健康ヲ害スルモノナルコトヲ知リテ使用シタル時ハ、如何ナルモノモ皆毒物ト解釋セリ。卽チ吾人ノ化學的毒物ト見做サヾル細菌及硝子ノ細片等ヲモ、法律家ハ之ヲ毒物ト見做セリ。予ノ以下述ブル所ハ、卽チ化學的作用ニ依リテ人ヲ傷害スル毒物ニ就キテノミ述ベン、毒物ニ就キテハ次ノ注意ヲナスベシ。

(イ)性質　卽化學的性質、集成、純否、新古、濃度或ハソノ腐敗ノ有無等ニ就キ注意スベシ。例ヘバ或種ノあるかろいどニテハ、ソノ新古、產地、採集時期等ニ依リテ、假令同量ニテモソノ作用度ニ大差アルガ如キ之レナリ。

(ロ)量　如何ナル藥物モ醫療量、中毒量及致死量ハ各國ノ藥局方ニ依リテ決定シ居リ、且コハ年齡性ニ大關係ヲ有シ、又藥物ニ對スル個人特異性ナルモノアリ、或ハ習性ナルモノアリ、例ヘバもるひねノ如キハ小兒ニハ極少量ヲ注意シテ用ユルモ尙中毒スルコトアルガ、之ニ反シ習性ヲ有スルモノハ、ソノ數瓦ヲ使用シテ一向平氣ナルモノアルガ如キ之レナリ。

(ハ)使用法　毒物ハ一般ニ水ニ溶解シタル形トシテ、直接ニ血行中ニ輸入スレバ、最モ早ク効ヲ現ハシ、且其効甚大ナリ。皮下ニ與フルモノ之ニ次ギ、胃腸ニ與フルモノ効果比較的遲クシテ弱シ。併シ時トシテ胃腸ヨリ與ヘテ却テ卓効ヲ奏スルモノアリ、例ヘバ砒素劑ノ如キ之レナリ。

(ニ)補助藥　ニ依リテソノ効ヲ異ニス、卽チ藥物ガ補助藥ニソノ効ヲ妨ゲラル、モノニシテ、例ヘバあるかろいどト單寧トヲ同時ニ用ユレバ、ソノ効少キガ如キ之レナリ。

(ホ)種屬特異性　ニ依リテ藥物ノ効用ニ差アリ、卽チ或動物ニハ無毒ニシテ他ノ動物ニハ有毒ナルコトアリ、例ヘバかんたりぢんハ人類ニハ有毒ナレドモ、鷄ニハ無毒ナルガ如シ。故ニ藥物ノ効用ヲ動物試驗ニ依リテ決定シ、直ニ之ヲ人類ニ應用スルハ甚ダ危險多キコト、云フベシ。

乙、中毒ノ診斷

中毒ノ診斷

中毒死ナル斷定ヲ下スニハ、ソノ死直前ノ臨床的症候、解剖所見及毒物ノ化學的證明等ニ據ルベキモノトス、今此等ニ就キテ略述セントス。

天、臨床的症候

臨床的症候

(イ)今迄健康ナリシ人ガ、或食物或ハ藥品ヲ攝取セシ後、又ハ或室內ニ入リシヤ否ヤ、急ニ劇烈ナル症候ヲ呈シタル時ハ、何等カノ中毒ニ非ラザルナキカヲ疑フベシ。例ヘバ腐蝕毒ハ重ニソガ接觸セシ局部ヲ

犯シ、中毒性急性胃腸炎ヲ起シ、苦悶、腹部ノ疼痛、嘔吐、下痢、下腹部ノ膨脹、心氣不安、裏急後重等ヲ來スガ如キ之レナリ。此等ノ中毒症候トこれら等ノ急性傳染性胃腸病トハ錯誤スルノ恐レアレバ注意ヲ要ス。

中毒症狀の經過

(ロ)次ニ毒物ガ徐々ニ吸收サレテ體内ニ於ケル新陳代謝ヲ犯シ、又ハ神經ヲ刺戟シ、或ハ麻痺セシメテ中毒死ヲ來スコトアリ。卽チ一酸化炭素中毒ノ場合ニハ、之ニ依リ徐々ニ血色素ヲ犯シ内窒息ヲ由來シ死ニ至ルコトアリ。或ハ燐砒素等ノ如キハ體内ノ新陳代謝ヲ犯シ、諸所ノ臟器ニ脂肪變性ヲ來スガ如キ之ナリ、時トシテ毒物ノ吸收ハ意外ニ早ク、中毒症候モ亦早ク經過シ死ニ轉歸スルコトアリ、卽チコハすとりきにーね、もるひね等ノ中毒ニ於テ見ルコトナリ、是等ト雖、腦出血、尿毒症、子癇等ト注意シテ鑑別スベキ必要アリ。

(ハ)次ニ毒物ノ接觸セシ局部ヲ犯シ、且吸收サレテ新陳代謝ノ障害ヲ來ス毒物アリ、コハソノ中毒症候往々不明ニシテ、多クノ金屬性鹽類ハ此作用ヲ有ス。

地、中毒症狀ノ經過

毒物ヲ攝取セシヨリ中毒症候ノ起リ來ル時間ハ、其毒物ノ性狀、量、個人的關係及胃腸ノ充虛ニヨリテ差異アリ。毒物攝取後直ニ中毒症候來リテ急ニ死ニ轉歸スルモノハ、强キ腐蝕劑、青酸及ソノ化合物、すとりきにーね等ニ見ルコトニシテ、金屬性鹽類ノ中毒ハソノ經過多クハ相當ノ時間ヲ要シ、一般ニあるかろいどノ中毒ノ際ハ少クトモ半時間以上ノ時間ヲ要シテ死ニ至リ、瓦斯狀毒物ノ中毒ハ多クハ非常ニ早ク經過スルモノナレドモ、ソノ空氣中ニ含有セラル、濃度ニヨリテ異ナリ、含量少ナケレバ少キ程長時間ヲ

毒物ノ運命

要スルモノナリ、卽チ坑氣中毒ノ場合ハ殆ンド瞬間ニ死亡シ、一酸化炭素中毒ノ場合ハ多クハ極メテ徐々ニ經過スルモノナリ。

中毒症狀來リテ次第ニ强クナリ、一定度ニ達スレバ漸次症狀弱クナリ、更ニ又症狀强クナルコトアリテ之ヲ以テ更ニ又毒物ヲ與ヘタルニ非ラザルカノ疑ヲ起スコトアレドモ、コハ屢々麻醉劑ニ見ルコトニシテ初メ攝取シタル毒物ノ一部ガ食物ノ爲メニ胃腸粘膜ニ觸レズ、從テ吸收サレザリシモノガ、更ニ胃粘膜ニ接觸シテ吸收サレ、再ビソノ作用ヲ逞フスルニ至リシモノナリ、但シすとりきにーねノ時ニ來ル痙攣ノ如キハ全クソノ意味ヲ異ニシ、長キ痙攣ノ爲メニ筋肉疲勞シ、爲メニ筋肉ノ弛緩來リ、更ニ新ラシキ刺戟ノ爲メニ再ビ痙攣ヲ來スモノナリ。

毒物ヲ適當ニ且多量ニ嘔吐、利尿、下痢等ニ依リテ排泄シ終ル時ハ、良好ノ轉歸ヲ來シ、多ク快癒スルコトアリ。サレバ中毒ノ疑アル時ハ此等ノ排出物ヨリ毒物ノ檢出シ得ラル、コトヲ忘ルベカラズ、例ヘバ金屬性毒物ノ如キハ一回ノ攝取後、數十日間ソノ甚或ハ尿ヨリ排出シツ、アルガ如キ之レナリ。

中毒症狀快癒後ニ來ル障礙ハ、腐蝕劑ヲ用ヒバ食道ノ狹窄ヲ殘シ、全ク癈疾ニ陷ルコトアリ、一酸化炭素中毒ノ場合ニハ精神異狀ヲ殘スコトアリ、ソノ他種々ノ障害ヲ貽スモノナリ。

玄、毒物ノ運命

人身内ニ入リシ毒物ハ、已述ノ如ク腎臟、胃腸、唾液或ハ皮膚ヨリ排出サレ、又ハ中和サレテ無害トナリ、或ハ酸化サレ、還元サレ若クハぱーれんシテ其作用ヲ弱メ、遂ニハ全ク無害トナルモノアリ、時トシテハ肝脾等ニ蓄積スルモノアリ、此等ノ事實ハ毒物檢索上甚ダ有用ナルコトナリ。

黄、解剖所見

中毒屍ノ解剖所見

時トシテ屍體ノ外表檢査ニ於テ、已ニ特有ナル變化ヲ見出スコトアリ。例ヘバ燐中毒死ニテハ諸所ノ粘膜ニ小溢血點アリ、甚シキ黄疸ヲ見、一酸化炭素及青酸化合物ノ中毒ノ際ハ死斑鮮紅色ヲ呈シ、鑛酸中毒ノ時ニハ口腔内灰白色乃至黑褐色ヲ呈シ、口角ヨリハ同色ノ條線頤部ニ向ヒ走下スルヲ認メ、あどろぴん中毒時ニハ瞳孔甚シク散大シ、あるこほる、くろゝほるむ中毒時ニハ、ソノ屍體ガ藥物ニ特有ナル臭氣ヲ有スルガ如キ之レナリ、内景檢査ニ於テハ、毒物ガ直接々觸セシ局部ニ於ケル變化ト、一般所見トノ別アリ。

毒物ノ接觸セシ局部所見

毒物ガ接觸セシ局部ニ於ケル所見ハ、重ニ次ノ條件ニ依リ、種々ノ狀態ヲ呈スルモノナリ、此條件ヲ知ラバ、ソノ毒物ガ接觸セシ局部ニ如何ナル變化ヲ呈スルカヲ略々察知スルコトヲ得ベシ。

(イ)毒物ガ蛋白質ニ對シ凝固壞疽、若クハ崩解壞疽ノ何レカヲ起スヤニ依リ差アリ、前者ハ粘膜或ハ筋層内ノ蛋白ヲ凝固セシメ不透明トナシ、恰モ牢養沸狀トナスモノニシテ、且胃腸壁ヲ甚ダ脆弱ナラシム、コハ酸類ソ中毒ニ於テ著明ニ顯ハル、所見ナリ。

崩解壞疽トハ粘膜或ハ筋層ヲ恰モ膠狀トナシ、腫脹流下セシムルモノニシテ、壁質次第ニ薄弱トナリ、遂ニ穿孔スルコトアルモノナリ、コハ强あるかり中毒ニ見ル所ノ所見ナリ。

(ロ)次ニ血色素ニ對スル作用特ニ之ヲ溶解スルヤ否ヤニ關ス。卽チ血色素ヲ溶解セシムル毒物、例ヘバ强あるかり性毒物ハ血色素ヲ溶解スルヲ以テ直ニ粘膜ハ血色素ヲ以テ染色セラル、然ルニ血色素ヲ溶解セザルモノ例ヘバ酸類ハ之ヲ以テ粘膜ヲ着色セシムルコト少シ。

(ハ)毒物自己ニ特有ナル色アルモノハ、ソノ色ヲ接觸セル粘膜ニ附加ス、例ヘバ重くろむ酸加里中毒ノ際ハ、黄色調ヲ粘膜ニ附與スルガ如キ之レナリ。

(ニ)最後ニ毒物ガ蛋白質ニ對シ、特有ナル呈色反應ヲ有スルヤ否ヤニ關ス、例ヘバ硝酸ハ蛋白質ニ對シきさんとぷろていんノ反應ヲ呈シ、黄色ヲ與フルヲ以テ、硝酸中毒ノ際、諸所ノ粘膜ガ黄色調ヲ帶ブルガ如キ之レナリ。

此四條件ニ依リテ、中毒ノ際局所的所見ノ如何ニ變ズルカヲ實例ヲ以テ示セバ、稀硫酸ハ凝固壞疽ヲ起シ、ソレ自身ハ無色ニシテ、蛋白質ニ對シ呈色反應ナク、且血色素ヲ溶解セズシテ硫酸へまちんヲ作ルヲ以テ稀硫酸中毒ノ際ハ胃腸粘膜ハ灰白色脆弱トナリ、黑褐色物ニテ掩ハレ、食道粘膜ハ灰白色不透明トナル、次ニ稀硝酸ハ硫酸ト略同作用ヲ有スレドモ、蛋白ニ對シきさんとぷろていんノ反應ヲ有スルヲ以テ、食道等ハ帶黄灰色ヲ帶ビ、胃粘膜ハ帶黄灰色ニシテ黑褐色物ニテ掩ハレ脆弱ナリ、之ニ反シ强あるかり類ハ自己ハ無色ニシテ蛋白質ニ對シ呈色反應ナシト雖、崩解壞疽ヲ來シ、且血色素ヲあるかり性へまちんニ變ジ、尙之ヲ溶解スルヲ以テ、あるかり中毒ノ際ハ、胃腸ノ粘膜ハ膠狀ヲ呈シ腫脹シ、且赤黑色ヲ帶ビ、之ニ觸ルレバ恰モ石鹸樣ノ感アリ、次ニ藥品自身色ヲ有スルモノ、例ヲ擧グレバ、硫酸銅ハ青色ヲ呈シ、蛋白ヲ輕ク凝固セシメ、血色素ヲ溶解セズ、且蛋白ニ對シ呈色反應ヲ呈セザルヲ以テ、ソガ中毒ノ際ハ胃腸粘膜ハ帶綠淡赤灰白色ヲ呈シ、重くろーむ酸加里ハ黄色ヲ呈シ輕キ凝固作用アリ、且血色素ヲ溶解スルヲ以テソガ中毒ノ際ハ胃腸粘膜ハ帶褐黄色ヲ呈スルガ如キ之レナリ。

一般ニ腐蝕劑ハ口腔食道胃腸壁ノ粘膜ニ崩壞ヲ來シ、ソハ時トシテ粘膜層ニ止マリ、或ハ筋層ニ達シ、

死體現象ト中毒

遂ニ穿孔スルコトアリ、金屬性毒物ニ於テハ多クハ口腔食道ヲ犯スコト少ク、胃壁ノミヲ犯シ特ニ胃ノ最モ低位ニ在ル大彎部ニ於テ最モ著明ナル變化ヲ見ル、卽チソノ部ノ粘膜ハ引赤腫脹シ潰瘍ヲ作ル、モシ同時ニ血管壁ヲ犯サルレバ、胃內容ハ血液ト混ジ汚血色ヲ呈ス。

胃內容ノミニ就テ云ヘバ、ソガ暗赤色乃至黑褐色ヲ呈スルハ酸類ノ中毒ニシテ强キ酸性ヲ呈シ、略同色ナレドモ膠狀ヲ呈スルハあるかりノ中毒ニシテ强あるかり性ヲ呈ス、次ニソガ鮮紅色ヲ呈スルハ靑酸化合物ノ中毒ナルコトヲ知ル、故ニ胃內容ノ臭反應等ヲ檢スルコトハ決シテ忘ルベカラザルコトナリ。

胃內容ノ色ニ就テモ亦大ニ得ル所アルモノナリ、卽チソガ藍色ヲ呈スルハ硫酸銅等ノ中毒ニ非ラザルカヲ疑ヒ、黃色ナルハ沃度或ハ重くろむ酸加里中毒ノ疑アリ、次ニ胃內容ヲ肉眼的或ハ顯微鏡的ニ檢シテ、大ナル手係ヲヲ得ルコトアリ、例ヘバ、內容物ヨリ麥角ノ一片、或ハ蓚酸結晶ノ一部ヲ發見スル事アルガ如キ之レナリ、故ニ剖檢ノ際ハ粘膜皺襞間等ヲモ注意シテ檢査スベシ。

吸收ニ依リテ中毒ヲ來スモノハ、直接血液ヲ犯スカ、或ハ實質性臟器ヲ害スルモノニシテ、鹽素酸加里中毒ノ場合ノ如キハ、血液ハ甚シキ變化ヲ受ケ赤褐色トナルコトアリ、或ハ鮮紅色ヲ呈スト雖、ソノ化學的作用ニ障害ヲ來セル一酸化炭素中毒ノ如キアリ、此等ノ血液毒ハ化學的ニ、或ハ吸收線ノ關係ニ依リテ鑑別スルモノナリ。吸收サレテ組織ノ新陳代謝ヲ犯シ、脂肪變性等ヲ招來スルモノハ燐、砒素等ナリ。

次ニあるかろいど中毒ノ際ハ剖檢上特有ナル異常所見ナシ、只窒息死ノ徵標明ナルノミ、此ノ際ハ是非共化學的檢査ニ依リテ其死因ヲ決定セザルベカラズ。

中毒死體剖檢ノ際、尙注意スベキハ死體現象ニ就テナリ、已述ノ如ク胃粘膜ノ死後消化ト死後血色素ノ澱調トハ中毒ニ似タル所見ヲ呈シ、又腐敗ノタメニ通常ノ組織ニテモ諸種ノ退行性變化ト相似タル所見ヲ呈スルコトアルガ如キ之レナリ。

毒物ノ化學的檢査

第、化學的檢査

上、一般注意

臨床的症候及解剖所見ニハ種々ナル毒物ニ共通ナル所見アリ、又普通ノ病氣ニ於テモ、中毒ト類似ノ臨床的乃至解剖所見ヲ呈スルモノアリテ、只此兩者ノミニ依リテハ實際中毒ナルカ、將タ普通ノ疾病ナルカヲ知ルコト能ハズ。或ハ中毒ナルコト確實ナルヲ知ルヲ得ルニ至リテモ、尙如何ナル毒物ノ中毒ニ依レルモノナルカヲ知ルニ苦ム事アリ、之ヲ鮮明ニ斷定スルニハ、是非共毒物ノ化學的證明ニ依ルノ外ナシ、然リ而シテ此化學的證明ハ、多クハ裁判化學家ノ爲スベキ事業ナルモ、醫師トシテモソノ證明法ヲ一通リ心得置カザレバ、檢査材料ヲ集ムル方針ヲ誤リ、或ハ甚シキ不都合ヲ感ズルコトアリ、時トシテ裁判化學家ノ取リシ方法ノ當否ヲ鑑定スルニ苦シムコトアリ、故ニ假令醫師ト雖、ソノ化學的檢査ノ一般ハ常ニ心得置クベキモノトス。

檢査材料採集

毒物ヲ集ムル器具ハ硝子ノ一乃至二立入廣口瓶ニシテ、最初水ニテ洗滌シ、次ニ蒸餾水、あるこほるぬーてるニテ順次ニ丁寧ニ洗ヒ、最後ニ更ニ蒸餾水ヲ以テ洗滌シ、乾燥セシメタルモノヲ用ユ。

中毒死或ハソノ嫌疑者ノ吐瀉物、尿、便ハ大切ニ保存シ、剖檢ヲ行ヒタル場合ニハ、各臟器ヲ次ノ如ク各瓶中ニ別々ニ採集シ置クベキモノトス。

第一號瓶　胃及ソノ內容、

第二號瓶　肝臟脾臟及腎臟、
第三號瓶　膽及ソノ内容、
第四號瓶　腦、
第五號瓶　血液、
第六號瓶　尿、

之等ヲ採集シ終レバ、之ヲ豚ノ膀胱等ニテ密封シ、封緘ニハ毒物採集者及立會司法官共同ニテ封印ヲ施スベシ、尚死體ヲ發掘シタル際ハ、臟器ノ他、周圍ノ土壤及棺内ニ在ル造花等附屬物ヲ同時ニ採集シ置クモノトス。何故ニ斯クノ如ク採集瓶ヲ數個ニ區分スルカト云フニ、コハ毒物ニヨリテ或物ハ多ク尿ニ排泄サレ、又或物ハ大便ニ出デ、時トシテ肝臟ニ多ク貯藏サレ、或ハ腦質ニ多量移行スルコトアル等種々ノ場合アレバ、カク分類シテ採集シ置ケバ、化學的檢査ノ際非常ニ利益ヲ得ルコトアレバナリ。

毒物檢査ノ施行

次ニ此等ノ檢査物ヲ送致サレタル裁判化學家ハ、先ヅソノ封印ノ確實ナルヤ否ヤヲ檢シ、次デ開栓シテ其臭、反應、色及性狀ヲ檢シタル後、之ヲ白色磁製ノ極メテ清淨ナル平皿ニ移シ、毒物檢査ニ資スルニ足ル有形物或ハ結晶等ノ存在ヲ調査シ、ソノ一小部分ヲ取リテ必要ナル場合ニハ顯微鏡檢査ヲ施スベシ、次デソノ全量ヲ秤量シ、約三分ノ一量ニテ自己ノ檢査ヲ全部終了スベキ豫定ヲ以テ檢査方針ヲ定メ、殘餘ノ部ハ丁寧ニ封緘シテ司法官ニ返還スベシ、モシ材料甚ダ少量ニシテ、ソノ全部ヲ使用シ盡サヾレバ檢査ヲ行ヒ難キ時ハ、其旨ヲ司法官ニ供述シ、許可ヲ受ケテ全部ヲ使用スベシ。毒物ノ化學的檢査ヲ始ムルニ當リ、豫メヨクソノ檢査方針ヲ定メ、ソレニ從テ進行シ、決シテ盲目的ニ彼ヲ檢シ是ヲ試ミ、材料ヲ浪費スルコトアルベカラズ、法醫學的ノ材料ハ極メテ大切ニシテ、多クハソノ量モ少ク又再ビ得難キモノナレバ

實驗室ノ注意

ナリ。

茲ニ化學的實驗室及器具ニ就テ一言ヲ附加セン。實驗室ニハ自己以外ノモノハ、自己ノ不在中ハ決シテ立入ラザル樣ニ注意シ、使用ノ器物ハ皆自己ニ洗滌シテ後充分蒸餾水ニテ洗滌セシモノヲ用ヒ、使用ノ藥品ハ清純ヲ旨トシ、豫メソノ純否ヲ檢シテ後、用ユベシ。此等ノ注意ヲ怠レバ化學的檢査中思ハザル藥品ノ混入ヲ來シ、大ナル錯誤ニ陷ルコトアレバナリ。

化學的毒物一般檢査法

尚裁判化學的毒物ノ檢査ハ非常ニ困難ナル事業ニシテ、百乃至二百瓦ノ臟器碎片等ヨリ、一廻或ハ數廻ノ毒物ヲ檢出スルハ、非常ナル熟練ト經驗トヲ要スルコトハ言ヲ俟タザルナリ。

中、化學的一般檢査法

予ハ茲ニ最モ重要ナル化學的檢査ノ一般方針ヲ最モ簡單ニ述ベムトス、通常毒物檢出ノ都合上、毒物ヲ次ノ四ツニ分類ス。

一、透析或ハ滲出ニ依リテ檢出シ得ベキ毒物、
二、揮發性毒物(蒸餾ニ依リテ分離シ得ベキ毒物)
三、植物性毒物(あるこほる、ぱーてる等ニテ抽出シ得ベキ毒物)
四、金屬性毒物(無機性毒物)

滲透性毒物

其一　透析或ハ滲出ニ依リテ檢出シ得ベキ毒物

之ニ屬スルモノハ强酸及强あるかり類ノ毒物ニシテ、之ヲ檢出スルニハ、先ヅ夾雜セル諸種ノ有機物ト分離シ、比較的精純トナシテ後、所謂實性反應ヲ行ヒ、ソガ如何ナル毒物ナルカヲ決定スベシ。此目的ニ

ハ所謂透析法ヲ行フヲ最モ便利トス。

先ヅ檢査物一〇—三〇、〇瓦ノ吐物胃内容等ヲ取リ、之ニ約二倍量ノ蒸餾水ヲ加ヘヨク混和シ、數時間冷所ニ放置後、餘リ厚層ナラザル羊皮紙或ハ動物膜ヲ有スル透析筒ニ移シ、凡ソ一〇〇・〇瓩ノ蒸餾水ヲ容レタル硝子瓶中ニテ約四時間透析スル時ハ、外器ノ蒸餾水中ニ鑛酸及あるかりハ透析膜ヲ通ジテ大部分移行ス。此蒸餾水ヲ取リテソノ中ニ存スル酸及あるかりヲ決定スベシ。卽チ青色らくむす試驗紙ヲ赤變シ、或ハ百倍ノめちーるぴをれつと、あるこほる溶液ヲ青變シ、又こんごろーと紙ヲ青變スル時ハ、酸類ノ存在スルコトヲ知リ、之レヨリ更ニ各酸ノ實性反應ニ移行シテ、ソガ硫酸、鹽酸、硝酸或ハ他ノ有機酸ナルカヲ決定スベシ。

モシ透析液ガあるかり性ヲ呈シふゐのーるふたれんヲ赤變スル時ハ、コハ强あるかり性毒物ノ存在スルコトヲ判定シ、ソノ方向ニ向ヒテ檢査シ、なとろん滴汁ナルカ或ハかり滴汁ナルカ等ヲ決定スベシ。

揮發性毒物

其二　揮發性毒物

之ニ屬スル毒物ハ水蒸氣ト共ニ容易ニ揮發蒸餾シ得ベキモノニシテ、檢査物ガ血液ナレバソノマヽ、臟器ナレバ細切シテ凡一〇〇・〇瓦ヲ取リ、約一立容積ノこるべんニ移シ、約二倍量ノ蒸餾水ヲ加ヘテヨク混和シ、酒石酸ヲ以テ酸性トナシ、徐々ニ分劃蒸餾ヲ行フ時ハ、溜液中ニあんもにあ、臭素、鹽素、燐、鹽酸、あせとん及諸種ノあるこほる、ゐーてる、くろゝほるむ、蟻酸、あみるにとりつと、べんじん、青酸、醋酸、沃度ほるむ、くろらるひどらーと、石炭酸、くれをそーと、にとろぐりせりん、にとろべんぞーる、樟腦及あにりん等移行ス。有毒燐ノ存在スル場合ハ已ニ蒸餾中暗所ニテ之ヲ窺フ時ハ、冷却管ノ近傍ニ燐光ヲ發スルヲ以テ知ルコトヲ得、此等ノ毒物ヲ含メル蒸餾液ハ更ニ再溜シ、或ハ精製法ヲ施シテ、各毒物ニ對スル實性反應ヲ施行シ、如何ナル毒物ガ存在スルカヲ鑑定スベシ。

植物性毒物

其三　植物性毒物（あるかろいど及苦味質）

コハあるかろいど及苦味質ガあるこほる、ゐーてる等ニ溶解シ易キニ反シ、蛋白質ハ之ニ不溶解ナルヲ利用シテ案出シタル抽出法ニシテ、卽チ夾雜物ヨリ毒物ノミヲ浸出分離スル法ナリ。此方法ニハすたあす、をつとー氏法、どらげんどるふ氏法、せんこすきー氏法或ハひるげる、丹波氏法等數多アレドモ、此中最モ多ク用ヒラルヽハ、すたあす、をつとー氏法ナレバ今之ヲ略述セン。

檢査物一〇〇・〇瓦ヲ細切シ、之ヲ五〇〇・〇瓩ノこるべんニ入レ、酒石酸ヲ以テ酸性トナセル七〇%ノあるこほる約三百瓩ヲ加ヘ、冷却硝子管ヲ附セルこるくヲ以テ栓塞シ、約六十度ノ水温上ニ時々振盪シツヽ、温浸スルコト一晝夜ノ後、あるこほるヲ濾別シ、更ニ同樣ニ殘滓ヲ新鮮あるこほるヲ以テ所置スル事數回ノ後、前後數回ノあるこほる浸出液ヲ合シテ眞空蒸餾ヲ行ヒ、或ハ水温上ニテあるこほるヲ去リ、殘渣ニ純あるこほるヲ加ヘテ温浸濾過スルコト數回、ソノあるこほる濾液ヲ集メ、再ビ眞空蒸餾ヲ行ヒあるこほる分ヲ去リ、今回ハ殘渣ヲ温水ヲ以テ浸出濾過シ、濾液（原液ト名ヅク）ヲ以テ、次ノ振盪或ハ穿通操作ヲ行フ。

酸性原液ヲゐーてるニテ振盪

（イ）酸性原液ヲゐーてるヲ以テ振盪或ハ穿通操作ヲ行フ時ハ、ソノゐーてるニ移行スルモノハ、びくろときしん、こるひちん、びくりん酸、あせとあにりーと、ふゐなせちん、ざりちーる酸、ばろなーる、あんちぴりん、こつふゐいん、かんたりぢん等ナリ。故ニ此ゐーてる分ハ蒸發皿ニ取リ、ゐーてるヲ蒸發

シ殘渣ヲ更ニ温水ニ取リ、精製法ヲ加ヘテ上記各毒物ニ對スル實性反應ヲ試ムベシ。

あるかり性原液ヲゐーてるニテ振盪

(ロ)前項ニテゐーてるヨリ分離セル原液ニなとろん滴汁ヲ加ヘテあるかり性トナシ、更ニゐーてるヲ以テ振盪或ハ穿通スル時ハ、ゐーてる中ニこにいん、ニこちん、あにりん、すとりひにん、ぶるちん、あとろぴん、こかいん、こでいん、ひどらすちん、ひにん、あんちぴりん、こつふゐいん、なるこちん、てばいん等移行ス。卽チゐーてるヲ蒸散シテ、ソノ殘滓ヲ温水ヲ以テ所置シ、或ハ更ニ精製法ヲ施シテ後茲ニ來ルベキ毒物ニ對スル各實性反應ヲ試ミ、毒物ノ何ナルカヲ決定ス。

あんもにあ性原液ヲゐーてるニテ振盪

(ハ)次ニ原液ニ鹽酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシ、更ニあるかり性ヲ呈スル迄、あんもにあ水ヲ加ヘテ、更ニゐーてるニテ前同樣ニ所置スレバ、ゐーてる中ニあぽもるひね移行ス、卽チゐーてるヲ蒸散シ、殘滓ニテあぽもるひねノ存在ヲ檢スルコト前ノ如シ。

くろゝほるむニテ振盪

(ニ)原液ヲ靜ニ微熱シテ殘餘ノゐーてるヲ去リ之ニ約五倍量ノくろゝほるむヲ加ヘテ振盪或ハ穿通スル時ハ、くろゝほるむ中ニもるひん、あんちぴりん、こつふゐいん、なるせいん等移行ス、卽チくろゝほるむヲ蒸發シ、ソノ殘滓ヨリ前記各毒物ノ實性反應ヲ試ムベシ。

(ホ)最後ニ殘レル原液中ニハくらりん及なるせいん殘存ス。卽チ原液ヲ乾燥シ、純あるこほるニテ所置シテ、くらりん、なるせいんヲ得テ實性反應ヲ試ム。

金屬性毒物

其四　金屬性毒物

細切セル檢査物一〇〇・〇瓩ニ强鹽酸ヲ加ヘテ暫時放置後、適當量ノ水ヲ以テ稀釋シ、水温上ニテ微熱シツヽ、時々少許ノ鹽素酸加里粉末ヲ加ヘ、所謂ふれせにゆす、ばぼー氏法ニテ有機物ヲ碎解シ去リ、含有セル金屬性毒物ヲ皆鹽化物トナシテ溶解セシメタル後、濾過シ濾液ト殘渣トニ分ツ、此殘渣中ニハ銀、鉛及ばりゆむ、不溶ノ形ニテ存在ス。卽チ適當ナル方法ニテ此中ヨリ銀、鉛及ばりゆーむヲ檢出スベシ。

化學的檢査ノ結果ニ對スル注意

鹽化物ヲ含有セル濾液ヲ水温上ニ微熱シツヽ、硫化水素瓦斯ヲ通ズルコト數時間ニシテ、一晝夜靜置後濾過シテ濾液ト殘渣トニ分チ、濾液中ニハ亞鉛くろーむ及鐵ヲ含ム。而シテ殘渣中ニハ多クノ金屬毒物ノ硫化物ヲ含有ス。此硫化物ヲ温硫化あんもんニテ所置スル時ハ、硫化あんもんニ溶解スルモノハ砒素、錫、あんちもんニシテ、否ラザルモノハ水銀、鉛、銅、かどみゆむナリ、卽チ適當ナル方法ニヨリテ、此等ノ各金屬ヲ分離精製シ、實性反應ヲ行ヒテ、何レノ毒物ニ屬スルカヲ決定スベシ。

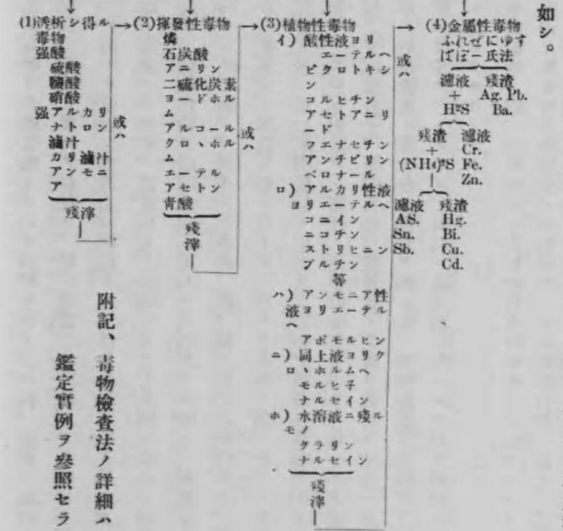
モシ臨床的症狀、或ハ解剖所見ニ依リテ、毒物ガ揮發性毒物ナリトカ、或ハ金屬性毒物ナリトカ略決定シ居ル場合ハ、ソレニ相當スル部分ノ化學的操作ヲナセバ足レリト雖、モシ毒物ガ果シテ何ナルカ亳モ見當ノ付キ居ラザル場合ハ、是非共此一般檢査ノ全部ヲ施行セザルベカラズ。之レ甚ダ勞多キ事業ナレバ、臨床所見或ハ解剖檢査ノ際十分ノ注意ヲ拂ヒテ、毒物檢査ノ手係リヲ得ベシト前章ニ於テ力說セシ所以ナリ。コハ啻ニ勞多キノミナラズ、材料ヲ諸方面ニ用ユルヲ以テ材料ノ不足ヲ來シ易ク、從テ檢出スベキ毒物ヲ逸スル恐レアルモノナリ。

上記化學的檢査ノ際、透析殘渣ハ尙植物性毒物檢査ノ材料トナスヲ得ベク、又植物性毒物檢査ノあるこほる滲出殘渣及揮發性毒物檢査ノ蒸餾殘渣ハ皆金屬性毒物ノ檢出ニ適スルヲ以テ、豫メ注加藥品等ニ注意シテ材料ノ利用ヲ心ガクベシ。

下、化學的檢査ノ結果ニ對スル注意

此等ノ化學的一般檢査法ニ依レバ、或毒物ハ或一定ノ場所ニ檢出サル、事トナリ居レリ。故ニモシ其毒

物ガ現出スベキ所、以外ニ於テハ、假令如何ニ類似ノ反應ヲ呈スルモ該毒物ト直ニ決定スルコト能ハズ、例ヘバもるひね類似ノ反應ガすたーす、をつとう氏法ノ酸性液ヨリにーてるニ移行シタルモノニ現ハル、トモコハもるひねトハ信ズル能ハザルコト多キガ如キ之レナリ今參考ノ爲メ化學的檢査法ノ一般ヲ表示スレバ左ノ如シ。



附記、毒物檢査法ノ詳細ハ次記(二四〇—二五四頁)ノ砒素中毒鑑定實例ヲ參照セラレタシ

毒物證明ガ陽性ナリシ場合

(イ)毒物ノ證明ガ陽性ナリシ時ノ注意

假令、毒物ノ證明ガ陽性ナリトモ、直ニ中毒ナリト斷定スルコト能ハズ、種々ノ情況ヲ綜合シテ後斷定ヲ下スベキナリ。例ヘバ、鐵或ハ銅ノ少量ハ人體ノ生理的成分トシテ存在シ、鉛ハ往々食器等ヨリ混入シ來ルコトアリ、又生前用ヒシ藥品ヲ毒物トシテ見出スコトアリ、卽チもるひね、蒼鉛、砒素、水銀等ヲ發見シタリトテ、其人ガ生前治療ニ之ヲ用ヒ居リシモノナレバ、毒物學的ニハ意味甚ダ少クナリ、只量ノ關係トナリ、非常ニ多量ヲ發見シタル場合ニソノ中毒ナラザリシカノ疑ヲ起スガ如キ之レナリ。次ニ職業上體內ニ異常ノ毒物ヲ有スルコトアリ、例ヘバ活字職工ガ體內ニ鉛ヲ有シ、鏡製造職工ガ水銀ヲ吸入シ居ルガ如キ之レナリ。

次ニ毒物ガ死後體內ニ滲透シ來ルコトアリ、例ヘバべんき塗ノ棺桶ニ入レラレタル爲メ、元來鉛ヲ用ヰタルコトナキ死體中ニ鉛ガ浸入シ來リ、或ハ造花ト共ニ葬ラレタル死體內ニ色素中ノ砒素ガ浸入シ來ルガ如キ之レナリ。

更ニ試藥ノ純正ナルコトニ注意スベシ、例ヘバ多クノ酸類及硫化水素瓦斯ハ砒素ヲ含有スルモノナレバ砒素證明ノ際ニハ、此點ニ付充分ナル注意ヲ拂フベシ。

同陰性ナリシ場合

(ロ)毒物ノ證明ガ陰性ナリシ時ノ注意

他面ニハ化學的ニ毒物ヲ發見シ能ハザリシトテ、直チニ中毒ニ非ラズト斷定スルコト能ハズ、卽チ左ニ掲グル如キ注意ヲ要ス。

(1)、今日ノ學問上生物ノ體內ニ入リシ毒物ニシテ、化學的ニ證明不能ナルモノアリ。例ヘバ痙毒及河豚毒

毒物證明ノ補助法

ノ如キ之レナリ。

(2)、假令攝取セシ毒物ト雖、體内ニ於テ分解サレ、或ハ排出サレテ、證明出來ヌコトアリ、之レ複雜ナル構成ヲ有スル毒物、例ヘバあるかろいどニ於テ見ルトコロナリ。

(3)、體内ニ攝取サレシ毒物ハ極メテ小量ニシテ、而モ之レガ全身ニ分布シ、ソノ一小部分ヲ取リテ檢査ニ供スルモノナルヲ以テ、到底證明可能ナル程多量吾人ノ手ニ入ラザルコトアリ。

(4)、毒物ガ體内ニ入リテ後變化シテ毒物トシテ證明シ能ハザルコトアリ、例ヘバ燐ノ如キ之レナリ、燐ガ體内ニ入リ酸化サルレバ燐酸トナルモノニシテ、コハ吾人々類ノ生理的成分ナルヲ以テ、最早毒物トシテ證明スルコト能ハザルガ如キ之レナリ。

(5)、有機物ガ腐敗スレバ、多クノ有機性毒物ハ同時ニ分解サレ證明不能トナルコトアリ、金屬性毒物ニハ此事ナシ、あるかろいどト雖甚ダ永ク腐敗ニ抵抗スルモノアリテ、予ハもるひね中毒死後六ヶ月すとりきにーね中毒死後一ヶ年ニシテ、發掘セル死體ヨリ尙之ヲ證明シ得タルコトアリ。

(6)、分析精製困難ニシテ證明不可能ナルコトアリ、例ヘバあるかろいどト酷似スルモノアリテ、鑑別困難ナルコトアリ、分解物トシテ生理的ニ存在シ、ソノ反應あるかろいどト酷似スルモノアリテ、鑑別困難ナルコトアリ、例ヘバ死體もるひね死體すとりきにーねノ如キハ化學的反應ハ全ク眞性ノもるひね及すとりきにーねト同樣ナレバ、之ヲ鑑別スルニハ動物試驗ニヨルノ外ナシ。

丙、毒物證明ノ補助法

イ、顯微結晶學上ノ證明法

毒物ヲ抽出精製シ結晶セシメ、之ヲ顯微鏡的ニ窺ヒテ、如何ナル藥物ノ結晶ト一致スルカヲ、結晶學ニ依リテ決定スルコトヲ得ルコトアリ。

ロ、吸收線檢法

光像鏡ヲ以テ吸收線ヲ檢シ、或ハソノ變遷ノ狀態ヲ追究シテ、如何ナル毒物ノ中毒ナルカヲ知ルヲ得ルコトアリ、例ヘバ一酸化炭素中毒ノ際ニ於ケル如キ之レナリ。

ハ、植物學的檢査

或毒物ノ一成形片ヲ得、コレヲ植物學上如何ナルモノニ屬スルヤヲ檢定シ、毒物證明ニ大ナル利益ヲ得ルコトアリ。例ヘバ麥角ノ一片ヲ發見シテソノ中毒ナルコトヲ知レルガ如キ之レナリ。

ニ、生物學的證明

動物ニ於テモ或毒物ニテハ人類ト全ク同樣ニ作用スルコトアリ、例ヘバ前述ノ如クすとりきにーねトぶどまいんトハ其化學反應非常ニ類似スル爲メ、化學的ニハ到底之ヲ鑑別スルコト能ハズ、然ルニ之ヲ動物ニ與フレバ、屍體すとりきにーねニテハ痙攣ヲ來サヾルニ、眞性すとりきにーねニテハ直ニ間代性痙攣ヲ來スニ由リテ、之ヲ鑑別シ得ルガ如キソノ例ナリ。

丁、ソノ他種々ノ注意

健康ナリシ人ガ突然吐瀉ヲ催シ、或ハ何等豫知的ノ症狀ヲ呈セズシテ急ニ死亡セリトテ、必ズシモ中毒死ニ非ラズ、卽チコハ腦出血及急性傳染病等ノ如キニモ見ルコトナリ。又實際毒物ヲ用ヰテ死ニ至リシ際ニモ自殺ナルコトアリ、他殺ナルコトアリ、夫等ノ鑑別ハ法醫學上必要ナルコトニシテ自殺ノ際ハ通常成

ルベク安樂ニ死亡セントシ或ハ極メテ容易ニ手ニ入リ易キ毒物ヲ以テス。他殺ノ目的ニハ無味無臭無色ニシテ人ノ氣付カヌ藥品、例ヘバ亞砒酸或ハ青酸加里等ヲ用ユ、又往々ニシテ錯誤ニ依リテ思ハザル藥品ヲ攝取シ死ニ至ルコトアリ、例ヘバ外用劑ト內用劑トヲ取違ヘテ服用シ、中毒死ニ至リシガ如キ之レナリ。

又同室ニ在リシ家族ナドガ同時ニ死亡シ居ル時ハ、瓦斯中毒ナル疑ヒヲ起シ、恐ロシキ腐蝕劑ヲ常人ガ攝取シ居レバ、ソハ多クハ自殺モシクハ錯誤ニヨレルナリ。ソノ他死屍ノ周圍ニ散亂セル藥瓶及藥包紙等ニモ充分ノ注意ヲ拂フベシ。

今中毒ノ鑑定ニ對スル一例ヲ示セバ左ノ如シ。

毗素中毒鑑定實例

戊、鑑定實例

鑑定書

大正四年〇月〇〇日〇〇地方裁判所豫審判事Ⅰハ氏名不詳殺人被告事件ニ付

一、K、kノ生前症候ノ概要及ソノ死體解剖ノ結果ニ依リ

(イ)死亡ノ原因

(ロ)ソガ若シ中毒ニ因スルモノナリトセバ其中毒ノ種類、作用、分量

二、K、Kノ身體ニ就キ

(イ)現在症候及ソノ原因

(ロ)ソガ若シ中毒ニ因スルモノトセバ其中毒ノ種類、作用、分量

(ハ)ソノ豫後

三、右兩人例レモ同藥品ノ中毒ニ因スルモノナリトセバ其結果同ジカラザル理由

四、左記各物件ニ同藥物ヲ含有セルヤ若シソノ含有セリトセバソノ作用、分量及ソノ食用ニ依リ人體ニ及ボスベキ影響程度

(イ)押收第一號　米粉
(ロ)同　第二號　團子
(ハ)同　第四號　米粉
(ニ)同　第六號　粥
(ホ)同　第七號　小麥粉
(ヘ)同第十三號　桶底ニ殘レル小許粉末

ヲ檢案スベキ旨ヲ〇〇分署ニ於テ予ニ命令セリ依テ同署ニ於テ同日午前十時五十分乃至午後零時五十分同廢害判事及裁判所書記N立會ノ上右kノ屍ヲ解剖シ又同日〇〇町大字〇〇K、Kノ住所ニ至リソノ身體ヲ檢シ且同署ニ於テ押收第一、二、四、六、七、十三號ヲ受領シ是等及k解剖ノ際採取セル臟器ノ化學的檢査ハ京都帝國大學醫科大學法醫學教室ニ於テ之ヲ施行シ彼是ヲ綜合シテ此

第一、K、k檢査記錄

〇〇〇縣〇〇郡〇〇町大字〇〇K得

K、　k、

六十三年

甲、病歷概要

一、kノ遺族及Ⅰ主治醫ノ語ル所ニ依レバトハ生來健康無病ナリシガ大正四年〇月九日午後七、八時頃夕食ニKト共ニ米粉團子ヲ入レ茶粥若干(ソノ量不明)食セシ後約三十分許リシテ苦悶ヲ始メ甚シキ腹痛ト少許ノ嘔吐ノ爲メⅠ醫師ノ診察ヲ乞ヘリ同醫師ハ先ヅkヲ問診セントセルモ苦悶甚シク且意識濁セル爲メソノ目的ヲ達スル事能ハズ、只ソノ容態ニヨリテ胃加答兒ト思惟シ單ニ健胃劑ヲ處方シ置ケリ但シ同醫師ハ此際ソノ吐物ヲ檢セザリシト云フ

二、同十日午前一時頃(卽發病後四、五時間目)容態甚ダ險惡トナリシ爲メ同醫師往診セルニ四肢已ニ厥冷シ紫藍色ヲ呈シ脈搏ヲ觸知セズ呼吸甚ダ不正ニシテ動モスレバ靜止セントス卽チ檢腦注射液二筒ヲ皮下ニ與ヘシモ心臟ノ機能益々衰弱トナリ暫時ニシテ遂ニ死亡セリkハ經過中嘔吐ハ同數少ク吐出量モ些少ニシテ下痢無ク又終始發熱ヲ認メザリシト云フ。

乙、解剖檢査記錄

其一　外表檢査

三、女子屍體栲中等、營養佳良、皮下脂肪ノ發育亦良ニシテ筋肉ノ發育中等ナリ皮色ハ前面一般ニ蒼白ニシテ下顎部、肩胛部及下腹部ハ汚穢色ヲ呈シ身體左半ハ稍淡紫色ニ染ム脊面ハ一般ニ紫赤色ヲ呈シ靜脈ニ沿ヒ血色素ノ浸潤著シ死斑ハ下顎及足關節ニ僅カニ存ス

四、頭部ニ於テハ右顳顬部ノ略中央ニ小指頭大ノ豐隆一個アリ切檢スルニ豆腐樣樣物少許漏出スソノ他頭部、顏面ニ於テハソノ左半淡紫色ヲ呈スルノ他損傷異常ナシ眼閉ヂ結膜蒼白、角膜左ハ濁濁シ瞳孔ヲ透見スル事困難、右ハ透明ニシテ瞳孔ヲ透見スルコトヲ得

死體移動ノ際鼻口ヨリハ淡汚赤色液多量ヲ漏ラス口唇ハ淡紫色ヲ呈シ口腔齒列前ニ異物ナク齒牙ハ上顎ニ於テ數個缺損シ下顎ニ於テ門齒ハ汚穢淡黑色トナル

五、左乳嘴ノ上內方約四〇糎ノ部ニ指頭大ノ淡紫色斑アリ切檢スルニ皮下ニ異常ナシソノ他頸胸腹部ノ皮膚ニハ血管ニ沿ヒ血色素浸潤アリ處々ニ蚤咬ヲ附スルノ他損傷異常ナシ

六、兩上肢ノ上膊內面略中央ニ稗粒大紫色斑一二個アリ切檢スルニ皮下ニ異常ナシ兩下肢ニモ損傷異常ナク趾尖及指尖部ハ著シク暗紫赤色ヲ呈ス外陰部ニ損傷ナク肛門略開シ少許ノ粘液樣軟便ヲ漏出ス

其二　內景檢査

上、胸腹腔剖檢

七、頭胸腹部ノ皮膚ヲ式ノ如クソノ正中ニ沿ヒ切開スルニ皮下脂肪及ビ筋肉ノ發育中等、頸部ノ皮下及筋肉ヲ精檢スルニ出血變傷等ナシ

八、胸腔ヲ檢スルニ大網膜脂肪量中等、胃ハ著ルシク膨脹シテ腹腔ノ上半分ヲ含ム腦管表在部ノ色ハ一般ニ蒼白ニシテ深在部ハ淡紫色ヲ呈ス腦間膜脂肪量中等、腺大豆大ニ雖大ス腹膜滑澤、腹腔內ニハ汚血色ノ流動液約二〇・〇瓩ヲ入ル腹腔臟器ノ位置常ノ如シ橫隔膜ノ高サ左右共第五肋骨ノ下緣ニアリ

九、胸骨ヲ肋軟骨ト共ニ切除シテ胸腔ヲ開檢スルニ兩肺ノ前緣ハ明ラカニ見ルコトヲ得左右肺ニ癒着ナク肋膜滑澤、左右胸腔内ニハ汚血色液各二〇・〇瓩ノ容ル

心囊ハ一般ニ脂肪ニ富ミ内ニ胸腔内ト同樣液少許ヲ容ル

只、頭胸臟器

一〇、心臟ノ大サ略本屋手拳ニ等シク筋質一般ニ軟ナリ表面帶黄紫色ヲ呈シソノ前面ノ上部ニ拇指頭大ノ斑疵一個アリ左右心殆ンド空虛、心臟弱出ノ際附屬ノ血管ヨリ少許ノ暗色流動血ヲ滴ラス大動脈及ビ肺動脈口ニ液水スルニ能ク水ヲ保ツ房室間口ハ左右共容易ニ二指ヲ通ジ内膜ノ色ハ一般ニ帶紫淡褐色ニシテ瓣膜ニ異常ヲ認メズ壁質及乳嘴筋斷面ハ稍褐色ニ富ム

一一、左肺表面一般ニ帶綠紫黑色ニシテ各部共能ク空氣ヲ含ム肋膜滑澤、徹透ナリ斷面ノ色略表面ノ如シト雖一般ニ液質ニ乏シ氣管枝粘膜ハ淡紫色ニシテ内ニ異常ノ内容ナシ右肺表面、略左肺ノ如シト雖色著シク淡ニシテ上葉ハ灰色ニ富ム觸ルヽニ各部共ニ能ク空氣ヲ含ム肋膜滑澤、透徹ニテ斷面ノ性狀表面ノ如シ

一二、咽頭内ニハ異常ノ内容ナク食道内ニハ蠶豆一個及ビ汚赤色ノ塊(食物ノ殘片)二個アリ粘膜黄白ナレ共血管充盛シ粘膜腺稍著明ナリ

一三、喉頭氣管ノ粘膜ハ淡汚綠色ニ染ミ内ニ異常ノ内容ナシ舌骨喉頭軟骨ニ損傷ヲ認メズ

呂、腹腔臟器

一四、脾臟ハ其中央ニ於テ著ルシキ戟疵アリテ(自然ノモノ)略ンド二葉ニ分ル其表面ハ帶綠淡紫色ニシテ質其シク軟大サ　一三・〇―五・五―二・〇糎斷面ハ一般ニ黑色ヲ呈シ泥樣トナリテ細檢スルニ由ナシ

一五、肝臟表面滑澤、一般ニ汚綠色ニ染ミ質軟、斷面ノ色赤表面ノ如タ一般ニ液質ニ乏シタ小葉ノ別不明ナリ膽囊空虛ニシテ漿膜下ハ瓦斯ヲ含ミ内面ノ性狀常ノ如シ

一六、胃ハ著シク擴大シ内ニ汚淡赤褐色ノ液質中等量ヲ入ル、粘膜ハ淡赤褐色ヲ呈シ一般ニ粘液ヲ蒙リ血管ニ沿ヒテ血色素ノ浸潤アリ粘膜ノ缺損、溢血等ヲ認メズ

十二指腸内ニハ淡灰色ノ乳樣液少量ヲ存シ粘膜ノ性狀ハ胃ニ同ジ

一七、小腸内ニハ十二指腸ト同樣ノ内容少許アリ粘膜ハ一般ニ苔白ニシテ其下部ニ於テ弧線少シク隆起スル外異常ナシ大腸内ニハ淡灰色乳樣粘液少許アリ粘膜ハ一般ニ粘液ヲ蒙リ弧線少シク隆起スル外特記ス可キ異常無シ

一八、左腎莢膜剥離シ易ク質軟、表面紫褐色ニシテ大サ一一・〇―五・五―二・一糎斷面ノ色表面ノ如シト雖稍濁濁シテ髓、皮、兩質分界明ラカナラズ腎盂ノ粘膜ハ異常ナシ右腎大サ　一〇・〇―六・〇―二・〇糎左腎ニ比シ其色淡ナルノ外亦性質相同ジ

膀胱全タ空虛、粘膜苔白ナリ

一九、陰粘膜苔白内ニ異常ノ内容ナシ子宮口ノ右側ニ大豆大暗赤色ノ溢血點一個アリ子宮、喇叭管、卵巢等ニ異常ナシ

二〇、胸部及ビ腹部ノ大動脈壁ハ軟ニシテ硬化ノ認メズ

下、頭腔剖檢

二一、頭皮ノ式ノ如タ切開剥離シテ之ヲ前後ニ縫轉スルニ其内面一般ニ苔白液質ニ乏シク特記スベキ異常ナシ頭骨ヲ鋸斷シテ頭腔内ヲ檢スルニ硬膜内殆ンド空虛、軟膜膜透徹ニシテ血管著シク充盛シ剥離シ易シ腦質ハ軟ニシテ極檢シ難シト雖一般ニ淡綠灰色ニシテ左半球ニハ右半球ヨリモ血點多シ左右側室内ニハ

淡血色液少許アリ大腦神經節、小腦、ワロル氏橋、延髓、大腦脚ノ斷面ニモ特記スベキノ異常ナシ基礎動脈及ジルビー氏動脈柔軟、橫竇内空虛、頭骨ニ損傷ヲ認メズ

附　記

本屍ハ中毒死ノ疑アルヲ以テ解剖ノ際化學的檢査ノ材料トシテ

一、胃腸及ソノ内容ノ全部

二、腎肝、脾ノ全部

三、右下腿骨ノ一部

ヲ採集セリ

丙、化學的檢査

前記解剖ノ際採取セル材料ニヨリ化學的檢査ヲ行フ事左ノ如シ

(イ)胃腸及ソノ内容檢査

二二、胃腸及ソノ内容ノ納メタル磁子瓶ノ蓋ヲ開クニ腐敗臭ノ外特臭ナクソノ全部及ビ帶赤灰色乳樣ノ粘稠液中等量ヨリ成リ之ヲ精視スルモ粘液叢壁間或ハソノ帶赤灰色乳樣粘液中ニ異常ノ有形物ヲ發見セズ全量ハ一三八四五アリ弱アルカリ性反應ヲ呈ス

天、揮發性毒物ノ檢査

二三、今胃壁三百十二瓦中ヨリ　三一・二瓦

小腸壁五百六十二瓦中ヨリ　五六・二瓦

友腸壁百四十四瓦中ヨリ　一四・四瓦

胃腸内容三百六十六瓦中ヨリ　三六・六瓦

即總計一三八四瓦中ヨリ一三八・四瓦ヲ分取シ

胃腸壁ハ剪刀ヲ以テ細切シテ「コルベン」ニ移シ少許ノ蒸留水ヲ加ヘ攪拌シ酒石酸ノ以テ酸性トナシ(使用ノ藥品ハ總ベテ獨逸メルク製藥會社製品極メテ純粹ナルモノヲ用イタリ)續キ「ゴルク」栓ヲ爲シ該栓ノ下面ニハ硝酸銀紙垂ニ酸酸鉛紙ヲ懸ニ濕シテ懸垂シ相互ハ勿論「ゴルベン」壁ニモ接觸セザル樣ニ注意シ此部ヲ黑布ニ掩ヒ水浴上ニテ攝氏約六十度ニ加溫シ暗所ニ放置スル事二時間後之ヲ檢スルニ兩紙共暴露程度ニ淡黑色ヲ呈セリ

二四、茲ニ於テ「コルク」栓ヲ交換シ暗所ニ於テ式ノ如タ水落氣ノ通ジツヽ靜ニ蒸餾セルニ毫モ燐光ノ發スルヲ見ズ即チ蒸餾ノ殘液シ餾液ヲ三十分毎ニ分取シ此餾液ヲ以テ燐、青酸、クロヽホルム、アルコール、アセトン、ヨードホルム、クロラール、ブロモフォルム、石炭酸、アニリン、硫化炭素等ノ反應ヲ檢スルニ之ヲ含有スルノ徴ナシ

地、アルカロイド等ノ檢査

二五、前項ノ蒸餾殘渣ハ明ニ酸性ニシテ多量ノ水分ヲ含有スルヲ以テ水浴上ニテ適度ニ濃縮シ更ニ「ゴルベン」ニ移シ「スタースオットー」氏ノ法ニ從ヒ九〇・〇「プロセント」ノ「アルコール」約三倍量ヲ加ヘテ還流硝子管ヲ附セル「コルク」ヲ以テ栓シ攝氏八十度ノ水浴上ニ時々震盪シツヽ數時間浸出シソレヨリ一日間室溫ニ靜置セル後濾過シ殘渣ニハ更ニ「アルコール」ヲ加ヘテ二回前同樣ニ所置セリ最終ノ殘渣ハ第三十一項金屬性毒物ノ檢査ニ用ユ

二六、前項ニ於ケル前後三回ノ濾液ヲ合シ水浴上ニテ「アルコール」分及水分ヲ揮逐シ含利別狀トナシ次ニ之ヲ純「アルコール」ニテ所置シ濾液ヲ水浴上ニテ蒸散シ殘渣ヲ溫水ニテ浸出濾過ス濾液ハ赤褐色ニシテ明ニ酸性ナリ之ヲ原液ト名ヅケ之ヲ以テアルカロイド等ノ浸出ヲナセリ

二七、原液(二十六項)ヲエーテル浸出器ニ移シエーテルヲ以テ浸出スル事十二時間原液(第二十八項ニ用ユ)トエーテル層ニ分離

シエーテル分ヲ硝子皿ニ集メ水浴上ニ靜ニ蒸散シ殘渣ヲ溫水ニ浸出濾過シ濾液ヲ以テピクロトキシン、コルヒチン、ピクリン酸、アセトアニリード、フエナセチン、ザリチール酸、アンチピリン、コフエイン等ノ反應ヲ試ムルニソノ存在ヲ微セズ

二八、前項ニテエーテルヨリ分離セル原液ニナトロン滴汁ヲ加ヘテアルカリ性トナシ更ニ前項ト同樣ニエーテルヲ以テ浸出シ原液(次項ニ用ユ)トエーテル層トヲ分離シエーテルハ之ヲ小磁皿ニ取リ水浴上ニ蒸散シ得タル殘渣ニ一二滴ノ鹽酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシ濾過シソノ濾液ヲ以テアコニチン、アトロピン、ブルチン、ヘリドニン、コニイン、テルヒニン、エメチン、ナルコチン、ニコチン、パパベリン、ヒゾスチグミン、ピロカルピン、ゾラニン、チバイン、ベラトリン、ヒニン、コカイン、コデイン、ストリヒニン等ノ反應ヲ檢スルニソノ存在ノ微ナシ

二九、前項ニテ分離セル原液ニ鹽酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシ暫時放置後アルカリ性ヲ呈スル迄アンモニア水ヲ加ヘエーテルヲ以テ前同樣ニ浸出シ原液(次項ニ用ユ)トエーテル層トヲ分離シエーテルヲ硝子皿ニ集メ靜ニ蒸散シテ得タル殘渣ヲ弱酸性ノ水ニ取リ濾過シ濾液ヲ以テアポモルヒネノ反應ヲ檢スルニソノ存在ヲ微セズ

三〇、前項ニテ分離セル原液ヨリエーテルヲ驅逐シ之ヲクロヽホルム浸出器ニ移シ數時間浸出後クロヽホルムト原液トヲ分離シ原液ハ金屬性毒物ノ檢査物(第二十五項)ニ追加シクロヽホルムハ小硝子皿ニ集メ水浴上ニ蒸散シ得タル殘渣ヲ弱酸性ノ水ニ取リ濾過シ濾液ヲ以テモルヒネノ反應ヲ檢スルニソノ存在ヲ微セズ

亥、金屬性毒物ノ檢査

三一、第二十五項及前項ノ殘渣ヲ合シテコルベンニ取リ無硫鹽酸(以下單ニ鹽酸ト呼ブ其他ノ鹽酸モ無硫ノモノヲ用ヒシ事ハ前述ノ如シ)五十瓦ヲ加ヘ水浴上ニ加溫シツヽ時々少許ノ鹽素酸加里結末ヲ加ヘ有機物ヲ碎解シ上清液ガ淡黃色透明トナリ加溫スルモ最早褐色ニ變ゼザル程度ニ至リテ尙水浴上ニ加溫シテクロール瓦斯ヲ驅逐後冷却シ少許ノアンモニア水ヲ以テ酸性ヲ減弱シ濾過シテ濾液(第三十七項ニ用ユ)ト殘渣(第三十二項ニ用ユ)トニ分ツ殘渣ハ尙丁寧ニ水ヲ以テ洗濯シ洗濯液ノ中性トナルニ至リ止ミ此濾液ト洗濯液ハ合シテ第三十七項ニ用ユ

三二、前項ノ殘渣ハ帶黃褐色ニシテ稍粘稠ナルモノナリシヲ乾燥後強熱炭化シ更ニ硝石合劑ヲ加ヘテ坩堝內ニ加熱融解シ冷後白色融解物ヲ溫水ニ取リ炭酸瓦斯ヲ通ズル事三十分次ニ十分間煮沸シ冷後濾過シテ極メテ少許ノ白色殘渣ヲ得タリ

三三、前項ノ白色殘渣ヲ水ヲ以テ數回洗濯シ稀硝酸ニテ所置スル全ク溶解ス此溶液ヲ小磁皿ニ取リ水浴上ニテ硝酸ヲ驅逐シ得タル殘渣ヲ溫水ニ取リ濾過シ濾液ヲ以テ第三十四項乃至第三十六項ノ檢査ヲ行フ

三四、前項ノ濾液ノ一部ニ硝酸及鹽酸ヲ加フルニ透明ナリ卽銀化合物ノ存在ヲ微セズ

三五、三十三項ノ濾液ノ一部ニ硫化水素水ヲ加ヘ放置スルニ何等ノ變化ナシ卽鉛化合物ノ存在ヲ微セズ

三六、三十三項ノ濾液ノ一部ニ硫酸ヲ加フルニ透明ナリ卽バリウム化合物ノ存在ヲ微セズ

三七、第三十一項ノ濾液及洗濯液ヲ合シタルモノハ淡黃色透明ニシテ弱酸性ナリ之ヲコルベンニ取リ空氣ヲ以テ殘餘ノクロール瓦斯ヲ驅逐シ水浴上ニ微熱シツヽ硫化水素瓦斯ヲ靜ニ通ズル事

三時間ツレヨリ一夜密栓靜置シ翌朝開栓シテ檢スルニ尙硫化水素臭甚シ而シテコルベン內容ハ帶黃淡褐色ニ混濁シ瓶底ニ同色ノ沈澱多量存在ス之ヲ濾過シテ濾液(第三十八項ニ用ユ)ト沈澱(第四十二項ニ用ユ)トニ分ツ

三八、前項ノ濾液ハ淡褐色透明ニシテ弱酸性ナリ之ヲビーカーニ取リ加熱シテ硫化水素瓦斯ヲ驅逐シ更ニ析出セル硫黃ヲ濾別シ濾液ヲ三分シテ第三十九項乃至第四十一項ノ檢査ヲ施行セリ

三九、前項ノ濾液ノ第一分ニアンモニア水ヲ加フルニ淡褐色ノ沈澱少許ヲ生ズ之ヲ濾別シ濾液ヲ醋酸々性トナシ硫化水素水ヲ加フルニ白色ノ沈澱少許ヲ生ズ然ルニ此沈澱ハ容易ニ硫化炭素ニ溶解ス卽チ亞鉛化合物ノ存在ヲ微セズ

四〇、第三十七項ノ濾液ノ第二分ニ鹽酸及硫酸ヲ加フルニ何等ノ沈澱ヲ生ゼズ卽チバリユーム化合物ノ存在ヲ微セズ

四一、第三十七項ノ濾液ノ第三分ヲ水浴上ニ蒸散乾固シ得タル殘渣ニ硝石合劑ヲ加ヘテ坩堝內ニ靜ニ融解シ白色ノ融解物ヲ得冷後之ヲ溫水ニ取リ濾過シ清明ナル濾液ヲ得タリ此濾液ヲ醋酸々性トナシ中性醋酸鉛水溶液ヲ加フルニ白色ノ沈澱多量ヲ生ズ卽チクローム化合物ノ存在ヲ微セズ

四二、第三十七項ノ沈澱ヲ硫化水素ニテ沸騰シ溫硫化アンモンニテ浸出スル事數回殘渣(第四十三項ニ用ユ)ト濾液(第四十四項ニ用ユ)トニ分ツ

四三、前項ノ殘渣ハ淡褐色ニシテ稍多量アリ之ヲ濾紙ト共ニ鹽酸及鹽素酸加里ヲ以テ所置シ濾過シテ濾液ヲ小磁皿ニ取リ水浴上ニ蒸散シ且空氣ヲ通ジテクロール瓦斯ヲ驅逐シ且鹽酸ノ過剩ヲ去リ適當量ノ水ヲ以テ稀釋シ飽和硫化水素水ヲ加ヘテ密閉放置スル事多時ナルニ何等ノ沈澱ヲ生ゼズ卽チ水銀、銅、鉛、苔鉛カドミユーム化合物ノ存在ヲ微セズ

四四、第四十二項ノ濾液ハ汚褐色ヲ呈ス之ヲ磁皿ニ取リ水浴上ニテ乾燥シタル後少許ノ發煙硝酸ヲ加ヘテ再ビ水浴上ニ乾燥シ三回同樣ニ硝酸ヲ以テ所置セル後少許ノナトロン滴汁ヲ以テ溫シ硝石合劑ヲ加ヘテ佳ク混和シ白金坩堝內ニテ靜ニ融解シ冷後融解物ヲ溫水ニ取リ炭酸瓦斯ヲ通ズル事三十分、極メテ微ニ濁濁ス濾過シテ殘渣(第四十五項ニ用ユ)ト濾液(第四十六項ニ用ユ)トニ分ツ

四五、前項ノ殘渣ハ再ビ濾紙ト共ニ鹽酸及鹽素酸加里ヲ以テ所置シ濾液ヲ水浴上ニテ加溫シクロール瓦斯ヲ驅逐シ鹽酸ノ過剩ヲ去リ適當量ノ水ヲ以テ稀釋シ飽和硫化水素ヲ加ヘテ密閉スル事多時ナルニ何等ノ沈澱ヲ生ゼズ卽チアンチモン及錫化合物ノ存在ヲ微セズ

四六、第四十四項ノ濾液ノ二等分シソノ一分ハ第四十九項ニ用ヒ他ノ一分ハ硫酸ヲ加ヘテ煮沸シ炭酸瓦斯及硝酸ヲ驅逐シ硫酸ノ蒸氣ヲ發生スルニ至リ煮沸ヲ止メ冷後此液ヲ以テ左ノ方法ニ依リ砒素ノ存否ヲ檢セリ

四七、卽チ後備檢査ヲ行フ事一時間ニシテ尙砒素鏡ヲ生ズル事ナキヲ確定セルマルシユ氏裝置ニ該液ヲ透レバ數分ニシテ砒素鏡ヲ生ジ時間ヲ經過スルニ從ヒ益々著明トナリ遂ニ黑色ノ光澤アル顯著ナル砒素鏡ヲ得タリ

四八、前項マルシユ氏裝置ニ於ケル還元管下ノ煙火ヲ減シ還元硝子管ノ尖端ニ點火シソノ小焰上ニ冷却セル白色小磁皿ヲ保持セバ光澤アル黑色斑ヲ生ズ此斑ヲ次クロール酸ナトリウムノ濃厚液ニテ溫セバ直ニ消失ス卽チ前項及本項ノ結果ニ依リ明ニ檢査物中砒素ノ存在スル事ヲ證明スル事ヲ得タリ

黄、砒素ノ定量

四九、第四十六項ノ第二分ハ更ニコルベンニ移シ臓酸ト少許ノ鹽素酸加里ヲ以テ所置シ水浴上ニテクロール瓦斯ヲ驅逐シアンモニア水ヲ以テ酸性ヲ減弱シ以下第三十七項ノ如ク所置シ淡黄色ノ沈澱少許ヲ得タリ此沈澱ヲ重量已知ノ濾紙ニテ濾別シ硫化水素水、アルコール、硫化炭素ヲ以テ洗滌シ更ニアルコールヲ以テ殘餘ノ硫化炭素ヲ去リ百十度ノ乾燥器ニテ乾カシ硫酸乾燥器内ニテ室温トナシ後秤量シテ得タル量ヨリ濾紙ノ重量ヲ減ジ五硫化砒素ノ重量ヲ得タリ

五〇、前記五硫化砒素ヲアンモニア水ニテ丁寧ニ溶解シ水浴上ニテ蒸散乾固シ硝酸ニテ酸化シ水浴上ニテ過剰ノ硝酸ヲ去リ温水ニ取リ僅ニアンモニア性トナシマグネシヤ混合液ヲ攪拌シフヽ適加シ一夜静置後得タル沈澱ヲ小濾紙上ニ集メ一二「プロセント」ノアンモニア水ニテ佳ク洗滌シ得タル沈澱ヲ比重一・二ノ硝酸ト水トヲ等分ノ混合液ヲ以テ溶解シ水浴上ニ静ニ硝酸ヲ蒸散シ敷咯トナシ重量已知ノ坩堝ニ移シ全ク乾燥セシメタル後ブンゼン燈上ニテ三十分間強熱シ冷後秤量シテ得タル重量ヨリ坩堝ノ重量ヲ減ジ無性砒酸マグネシヤトシテソノ重量ヲ得タリ

五一、一般ニ砒素化合物ハ毒性強クソノ毒度ハ該化合物中ニ含有サレタル砒素ヲ亞砒酸ノ形ニテ含有スルモノト見做シタル毒度ニ略相當スルヲ以テ第四十九項、第五十項ニテ見出シタル砒素化合物ノ量ヲ亞砒酸ニ換算シテソノ毒度ヲ示スヲ便宜トス此目的ノ爲メニハ得タル重量ニ〇・六四ナル係數ヲ乘ズベシ

五二、前記ノ結果ニ依リ檢査物一三八・四瓦中ニハ五硫化砒素或ハ無性砒酸マグネシヤトシテ〇・〇〇九六瓦アリ之ヲ亞砒酸ニ換算スレバ〇・〇〇六一四四ニシテ胃腸及ソノ内容ノ全量ニ換算スレバ〇・〇六一四四瓦アリ

五三、上記ノ化學檢査ニ依リテkノ内臓中ニハ毒物トシテ砒素ノ稍多量ヲ檢出シソノ他ニハ毒物ト認ムベキモノヲ發見セズ故ニ以下ノ化學的檢査ハ金屬性毒物ノ檢査ノミニ限リ且砒素ヲ目標トシテ檢査ニ從事セリ肉解剖檢査ニヨレバkハ強酸若クハ強アルカリノ中毒ニ非ラザル事明ラカナルヲ以テ此檢査ヲ省略ス

(乙)脾、肝、腎ノ檢査

五四、脾、肝、腎ヲ納メタル瓶ヲ開クニ腐敗臭ノ他特異ナク臓器ハ一般ニ帶緑汚赤褐色ヲ呈シ暗赤褐色濃稠液ヲ交ヱ稍アルカリ性反應ヲ呈ス全量一二三〇・〇瓦アリ各臓器ヲ先ヅ剪刀ニテ細切シ之ヲ碎肉器ニテ尚微細ニ破碎シ液ト共ニ攪拌シテヨク混和後一二三・〇瓦ヲ精密ニ秤量分取シ前記第三十一項乃至第五十項ノ如ク所置スルニ略同樣ノ結果ヲ得明ニ砒素ノ存在ヲ證明スル事ヲ得タリ

五五、砒素定量ノ結果ハ左ノ如シ即檢査物一二三瓦中ニ五硫化砒素トシテ〇・〇〇七〇無性砒酸マグネシヤトシテ〇・〇〇七六ナリ故ニ平均〇・〇〇七瓦トシ亞砒酸ニ換算スレバ〇・〇〇四四八トナルヲ全量ニ引キ直セバ〇・〇四四八瓦ナリ

(は)骨ノ檢査

五六、採取セル脛骨七〇・〇瓦ヲ取リ細斷シテ細片トナシ強鹽酸ニテ之ヲ溶解シ更ニ適當ノ水ヲ以テ稀釋シ水浴上ニ熱シツヽ鹽素酸加里ノ粉末ヲ加ヘ以下略第三十一項乃至四十七項ノ如ク所置シテ極メテ幽微ナル砒素鏡ヲ得タリ

丁、總　括

五七、kハ是迄健康無病ナリシガ本年六月九日夕食後二三十分ニシテ苦悶、劇甚ナル腹痛少許嘔吐、下痢、意識溷濁等ヲ來シ四、五時間ノ後容態悪化ダ險惡トナリ四肢厥冷シ脈搏微弱、呼吸不正ニシテ心臓機能次第ニ衰弱シ遂ニ死亡セリ此等ノ簡單ナル生前症狀ノ記載ニ依リテハ如何ナル疾病ニテ彼女ガ死亡セシヤヲ知ルニ苦シムト雖尚症狀ニ依リ中毒ニ非ラザルヤノ疑ヲ起サシム然ルニソノ解剖所見ニハ稍著ルシキ胃腸加答兒ノ症候アルノミニシテソノ他ニハ何等死因トナリ得ベキ程ノ病的變化ヲ發見スル事能ハズ又此胃腸加答兒トテモ直接直ニ死ヲ來ス程ノモノニ非ラズ然ラバ彼ノ死因ハ何レニアリヤ

五八、然ルニ化學的毒物ノ檢索ニ依リテ予ハ彼ノ内臓ヨリ多量ノ砒素ヲ發見シ之ヲ亞砒酸ニ換算スレバ合計凡ソ〇・一〇六二四瓦トナル(第五十二項、五十五項參照)尚此毒物ハ全身ニ分布シ居リ彼ガ骨ノ一部ヨリスラモ予ハ之ヲ證明スル事ヲ得タル位ヒナレバ(第五十六項)ソノ全身ニ分布スルモノヲ捕集スル事ヲ得バ尚多量ノモノタルヤ疑ナシ而シテ亞砒酸ノ人ニ對スル致死量ハ〇・一—〇・二瓦ナレバkハソノ致死量以上ヲ攝取シ以テ中毒死ニ至リシモノナラム

五九、然ラバ砒素劑ノ中毒ニシテ此ノ如ク短時間ニテ死ニ至リ且何等特有ナル解剖所見ヲ殘サヾルモノアリヤ予ハ次ニ砒素劑ガ一般ニ人身ニ及ボス作用換言スレバソノ中毒症狀解剖所見等ヲ成書ヨリ摘記シkノソレト相對照セント欲ス

戊、砒素劑ノ一般人身ニ及ボス作用

六〇、砒素劑ト稱ツノ少量ハ毒物ニ非ラズ藥物トシテ使用セラル凡ソ〇・〇一乃至〇・〇五瓦ヲ用ユル時ハ始メテ中毒症狀ヲ來シ約〇・一乃至〇・二瓦ヲ用ユル時ハ通常人ヲ死ニ致スモノナリ

六一、砒素劑ノ人身ニ及ボス作用ハ之ヲ溶解セル形ニ於テ服用セシト或ハ不溶ノモノヲソノマヽ攝取セシトニ依リテ中毒症候ヲ來ス時間ニ遲速アリ或ハ中毒者ノ年齢、男女ノ別、胃ノ狀態、個人特異性等ニ依リテ中毒ノ症候一定ナラズト雖一般ニソノ症狀ヲ略記セバ神經症狀ノ重キモノト胃腸症狀ノ勝レルモノトノ二種アリ

六二、神經症狀ノ重キモノニ於テハ服藥後一二時間ニシテ頭重、頭痛、眩暈、意識溷濁、失神、譫語、痙攣、麻痺等ヲ來シ數時間乃至十數時間ノ後ニ死ニ至ル砒素劑中毒ガ此形式ヲ取ルハ稍稀ニシテ其ダ急性ニ經過スル爲メ特異ナル解剖所見ヲ殘ス事ナシ

六三、反之急性胃腸加答兒ノ以テ始マルモノハ砒素劑中毒ニ其ダ屢々見ル所ニシテ服毒後二三時間或ハ時ニ依リテハ之ヨリ遲ク咽頭、食道ニ熱灼ノ感アリ次デ嘔氣、頻回ノ嘔吐、下痢ヲ來シ糞從來泔汁樣ヲ呈ス、ソノ他爽急後重、煩渇、頭痛、食欲不振倦怠等ヲ訴ヘ尿ハソノ量ヲ減ジ蛋白及血液ヲ含有シ時々尿閉ス四肢厥冷シ然而四肢皆白、四肢端ハ紫藍色トナリ脈搏小ニシテ呼吸苦シク嘶腹、胸内苦悶等アリ意識ハ明瞭ナルモ虚脱ニ陥リ最モ急性ノモノハ服毒後十數時間ニシテ死ニ至ル

六四、毒物ノ吸收稍緩徐ナルモノニアリテハ劇甚ノ嘔吐及ソノ他ノ前記ノ如キ症候ハ一二日ニシテ輕快スルモ衰弱次第ニ加ハリ皮膚ニ熱灼ヲ覺エ脈搏細小、頻數ニシテ不正トナリ口唇蒼白尿黄疸等ノ來シ發病後第三乃至第五日ニ至リ皮膚ニ紫斑、丘疹、蕁麻疹等ヲ來シ衰弱益々增加シ遂ニ虚脱ニ陥リ服毒後三日乃至十日ニシテ死ニ至ルカ或ハ幸ニシテ劇甚ナル嘔吐、下痢ノ爲メ毒物ヲ身體外ニ排出シ終ル時ハ前記ノ症狀五日乃至十日間漸次ト進次第ニ輕快ニ赴キ遂ニ全快スルモノアリ

六五、死體解剖所見トシテハ嘔吐、下痢甚シクソノ經過稍長キモ

ノニ在リテハ眼窩陷没シ皮膚彈力無ク鵞閉膜及胃腸粘膜面ノ血管ハ充血シ胃中ニハ腐様ニシテ粘稠ナル結液ヲ容レ噴門部幽門部、粘膜潮濁腫脹シ一部ニハ充血シ一部ニハ溢血點ヲ見ル事アリ大小腸ニ於テモ粘膜ハ腫脹、潮濁シ溢血アル事アリ腐様ノ結液ヲ以テ掩ハレ乳汁様ノ内容アリ腎肝ハ腫脹シソノ斷面潮濁ス又胃腸粘膜、肝、腎、心筋等ニ脂肪變性ヲ來ス

六六、砒素劑ノ慢性中毒トシテハ輕キ或ハ重キ胃腸加答兒、黄疸、胸膜及腹膜ノ炎症、頭重、頭痛、倦怠、知覺異常、痲痺、震顫、攣縮、戰神經炎、亞砒酸黑皮症、同角化症精神鬱抑、不眠、營養不其、衰弱ヲ來シ此症狀甚ダ久シキニ亘ル時ハ遂ニ衰弱ノ爲メニ死ニ至ル事アリ

攝取サレタル砒素劑ノ大部ハ嘔吐下痢等ニ依リテ排出サルヽト雖一部ハ吸收サレテ血行内ニ移行シ全身各臟器ニ分布貯臟サレ中毒者ガ幸ヒソノ中毒經過良好ニシテ漸次快方ニ向フニ從ヒ臟器中ニ貯臟サレタル砒素劑ハ再ビ血行内ニ移行シ徐々ニ胃腸壁及腎臟等ヨリ(即大便及尿中ニ)排出サレ此ニヨリテ更ニ輕キ砒素中毒症狀ヲ惹起シ所謂慢性中毒ニ移行スルモノニシテ一度攝取セシ砒素劑ガ大便尿等ニ排出セラルヽハソノ攝取セシ量ニ依リ多少差異アリト雖數十日乃至二三ケ月ニ亘ル事アリト云フ

六七、多量ノ砒素劑ヲ取リ中毒セルモノ、後ハシテハ急性ニ經過シ且神經性症狀甚ダシキモノニ於テハ中毒後數時間乃至十數時間ニシテ死ニ至リ次ニ胃腸症狀ノ甚ダシキモノニ於テ數日中ニ死亡シ或ハ吐瀉ノ爲メ幸ニ毒物ノ大部分ヲ體外ニ排出スル時ハ漸次輕快ニ赴クト雖所謂慢性砒素中毒ニ陥リ衰弱ノ爲メ一、二ケ月後死ニ至ルカ或ハ全快ス即チ後ハ前ニ付キテハソノ中毒症候ノ强弱、攝取セル方法、毒物ノ量、年齢、男女ノ別、胃ノ狀態、治療ノ如何、個人特異性等ニ大ナル關係アルモノナレバ一概ニ之ヲ論定スル事能ハズ

己、結　論

六八、kハ是迄健康ナリシガ六月九日夕食後急ニ胃腸加答兒及神經性症狀ヲ起シ心臟衰弱ニ依リ四、五時間後死亡セリ(第一、二項)今ソノ死因ヲ究ムルニ解剖檢査上稍著シキ胃腸加答兒アルノミニシテソノ他ニハ死因トナルベキ程ノ病變ヲ發見スル事能ハズ(第三項乃至二十一項)然ルニ一面化學的檢査ニ於テ液ノ死體内ヨリ砒素劑ヲソノ致死量以上ニ發見セル事(第二十二項乃至五十六項)他面ニ彼ガ生前ニ於ケル症狀及解剖所見(第一乃至二十一項)ト第六十二項ニ記載セル一般ニ砒素劑ノ人身ニ及ボス作用中ソノ神經症狀ノ重キモノトヲ比較スル時ハ甚ダ相似タルモノアル事ヲ併セ考レバkハ砒素劑ノ中毒ニ依リテ死ニ至リシモノナリ

第二、K、K檢査記錄

○○○縣○○郡○○町大字○○
K、　K
二十八歳

甲、既往歷及今回ノ病歷

六九、Kハ生來健全ニシテ脚氣ヲ經過セル事無ク目下輕快セル眼病ノ他著患無シ

七〇、大正〇年六月九日午後七、八時頃母(k)ト共ニ夕食トシテ米ノ粉ノ團子入ノ茶粥三碗(一碗ノ容量約二百餘)ヲ食ヒタルガ内二碗ハ團子ノ混在セザル部ニシテ不快ヲ感ゼザリシモ第三碗ハ團子塊ヲ混在シテ腐敗臭ヲ帶ビ居タル爲メ少シク嘔氣ヲ催セリト云フ夕食後約三十分ニシテ胸部ニ苦悶ヲ覺ニ腹痛甚シク執拗ニ反復スル激烈ナル嘔吐ヲナセリ吐物ハ全體淡桃色ニ血液ヲ以テ染メラレタリト云フ但I醫師ハ之ヲ檢セザリシト此時同醫師ノ與ヘシ處方中ニ次硝酸芥鉛アリ

七一、同日午後八、九時頃I醫師ノ診セシ處ニ依レバ症狀殆ド母ト同ジク(第一、二項)嘔嘔吐ノミハ著シク夥多ナリシモノヽ如シ而シテ比較的元氣ヨク醫師ニ病況等ヲ物語レリ

七二、同十日午前一時頃同醫師ノ再診セシ時ニハ稍輕快ニ向ヒ腹痛少シク減退ノ兆アリシモ此時ヨリ意識稍潮濁セルノ觀アリ顏面少シク潮紅シ居タル様ニシテ全ク睡眠スルコトヲ得ザリシト云フ、同醫師ハ樟腦油一筒ノ皮下注射ヲナシ且興奮劑ヲ與ヘ强キ中毒ノ疑ヒ有ルニヨリ同十日午前八時頃K、H醫師ノ立會ヲ求ムルニ至レリ

七三、同十日午前八時頃K、H醫師ノ診スル處ニヨレバ發安眠シ得ズ苦悶狀態ニアリ口脣紫藍色ヲ呈シ脈搏毎分約百、不整ナレ共結滯セズ心窩部ニ自發痛並ニ壓痛アリ時々嘔吐ス吐物ハ醬汁様物ノミニシテ食物ノ殘餘ヲ見ズ又血液様物ノ混入ヲ見ズ顏面ノ潮紅及表皮剝脫無シ瞳孔ノ大サ尋常、視力障礙無シ、渴甚弱ク不斷ニ「水々」ト絶叫スルモ食思ハ殆ド皆無、腹部膨滿ヲ見ズ熱無タ頭重アレドモ頭痛ヲ缺ク、眼頭部ハ之ヲ檢セズ、四肢ノ麻痺ハ之ヲ檢セズ又麻痺ノ訴無シ下痢一回モ無キ爲メI醫師ハ十日午前九時頃約五百瓦ノ食鹽水注腸ヲ行ヒシニ後間モナク水樣便二回泻出セリ(注腸物ノ逆流)爾後又便通ヲ缺ク

七四、嘔吐ハ九日發病當時ヨリ翌十日正午頃沈間斷ナク持續シテ殆ド口ノ閾(此處ヨリ頭ヲ伸シテ前ノ土間ニ吐セリ)ヲ離ルヽノ暇無ク内服藥モ嘔下後多クハ直ニ吐出セリト云フ吐物ハ九日中ハ食物ノ殘物ニシテ血液ノ爲ニ全體淡紅色ヲ呈セシモ十日ニ至リテハ腹已ニ空虛トナリテ又食物ノ殘物ヲ混ゼズ唯苦キ液(膽汁)ノミニシテ中ニ所々血液ニヨル點狀ノ桃色ノ部分ヲ見タリト云フ此時ノ吐物ヲ化學檢査ノ爲メ交附セラレタリ

七五、十一日ノ病狀ハ已ニ腹痛無ク唯嘔吐時々有ルノミ、嘔吐中ニ一回一疋ノ生存セル蛔虫ヲ出セリ食慾全ク無ク猶睡眠障礙アリ十二日ノ症狀ハ十一日ト大差無ク更ニ稍輕快ニ赴ケリ

發病以來持續セシ睡眠障礙ハ十二日ノ夜ヨリ少シク減退シ稍就眠スルコトヲ得食慾モ亦其頃ヨリ少シク生ジタルニヨリ薄粥少許ヲ與ヘシガ悉ク直ニ嘔吐シ了レリ

七六、十三日朝空腹ノ感ジ再粥ヲ食セシニ大部分ハ敢マリシモ少許ハ之ヲ嘔吐セリI醫師ノ處方ニ依レバ今日迄砒素劑ヲ處方セシ事一度モ之レナシト云フ予ハ此日T醫師ト共ニKノ住所ニ至リ親シク患者ヲ視且T醫師ヲシテKヲ診察セシメタリソノ現在微候ハ左ノ如シ

乙、大正〇年六月十三日午前十時ニ於ケル現在症候

七七、體格榮養共ニ中等ノ男子ニシテ皮下脂肪層及筋肉ノ發育中等ナリト雖元氣無ク不安ノ狀アリ床上ニ臥セリ右側位ヲ好ム(コハ羞明ノ爲ニシテ左側ヨリ光線ノ入レル室ニ在リシ故ナリ)呻吟ヲ間カズ意識稍明亮ナルモノヽ如シ顏面皮膚潮紅シ頓ニ鼻及上下顎骨ニ於テ所々表皮ノ剝脫セルヲ見ル軀幹、四肢ハ稍蒼白ナレドモ棒ヲ以テ輕ク擦過スレバ暫時ノ後其痕ニ强度ノ充血ヲ生ズ(デルモグラフイー)發疹ヲ認メズチアノーゼ及浮腫無シ脈搏毎分七十五至整ニシテ稍窮ナリ

七八、頭部毛髮濃ク脫毛及外傷無シ自發痛并ニ壓痛ヲ訴ヘズ前額ニ豆大ノ古キ傷痕アリ眼閉ヂ强ヒテ開カシムルモ又直ニ閉ヅ(羞明)眼瞼及涙液ノ分泌過多充血モ亦其著明ナリト雖視力及聽

力異常無キモノヽ如シ左耳ニ膿漏アリト雖之ハ發病前ヨリノモノニ屬ス舌ハ灰白黄色ノ厚キ苔ニ掩ハレ口腔臭氣強シ口腔并ニ咽頭ノ粘膜發赤シ咽頭ニ於テハ輕度ノ腫脹ヲ伴フ扁桃腺腫大セズ咽喉部熱灼ノ感無シ頸部壓痛無シ

七九、胸廓ハ左右平等ニシテ胸部外面ニ特記スベキ異常ナク心尖搏動ハ見エザルモ左乳頭ノ内下方ニ之ヲ觸レ心臓ノ濁音界、上ハ第三肋間、右ハ胸骨左縁、左ハ左側ノ乳線ヨリ半糎内方（肥大ナシ）ニアリ心音各部ニ於テ微弱ナリト雖明亮ニシテ濁音ヲ伴ハズ右鎖骨上窩ニ於テ著明ナル獨樂音ヲ聞ク肺臓打及聽診上異常無シ

八〇、腹部平常、胃部ニ輕度ノ壓痛ヲ存スルモ自發痛無シ肝臓下縁ハ右乳線ニ於テ肋骨弓ノ下縁ニ在リ（肥大無シ）脾臓及腎臓ヲ觸レズ又其部及膀胱部ニモ壓痛無シ

八一、兩上肢ノ手關節ヨリ以下全部及左下腿ニ知覺異常アリ何時頃ヨリ始マリシモノカ不明ニシテ共ニ觸覺甚シク減退ス（痛覺及溫覺ハ之ヲ檢セズ）運動障害ヲ見ズ右下腿ニハ異常ナシ（兩下腿ノ浮腫無シ）腹皮反射提睾筋反射、膝蓋腱反射等異常ヲ見ズ

右拇指パピンスキー位置ヲ採リシモパピンスキー現象ヲ缺タ

丙、尿檢査

（六月十三日午後ニ排泄セル尿ヲ同十四日午前九時ヨリ十五日正午ニワタリ京都醫科大學法醫學教室ニ於テ檢査ス）

上、化學的一般檢査

八二、黄褐色ニテ輕度ノ濁濁ヲ帶ビ弱酸性反應ヲ呈ス（健者ノ尿ハ透明ナリ蛋白尿ノ時ニ通常濁濁ス）

葡萄糖ヲ檢スルニトロメル氏法ニテ陰性ナリ次ニ尿ニ同量ノ鹽酸ヲ加ヘ更ニ石灰水微量ヲ滴下スルモ青藍色ヲ呈セズ更ニタロ、フォルヲ加ヘテ振盪スルモ其青藍色ニ染ムヲ見ズ即チインヂカンノ存在ノ微セズ更ニ尿中ノ蛋白ヲ檢スルニ（い）ヘルレル氏法ニテ陽性（但輕度ニ）（ろ）煮沸法ニテ陽性（但シ同樣ニ輕度ニ）（は）濾過シテ透明トナレル尿少許ニ醋酸ノ僅微量ヲ加ヘシモノニ三倍ニ稀釋セルフェロチアン加里ヲ滴下スルニ忽ニシテ微弱ナル濁濁ヲ生ズ（陽性）

即チ蛋白存在スル事明ニシテコハ腎臓炎ノ際ニ見ル現象ナリ

中、顕微鏡的檢査

八三、依テ尿ノ少量ヲ取リテ遠心器ヲ以テ浮遊物ヲ集メ之ヲ顕微鏡下ニ檢セルニ其結果左ノ如シ

（い）白血球　陽性（腎臓炎ノ尿中ニ多ク出ヅ）

（ろ）赤血球　陰性（腎臓炎ノ尿ニ比較的稀ニ出ヅ）

（は）顆粒狀及硝子樣圓柱　共ニ陽性但小數（腎臓炎ノ尿中ニ屢々出ヅ）

（に）腎臓其他尿道上皮細胞　陰性（慢性腎臓炎ニ屢々檢出ス）

（ほ）黄色ニシテ光輝アル砂時計形ノ蓚酸カルチウムノ結晶、陽性（急性ノ下痢又ハ腎臓炎ノ時ニ多ク見ラルヽモノ）

（へ）多數ノ細菌　陽性（之ハ尿ヲ空中ニ放置セシ爲メ發生モルモノナリ）

下、化學的毒物檢査

八四、尿百瓦ヲ採リ第三十一項乃至第四十八項ノ如ク所置シテ檢スルニ極メテ微微ノ砒素鏡ヲ得タリ但シ其他ノ金屬性毒物ノ存在ヲ微セズ

丁、嘔吐物（六月十日午前一時吐出）檢査

上、一般檢査

八五、檢査物ハ汚黄綠色ノ液ニシテ不快ナル腐敗臭強ク弱酸性反應ヲ微ス内ニ鏡別シ難キ微細不定形ノ汚黑色ノ沈澱少許アリ吐物ヲ顕微鏡下ニ檢スルニ表面ニ近キ部分ニ於テハ（上清液）顆菌（快ニ發育セルモノ）ノ多數ノ他何等有形物ヲ認メズ底部ノ沈澱ハ少許ノ有形物アリト雖腐敗高度ノ爲メソノ何ナルヤヲ鑑別スル事能ハズ但結晶物ノ存在ヲ認メズ

下、金屬性毒物檢査

八六、檢査物ノ一〇〇・〇瓦ヲ取リ第三十一項乃至第四十八項ノ如ク所置スルニ砒素ノ存在ヲ微セズシテ若干多量ニ存在スル事ヲ知レリ念ノ爲メ同樣ノ所置ヲ更ニ一回繰リ返スモ同樣ノ結果ヲ得タリ

戊、診斷（中毒ノ原因、種類、作用ノ說明）

八七、僅ニ一回ノ診察ノミニ依リテKノ病因ヲ確定スル事困難ナルヲ以テ上記既往歷及今回ノ病歷（第六十九項乃至七十六項）現在症候（第七十七項乃至八十二項）尿及吐物ノ檢査（第八十二項乃至八十六項）ヲ綜合シテ考察スルニKノ病症ハ急性砒素中毒症ノ經過中ニ在リソノ理由左ノ如シ

（イ）Kハ朞k下同時ニ同一ノ釜ニ在ル粥ヲ食シ略同時ニ類似ノ症候ヲ惹起セリ唯相違セルハKニ於テハ胃腸症候ノ劇甚ナリシノミ而テ母kハソノ解剖所見、化學的檢査ノ結果砒素中毒ト確定セル事

（ロ）Kノ疾病經過中ニ砒素劑中毒症ニ類發スル諸症狀即チ激烈ナル嘔吐、煩渴、胸部苦悶、甚シキ腹痛、浮腫等ナクシテ尿檢査ノ結果蛋白等ヲ含有シ急性腎臓炎ノ存在確實ナル事、口腔咽頭粘膜ノ剝脱現象、結膜炎（元來眼疾アリシ故多少ノ結膜炎ハ存セシナランモ此ノ如ク强度トナリシハ今回發病後ノ現象ナリ）强度ノデルモガラフィー、顔面ノ潮紅及夫皮剥脱（コハ砒素劑中毒ノ際生ズル諸種ノ發疹ノ經過後ノ現象ニ非ラズヤト思ハル）兩上肢手關節以下及左下腿ノ知覺異常（所謂砒素麻痺ノ初期ニ非ラザルヤ）チアノーゼ、心臓ノ急性衰弱、睡眠障害、輕度ノ意識濁濁、頭重等アル事

（ハ）六月十三日排泄ノ尿中ニ砒素ヲ含有スル事、而モ近時波ハ砒素劑ヲ處方セラレシ事ナキ事

等ヲ綜合シ尙前記六十三項及六十四項ニ記載セル砒素劑ノ一般人身ニ及ボス作用中胃腸症狀ノ偏勝セルモノトヲ對照スル時ハ甚ダ相類似スルモノアルヲ知ルベシ

八八、Kガ胃腸症狀ノ强キ砒素劑中毒ニ罹リナガラ比較的下痢少ナキハ發病後間モナク腎師ニ次硝酸蒼鉛及阿片等ヲ處方セラレシ爲メニシテ尿ニインヂカンヲ檢出セザルハ食物ガ尚腸ニ多量ニ達セザル以前ニ其シキ嘔吐ノ爲メ排出シ盡サレシ故ナランソノ他尿中ニ赤血球或ハ尿道等ノ上皮細胞ヲ檢出セザル等ノ事實ニ依リテ砒素劑中毒症ヲ否定スルノ理由トナス事能ハズ

八九。六月十日Kガ吐出セル液質内ニ砒素劑ヲ證明スル事能ハザリシハ波ノ類回ノ嘔吐ノ爲メ毒物ヲ排出シ盡シタル後ニシテ尚胃壁ヨリ再ビ之ヲ析出スルノ暇ナクシテ吐出シタルモノナレバ砒素ノ存在セザルハ敢テ怪ムニ足ラズ又此吐物中ニ若鉛ヲ發見シタレ共是亦壓用トセシ次硝酸蒼鉛ヨリ由來セシモノナルベシ故ニ是等ノ事實モ亦Kガ砒素中毒症ニ非ラズトノ理由トナス事能ハズ

要之Kガ急性砒素劑中毒症ニ罹レル事ハ殆ンド疑ヲ挾ムノ餘地ナシ

己、木病ノ後

九〇、Kハ胃腸症候ノ偏勝セル急性砒素劑中毒ニ罹リタレ共幸ニシテ毒物ノ大部ハ嘗シキ嘔吐ニヨリ排出シタル爲メ生命ニハ別條ナク只一部分吸收サレ血行内ニ移行シ臓器ニ貯蓄サレタル砒素ガ再ビ胃腸壁ニ析出スル爲メ急性ノ砒素劑中毒症狀ノ後ニ亞急性次デ慢性中毒症狀ヲ來シ(第六十五項參照)Kノ平常ノ體質ニシテ强壯ナルモノナレバ十數日乃至一、二ケ月ノ後ニ全快スベクモシ彼ノ體質ニシテ羸弱ナルモノナレバ頗ル長期ニ亘リ或ハ衰弱ニ依リテ死ニ至ル事アルベシ予ガ見タル彼ノ體質ヨリ考フレバ恐ラクハ一、二ケ月中ニ次第ニ輕快ニ赴クナルベシ但シ已ニ第六十七項ニ述ベタルガ如タ總ベテ中毒症ノ後ハソノ症候ノ强弱、毒物ヲ攝取セシ方法量中毒者ノ年齡、男女ノ別、胃腸ノ狀態、治療ノ如何等ニ依リテ一定ナラズ又假令此等ノ事因ヲ同フスルトモ個人特異性ニ依リテ大ナル徑庭ヲ生ズルモノナレバ後ヲ確定スル事ハ甚ダ困難ナリ

第三　k、K兩名ガ共ニ砒素劑中毒ニシテ面モソノ結果同ジカラザリシ理由

九一、己ニ第六十一、六十七、第九十項ニ於テ述ベタルガ如ク一般ニ中毒ノ症狀、後ハ假令同毒物ヲ同時ニ同樣ニ同量攝取スルト雖ソノ中毒者ノ年齡、男女ノ別、胃腸ノ狀況、個人特異性ニ依リテ甚シキ差異アルモノナレバ已ニ頓齡ニ傾ケル老女k(六十三年)ト年齡ナル男子K(二十八年)トノ間ニ同ジク砒素劑ヲ取リナガラソノ中毒ノ症候、後ハ即チ中毒ノ結果ニ大差ヲ來シ一ハ死亡シ一ハ相當ノ時日後輕快ストモ敢テ怪ムニ足ラズ況ンヤ攝取セシ毒物ノ量兩人ノ胃腸ノ狀況等必ズシモ同樣ニ非ザリシト思ハル、點アルニ於テオヤ

第四　第一號證(米粉)檢査

九二、第一號證ハ白色ノ粉末ニシテ無臭、無味、全量六十六瓦アリ一少部分ヲ載物硝子板上ニ取リ覆蓋硝子板ヲ被セ水ヲ注加シ鏡檢スルニ無數ノ白色顆粒内ニ稍多數ノ無色多角形ノ結晶形物ヲ認メ注意シテ檢スレバ此結晶形物ノ内ニハ正整ナル八面體ヲナスモノアリ

乙、化學的檢査

九三、檢査物六・〇瓦ヲ取リ適當量ノ水ト鹽酸ヲ加ヘ水浴上ニ加溫シツ、時々鹽素酸加里ノ粉末少許ヲ加ヘ有機物ヲ碎解シ以下第三十一項乃至第五十二項ノ如タ所置シテ金屬性毒物ヲ檢シ砒素ノ顯ル多量ヲ檢出シ且之ヲ定量シ無性砒酸マグネシヤトシテ〇・四〇一瓦ヲ得タリ

九四、檢出セル砒素劑ハ(第九十二項ニ據レバ無色多角形ノ結晶性物ニシテ内ニ正整ナル八面體アルヲ以テ)亞砒酸ナル事確實ナリ故ニ之ヲ亞砒酸ニ換算スレバ檢査物六・〇瓦中ニ〇・二五六六瓦アリ即全量六十六瓦中ニハ亞砒酸二・五六六六ヲ含有シ尙本檢査物約三瓦以上ヲ攝取セシムル時ハ人ヲ死ニ致ス事ヲ得ルモノナリ(亞砒酸ノ致死量ハ〇・一五二瓦)

第五　第二號證(麵子)檢査

甲、一般檢査

九五、本檢査物ハ白色ノ粉塊二個ニシテ麵タ表面ハ淡黑色ニシテ粃粒夫乃至微粟粒大ノ發芽數多存在ス特臭特味ナシソノ別離セル小粉末ヲ載物硝子板上ニ取リ覆蓋硝子ヲ被セ少許ノ水ヲ加ヘ鏡檢スルニ數多ノ白色顆粒ト共ニ稀ニ正形或ハ不正形ノ八面體ヲ認ム全量三三・〇瓦アリ

乙、化學的檢査

九六、ソノ各個ヨリ略同量ヲ割取シ五瓦ヲ得之ヲ以テ第九十三項ニ於ケルガ如ク所置シ甚ダ多量ノ砒素ノ存在ヲ證明スル事ヲ得タリ即亞砒酸ノ存在スル事明ナリ定量ノ結果五硫化砒素トシテ〇・三二六〇瓦無性砒酸マグネシヤトシテ〇・三二二〇瓦ヲ得タリ即チ之ヲ亞砒酸ニ換算スレバ檢査物五・〇瓦中平均〇・二〇七〇瓦トナル之ヲ全量ニ換算スレバ一・三四五五瓦アリ故ニ本檢査物約三・〇瓦以上ヲ攝取セシムル時ハ人ヲ死ニ致ス事アリ

第六　第四號證(米粉)檢査

甲、一般檢査

九七、本檢査物ハ純白ノ粉末ニシテ無味無臭ナリ全量五十瓦アリソノ一少部分ヲ取リ第九十二項ノ如ク鏡檢スルニ澱粉顆粒ノ多數ト共ニ無色多角形ノ結晶物及八面體稍多量混在セリ

乙、化學的檢査

九八、本檢査物ノ五瓦ヲ取リ第九十三項ニ於ケルガ如ク所置シ明ニ砒素ノ存在ヲ證明スル事ヲ得タリ即チ亞砒酸ノ存在確實ナリ定量ノ結果無性砒酸マグネシヤ或ハ五硫化砒素トシテ〇・三八〇アリ之ヲ亞砒酸ニ換算スレバ〇・二四四二瓦ナリ故ニ全量中ニハ亞砒酸二四四二瓦アリ故ニ本證據品約三瓦以上ヲ攝取スル時ハ人ヲ死ニ至ス事アリ

第七　第六號證(粥)檢査

甲、一般檢査

九九、本檢査物ノ容レタル瓶ヲ開クニ一種ノ酵臭ヲ發ス本證ハ中性ヲ呈スル白色濁液ニシテ内ニ數多ノ飯粒ヲ混ズ之ヲ磁製平皿ニ移シ精檢スルモ飯粒ノ外特異ノ有形物ナシ

乙、化學的檢査

一〇〇、k及Kノ用ヰシ茶碗ニ水ノ充滿シソノ容量ヲ計ルニ約二百瓩ヲ容ル即チ本證二〇〇・〇瓩ヲ採リ第九十三項ニ於ケルガ如タ所置スルニ明ニ砒素ノ存在ヲ證明スル事ヲ得タリ依テ之ヲ定量スルニ二〇〇・〇瓩中五硫化砒素トシテ〇・六二五無性砒酸マグネシヤトシテ〇・〇五八瓦ヲ得タリ之ヲ亞砒酸ニ換算スレバ〇・〇三八四瓦ヲ含有スル割合ナリ故ニ前記ノ茶碗ヲ以テ本證ヲ約三碗食用ニ供スル時ハ人ヲ死ニ致ス事ヲ得ルモノナリ

第八　第七號證(小麥粉)檢査

甲、一般檢査

一〇一、本證ハ白色ノ粉末中ニ淡褐色小片ヲ混ズ特臭特味ナシ之ヲ第九十二項ノ如ク所置シテ鏡檢スルニ特記スベキモノナシ

乙、化學的檢査

一〇二、本品六・五瓦ヲ取リ第九十三項ノ如ク所置シテ檢スルニ砒素及ソノ他ノ金屬性毒物ノ存在ヲ微セズ

第九　第十三號證(桶底ノ粉末)檢査

甲、一般檢査

一〇三、本證ハ白色粉末中ニ黃色ノ粉末混在ス特臭、特味ナシ之ヲ第九十二項ノ如クシテ鏡檢スルニ特記スベキモノヲ認メズソノ全量〇・八瓦アリ

乙、化學的檢査

一〇四、ソノ全量ヲ取リ第九十三項ノ如ク所置スルニ無性砒酸マグネシヤトシテ〇・〇一三瓦アリ之ヲ亞砒酸ニ換算スレバ〇・〇〇八三瓦アリ故ニ本證品一〇・〇瓦以上ヲ攝取スル時ハ人ヲ死ニ致ス事アリ

第十　證據品檢査總括

一〇五、上記第九十二項乃至第百〇四項ニ至ル檢査ノ結果ヲ便宜ノ爲メ表示スレバ左ノ如シ

證品番號	檢査ニ用ヒシ量	亞砒酸結晶ノ存否	檢出セシ砒素ヲ亞砒酸量ニ換算セシモノ	亞砒酸含有量ヨリ計算セシ證品ノ致死量
第一號證（米粉）	六・〇瓦	存	〇・二五六六瓦	約三・〇瓦
第二號證（團子）	五・〇瓦	存	〇・二〇七〇瓦	約三・〇瓦
第四號證（米粉）	五・〇瓦	存	〇・二四四二瓦	約三・〇瓦
第六號證（粥）	二〇〇・〇瓦	存	〇・〇三八四瓦	約三碗（食事用茶碗ニ）
第七號證（小麥粉）	六・五瓦	否	—	—
第十三號證（栖寮ノ粉末）	〇・八瓦	存	〇・〇〇八三瓦	約一〇・〇瓦

尙此等證據品中ヨリ發見セル砒素劑ノ人身ニ及ボス作用ニ就テハ既ニ第六十項乃至第六十七項ニ述ベ置キタレバ茲ニ之ヲ略ス

（附記）此等證品中砒素劑ハ何處モ同量ニ混ジ居ルモノニ非ラザレバ檢査物採取如何ニヨリ定量ノ際多少ノ差異アルハ免レ難シト雖大體ニ於テハ大差ナシ

鑑定

上記第一乃至第一〇五項ノ記載ニ依リ左ノ如ク鑑定ス

一、K、kノ死因ハ急性砒素劑中毒ニ在リ而シテ予ガkノ内臓ヨリ發見シタル砒素劑ノ全量ハ〇・一〇六二瓦（亞砒酸ニ換算シ）ニシテ（第五十二、五十五、五十八項）コハ已ニ人類ニ對スル同劑ノ致死量以上ナリ

二、K、Kノ大正〇年六月十三日ニ於ケル症候ハ急性砒素劑中毒ニ因スルモノナリ而シテ彼ガ攝取セシ砒素劑ノ分量ハ之ヲ知ル事困難ナリト雖彼ノ茶碗ニ略三杯（第七十項）第六號證（第百項）ヲ食セシトスレバ彼ハ殆ンド致死量ニ近キ砒素劑ヲ取リシモノナリ

三、Kノ疾病ノ豫後ニ就テハ已ニ之ヲ第九十項ニ記載シ置ケリ

四、K、kガ等シク砒素劑中毒ニ罹リナガラソノ結果同ジカラザリシ理由ハ第九十一項ニ詳ナリ

五、第一、二、四號證品ハ亞砒酸ヲ含有セリ此等ノ證品ハ各約三・〇瓦以上ヲ攝取スル時ハ人ヲ死ニ致ス事アリ第六、十三號證ニハ砒素劑ヲ含有セリ而シテ第六號證ノ約三碗以上、第十三號證ノ約一〇・〇瓦以上ハ砒素劑ノ人類ニ對スル致死量以上ヲ含有セリ但第七號ニ證ハ砒素劑ヲ含有セズ

六、前記k及Kヲ急性中毒ニ陷ラシメタル砒素劑及第一、二、四、六、十三號證中ニ含有サレタル同劑ノ人身ニ及ボス作用換言スレバソノ中毒症狀及豫後ニ就テハ第六十項乃至第六十七項ニ詳說セリ

此鑑定ハ大正〇年六月十三日着手
同年七月〇日終了
京都市外田中村大溝二十一番地
鑑定人　小南又一郎

十二、中毒各論

抑々中毒ノ際ニ用ユル毒物ハ其種類甚ダ多ク、如何ナル藥品ガ毒物トシテ最モ多ク使用サル、カト云フニ、社會文明ノ程度、中毒者智識ノ高低、職業、性、年齢等ニ依リ多少ノ差アリ、又往々流行毒ナルモノアリテ或國ニ於テハ特ニ多ク自殺ニ用ヒラル、藥品アリ、例ヘバ我國ニ於テハ現今重くろーむ酸加里ヲ非常ニ多ク自殺ノ目的ニ用ユルガ如キ之レナリ。今世界各國ニ於ケル中毒ノ毒物類度ヲ表示スレバ左ノ如シ。

（一）Koppel 氏ノ中毒統計（一八八〇乃至一八八九年）。

H. Koppel 氏（Kobert ノ門下生）ガ蒐集セル、獨逸ノ文献ヨリ得タル一八八〇乃至一八八九年ノ十年間ニ於ケル統計（Kobert: Intoxicationen, 1893, S. 32）ヲ、例數ノ順ニ排列スレバ下ノ如シ。

獨逸ニ於ケル中毒統計

毒物名	例數		毒物名	例數
鉛	二七三		抱水クロラール	四二
有毒ナル食料	二〇〇		煙草	三四
砒素	一九一		キニーネ等	三四
モルヒネ	一八四		Stramonium	三一
石炭酸	一七九		沃度加里	三一
水銀	一六五		臭素及ビ其化合物	二四
阿片	一四八		Rhus toxicod	二三
アトロピン	一三一		サリチル酸及ビサリチル酸ナトリユーム	二三
ストリキニーネ	一一六		Cannabis indica	二二
酒精	一一五		Hyoscin 等	二〇
コカイン	一一四		莨菪	一九
沃度フオルム	七六		樟腦	一八
アコニチン	五五		サントニン	一六
			コフエイン	一三

一八九二年ヨリ一九一二年ノ廿年間ニ於ケル自殺者ノ剖檢記錄ヨリ Julius Kratter 及ビ Karl Ipsen 幷ニ Hermann Pfeiffer ノ三氏ガ蒐集セル五百九十五例ヨリ成ル中毒自殺表左ノ如シ（Pfeiffer: Über den Selbstmord, 1912, S. 25）。

毒物名	男	女	合計	
青酸加里	七＝二六％	二＝五％	二八＝一〇〇％	二＝七％
クローム酸加里	一＝三％	—	二＝七％	二八＝六八％
阿片	一＝三％	—	—	—
モルヒネ	一＝三％	—	一＝三％	二＝五％
ストリキニーネ	四＝一四％	一＝二％	一＝二％	一＝二％
一酸化炭素	二＝七％	—	—	—
砒素	六＝二四％	一＝二％	一＝三％	—
燐			四二＝一〇〇％	一＝二％
鹽酸				
昇汞				
飲用ニ供セザル檢ニセル酒精				
アンモニヤ				
サゾール				
フイゾスチグミン				

英國ニ於ケル中毒統計

(三)英國ニ於ケル中毒ノ統計

(A)イングランド及ビウエールスニ於ケル一八八三乃至一八八七年ノ五年間ニ於ケル中毒死者ハ（Hamilton: A system of legal medicine, 1909, p. 351）ニヨレバ左ノ如シ。

毒物名	例數
阿片	四四六
鉛	四三七
石炭酸	三三二
青酸加里	一三二
砒素	一二〇
ストリキニーネ	一〇六
殺蟲劑	九五
鹽酸	九〇
青酸加里	七四
燐及ビ「マッチ」	七一
酒精	六六
Chloralum	五二
亞爾酸	五一
硫酸	四九
アンモニヤ	四五
硝酸	二九
水銀及ビ其鹽類	二六

(B)一八八五乃至一九〇四年ノ十年間ニ於ケルイングランド及ビウエールス領内ノ中毒統計ヲ Mann and Brend 著 Forensic Medicine and Toxicology, 1914, p. 430 ヨリ轉載シテ次ノ三表ヲ得タリ。

(甲) 自殺的中毒

毒物名	一八八五—一八九四	一八九五—一九〇四
男		
石炭酸	三一五	七八八
阿片	三〇八	四七二
青酸及ビ青酸加里	二九七	四七九
舊酸	一七一	三〇四
鹽酸	九一	二〇四
ストリキニーネ	七三	八四
炭酸瓦斯	?	六一
殺蟲劑	四五	二三
亞砒酸	三八	二八
燐	三二	二四
硫酸	二六	二九
硝酸	二三	四七
アンモニヤ	二一	四一
昇汞	一七	二三
性		
女		
石炭酸	三六八	七三六
阿片	二〇〇	一九〇
舊酸	一〇〇	二六七
ストリキニーネ	八七	八七
燐	六五	六四
鹽酸	五七	一八〇
殺蟲劑	五四	三四
青酸及ビ青酸加里	三五	五三
アンモニヤ	二六	五七
亞砒酸	二四	一二
硫酸	一九	二一
昇汞	八	一八
硝酸	六	二八
炭酸瓦斯	?	一四

(乙) 他殺的中毒

毒物名	一八八五—一八九四	一八九五—一九〇四
青酸及ビ青酸加里	一四	三
ストリキニーネ	七	六
石炭酸	二	四
阿片及ビ「モルヒネ」	五	三
亞砒酸	二	二
抱水クロラール		二
クロ、フオルム		一
鹽酸		六
アンモニヤ		四
硫酸		三
蓚酸		二

(丙) 偶發的又ハ過失的中毒

毒物名	一八八五—一八九四	一八九五—一九〇四
鉛	一一二九	九七〇
阿片	一〇二〇	九一五
クロ、フオルム		八四一
石炭酸（多クハ吸入）	四一四	三三〇
二八五		亞砒酸
有毒ナル食料	一一七	六三四
炭酸瓦斯	一〇〇	烏頭
酒精	九九	一九九
抱水クロラール	九二	ストリキニーネ
		七九
		一酸化炭素
		八二
		下水ノ瓦斯
		三一

米國ニ於ケル中毒統計

(四)北米合衆國、紐育市ノ一八七〇乃至一八九一年ノ二十年間ニ於ケル偶發的中毒ノ死亡統計 (Hamilton: A system of legal medicine, 1909, p. 352) ハ左ノ如シ。

毒物名	合計
鹽酸	一一九
アンモニヤ	一二三
燐	六九
ベラドンナ	六七
亞砒酸	一六二
烏頭	二三
ストリキニーネ	六六
一酸化炭素	七〇
下水ノ瓦斯	五三
抱水クロラール	一
クロ、フオルム	一
鹽酸	一
アンモニヤ	一
硫酸	〇
蓚酸	〇
蓚酸	一四
エーテル	一一
炭酸加里(Potash)	八
烏頭	八
鹽素酸加里	七
鹽酸	六
硝酸	六
燐	六
鑛毒	二七
合計	九七七

佛國ニ於ケル中毒統計

(五)佛蘭西ニ於ケル中毒統計

(A) Tardieu 氏ガ一八五一乃至一八六二年ノ十年間ニ於テ法醫學的ニ證明シ得タル中毒例ノ表 (Theile u. Ludwig: Die Vergiftungen, 1868, p. 86 ヨリ Maschka's Handbuch der gerichtl Med., Bd. II, 1882, p. 25 ニ抄出セルモノ) ヲ轉載スレバ左ノ如シ。

毒物名	例數
燈用瓦斯	二七九
阿片及ビ「モルヒネ」	一七九
鉛	一一三
石炭酸	五八
亞砒酸及ビ其化合物	四二
クロ、フオルム	三四
Chloralum	二六
水銀	一九
炭酸瓦斯	一四
蓚酸	一四
エーテル	一一
炭酸加里(Potash)	八
烏頭	八
鹽素酸加里	七
鹽酸	六
硝酸	六
燐	六
鑛毒	二七
合計	九七七
阿片	六
藜蘆(Helleborus)	二
吐酒石	四
硫酸銅	四
硝酸	三
硝酸	三
アンモニヤ	三
水銀	三
亞砒酸	二三
燐	一七〇
硫酸銅	七七
綠青	三三
硫酸	三〇
芫菁	二三

毒物名	例數
曼陀羅華	三
蓍木別	三
鹽酸	Emphorbium
苛性加里	一
醋酸鉛	Balsamus Fioraventi
炭酸瓦斯	一
「エニシダ」ノ果實(Ginsterkörner)	Aqua sedativa
コルヒチン	一
	ベラドンナ
	一
	細末硝子
	一
	不詳
	二
	一

(B)又 Brouardel 氏ハ司法省ノ統計ニヨリテ一八五五乃至一八六〇年ノ五年間ニ起レル一七五九例ヲ集メタリ其品別計數左ノ如シ (Brouardel: Les Empoisonnements, 1902, S. 56)

毒物名	例數
亞砒酸	芫菁
鹽酸	ストリキニーネ
燐	阿片及ビ「モルヒチ」類
硫酸、硝酸及ビ鹽酸	青酸及青酸加里
	九

日本ニ於ケル中毒統計

日本ニ於ケル中毒統計(高田、小南京都醫學雜誌第十四卷第六號)

品名	自殺 男	自殺 女	他殺 男	他殺 女	醫藥用 男	醫藥用 女	飲食用 男	飲食用 女	過失 男	過失 女	計 男	計 女
亞砒酸	三	一	一	一	一	一	一	五			四	二
車クローム酸加里	三	三	一	一	二	一					三	一
矢	〇	三	一	一		八		三			九	四
硫酸	四	七									四	一
鹽酸モルヒネ	九	六									九	一
石炭酸	七	九									七	一
鹽酸	八	七	一		七	二	二	一	一	一	二	一
硫酸	三	九	一		三	一	二	一	一	一	二	一
過滿俺酸加里	一	一									一	一
苛性加里	一	一									一	一
シラシメ油	八	四									八	四
硫酸アトロピン	八	二									八	二
花緣青	一										一	
石油	四	二									四	二
鹽酸加里	四	二									四	二
鹽素酸加里	二	四									二	四
炭酸曹達	六										六	
沃度フォルム	四	二									四	二
ズルフォナール	二	五									二	五
クロヽフォルム	三	三									三	三
沃度丁幾	一	二									一	二
硝酸銀	二	二									二	二
鹽酸ヘロイン	四	一									四	一
鹽酸コカイン	二	二									二	二

品名	自殺 男	自殺 女	他殺 男	他殺 女	醫藥用 男	醫藥用 女	飲食用 男	飲食用 女	過失 男	過失 女	計 男	計 女
鹽酸	八	五									八	五
殺鼠劑	二	二	一	三			三	七			一	一
硝酸ストリキニネ	三	五	四	七	三	三					一	一
醋酸	一	九			二	七	三	二			二	一
フォルマリン	三	一									三	一
硝酸	二	九	一		一						二	九
青粉							一	七			一	七
酒類	一						三	二			三	二
青酸加里	二	〇			一						二	〇
硫酸調	一	五					二	二			一	五
苛性曹達	一	五			一		一	三			一	五
炭酸瓦斯												
ヘブリン	一	三	六	七							一	三
揮發油	六	五									六	五
醋酸鉛												
過滿俺酸加里	一	四									一	四
苛性加里	一	〇									一	〇
シラシメ油	七	四									七	四
硫酸アトロピン	六	九									六	九
花緣青	六	八									六	八
石油	六	四									六	四
鹽酸加里	四	四									四	四
鹽素酸加里	四	一									四	一
炭酸曹達	三	九									三	九
ズルフォナール	三	七									三	七
沃度フォルム	三	五									三	五
沃度丁幾	二	九									二	九
硝酸銀	一	八									一	八
鹽酸ヘロイン	一	八									一	八
鹽酸コカイン	一	七									一	七

毒物ノ分類

	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
亞硝酸曹達							燈用瓦斯			
石黄	三		二	三	二	五	五		五	五

此ノ如ク中毒ニ用ヒラルヽ毒物ノ種類甚ダ多キヲ以テ、通常之ヲ次ノ分類法ニ從ヒテ區分シ、相似ノ毒物ハ互ニ相關連シテ說明スルヲ便利トス。

(甲)腐蝕毒　重ニソノ接觸セシ局部ヲ犯スモノ、

(乙)實質毒　重ニ吸收サレテ遠隔ニアル臟器ノ實質ヲ犯スモノ、

(丙)血液毒　重ニ血液ヲ犯シテ中毒ヲ來スモノ、

(丁)心臟及神經毒　主トシテ吸收ニヨリ心臟及神經系統ヲ犯スモノ、

今此等ノ分類法ニ從ヒ、吾人ガ最モ屢々遭遇スル藥劑ニ付、順次ソノ作用、中毒症狀、剖檢所見、致死量及化學的證明ノ大要ヲ述ベント欲ス。但シ稀有ナル毒物ニ就テハ此ノ如キ小冊子ノ記載スベキ範圍ニ非ラズト信ジ省略スルコトヽセリ。

甲、腐蝕毒

腐蝕毒

腐蝕毒トハ已述ノ如ク重ニ接觸部位ニ、凝固或ハ崩解壞疽ヲ來スモノニシテ、之ヲ分チテ次ノ五種トナス。

(イ)腐蝕性酸類、硫酸、鹽酸、硝酸、石炭酸等、

(ロ)腐蝕性あるかり、なとろん或ハかり滷汁等、

(ハ)腐蝕性鹽類　昇汞、硝酸銀等、

(ニ)腐蝕性瓦斯　くろーる及ふをるまりん蒸氣等、

(ホ)有機性腐蝕毒　かんたりぢん等。

イ、腐蝕性酸類

硫酸中毒

一、硫酸中毒

硫酸ハ普ク工業上ニ使用サレ、從テ之ヲ手ニ入ルヽコト容易ナルヲ以テ、自殺ノ目的ニ服用スルコト多シ、ソノ他、他ノ藥品ト錯誤シテ中毒シ、或ハ殺人ノ目的ニハ小兒若クハ重病者等、身體ノ自由ナラザルモノヽ、口腔ニ灌注シテ之ヲ殺傷シ、時トシテ怨恨アルモノヽ、顏面ニ流注シテ傷害ヲ與フルコトアリ。

作用、濃硫酸ハ蛋白ヲ溶解スルニ拘ラズ、稀硫酸ハ蛋白性物質ヲ凝固壞疽ニ陷ラシメ、且水分ヲ奪取スルノ性アルヲ以テ、粘膜或ハ組織ヲ外觀上半煑沸狀トナシ、其質ヲ脆弱ナラシメ、或ハ崩解穿孔セシメ、且血色素ヲ硫酸ヘまちんニ變ゼシムルヲ以テ、ソノ中毒ノ際ニハ胃粘膜ハ黑褐色ニ染ミ半煑沸狀トナリ、時トシテ穿孔ヲ來スコトアリ。

中毒症狀、硫酸ヲ內用スレバ口腔、咽頭、食道及胃ニ劇痛ヲ發シ嘔吐甚シ、吐物ハ强酸性ニシテ黑褐色乃至赤黑色ヲ呈シ、顏貌窘蹙、皮膚蒼白、脈搏頻ニシテ微細トナリ、神識ハ毫モ障害セラレズ、大便ハ秘結シ、經過久シケレバ下痢ヲ來ス、尿量減ジ時トシテ尿閉ヲ來シ、尿中ニハ蛋白ト多量ノ硫酸鹽類ヲ出シソノ比重增加ス、急性中毒ノ場合ニハ中毒後二三時間ニシテ虛脫ニ陷リテ死ニ至リ、胃壁穿孔スレバ嘔吐ハ卒然止ミ、他ノ症狀增惡ス。音聲嗄啞シ、甚シキ呼吸困難ヲ來スハ氣道粘膜腐蝕セラレ、聲門水腫ヲ生

ジタルノ徴ニシテ、此際ハ窒息ニ依リテ死亡ス、中毒ノ經過緩漫ナル時ハ食道粘膜ニ狹窄ヲ起シ、或ハ肺炎ヲ來シ、ソノ爲メニ斃ル、コトアリ。

剖檢所見、多クハ死體ノ口角ヨリ下方ニ向ヒテ褐色革皮樣ノ線狀腐蝕痕ヲ有シ、口腔、舌及咽頭粘膜ハ諸所褐色ヲ呈シ、食道ハ灰白色ニシテ硬固トナリ、頸部ノ血管內ニハ凝血ヲ容レ柱狀トナルコトアリ、胃壁ハ諸所軟化、硬化乃至炭化シ、ソノ血管ハ硬ク柱狀トナリ、胃ノ內容ハ赤黑色泥狀ニシテ强キ酸性反應ヲ呈シ、胃粘膜ハ黑褐色乃至赤黑色トナリ、ソノ面凹凸不平トナル、胃壁ノ穿孔スルハ多クハ大彎部ニシテ、內容腹腔內ニ溢出スル時ハ、諸臟器ニ半煮沸物ノ外觀ヲ呈セシム、尿ハ小量ニシテ硫酸鹽ノ含量增加シ、且蛋白、血球及圓柱ヲ混ズ、中毒後相當ノ時間ヲ經過シテ死亡セルモノニ在リテハ、腎肝及筋肉等ニ脂肪變性ヲ來ス。

致死量、胃內容多キ時ハ其致死量ハ不明ナレドモ、胃空虛ナル時ハ四乃至五瓦(七〇—八〇%ノモノ)ナリト云フ、小兒ハソノ半量ニテモ死ニ至ルコトアリ。

化學的證明、可檢物ニ適當量ノ餾水ヲ加ヘ透析法ヲ行ヒ、或ハ滲出濾過シ、必要ナル場合ニハ純あるこほるヲ加ヘテ蛋白ヲ去リ、水浴上ニテ成ルベクあるこほるヲ驅逐シ、且同時ニ濾液ヲ濃縮シ、而シテ後之ニ鹽化ばりゆむ溶液ヲ加フレバ、硫酸ばりゆむノ沈澱ヲ生ジ、コハ硝酸ニ溶解セズ、然ル時ハ可檢物ニ硫酸ノ存在ヲ證スルモノナリ。一般ニ硫酸化合物ノ小量ハ生理的ニ吾人ノ體液中ニ存在シ、或ハ食物、醫藥等ニ混在スルモノナレバ、硫酸中毒ノ診定ヲナスニハ、可檢物ヨリソノ多量ヲ檢出スルニ非ラザレバ不可ナリ。

きさんさぶろていん反應

二、硝酸中毒

硝酸モ亦工業上多ク使用セラルヽモノナレバ、自殺ノ目的ニ服用セラルヽコト多シ、傷害ノ目的ニハ硫酸ト略同樣ニ用ヒラル。

作用モ亦略硫酸ト同ジト雖、硝酸ハ蛋白ニ對シきさんさぶろていん反應ヲ呈シ半煮沸狀トナル。變ス、但シ稀硝酸ニ在リテハきさんさぶろていん反應ナク、粘膜ハ單ニ凝固壞疽ヲ呈シ

症狀、概チ硫酸ニ於ケルト同ジ、但シ吐物中ニハ黃色ノ粘膜剝離片ト黑褐色ノ血液ヲ混ズ、急性中毒ニテハ已ニ中毒後一、二日ニシテ死亡シ、慢性ノ經過ヲ取ルモノニ在リテハ往々肺炎ヲ發シ、後日ニ至リ消化機ノ狹窄、腎臟炎乃至全身衰弱ニテ斃ル。

剖檢所見、一般ニ硫酸中毒ニ同ジ、但、稀薄ナル硝酸中毒ノ場合ニハ、粘膜ノ黃變著明ナラザルモ、三十%以上ノモノニテ中毒セルモノニアリテハ、口腔、食道、胃及腸ノ上部ハ著明ニ黃變ス、胃穿孔ハ硫酸ニ比スレバ稀ナリ。

致死量、胃ノ盈虛ニ依リテ一定セズ、四、五瓦ニテ死亡スルアリ、或ハ五十瓦ニテ尙死亡セザルモノアリ。

化學的證明、可檢物ヲ蒸餾法、透析法或ハ滲出法ニテ所置スルコト硫酸檢出ニ於ケルト同ジクシ、透明ナル可檢液ヲ得之ニ

(a)　硫酸ニぢ、ふゑにーるあみん試藥ヲ積層スレバ、兩液ノ接觸面ニ青色輪、

(b)　硫酸ニぶるちん試藥ヲ積層スレバ、赤色輪、

鹽酸中毒

(c) 硫酸＝硫酸鐵試藥ニテ黑色輪、ヲ生ズレバ、硝酸ノ存在ヲ證ス。

三、鹽酸中毒

鹽酸モ亦工業上用途廣キモノナレバ、自殺ニ用ユルコト多ク、ソノ作用、中毒症狀及剖檢所見ハ硫酸乃至硝酸ニ於ケルト略同樣ナレドモ、ソノ程度ハ硝酸ヨリモ輕ク、從テ胃壁穿孔ヲ來スガ如キハ甚ダ稀ナリト雖揮發性强キ酸ナレバ往々氣道ヲ犯スコトアリ。致死量モ亦胃狀態ニヨリ一定セザレドモ十瓦內外ニシテ、一般ニ硫酸及硝酸ニ比シ多量ナリ。

化學的證明、可檢物ヨリ蒸餾法透析法或ハ滲出法ニヨリテ得タル透明液ニ少許ノ硝酸及硝酸銀溶液ヲ加ヘテ白色沈澱ヲ生ジ、此沈澱ガ日光ニヨリテ黑變シ、あんもにあ液或ハ青酸加里液ニ溶解スレバ、コハ鹽化銀ノ沈澱ニシテ、卽チ濾液中ニ鹽酸ノ存在ヲ證ス。

醋酸中毒

四、醋酸中毒

近來醋酸ハ「酢のもと」トシテ販賣セラル、ヲ以テ、往々錯誤ニヨリ中毒ヲ來スコトアリ、他殺ノ目的ニハ本劑ヲ創傷中ニ注入セルアリ、多クハ自殺ノ目的ニ使用セラル。

作用、鹽酸ニ似タレドモ、其作用ハ一般ニ弱シ。

症狀、嘔吐、腹痛、搐搦、下肢ノ麻痺、步行蹣跚等ヲ來シ、呼氣及吐物ニ醋酸ノ臭氣アリ、尿ハ赤褐色ニ染ミソノありかり度減ジ、心臟衰弱ヲ伴ヒ、遂ニ肺水腫或ハ體溫下降等ニヨリテ斃ル。

剖檢所見、食道、胃及胃內容ハ赤黑褐色ヲ呈シ、且强酸性反應ヲ示シ、醋酸ノ臭ヲ有スルコトアリ、其他一般ニ酸類ノ中毒ノ所見ニ類ス。

致死量　內用トシテ濃醋酸二〇・〇—三〇・〇瓩(大人ニ對シ)トス。

化學的證明、可檢物ニ適當量ノ水ヲ加ヘ蒸餾シ、ソノ餾液ニ就テ、或ハ可檢物ニあるこほるヲ加ヘテ抽出シ、ソノ抽出液ニ就テ、醋酸ノ證明法ヲ施行スベシ。

一、餾液ニハ醋酸特有ノ臭アリ、之ヲ炭酸そーだニテ中和シ、次デ鹽化鐵液ヲ加フレバ血赤色トナリ、加熱スレバ赤褐色トナル。

二、あるこほる抽出液ニ硫酸ヲ加ヘテ熱スレバ醋酸にーてるノ臭ヲ發ス。

蟻酸中毒

五、蟻酸中毒

蟻酸ノ中毒ハ動植物ノ刺毛、或ハ昆蟲(蜂蟻)等ノ刺咬ニヨリテ來リ、又ハ工業用ノ蟻酸ヲ自殺ノ目的ニ用ヒ、往々他品ト錯誤シテ使用スルコトアリ。

作用、醋酸ニ似タレドモ、尙蟻酸ノ有スル還元力ニ依リテ種々ノ障害ヲ來ス。

症狀、蜂蟻ニ依リテ刺傷セラレタル時ハ外皮ニ痛痒ヲ感ジ、引赤腫脹シ、時トシテ發泡ス、內用シタル場合ノ症狀ハ略醋酸ニ同ジ、但シ血液ヲ犯ス力强キヲ以テ、麻痺或ハ痙攣ヲ來シソレニヨリテ斃ル、コトアリ。

剖檢所見、本劑ヲ內用シテ死ニ至リタル場合ノ所見ハ、略醋酸中毒ニ似タレドモ、剖檢ノ際各臟器ハ蟻酸特有ノ臭氣ヲ有シ、尿ニハ蟻酸ヲ證明シ、血液ハ黑褐色トナル。

致死量、醋酸ヨリハ小量ナレドモ、ソノ濃度ニ依リ一定セズ。

化學的證明、可檢物ヲ蒸餾シテ得タル餾液ハ蟻酸ノ臭氣ヲ有シ、之ヲ炭酸そーだニテ中和シ、鹽化鐵液ヲ加フレバ血赤色ニ變ジ、硝酸水銀液及硝酸銀液ヲ還元シテ當該金屬ヲ析出セシム。

化學的證明ノ際注意スベキハ、肝臟疾患或ハ高熱ヲ有スル時ハ、自然ニ體内ニテ蟻酸ヲ生ズルコトアレバ可檢物ヨリ極微量ノ蟻酸ヲ證明シ得タリトテ、ソハ直ニ蟻酸中毒ナリト云フベカラズ。

六、蓚酸及蓚酸加里中毒

修酸及修酸加里中毒

蓚酸ハ眞鍮及銅ヲ研磨スル等工業上稍多量ニ使用セラル、ヲ以テ、甚ダ屢々自殺ノ目的ニ内用セラレ、或ハ蓚酸かりヲ芒硝ト誤認シテ服用シ死ニ至ルコトアリ、他殺ノ目的ニハ特殊ノ味ヲ有スルヲ以テ使用セラル、コト少シ。

作用、此酸モ蛋白ニ凝固壞疽ヲ起スト雖、他ノ鑛酸ニ比シ其力弱シ、中性鹽トナリシモノハ吸收セラレテ血液、腦、心臟、腎臟等ヲ犯ス。

症狀、局所ノ症狀トシテハ、腐蝕作用ニ依ル咽頭熱灼ノ感、胃部疼痛、酸性黑色物ノ吐出等ニシテ、全身症狀トシテハ服用後數分ニシテ重キ神經症狀ヲ呈シ、人事ヲ辨セズ、牙關緊急、全身痙攣ヲ發シ、脈搏細小緩漫トナリ、尿閉ヲ來シ、十分間内外ニシテ死ス、經過緩漫ナルモノハ腎臟炎、尿閉乃至尿毒症ヲ起シ死ニ至ルモノアリ。或ハ消化管障害、血便等ヲ來シ、腦或ハ心臟ノ衰弱ニ依リ死ス。

剖檢所見、濃厚ナル蓚酸ノ中毒ニ在テハ、口腔、咽頭、食道等溷濁シテ灰白色ヲ呈シ、胃粘膜ハ充血腫脹シ、蓚酸石灰之ニ沈着シ、粘膜ノ皺襞頂ニハ瀦血斑アリ、且ソノ間ニ蓚酸ノ結晶ヲ發見スルコトアリ、攝取量多キ時ハ、胃壁穿孔ス、胃内容ハ赤色乃至赤褐色ニシテ、酸性反應ヲ呈ス、腎臟ノ斷面ニ於テハ、皮髓兩質ノ間ニ白色帶ヲ生ジ、之ヲ鏡檢スレバ明ニ蓚酸石灰ノ結晶ヲ見ル。

致死量、通常五・〇乃至一〇・〇瓦ナリトスレドモ、四十五瓦ニテ尚死ニ至ラザリシ例アリ。

化學的證明、小量ノ蓚酸化合物ハ生理的ノ產物ナレバ、此中毒ナル斷定ヲ下スニハ、稍多量ヲ發見セザルベカラズ。

可檢物ヨリ蓚酸ヲ分離スルニハ、あるこほるヲ以テ抽出濾過シ、濾液ニ水ヲ加ヘ水浴上ニテ徐々ニあるこほるヲ去リ、蒸發殘渣ヲ水ニ取リ、此浸漬水ヲ以テ次ノ反應ヲ試ム。

(イ)あんもにあ水ヲ加ヘテ中性トナシ、鹽化かるしゆむヲ加フレバ白色ノ沈澱ヲ生ジ、コハあんもにあ水或ハ醋酸ニハ不溶ナルモ、鹽酸ニハ溶解ス。

(ロ)中性トナシ硝酸銀液ヲ加フレバ、白色ノ沈澱ヲ生ジ、硝酸ニ溶解ス。

(ハ)稀薄ナル過まんがん酸かり液ヲ褪色セシム。

(ニ)醋酸鉛液ヲ加フレバ白色沈澱ヲ生ズ。

七、石炭酸中毒

石炭酸中毒

石炭酸ハ廣ク消毒用ニ供セラル、モノナレバ、往々錯誤ニ由リテ中毒ヲ來シ、又屢々自殺ノ目的ニ服用セラル、時トシテ創面ヨリ吸收セラレテ中毒ヲ來スコトアリ。

作用、石炭酸ハ接觸セル局部ヲ犯シ、蛋白ヲ凝固壞疽ニ陷ラシメ、外觀上半煮沸狀トナス、而シテ本劑ハ血色素ヲ溶解セザルヲ以テ、粘膜ヲ着色セシムルコト少シ、又吸收サレテ先ヅ腦神經ヲ刺戟シ、次デ之ヲ麻痺セシム。

中毒症狀、石炭酸ヲ内用セル時ハ口腔、咽頭、食道、心窩ニ熱灼ノ感アリ。嘔吐及全身發汗ヲ伴ヒ、間モナク中毒者ハ神識朦朧トナリ、次デ意識全ク消滅シ、知覺麻痺ス、脈搏ハ細小緩徐トナリ、皮膚蒼白、四肢厥冷シ、搐搦痙攣ヲ來ス、尿ハ暗赤色トナリ、遂ニ昏睡ニ陷リ死ニ至ル、本劑ニテ子宮腟ヲ洗滌セシ爲メ中毒ニ陷リシモノアリ、又久シク石炭酸濕布ヲ施ス時ハ、所謂石炭酸壞疽ヲ生ズ。

剖檢所見、濃厚石炭酸ヲ嚥下スル時ハ、口腔、咽頭、食道及胃粘膜ハ所謂半煮沸狀トナリ乳白色ヲ呈シ胃腸ニハ小溢血點アリ、肺水腫或ハ急性腎臟炎ヲ來シ、内臟ハ石炭酸臭ヲ放ツ。

致死量、濃厚ナルモノハ一〇・〇瓦ニテ大人ヲ死セシム、但シ稀釋セルモノニ在リテハソノ致死ノ量一定セズ。

化學的證明、可檢物ニ水ヲ加ヘテ蒸餾スレバ、石炭酸ハ餾液ニ移行ス、此餾液ニみるろん氏試藥ヲ加ヘテ加熱スレバ美麗ナル赤色ヲ呈シ、鹽化鐵液ヲ加フレバ青色トナリ、ねーくまん氏試藥ニテ赤色帶ヲ生ジぶろーむ水ヲ加フレバ肉色ノ沈澱ヲ現出ス、之レ石炭酸ノ存在ノ徵標ナリ。尙らんどるど氏反應及ピれつくす氏法等ヲモ併用スレバ確實ナリ、石炭酸モソノ小量ハ死後人體内ニテ自然ニ生ズルコトアレバ注意スベシ。

りぞーる中毒

八、りぞーる中毒

本中毒ハ石炭酸ニ酷似ス、コハ往年歐洲ニ於テ流行毒トナリ、自殺ノ目的ニ甚ダ多ク用ヒラレタリ、ソノ死體所見ハ之ヲ内用セルモノ、口唇又顯部ノ皮膚ハ黃褐色ニ染ミ、後、咽頭、食道等ノ粘膜ハ混濁シテ灰白色乃至黃色トナリ、胃ノ内容ハ中性或ハ酸性ヲ呈シ、爹兒樣ノ臭氣ヲ放チ、粘稠ナリ、胃ノ粘膜ハ灰白色ニ混濁シ、肺ハ血液ニ富ミ、切斷ノ際てーる樣ノ臭氣ヲ發ス、腎ハ黃褐色トナリ、尿ハ混濁シテ强キ酸性反應ヲ呈ス。

かり及なとろん滴汁中毒

ロ、腐蝕性あるかり中毒

一、かり及なとろん滴汁中毒

かり及なとろん滴汁ハ工業上甚屢使用セラル、ヲ以テ誤テ之ヲ内用シ、或ハ自殺ノ用ニ供スルモノアリコハ嫌惡スベキ味アルヲ以テ、意識或ハ身體ニ障害ナキ人ニハ、他殺ノ目的ニ用ユルコト能ハズ。

作用、かり及なとろん滴汁ハ蛋白ヲ崩解壞疽ニ陷ラシメ、且血色素ヲ溶解シ、あるかり性へまちんニ變ゼシム、かり滴汁ハ心臟ヲ衰弱セシムルコト多キモ、なとろん滴汁ハ其力少シ。

中毒症狀、此毒物嚥下ノ直後、急性中毒性胃腸炎ヲ發シ、頑固ノ嘔吐アリ、吐物ハ初メあるかり性ニシテ粘膜强ク褐色乃至黑褐色ヲ帶ビ、嘔吐ハ屢々間歇スルヲ以テ、酸類ト異ナル點トス、症狀劇甚ナレバ人事不省トナリ直ニ死スルモ、多クハ中毒後二三日ヲ經過スルヲ常トス、經過長キ時ハ下痢ヲ發シ、往々下血ス、尿ハ排泄量ヲ減ジ、强あるかり性トナリ、或ハ食道等ノ瘢痕狹窄ノ爲メニ衰弱ニ陷リ死亡ス。

剖檢所見、口腔及食道ノ粘膜ハ混濁腫脹シテ灰白色ヲ顯ハシ、胃ハ收縮シテ其壁厚ク、内容物ハ黑褐色膠樣ニシテ强あるかり性反應ヲ呈シ、粘膜ニハ黑色若クハ黑褐色ノ軟痂アリ、皺襞ハ增加シテ隆起シ透明トナリ、之ニ觸ルレバ石鹼樣ノ感アリ、胃壁ヲ穿孔スルコトハ少ナシ、死後往々ニシテ此等ノ藥品ハ胃壁ヲ破リ、或ハ滲透シテ肝臟等ヲ腫脹透明ナラシムルコトアリ。

致死量ハ一定セザルモ、胃ノ空虛ナル時ハ濃厚ナルモノ一〇・〇瓦ナリト云フ。

化學的證明、かり及なとろん化合物ハ吾人ノ身體內ニ甚ダ多ク存在スルモノナレバ、化學的證明ニ於テハ遊離セルかり乃至なとろん滷汁ノ多量ヲ發見セザレバ、中毒ノ斷定ニハ効少キモノトス。

可檢物ヨリ透析法或ハ滲出法ニヨリテあるかりヲ抽出シ、ソノ液ニ就テ滴定法ニテあるかり度ヲ定メ、尙濾液ノ一部ヲ白金耳ニ附シ、ぶんせん燈火ニテ檢スレバ、其炎ヲ甚シク黃色ニ染ムルモノハなとろんニシテ、紫色ニ染ムルモノハかり化合物ナリ。但シ僅微ナル着色ニ依リテハ、ソノ何レカヲ判定スルコト能ハズ。

あんもにあ水中毒

二、あんもにあ水中毒

本中毒モ亦過失ニ依リテ來ルコト多シ。

作用、あんもにあ水ハ蛋白ニ對シテハ崩解壞疽ヲ作リ、消食管ヲ腐蝕シ、呼吸器ノ粘膜及中樞神經ヲ刺戟シ、且血色素ヲ溶解ス。

中毒症狀、接觸面ヲ崩解シ、水泡ヲ形成ス、嚥下後、口腔及咽頭粘膜ニ熱灼ノ感アリ、上皮ハ剝脫シ、粘膜ハ腫脹紅變シ、聲音嗄嗄、氣管枝刺戟症狀ヲ發シ、呼吸困難及痙攣ヲ來シ、垂涎甚シク硝子樣粘稠ノ喀痰ヲ出シ、吐瀉甚シク、呼氣ニハあんもにあ臭アリ、發汗多クナリ、腹痛、下肢ノ麻痺アリ、尿中ニハ多量ノあるかり蛋白及へまちんヲ排泄ス、尙肺炎或ハ肺水腫ヲ來スコトアリ。

剖檢所見、咽頭、喉頭、口腔、氣管粘膜及胃、腸粘膜ハ腫脹シテ膠樣トナリ、上皮剝離ス、各臟器ニあんもにあ臭ヲ放ツ、肺ニハ肺炎ヲ見、血液ハ鮮紅色トナリ、肝臟ハ脂肪化シ、實質性腎臟炎ヲ來スコトアリ。

ばりつと中毒

致死量、通常一〇%ノあんもにあ水一〇・〇瓩ヲ內用スレバ死ニ至ルト云フ。

化學的證明、可檢物ノ上ニ濕潤セル赤色試驗紙ヲ持チ來セバ、直ニ靑色ニ變ジ、濃鹽酸ヲ附セル硝子棒ヲ以テスレバ白色ノ烟霧ヲ生ジ、尙可檢物ヲ蒸餾シ、ソノ餾液ニねすれる氏ノ試藥ヲ加フレバ褐色トナル。あんもにあノ證明ニ對シテハソノ特有ナル臭氣ハ甚ダ據リ所トナスベキモノナリ、尙死體ガ腐敗スレバソノ臟器中ニ在ル蛋白質ノ分解ノ爲メ、少許ノあんもにあヲ生ズルコトアレバ注意スベキコトナリトス。

三、ばりつと中毒

くろーる酸ばりーゆむ、硫酸ばりゆむ、硝酸ばりうむ及炭酸ばりゆむ等ハ工業上多ク使用サル、モノナル故、錯誤ニ依リ或ハ工場內ニテ塵埃ト共ニ飛散スルニ依リ中毒シ、又自殺ノ目的ニ使用サル。

作用、本劑ハ腸ノ運動中樞ヲ最初興奮セシメ、次デ腸、心臟及血管等ヲ犯シ麻痺ニ陷ラシム、卽小量ヲ服用スルモ吸收セラレ、心臟或ハ全身麻痺ニ依リテ斃ル。往々甚シキ吐瀉ヲ來スト雖接觸局部ヲ犯スコト少シ。

症狀、吐瀉ニ次イデ痙攣ヲ來シ、脈搏ハ堅クシテ緩徐トナリ、血壓昂進シ、四肢ノ不全麻痺ヲ伴ヒ、最後ニハ迷走神經ノ麻痺ニヨリ死ニ至ル。

剖檢所見、胃ハ通常腐蝕サル、コトナシト雖、胃腸及心臟ニ於テ多數ノ出血點アリ、細尿管內ニハ稀硫酸鹽類ノ結晶ヲ發見シ、又胃腸炎ヲ見ル。

致死量、硝酸ばりゆむ及くろーるばりゆむハ一〇、〇乃至一五・〇瓦、炭酸ばりゆむハ五・〇瓦トス。

化學的證明、最初可檢物中ノ有機物ヲふれせにゆすばぼー氏法ニテ崩解セシメ濾過シ、濾液ニ硫酸ヲ加

フレバ白色ノ沈澱ヲ生ズ、此沈澱ハ硝酸ニ溶解セズ、之レばりゆむ存在ノ徴ナリ。尚前記濾過殘渣中ニモばりゆむノ一部分殘存スルモノナルヲ以テ、ソヲ乾燥シまいねる氏ノ溶融物ヲ作リ、ソノ浸出物ニ就テ前記ト同樣ニばりゆむノ存在ヲ檢スベシ、斯クシテばりゆむノ存在明トナルモ、ソガ如何ナル鹽基ト化合セルモノナルヤハ、檢査物ノ多量ニ存在スル時ニ非ラザレバ鑑別不能ナリ。

八、腐蝕性鹽類中毒

一、水銀中毒

水銀化合物中毒物トシテ最大切ナルハ昇汞ナレドモ、水銀ノ酸化物モ亦甚シキ毒物ニシテ、金屬性水銀スラモ體内ニ入リテ有毒ノ形トナリテ中毒ス、而シテ水銀化合物ハ工業上使用ノ範圍廣キモノナレバ該中毒最モ屢々遭遇スルモノナリ、コハ皆一種ノ味ヲ有スルヲ以テ他殺的中毒ニ用ユルコト少ク、多クハ工業上中毒、或ハ自企的乃至錯誤ニヨル中毒トシテ來ルモノナリ、而シテ水銀化合物中、毒物トシテ最モ多ク用ヒラルヽハ昇汞ニシテ、而モソノ代表トスベキモノナレバ、今重ニ之ニ付テ記述セム、他ノモノハソノ作用弱キノミナレバ之ヨリ多クハ類推スルコトヲ得ルモノナリ。

作用、昇汞ハ無色ノ結晶ニシテ、蛋白ニ對シ凝固壞疽ヲ來シ、且血色素ヲ溶解セズ、故ニ接觸セル局部ヲ犯シ其部ノ粘膜ニ白濁ヲ來シ、更ニ吸收サレテ再ビ口腔及胃腸等ニ析出シ、其結果口粘膜炎并ニ胃腸ニ於ケル潰瘍ヲ伴ヒ、腎臟炎ヲ來ス、水銀軟膏等ニ依レル中毒ハ甚ダ緩漫ニ發現ス、水銀劑ガ吸收サレテヨリ、ソノ排泄ヲ終ル迄ニハ凡ソ二ケ月ヲ要ス。

症狀、急性中毒、昇汞ヲ内用スレバ一種異樣ノ金屬味ヲ感ジ、舌咽頭ニ熱灼ノ感アリ、口内炎及垂涎等アリ、粘膜ハ腫脹シ帶青白色トナリ、嘔吐アリ、吐物ニハ血液ヲ混ジ、裡急後重、血便アリ、其狀恰モ赤痢樣ニシテ、實際ノ赤痢ト鑑別スルニハ微生物學的檢査ニヨルノ外ナキコトアリ、其他尿閉、蛋白尿ヲ來シ、又眩暈及知覺異常アリ、脈搏小トナリ、四肢厥冷シ、虛脱ニ依リ死亡ス、神識ハ死ニ至ル迄障害セラレズ、中毒後死ニ至ルハ、早キハ三十分ナレドモ、多クハ一、二日ノ後ナリトス。

慢性中毒トシテハ四肢ニ於ケル震顫、惡液質、下顎骨壞疽、慢性腎臟炎、骨質炎、筋肉麻痺及水腫等ニヨリ全身衰弱ヲ來シ死ニ至ル。

剖檢所見、齒龈、齒龈及舌ハ腫脹シ、灰白色トナリ、或ハ潰瘍ヲ生ジ、出血セルコトアリ、胃ハ犯サル、コト少キモ、炎症ヲ起シ多量服用セシ場合ニハ胃粘膜ハ灰白色不透明トナルヲ見ル、小腸ノ下部及大腸ハ甚シキ變化ヲ被リ、强キ赤痢樣ノ所見ヲ呈ス、腎ハ炎症ヲ發シ石灰沈着ス、肝及心臟ハ退行變性ヲ起シ、骨髓ハ非常ニ赤色トナル。

致死量、昇汞ニテハ〇・二乃至〇・五瓦ナレドモ、他ノ水銀化合物ニテハソノ量之ヨリ稍多キヲ常トス。

化學的證明、急性中毒ノ場合ニ吐物等ヲ濾過シ、濾液ヲ弱酸性トナシ、之ニ研磨セル銅片ヲ浸漬スレバ水銀ハ銅片ノ面ニ灰白色ノ薄層トナリテ附着ス、此銅片ヲあるこほる等ニテ乾燥シ、卷縮シテ乾キタル小ナル硝子管内ニ入レ、(豫メソノ硝子ノ一部ヲ細ク引キ延バシ置クベシ)銅片ノアル部分ヲ徐々ニ熱スル時ハ、水銀ハ揮發シテ硝子管ノ冷細部ニ至リテ附着ス、之ヲるーペニテ寛ヘバ、美麗ナル水銀小球ヲ見ルコトヲ得ベシ、之ヲ水銀鏡ト云フ、併シ尙ソガ水銀ナルヤ否ヤヲ確定スルニハ、此水銀小球ヲ沃度ノ蒸氣ニ觸レシムレバ、直ニ赤變スルヲ以テ鑑別スルコトヲ得、多量ノ有機物ヲ含有スル可檢物、例ヘバ肝臟中ヨリ

水銀ヲ檢出セント欲セバ、先ヅ臟器ヲ細切シ、鹽酸ヲ加ヘテ暫時放置後、所謂ふれせにゆす、ばぼー氏法ニテ有機物ヲ碎解シ去リ、殘餘ノくろーる瓦斯ヲ驅逐後、硫化水素瓦斯ヲ徐々ニ通ジテ黑色ノ硫化水銀ヲ得、而シテコハ硝酸ニ溶解セザルヲ以テ、びすむーと等ト容易ニ區別スベシ、此硫化水銀ヲ王水ニ溶解シ更ニ水浴上ニテ過剩ノ酸ヲ驅逐シ、水ニ取リ前記ノ如ク研磨セル銅片ニテ所置シ、水銀鏡ヲ作リテ水銀化合物ナルヤ否ヤヲ確定スベシ、次ニ水銀ガ果シテ如何ナル鹽基ト化合シ居ルヤ純粹ナル檢査材料ヲ得ルニ非ラザレバ鑑別シ能ハザルコト多シ。

硝酸銀中毒

二、硝酸銀中毒

銀化合物中硝酸銀ハ最モ多ク使用サル、モノニシテ、而モ毒性亦甚ダ强キモノナリ、本劑ハ多ク自殺ノ目的、或ハ錯誤ニ依リテ急性中毒ヲ來シ、慢性中毒ハ本劑ヲ用ユル職工或ハ寫眞師等ニ來ル。

作用、接觸セル局部ニ表面的結痂ヲ作リ、コハ間モナク黑色ニ變ズ、吸收サレタル銀ハ小腸或ハ表皮ニ析出シテ、此部ニ黑色ヲ帶バシムルニ至ル。

症狀、急性中毒、本劑ヲ內用スレバ、口腔食道及胃粘膜ハ白色ニ濁濁シ、腹痛嘔吐アリ、吐物ハ初メ白色ナレドモ、日光ニ觸レシメバ黑變ス。慢性中毒ノ場合ニハ胃潰瘍、表皮及粘膜等黑變ヲ來スト雖、中毒者ノ自覺症狀極メテ少キコト多シ。

剖檢所見、急性中毒ノ場合ニハ、急性胃腸炎ノ所見アリ、慢性中毒ノ場合ニハ、胃潰瘍、表皮及粘膜等ノ黑變并ニ細尿管、肝臟ノぐりーそん氏囊、小腸粘膜冠部及骨髓等ノ黑變ヲ見、此等ノ變色部ヲ青酸かり液ニテ所置スレバ褪色スルコトアリ。

致死量、硝酸銀三十瓦以上ヲ頓服スレバ死ニ至ルト云フ。

化學的證明、有機物ヲふれせにゆす、ばぼー氏法ニテ崩解セシムルモ、銀ハ鹽化銀トシテ殘渣中ニ殘留スルヲ以テ、殘渣ヲ灰化シ、ソノ灰分ヲ硝酸ニ溶解セシメ濾過シ、濾液ニ青酸かり液ヲ加ヘ白色沈澱ヲ、くろーむ酸加里ニテ赤褐色ノ沈澱ヲ、鹽酸ニテ白色沈澱ヲ生ズレバ、銀化合物ノ存在ヲ徵ス。但シ銀ガ如何ナル化合物トナリテ攝取セラレタルモノナルヤハ此方法ニテハ鑑別スルコト能ハズ。

くろーむ中毒

重くろーむ酸加里中毒

三、くろーむ中毒

くろーむノ化合物中、毒物トシテ用ヒラルヽモノハくろーむ酸、重くろーむ酸加里及くろーむ明礬等ナリ。此等毒物ハ工業上中毒ヲ來シ、自殺ノ目的ニ用ヒラル。現今我國ニテハ重くろーむ酸加里ノ中毒ハ恰モ流行毒ノ觀アリテ、自殺ノ目的ニ甚ダ多ク使用サル。ソノ他錯誤ニ依リ中毒シ、他殺ノ目的ニハ用ヒラルヽコト少シト雖、予ハ痴愚者ガ友人ヲ殺害セン目的ニテ、粉末ヲ飯ニ振リカケ、或ハ茶粥ニ混ジテ中毒セシメント企テタル例ニ遭遇セルコトアリ。

作用、接觸セル局部ヲ腐蝕シ、吸收後析出スル場所ニ炎症ヲ起シ、血液ヲ犯シテめとへもくろびんヲ作ル、重くろーむ酸加里等ハ稍强ク中樞神經系統ヲ犯ス。

症狀、急性中毒、重くろーむ酸かりヲ內用スレバ口腔粘膜ハ最初淡赤黃色ニ染ミ、以テ帶灰綠色トナリ、且腫脹シ潰瘍ヲ生ズ、强キ吐瀉アリ、吐物ハ黃色乃至綠色ニシテ、腹痛甚シク遂ニ血便ヲ出スニ至ル、脈搏次第ニ弱クナリ、尿量少ク且蛋白ヲ含有スルニ至リ、虛脫ニ陷リ死亡ス。慢性中毒ハくろーむ化合物ヲ取扱フ工場ニ於テ多ク來リ、手、足、陰莖及鼻隔等ニ潰瘍ヲ生ジ、氣管枝炎、眼瞼炎及腎臟炎等ヲ伴フ。

剖檢所見、口内粘膜ハ黄色乃至綠色ニ染ミ、胃内容モ亦往々同色ヲ呈シ、ソノ粘膜ニハ溢血アリ、黄褐色乃至帶綠褐色ヲ帶ビ、腸粘膜モ亦略同狀ヲ呈ス、心、肝ニハ脂肪變性ヲ來シ、腎臟炎皮膚潰瘍及氣管枝炎等ヲ伴フ。

致死量、重くろーむ酸加里ニテハ結晶二・〇—三・〇瓦ナリ然レドモ十瓦程飲用シテ死ニ至ラザリシモノアリ、ソノ他ノくろーむ化合物ニテハ致死量ハ尙多量ナリ。

化學的證明、可檢物ニふれせにゆす、ぼぼー氏法ヲ施行シ、得タル濾液ハ鹽化くろーむニヨリテ綠色ニ染ム、此綠色濾液ヨリ全クくろーる瓦斯ヲ驅逐シ、少許ノ硫化あんもんヲ加フレバ帶綠青色ノ沈澱ヲ生ズ此沈澱ヲ濾別シ、更ニあるかりノ過剩ニ溶解シ、過酸化鉛液ヲ加フレバ黄色ノくろーむ酸鉛ヲ析出ス、此析出物ヲ濾紙上ニ集メ、更ニ水浴上ニテあるこほるヲ以テ所置スレバ綠色トナル、卽チくろーむ化合物存在ノ確徵ナリ。此くろーむ化合物ガ、如何ナル形トナリテ存在セルカヲ知ルコト困難ナリト雖、化學的ニくろーむノ存在ヲ徵スレバ、法醫學的ニハ已ニ十分ナル毒物存在ノ徵標ヲ得タルナリ。

重くろーむ酸加里鑑定實例

鑑定書

大正〇年六月二十一日〇地方裁判所豫審判事K ハN殺人未遂被告事件ニ付同廳第五號豫審廷ニ於テ檢第一號證及警第一號證ヲ交付シ

一、檢第一號證ノ茶粥中ニ劇藥又ハ毒藥ノ類ヲ混入セルヤモシアラバ其分量

二、警第一號證ノ赤色粒狀物質ハ如何ナルモノナリヤヲ鑑定スヲ可キ旨ヲ予ニ命ゼリ依テ同證據品ヲ京都帝國大學醫科大學法醫學教室ニ持參シ翌二十二日ヨリ七月六日ニ亘ル期間同教室ニ於テソノ檢査ヲ施行セリ

第一、檢第一號證檢査

甲、肉眼的及顯微鏡的檢査

檢第一號證ハ硝子罐中ニ容レラレ内容ハ外部ヨリ窺フニ帶綠汚灰色ニ濁濁セル液體ニシテ器底ニ飯粒樣ノモノ稍多量沈澱シ罐頭ニハ「N檢第一號證裝品」及「二頭三四號N〇年六月十八日」ナル紙札各一枚結ビ付ケアリ罐口ニハ紙封ヲ施シロナル封印ヲ施セリ紙封ヲ破スルニ罐口ハ「キルク」栓ヲ以テ閉ヅ栓ヲ拔キテ之ヲ嗅グニ特臭ナク腐敗セル糊樣ノ臭アリ之ヲ全部「メスチリンデル」ニ移シテソノ容積及重量ヲ精檢スルニ、二二五・〇立方仙迷重サ二三二五アリ之ヲ大ナル白色平皿ニ移シ薄層トナシ「ルーペ」ヲ以テ精視スルニ内ニ米飯粒、麥飯粒多アリソノ一小部分ヲ載物硝子板上ニ取リ覆蓋硝子ヲ被セ顯微鏡下ニ檢スルニ綱狀ナル植物組織ノ少數及小顆粒無數ヲ見ルノ之ニ沃度液ヲ加フルニ小顆粒ハ悉ク美麗ナル紫藍色ニ變ズ（澱粉存在ノ徵標）

乙、化學的檢査

（い）揮發性毒物檢査

本品ヲ佳ク振盪混和後九〇・〇立方仙迷ヲ採リ檢スルニ弱酸性ノ反應ヲ徵ス之ヲ「コルベン」ニ移シ「キルク」栓ニテ輕ク栓シ其中ニ硝酸銀液或ハ醋酸鉛液ヲ以テ濕潤セル濾紙各一條ヲ下垂シ靜ニ重湯煎上ニ攝氏五〇度内外ニ熱スルニ卷モソノ濾紙ニ變色ナシ（揮發性）茲ニ於テ可檢液ニ一〇％プロセントノ酒石酸水溶液少許ヲ滴下シ全液ヲ酸性トナシ更ニ五〇立方仙迷ノ蒸餾水ヲ加ヘテ「リービッヒ」氏冷却裝置ニ連結シ式ノ如ク蒸餾スル事二時間ニシテ弱酸性無色無味無臭ノ飯液約七〇・〇立方仙迷ノ得タリ之ヲ以テ揮發性毒物ノ檢査ヲナス卽餾液約五・〇立方仙迷ヲソノ都度試驗管ニ取リ（一）乃至（七）ノ反應ヲ施行セリ

（一）餾液ニ加里濃汁ノ滴加シ更ニ硫酸鐵并ニ鹽化鐵溶液一、二滴ヲ加ヘ僅ニ熱シ而シテ鹽酸一滴ヲ加フルニ褐色ヲ呈ス（青酸及ソノ鹽類ノ反應陰性）

（二）餾液ニ「レゾルチン」水溶液少許ト「ナトロン濃汁」一滴ヲ加ヘ煮沸スルニ淡黄色ヲ呈ス（クロ、ホルム）、「クロラール」、「ヨードホルム」ノ反應陰性）

（三）餾液ニ鹽化鐵ノ水溶液ヲ加フルモ變色ナシ（石炭酸ノ反應陰性）

（四）餾液ニ「重クローム酸加里」ノ水溶液ト鹽酸ヲ加ヘ熱スルニ淡黄色ナリ（「アルコール」）陰性

（五）餾液ニ「ニトロプルシヅドナトリユウム」液ト加里濃汁ヲ加フルニ淡黄色ナリ（「アセトン」陰性）

（六）餾液ニ臭素水ヲ加フルニ變化ナク（亞クロール酸ナトリウム）ヲ加フルモ呈色セズ（「アニリン」陰性）

（七）前記ノ如ク餾液ハ硫化水素臭或ハ「ニトロベンゾール」ヲ含有スルガ如キ臭氣ナシ

以上ノ檢査ニ據リ餾液中ニ揮發性毒物又ハ劇藥ヲ含有スルノ徵標ナシ（因ニ記ス檢第一號證ハ已ニ高熱ニ係リシモノナリトノ事ナレバ揮發性毒物ノ證明殆ド不可能ト思惟セシモ係リ官ノ希望ニ依リ特ニ之ヲ施行セリ）

（ろ）苦味質及「アルカロイド」檢査

（い）項ノ蒸餾殘渣ヲ瓷製蒸發皿ニ移シ重湯煎上ニ於ニ水分ノ蒸散乾固シ之ニ九十八％「プロセント」ノ「アルコール」ヲ加ヘ加溫浸出スル事數回濾過シソノ殘渣ハ後出（ハ）項金屬性毒物ノ檢査ニ用ヒ濾液ハ合併シテ蒸發皿ニ移シ靜ニ重湯煎上ニテ「アルコール」分ヲ蒸散シ綱狀アル無色酸性ノ結綱物少許ヲ得タリ之ニ溫水ヲ加ヘテ浸出濾過シ白色ニ輕濁シ鹽味アル酸性ノ濾液ヲ得タリ之ヲ「原液」ト名ヅク

(天)原液ヲ「ガダーメル」氏浸出器ニ移シ「エーテル」ヲ以テ浸出スル事二時間「エーテル」ト原液((地)ニ用ユ)トヲ分離シ「エーテル」ヲ蒸散シテ無色無味透明ニシテ中性反應ヲ微スル結晶物極メテ少量ヲ得タリ之ヲ溫水ニ浸出シ純白小瓷皿ニ分チ重湯煎上ニテ乾固シ各々夫々濃硫酸、濃硝酸、鹽化鐵、臭素水ヲ加フルモ特異ノ呈色ヲ來スモノナシ卽チ苦味質(ピクロトキシン、コルヒチン、フエナセチン、ヴエロナール、サルチール酸等)ノ存在ヲ微スベキ反應ナシ

(地)原液ニ「ナトロン滷汁」ヲ加ヘテ「アルカリ性」トナシ「ガダーメル」氏浸出器ニテ更ニ「エーテル」ヲ以テ浸出スル事二時間「エーテル」ト原液((天)ニ用ユ)トヲ分離シ「エーテル」ヲ蒸散シテ無色無味中性ノ殘渣少許ヲ得タリ之ヲ純白小瓷皿數個ニ分取シ重湯煎上ニ乾固セシメ各個ニ夫々濃硫酸、濃硝酸、エルドマン氏試藥、フレニーデー氏試藥ヲ加フルニ無色ニシテ鹽化鐵水溶液ヲ加フルモ變色セズ卽チ「ニコチン」、「コニイン」、「ストリヒニン」、「ブルチン」、「アンチピリン」、「アトロピン」、「コカイン」、「コデイン」、「ヒドラスチン」、「コフエイン」等ノ存在ヲ微スルノ反應ナシ

(支)原液ヲ「アンモニア」性トナシ「ガダーメル」氏浸出器內ニテ更ニ「エーテル」ヲ以テ浸出スル事二時間「エーテル」ト原液((黃)ニ用ユ)トニ分離シ「エーテル」ハ之ヲ蒸發皿ニ移シテ蒸散シ無色無味中性ノ殘渣少許ヲ得タリ之ヲ溫水ニ浸出後小磁皿ニ分取シ重湯煎上ニテ乾燥シ

(一)濃硝酸少許ト濃硫酸ヲ加フルモ變色ナシ

(二)フレーデ氏試藥ヲ加ユルモ變色ナシ

卽チ「アポモルヒソ」ノ存在ヲ微セズ

(黃)原液ヨリ全ク「エーテル」ヲ驅逐シ更ニ「アンモニア」性トナシ「ガダーメル」氏浸出器ニテ「醋酸エーテル」ヲ以テ浸出スル事二時間「醋酸エーテル」ト原液ヲ分離シ「醋酸エーテル」ヲ蒸發皿ニ移シ重湯煎上ニテ蒸散シ褐色中性ニシテ苦味アル殘渣少許ヲ得タリ之ヲ溫水ニ浸出シ純白小瓷皿ニ分取シ重湯煎上ニ乾燥シ

一、「フレーデー氏」試藥ヲ加フルニ褐色ヲ呈ス

二、「マルキー氏」試藥ヲ加フルニ淺褐色ヲ呈ス

卽チ「モルヒネ」ノ存在ヲ微セズ

(ほ)金屬性毒物ノ檢査

(ろ)項ノ殘渣ヲ蒸發皿ニ取リ「アルコール」ヲ全ク驅逐シ「コルベン」ニ移シ蒸餾水ノ適當量ヲ加ヘ鹽酸ヲ適加シ重湯煎上ニテ徐々ニ熱シツヽ時々鹽素酸加里少量ヲ加ヘテ有機物ヲ崩壞セシメ重湯煎上ニ稍強熱スルモ黑色乃至褐色ヲ呈セザルニ至リ冷後濾過シ殘渣ヲ蒸餾水ニテ佳ク洗滌シ白色ノ殘渣(天)ト淡黃色透明ノ濾液(地)トヲ得タリ

(天)殘渣檢査

殘渣ヲ濾紙ト共ニ乾燥シ坩堝內ニテ強熱シテ炭化セシメ之ニ硝石混合物ヲ加ヘテ融解シ融解物ヲ溫水ニ浸出シテ炭酸瓦斯ヲ通ズル事二時間後十分間之ヲ煮沸シ冷後濾過シテ殘渣(ア)ト濾液(イ)トニ分ツ

(ア)殘渣ヲ鹽酸含有ノ水ニ取リ硫酸ヲ加ユルモ沈澱ヲ生ゼズ(バリューム陰性)

(イ)濾液ヲ二等分シツヽ一分ニ鹽酸ヲ加ヘ他ノ一部ニ硫酸ヲ加フルモ兩者トモ沈澱ヲ生ゼズ

卽チ銀鉛バリューム化合物ノ存在ヲ微セズ

(地)濾液檢査

淡黃色透明ニシテ強酸性ノ濾液ニ少量ノ「アンモニア水」ヲ加ヘテ「ガダーメル」氏浸出器ニテ「醋酸エーテル」ヲ以テ浸出スル事二時間「醋酸エーテル」ト原液ヲ分離シ「醋酸エーテル」ヲ蒸發皿ニ移シ重湯煎上ニテ蒸散シ褐色中性ニシテ苦味アル殘渣少許ヲ得タリ之ヲ溫水ニ浸出シ純白小瓷皿ニ分取シ重湯煎上ニ乾燥シ

一、「フレーデー氏」試藥ヲ加フルニ褐色ヲ呈ス

二、「マルキー氏」試藥ヲ加フルニ淺褐色ヲ呈ス

卽チ「モルヒネ」ノ存在ヲ微セズ

(ほ)金屬性毒物ノ檢査

(ろ)項ノ殘渣ヲ蒸發皿ニ取リ「アルコール」ヲ全ク驅逐シ「コルベン」ニ移シ蒸餾水ノ適當量ヲ加ヘ鹽酸ヲ適加シ重湯煎上ニテ徐々ニ熱シツヽ時々鹽素酸加里少量ヲ加ヘテ有機物ヲ崩壞セシメ重湯煎上ニ稍強熱スルモ黑色乃至褐色ヲ呈セザルニ至リ冷後濾過シ殘渣ヲ蒸餾水ニテ佳ク洗滌シ白色ノ殘渣(天)ト淡黃色透明ノ濾液(地)トヲ得タリ

(天)殘渣檢査

殘渣ヲ濾紙ト共ニ乾燥シ坩堝內ニテ強熱シテ炭化セシメ之ニ硝石混合物ヲ加ヘテ融解シ融解物ヲ溫水ニ浸出シテ炭酸瓦斯ヲ通ズル事二時間後十分間之ヲ煮沸シ冷後濾過シテ殘渣(ア)ト濾液(イ)トニ分ツ

(ア)殘渣ヲ鹽酸含有ノ水ニ取リ硫酸ヲ加ユルモ沈澱ヲ生ゼズ(バリューム陰性)

(イ)濾液ヲ二等分シツヽ一分ニ鹽酸ヲ加ヘ他ノ一部ニ硫酸ヲ加フルモ兩者トモ沈澱ヲ生ゼズ

卽チ銀鉛バリューム化合物ノ存在ヲ微セズ

(地)濾液檢査

淡黃色透明ニシテ強酸性ノ濾液ニ少量ノ「アンモニア水」ヲ加ヘテ

着綿性トナシ重湯煎上ニ僅ニ熱シツヽ靜ニ硫化水素ヲ通ズル事數時間ノ後約一晝夜之ヲ靜置シ次ニ濾過シ帶褐灰色ノ殘渣(ア)ト褐色ノ濾液(イ)トヲ得タリ

(ア)殘渣ハ之ヲ佳ク硫化水素水ニテ洗滌シタル後濾紙ト共ニ小瓷皿ニ取リ發煙硝酸ニテ酸化シ重湯煎上ニ熱シテ全ク硝酸ヲ驅逐シ鹽素酸加里ト鹽酸ヲ以テ浸出濾過シ濾液ヲ重湯煎上ニ靜ニ熱シツヽ徐ニ硫化水素ヲ通ズル事數時間ノ後約一晝夜靜置スルニ灰白色ノ沈澱極メテ少許ヲ生ズ

卽チ錫、砒素、アンチモン、銅、鉛、水銀、ビスムート、カドミユーム等ノ存在ヲ微セズ

(イ)濾液ハ之ヲ「ビーカー」ニ取リ煮沸シテ硫化水素臭ナキニ至リ之ヲ三等分シテ次ノ反應ヲナス

(一)硝酸ヲ加ヘテ酸化シ「アンモニア水」ヲ加ヘテ濾過シ濾液ヲ醋酸々性トナシ之ニ硫化水素ヲ通ズルモ沈澱ヲ生ゼズ(亞鉛陰性)

(二)濾液ヲ鹽酸々性トナシ之ニ硫酸ヲ加フルニ沈澱ヲ生ゼズ(バリューム陰性)

(三)濾液ニ硝石混合物少許ヲ加ヘテ蒸發乾固シ之ヲ少量宛熱シタル白金坩堝ニ移シテ靜ニ融解セシメ黃色ノ融解物ヲ得タリ冷後之ヲ溫水ニ浸出濾過シ淡黃色ノ濾液ヲ以テ次ノ反應ヲ施行セリ

(甲)濾液ノ一部ヲ硝酸々性トナシ硝酸銀液ヲ加フルニ赤褐色ノ沈澱ヲ生ズ

(乙)濾液ノ殘餘ヲ醋酸々性トナシ之ニ醋酸鉛ヲ加フルニ淡黃色ノ沈澱多量ヲ生ズ濾過シテソノ沈澱ヲ集メ佳ク洗滌後濾紙ト共ニ小瓷皿ニ移シ「アルコール」及鹽酸ヲ加ヘテ重湯煎上ニ熱スルニ淡綠色ニ變ジ之ヲ蒸發乾固シテ綠色ノ殘渣ヲ得タリ之ヲ硫酸々性ノ水ニ浸出濾過シ淡綠色ノ濾液ヲ得之ニ「アンモニア水」ヲ加フル時ハ淡綠色絮狀ノ沈澱多量ニ生ズ

卽チ「クローム」化合物ノ存在ヲ微ス

(ヒ)酸類及「アルカリ滷汁」ノ檢査

檢第一號證ヨリ內容約一〇・〇立方仙迷ヲ取リ小濾過紙ニテ濾過スルニ濾液ハ淡綠色透明ニシテ稍酸性ノ反應ヲ微ス卽チ濾液ノ一部ニ硝酸銀、他ノ一部ニ鹽化「バリューム」ヲ加フルニ沈澱ヲ生ゼズ卽チ強酸類及アルカリ滷汁ノ如キモノヲ含有セズ

(ほ)「クローム」化合物ノ檢査

(い)乃至(は)ノ檢査ニ依リ檢第一號證ニ混入スル毒物ハ「クローム」化合物ナルヲ確定シ得タルヲ以テソノ「クローム」化合物ハ何ナル化學的造構トナリテ存在スルカヲ決定セシ爲檢第一號證ノ內容約二〇・〇立方仙迷ヲ取出シ(ろ)項ノ如ク濾過シテ得タル濾液ヲ以テ次ノ反應ヲナス

一、濾液ノ一部ニ「アルコール」ト鹽酸ヲ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ジ濾過シテ濾液ヲ熱スルニ稍綠色ニ移行ス

二、「ストリキニン」ノ少量ヲ濃硫酸ニ加ヘタルモノニ濾液ノ一部ヲ積層スルニソノ接觸面ニ黑褐色輪ヲ生ズ

卽チ「重クローム酸加里」存在ノ微證明カナラズ然レ共檢第一號證ハ已ニ腐敗セル有機物極メテ多量ニ含有セルヲ以テ假令最初「重クローム酸加里」ヲ混入セル事アリトスルモソハ之等有機物ノ爲メニ「クローム化合物」ノ他ノ造構ニ變化スル事多キヲ以テ「クローム」ノ存在ヲ微シタル檢第一號證中ニ重クローム酸加里ノ存在ヲ否定スル事能ハズ要之檢第一號證中ニ「クローム」ガ如何ナル造

構トナリテ混入シ居ルカハ有機物ノ混合多キト材料ノ少キトニ依リテ之ヲ決定スル事困難ナリ

（ハ）檢第一號證中ニ混入セル「クローム」化合物ノ定量

檢第一號證中ヨリソノ内容一〇・〇立方仙迷ヲ採リ白金坩堝ニ移シ靜ニ熱シテ水分ヲ蒸散シ更ニ强熱シテ之ヲ炭化セシメ硝石混合物ヲ加ヘテ靜ニ融解シ融解物ヲ温水ニ浸出濾過シ濾液ヲ醋酸々性トナシ之ニ醋酸鉛液ヲ加フルニ黄色ノ沈澱少許ヲ生ズ濾過シテ此沈澱ヲ集メ水ヲ以テ洗滌シ濾紙ト共ニ小瓷皿ニ移シ鹽酸々性ノ水ト「アルコール」ヲ加ヘ重湯煎上ニ熱シ乾固スルニ綠色ノ殘渣少許ヲ得タリ更ニ殘渣ヲ硫酸々性ノ水ニ浸出濾過シ淡綠色ノ濾液ヲ得此濾液ニ「アンモニア水」ヲ加ヘテ「アンモニア」性トナシ暫時靜置スル時ハ淡綠色絮狀ノ沈澱（水酸化クローム）ヲ生ズ小ナル濾紙（灰分ノ重量已定ノ）ニテ濾過シ此沈澱ヲ集メ「アンモニア水」二、二滴ヲ滴加シタル蒸餾水ヲ以テ洗滌後乾燥シ秤メ重量ヲ計リタル坩堝ニ入レ强熱スル事數時間、冷後ソノ重量ヲ計リテ坩堝及濾紙灰分ノ重量ヲ減ジ（酸化クローム）トシテ）クローム化合物ノ重量ヲ得タリ前記ノ方法ヲ繰リ返ス事前後四回、得タル成績ハ可檢物一〇・〇立方仙迷中ニ

（一）〇・〇〇五四五瓦
（二）〇・〇〇五二五瓦
（三）〇・〇〇五九五瓦　平均〇・〇〇五三七五
（四）〇・〇〇五〇五瓦

即チ平均〇・〇〇五三七五瓦ノ「酸化クローム」ヲ混入スル割合ナリ

（尙爲念此定量分析法ハ精密ナル結果ヲ得ルモノナル事ヲ豫メ試驗シ置ケリ）

第二、警第一號證ノ檢査

警第一號證ハ赤色硫片狀ノ結晶ニシテソノ重量〇・〇七三五瓦アリ其味稍濃ク特臭ナクソノ一小片ヲ取リ試驗管内ニテ蒸餾水ニ溶解セシムレバ淡黄色ノ液トナリ弱酸性ノ反應ヲ徵ス之ヲ五等分シテ次ノ化學的反應ヲ施行セリ

（一）一部ヲ醋酸々性トナシ醋酸鉛ヲ加フルニ黄色ノ沈澱ヲ生ズ濾過シテ此沈澱ヲ集メ蒸餾水ヲ以テ洗滌シ濾紙ト共ニ小瓷皿ニ取リ鹽酸々性ノ水ト「アルコール」ヲ加ヘテ重湯煎上ニ熱スレバ綠色ヲ呈スソノ水分ヲ蒸散シテ綠色ノ殘渣ヲ得此殘渣ヲ硫酸々性ノ水ニ浸出濾過シ濾液ニ「アンモニア」ヲ加フレバ淡綠色絮狀ノ沈澱ヲ生ズ

（二）濃硫酸ニ「ストリヒニン」ノ少量ヲ加ヘタル試藥上ニ溶液ノ一部ヲ積層スレバソノ接觸面ニ帶褐紫色ノ輪ヲ生ズ

（三）溶液ノ一部ニ鹽酸及「アルコール」ヲ加ヘテ重湯煎上ニ熱スレバ淡綠色トナル

（四）溶液ノ一部ヲ硝酸々性トナシ硝酸銀液ヲ加フルニ帶褐赤色ノ沈澱ヲ生ズ

（五）白金線ニ溶液ノ一部ヲ浸シ「アンゼン」瓦斯燈ノ焰中ニ熱スルニ焰ハ明ニ淡紫色トナル

即チ警第一號證ハ「クローム酸」ノ化合物ニシテソノ色性狀等ヲ綜合スレバコハ正シク「重クローム酸加里」ナリ

第三、鑑　定

上記檢査ノ結果ニ依リ左ノ如ク鑑定ス

一、檢第一號證ノ茶粥中ニハ「クローム」劑ヲ混入シアル事ヲ發見セリ而シテ此クローム製劑ハ多ク吾人々類ニ毒性ヲ有スルモノニシテ檢第一號證ノ茶粥一〇・〇立方仙迷中ニハ「酸化クローム」トシテ約〇・〇〇五三五瓦ヲ含有ス

二、警第一號證物品ハ「クローム酸」化合物ニシテ正シク重クロー

ム酸加里ナリ

附記、檢第一號證ハ約六〇・〇立方仙迷ヲ原鑑ニ容レ嚴封シ警第一號證ノ小塊二片ハ硝子管内ニ密閉シ大正〇年七月七日〇地方裁判所第五號機密廷ニ於テ係リ官ニ返却セリ

此鑑定ハ大正〇年六月二十一日着手
同年七月六日結了
大正年月日

鑑定人　醫師　小南又一郎

例銅化合物中毒

四、銅化合物中毒

銅化合物中ニハ硫酸銅、醋酸銅、亞砒酸銅及炭酸銅等アレドモ、ソノ代表者トスベキハ硫酸銅ナリ、此等ハ工業上ノ中毒或ハ錯誤ニヨリ中毒ヲ來スト雖、他殺ノ目的ニ用ユルハ甚ダ稀ナリ、食用上往々銅鍋ニ醋酸ヲ用ヒテ銅中毒ヲ來スコトアリ。

硫酸銅中毒

作用、本劑ノ多クハソノ接觸部ニ凝固壞疽ヲ起シ、血色素ヲ溶解セズト雖、直ニめとへもぐろびんヲ作ル、又中樞神經ヲ犯シ嘔吐甚シク、筋肉麻痺ヲ來シ、而シテコハ小腸、唾液、膽汁、尿及皮膚等ニ析出ス鑵詰ニ添加セラレタル小量ノ銅化合物ハ、何等中毒ヲ來スコトナシ。

症狀、急性中毒、硫酸銅等ヲ内用スレバ口内ハ綠色ニ腐蝕セラレ、不快ナル銅味ヲ感ジ、嘔吐甚シク吐物ハ綠色ヲ帶ブルヲ常トス、次デ垂涎、腹痛、腹部膨滿及赤褐色下痢、裏急後重、頭痛、眩暈、痙攣及黄疸等ヲ發シ虛脱ニ陷リ死ニ至ルカ、或ハ慢性ノ胃疾患ヲ貽シテ治スルコトアリ。

銅劑ノ慢性中毒者ハ黝ミタル淡微綠色ヲ帶ベルガ如キ顏色ヲ呈シ、齒牙ニハ銅條アリ、腹痛及胃腸炎ヲ伴ヒ、次第ニ衰弱シ行クモノナリ。

剖檢所見、口腔ヨリ肛門ニ至ル迄强キ胃腸炎アリ、吐物及胃内容ハ往々綠色ニ染ム、胃粘膜ハ充血腫脹シ溢血ヲ來シ、潰瘍ヲ見ルコトアリ、大腸ニハ灰白乃至綠色ノ斑ヲ見、穿孔スルコトアリ。肝臟及心筋ハ脂

銅綠

亞鉛中毒

肪變性ニ陷ルヲ常トス、其他實質性腎臟炎ヲ伴フコトアリ。

致死量、硫酸銅及醋酸銅十瓦内外ヲ服用スレバ死スト云フ。

化學的證明、可檢物ヲふれせにゆす、ばぼー氏法ニテ所置スレバ、銅化合物ハ鹽化物トシテ濾液中ニ移行シ、爲メニ濾液ハ綠色ヲ呈ス、此濾液ニ硫化水素瓦斯ヲ通ジテ黑褐色ノ沈澱ヲ生ジ、黃色血滷鹽ヲ加ヘテ帶褐赤色トナリ、かり滷汁ヲ加ヘテ初メ青色次イデ褐色ニ變ズル沈澱ヲ生ズレバ、銅化合物ノ存在スルコト明ナリ、尙銅ノ微量ハ生理的ニモ肝臟中ニ存在スルモノナレバ注意ヲ要ス、モシ銅化合物多量ヲ含メル吐物等アレバ、之ヲ濾過シ濾液ヲ强酸性トナシ、之ニ研磨シ光澤アル鐵片ヲ浸漬スレバ、暫時ニシテ鐵面ニ銅色ノ薄層ヲ附着ス、之ヲ乾燥シ研磨スレバ銅ナルコト益々確實トナル、之ヲ通常銅鏡ト稱ス。

五、亞　鉛　中　毒

鹽化亞鉛、硫酸亞鉛、酸化亞鉛及炭酸亞鉛等ハ何レモ毒物トシテ、殺人及自殺ノ目的ニ用ヒラレ、或ハ工業上又ハ錯誤ニヨレル中毒トシテ來ルコトアリ。

作用、亞鉛化合物ノ毒作用ハ略銅ノソレト同ジケレドモ、其毒力ハ弱シ吸收サレテ神經系統ヲ犯スコトアリ、排出ハ重ニ胃腸ノ粘膜腺ニ依リソガ内臟中ニ蓄積サルヽコトハ少シ。

症狀、本劑ヲ内用スレバ口腔粘膜ハ灰白色トナリ皺襞ヲ呈シ、强キ金屬味ヲ感ジ、垂涎、嘔吐及血便ヲ來シ、次デ全身衰弱、眩暈、冷汗等ヲ伴ヒ、慢性中毒ニテハ胃腸炎、脊痛、筋力衰弱前頭痛及多量ノ發汗等ヲ來ス。

剖檢所見ハ口粘膜ハ恰モ鞣メサレタルガ如ク、胃内面腐蝕サレ、溢血點ヲ見、所々剥離ス、腸粘膜、軟

腐蝕性瓦斯

毒瓦斯

くろーる瓦斯中毒

腸膜肺及腎等ニ血量多シ。

致死量ハ硫酸亞鉛ニテ六乃至七瓦、鹽化亞鉛ニテ六瓦ナリ。

化學的檢査、ふれせにゆす、ばぼー氏法ニテ白色透明ノ濾液ヲ得、此濾液ヲ中性トナシ、硫化あんもんヲ加フレバ白色ノ沈澱ヲ生ズ、又前記濾液ニかり滷汁或ハあんもにやヲ加フレバ白色ノ沈澱ヲ來シ、コハあるかりノ過剩ニ溶解ス、又別ニ前記濾液ニ黃色血滷鹽液ヲ加フルニ白色沈澱ヲ生ズ、之レ亞鉛存在ノ徵ナリ。

(二)腐蝕性瓦斯

工業上發生スル瓦斯ニ腐蝕性ノモノアリ、例ヘバ發煙硝酸、鹽酸、あんもにや、くろーる、ぶろーむ、よーど等ノ瓦斯之レナリ、是等ハ多クハ職業上ノ中毒ニシテ、今回ノ歐洲大戰ニ於ケル毒瓦斯ハ、發煙硝酸、くろーる、ぶろーむ等ナリト云フ。ソノ他錯誤ニヨレル中毒アレドモ、此等ノ瓦斯ヲ以テ自殺又ハ他殺ヲ行フコトハ稀有ナリ。

一、くろーる瓦斯中毒

くろーる瓦斯ハ漂白業、諸種ノ消毒及ソノ他ノ工業ニ使用サルヽヲ以テ、職業上ノ中毒ヲ來スコト多シ。

作用、總ベテノ蛋白ヲ崩解セシメ、粘膜或ハ上皮細胞ヲ腐蝕ス、少許ノ水分アル所ニテハくろーる瓦斯ハ水ト結合シ、一部鹽酸トナリ兩々相持シテ粘膜ヲ犯ス、且血色素ヲ犯シテめとへもぐろびん及へまちんニ變ズ、

症狀、くろーる瓦斯刺戟ノ爲メ、氣管枝肺炎、眼、鼻、口等ニ於ケル炎症卽チ呼吸困難、咳嗽、結膜炎

或ハ角膜炎等ヲ來シ、內用スレバ甚シキ胃腸炎ヲ起シ、下痢、嘔吐、咽頭ニ於ケル輕痛、黃疸、聲門水腫或ハ聲門痙攣ヲ惹起ス。

剖檢所見、くろーる瓦斯ヲ吸入シテ死セルモノハ死體ニくろーる臭アリ、肺ニハ溢血點アリ、所々ニ肺炎竈散在シ、且此部ハ赤褐色ニ染ム、胃粘膜ニモ溢血點アリ、ソノ他ノ眼結膜、鼻粘膜咽頭及食道、氣管等ニかたる性變狀ヲ見、角膜溷濁ヲ來シ居ルコトアリ。

致死量、液狀くろーるヲ內用スレバ稍多量ニ耐ユルコトヲ得ルモ、空氣中ニ〇・〇六%ノくろーるヲ含有スレバ、人ヲ死ニ致スコトヲ得ト云フ。

化學的證明、遊離セルくろーる瓦斯ハ濕潤セル沃度澱粉紙ヲ最初藍色トナシ、次デ褪色セシメ、又らくむす或ハいんでいご青試驗紙ヲ褪色セシム、金屬性銀ハくろーる瓦斯ニ遭遇シテ鹽化銀ヲ生成シ、コハ日光ニ觸ルレバ黑變ス、然レドモくろーる瓦斯ノ臭氣ハ、ソノ發見ニ最モ好都合ナルモノナリ。

附、ぶろーむ及よーど瓦斯ノ中毒モ、亦略くろーる瓦斯ノ中毒ニ似タレドモ其毒力稍劣シ、此等中毒ノ詳細ハ本書ノ如キ小冊子ノ能ク記載スル處ニアラズ。

二、硫化水素瓦斯中毒

化學實驗室或ハ下水抗道內等ニ充滿セル硫化水素瓦斯ニヨリテ往々中毒死ニ至ルコトアリ。

作用、硫化水素瓦斯ハ一面ニハ血液ヲ犯シテ窒息死ニ導キ、他面ニハ接觸セル局部ヲ刺戟スルモノナリ。

症狀、硫化水素ノ逸出セル室內ニ入レバ一種ノ惡臭アリ、眼鼻等ニ微痛ヲ感ジ、又呼吸器粘膜ヲ刺戟ス一乃至二%ノ硫化水素瓦斯ヲ含有スル室內ニ入レバ、往々瞬間ニシテ窒息死ニ陷ルコトアリ、之ヲ卒中樣

硫化水素中毒

硫化水素中毒死ト名ヅク、普通硫化水素瓦斯ヲ含有スル所ニ至リ、之ヲ避クルコトヲ知ラザレバ、嗄嗽、呼吸困難、心悸昂進、眩暈、四肢ノ震顫、表皮蒼白、冷汗等ヲ來シ、遂ニ人事不省ニ陷リ窒息死ニ至ル。

剖檢所見、卒中樣型中毒ニテハ窒息急死ノ所見アルノ他硫化水素中毒死ニ特有ナル所見ナシ、徐々ニ硫化水素ヲ吸入シテ窒息死ニ至リタルモノハ表皮ノ色、血液及內臟等綠色ノ調ヲ帶ビ、且一種ノ硫化水素臭ヲ發ス、ソノ他一般ニハ窒息死ノ所見ヲ有ス。

化學的證明、硫化水素ニ特有ナル臭アルヲ以テソガ中毒死ナルノ疑ヲ發ス、化學的ニハ可檢物ヲ蒸餾スレバ硫化水素ハ餾液ニ移行シ金屬鹽ヨリ硫化物ヲ沈澱ス卽チ醋酸鉛紙ヲ黑變シ或ハにとろぶるしとなとりゆーむヲ弱アルカリ性ノ餾液ニ加フレバ紫色ヲ呈スルニ依リソノ存在ヲ徵ス、茲ニ注意スベキハ人體ハ死後自然ニ腐敗ニ依リ硫化水素ヲ發生シ、又死體ガ糞壺內等ニ在ル時ハ、其處ニ存在スル硫化水素ガ死後體內ニ滲入シテ、比較的早期ニ皮色及血液幷ニ臟器等ヲ淡綠色トナシ、硫化水素中毒ニ非ラザルヤヲ疑ハシムルコトアリ、コハ小兒死體ヲ糞壺中ニ投ジタル時ニヨク見ルコトニシテ、注意スベキコトナリト信ズ。

(ホ)有機性腐蝕毒

接觸セル局部ニ刺戟乃至腐蝕ヲ與フル有機性毒物ニハ、かんたりぢん、がま毒、一種ノ魚毒及蛇毒等アルモ、法醫學的ニ必要ナルハかんたりぢんノ中毒ノミナリ。

一、かんたりぢん中毒

かんたりぢん中毒

かんたりぢんハ豆斑猫屬ノ昆蟲ノ體內ニ有スル毒物ニシテ、蕁菁ちんきトシテ販賣セラル、コハ自殺或ハ他殺ノ目的ニ往々用セラレ、俗間ニハ墮胎劑或ハ催淫劑トシテ使用サレ、又腎療ニモ用ヒラル、故、錯

誤ニヨレル中毒ヲ來スコトアリ。

作用、かんたりぢんハ非常ニ强キ局所刺戟劑ニシテ、ソノ排出口ヲスラモ甚シク刺戟ス、吸收サレテ腦神經ヲ犯スコト屢ナリ。

中毒症狀、かんたりぢんノ接觸セル外皮ニハ水胞ヲ作リ、內用スレバ口內ニ熱灼ノ感アリ、此所ニモ水胞ヲ作ル、ソノ他嚥下困難、垂涎、血樣液ノ吐瀉、腎臟部及尿道ニ於ケル疼痛、尿意頻發等ヲ來シ、尿ハ小量ニシテ、蛋白糖及血液ヲ含有スルニ至ル。

剖檢所見、出血性胃腸炎ヲ來シ、コハ特ニ大腸ニ於テ甚シ、ソノ他實質性腎臟炎、尿道粘膜ノ引赤及溢血等ヲ見、時トシテ胃腸ノ內容ニ光輝アル豆斑猫ノ翼片ヲ發見スルコトアレバ注意シテ檢スベシ、又此翼片ノ永ク附着セリト認メラル、粘膜部ハ、特ニ甚シク犯サル、ヲ見ル。

化學的證明、モシかんたりぢん含有ノ疑アル散藥等交付サレタル場合ニハ、注意シテ該藥ノ小翼片存在セザルヤ否ヤヲ檢スベシ。化學的檢出法トシテハ、先ヅ可檢物ニかり瀉汁ヲ加ヘテ煮沸シ、次デ濾過シ濾液ヲ硫酸ニテ酸性トナシ、くろゝほるむニテ振盪シ、該くろゝほるむヲ分取シ、更ニ此くろゝほるむヲ蒸散シ、殘渣ヲ以テかんたりぢんノ證明ヲナシ、又內臟等ヨリかんたりぢんヲ證明スルニハ、すたーす、をーとを氏法ニ從ヒ所置シ、比較的純粹ナルかんたりぢんヲ抽出シ、以テソノ證明法ヲ施行スベシ。卽チくろゝほるむ或ハゐーてる殘渣ヲ油類ニ溶解シ、皮膚ニ貼付スレバ水泡ヲ生ズ、之レ卽チかんたりぢん存在ノ徵ナリ、本劑ハ甚ダ腐敗ニ對スル抵抗强キモノナリト云フ。

乙、實質毒

實質毒ハ其接觸部位ヲ犯スコト比較的ニ少ク、唯僅ニ刺戟反應アルノミナルヲ常トス、主トシテ一旦體內ニ吸收サレ、生活細胞ノ原形質ヲ犯シ、酸素ノ供給ヲ妨ゲ、生活體ノ新陳代謝機能ニ大ナル障碍ヲ來シ種々ノ臟器ニ脂肪變性ヲ起サシム、之ニ屬スルモノハ燐、砒素劑、鉛及麥角等ナリ。

一、燐中毒

燐ニハ赤燐ト黃燐トノ二種アリ、前者ハ無毒ナレドモ、黃燐ハ猛毒ニシテまつち、殺鼠劑ノ主成分ヲ成スコトアリ、此等ハ日用品ナルヲ以テ、偶然不知ノ間ニ來ル中毒甚ダ多ク、又他殺ニモ用ヰラル、著者ノ遭遇セル二例ハ、一ハ猫いらずト稱スル燐ヲ含有セル殺鼠劑ヲ嬰兒ノ口內ニ押込ミ中毒セシメタルモノニシテ、他ハ同上劑ヲ食物ニ混ジ中毒ヲ計リシモ、ソノ臭氣ニ依リテ發見セラレ、目的ヲ達スルニ至ラザリシモノナリ。泰西ニテハ往々燐まつちヲ以テ墮胎ヲ企ツルモノアリ。燐まつちノ球頭ニ含有スル燐ノ含量ハ一定セザルモ、平均一本ニ〇・〇〇五瓦アリ、成人ニテハ其百本ヲ用ユレバ、已ニ重篤ノ中毒症ヲ發ストニフ。

作用、燐ヲ脂肪或ハ油類ニ溶解スル時ハ其吸收セラルヽコト速ナルヲ以テ、局部症狀ナクシテ直ニ全身症狀ヲ來ス、溶解セザル燐ハ蛋白ニ作用シテろいちん、ちろじん等ヲ作リ、又血管壁、肝、胃、腎、筋肉心筋等ニ脂肪變性ヲ來シ、血球ヲ犯シ膽汁ノ分泌過多トナリ、黃疸ヲ發セシム、又骨質ヲ犯シ壞疽ニ陷ラシムルコトアリ。

症狀、燐ハ脂肪ニ溶解シテ用フレバ汎發性作用ヲ速ニ發スレドモ、通常ハ嚥下後數時間ニシテ口內異常ノ味覺、口渴、胃部壓痛及嘔吐アリ、吐物ハ燐臭ヲ有シ、暗處ニテ之ヲ窺ヘバ燐光ヲ放ツ、ソノ他頭痛不

安等アリ、諸症增惡シ數日ノ後虛脫ニ陷リ死ス、慢性症ニテハ肝ノ腫大及黃疸ヲ來セドモ、急劇症ニテハ之ヲ見ルコト能ハズ。

中毒ノ經過遷延スル時ハ、嘔吐、口渴、腹痛等一旦輕快シ、外見上良好ノ經過ヲ取ルガ如キモ、第二、三日ニ至リ黃疸ヲ發シ、嚥下困難胃部ニ於ケル苦悶、嘔吐ヲ伴ヒ、吐物ニハ往々血液ヲ混ジ次デ肝腫大、關節痛、全身衰弱シ心音微弱、脈搏細小、眩暈等ヲ發シ、尿ニハ蛋白ヲ含ミ、膽汁及血液ヲ混ジ、又尿量減ズ、神識ハ多クハ障害セラレザルモ、間々瀕死時ニ譫語ヲ發シ、昏睡ニ陷ルコトアリ、往々齒龈、子宮胃、直腸、皮膚及結膜、筋間等ニ溢血ヲ來ス。

燐ヲ用ユル工場ニテハ燐中毒ノ爲メ齒牙弛ミ齲齒多ク、下顎骨壞疽ヲ來スコトアリ。

剖檢所見、燐中毒後急死セルモノニ在テハ、胃腸ノ内容往々ニシテ燐臭ヲ帶ビ、暗處ニテ燐光ヲ放チ、燐片又ハまつちノ球頭片ヲ發見スルコトアリ、胃腸粘膜ハ僅ニ濁濁セルノミ。

中毒後二三十時間ヲ經過セルモノニ在テハ、肝細胞ハ顆粒變性ヲ來シ、腎上皮及心筋纖維ニハ顆粒狀ノ觀アルヲ明ニ認ムルコトヲ得、三乃至五日ヲ經テ死亡セル者ニ在テハ、剖檢上極メテ明ナル特徵ヲ呈ス、卽チ全身黃疸色ヲ呈シ、皮膚及結膜下ニ溢血ヲ認メ、肝臟ハ脂肪變性ヲ來シ、腫大シテ黃色ヲ呈ス、之ニ觸ルレバ揑粉狀ノ硬度ヲ有シ、斷面亦黃色ナリ、處々ニ出血點ヲ見、實質細胞ハ多量ノ脂肪ヲ充益シ、肝小葉ノ境界明ナリ、腎及胃腸粘膜モ亦脂肪變性ニ陷リ、溢血ヲ來シ、ソノ内容モ亦血液ヲ混シ汁粉樣ノ觀アリ、心筋ニモ亦脂肪變性ヲ來ス。血液ハ一般ニ流動性ニシテてーる狀ヲナシ、血球崩壞ス、ソノ他網膜腸間膜、胸膜、筋間等ニ大小種々ノ大サノ溢血ヲ見ル。

致死量、燐ノ致死量ハ〇・二乃至〇・〇五瓦ナリ。

化學的證明、可檢物ニ硫酸及水ヲ加ヘテ酸性トナシ、みつちゐるりひ氏裝置ヲ用ヒテ蒸餾スル時ハ、燐ハ水蒸氣ト共ニ蒸餾サル、此蒸餾ヲ暗所ニテ行フ時ハ、ソノ冷却部ニ於テ燐光ヲ放ツ、但シ爽雜物多キ時ハ之ヲ妨グルコトアリ。硝酸銀紙ハ燐蒸氣ニヨリテ黑變スレドモ、醋酸紙ハ然ラズ。尙燐ヲ水素瓦斯ト共ニ發生セシメ、之ニ點火スレバ綠色ノ炎ヲ以テ燃ユ、一般ニ燐ハ空氣中ニ於テ甚ダ酸化シ易キモノナレバ可檢物ハ成ルベク早ク檢査スベシ、若シ燐ガ酸化シテ燐酸トナレバ、最早毒物トシテ證明スルコト能ハズ何トナレバ燐酸ハ人體ノ生理的成分ナレバナリ。

鑑定實例

鑑定書

大正〇年十月十五日K區裁判所判事K、Sハ同廳法廷ニ於テK地方裁判所Mノ委囑ニ係ル〇〇府〇〇郡〇〇村字〇〇一、S殺人未遂被告事件ニ付ソノ證據品タル檢第一號(飯籠中ノ麥飯)同第二號(小皿在中ノ味噌)及同第三號(紙箱中ノ小壺内ニ入レル藥m)ヲ交附シ

一、檢第三號ノ藥品中ニハ如何ナル毒藥ノ含ミ居ルヤ又如何ナル分量ノ飯食物ニ混入シテ食用ニ供セバ人ノ殺害スルニ足ルベキモノナルヤ

二、檢第一號飯籠在中ノ麥飯中并ニ檢第二號ノ小皿在中ノ味噌中ニハ人ヲ殺害スルニ足ル毒藥混入シ居ルヤ否ヤ若シ混入シ居ルトスレバ如何ナル毒藥ガ混入シアルヤ又檢第三號ト同樣ノモノナリヤ否ヤ

大正〇年十月十五日K區裁判所判事K、Sハ同廳法廷ニ於テK地方裁判所Mノ委囑ニ係ル〇〇府〇〇郡〇〇村字〇〇一、S殺人未遂被告事件ニ付ソノ證據品タル檢第一號(飯籠中ノ麥飯)同第二號(小皿在中ノ味噌)及同第三號(紙箱中ノ小壺内ニ入レル藥m)ヲ交附シ

一、檢第三號ノ藥品中ニハ如何ナル毒藥ノ含ミ居ルヤ又如何ナル分量ノ飯食物ニ混入シテ食用ニ供セバ人ノ殺害スルニ足ルベキモノナルヤ

二、檢第一號飯籠在中ノ麥飯中并ニ檢第二號ノ小皿在中ノ味噌中ニハ人ヲ殺害スルニ足ル毒藥混入シ居ルヤ否ヤ若シ混入シ居ルトスレバ如何ナル毒藥ガ混入シアルヤ又檢第三號ト同樣ノモノナリヤ否ヤ

第一、檢第一號證(飯籠在中ノ麥飯)檢査

上、一般檢査

檢第一號證ハ古キ竹製飯籠中ニ在ル汚灰白色ノ麥飯ニシテ白色ノ黴類ヲ生ジ强キ一種ノ酸臭ヲ感ズ而シテ飯粒ハ竹籠ニ粘着シテ全部ヲ摘出スル事不能ナルヲ以テソノ儘容器ト共ニ之ヲ秤量スルニ全量一九五〇・〇瓦アリ「ルーペ」ヲ以テソノ各部ヲ精視スルニ麥飯粒及白色ノ菌糸無數アリソノ麥飯一五〇・〇瓦ヲ平皿ニ採リ蒸餾水ヲ加ヘテ軟塊ヲ丁寧ニ分解シ羽狀トナシ更ニ「ルーペ」ヲ以テ窺フニソノ所見略前述ノ如ク又ソノ黴菌ヲ載物硝子板上ニ取リ覆蓋硝子ヲ被セ顯微鏡下ニ檢スルニ無色、灰色、褐色乃至帶褐綠色

ヲ認定ス可キ旨ヲ予ニ命ゼリ依テ同判事ノ許可ヲ得右記ノ各證據品ヲ京都帝國大學醫科大學法醫學教室ニ持來シ翌十六日ヨリ同年十一月三日ニ至ル期間同教室ニ於テソノ檢査ヲ施行セリ

第一、檢第一號證(飯籠在中ノ麥飯)檢査

上、一般檢査

ノ綱狀ヲナセル植物組織片、無色ノ植物纖維及澱粉ノ小顆粒無數ヲ見ル粥狀トナシタル檢査物ヲ一夜硝子鐘內ニ閉置シテ之ヲ試嗅スルニ酸臭ノ外特臭アルヲ感ゼズ

中、化學的檢査

前記粥狀ニナシタル檢査物ハ弱酸性ヲ呈シ微ニ酸味ヲ有ス之ヲ以テ後記甲乃至丁ノ毒物檢査ヲ施行セリ

甲、揮發性毒物ノ檢査

平皿內ノ粥狀檢査物ノ全部ヲ稍大ナル「コルベン」頸部ノ內側ヲ蒸溜水ニテ清潔シ水栓ヲ施シソノ內ニ一葉ハ硝酸銀水溶液ヲ以テ一葉ハ醋酸鉛水溶液ヲ以テ濕潤セル小ナル濾紙片ヲ相互ニ又頸壁ニ觸レザル樣垂下シソノ部ヲ黑布ニテ掩ヒ重湯煎上ニ攝氏四十度乃至五十度ノ微溫ヲ加フル時ハ暫時ニシテ硝酸銀紙ハ淡黑色トナレ共醋酸鉛紙ニ變化ナシ（硫化水素陰性）

卽チ有毒燐ノ存在ヲ假示スルヲ以テ「コルベン」內容ヲ酒石酸々性トナシミツチエルリヒ氏方法ニ從ヒ暗所ニ於テ蒸溜スルニ冷却器內ニ明ニ燐光ヲ發スルヲ見タリ（約三分間）斯ノ如ク蒸溜スル事二時間ニシテ醋酸性ヲ呈シ味噌樣ノ臭アリ（ソノ他ノ特臭ナキ）輕濁セル餾液約一六〇・〇立方仙迷ヲ得タリ此餾液ニ就キ左ノ反應ヲ檢セリ

一、餾液ノ八〇・〇立方仙迷ヲ取リ硝酸ヲ加ヘテ重湯煎上ニ蒸散乾固シ殘渣ヲ少量ノ水ニ取リ所定ノ「モリブデン酸アンモニア液」ヲ加ヘテ一夜放置スルニ黃色ノ沈澱ヲ生ジ此沈澱ヲ濾紙上ニ集メテ「アンモニア水」ニ溶解シ「マグネシヤ混合液」ヲ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ズ（有毒燐存在ノ確定）

殘餘ノ餾液ヲ以テ次ノ試驗ヲナス

二、「カリ濾汁」一滴ヲ加ヘ之ニ硫酸銀及鹽化鐵ノ水溶液ヲ滴加シ靜ニ熱シ而シテ後鹽酸ヲ加フルモ淡黃色ナリ（青酸化合物陰性）

三、「ミルロンス」試藥ヲ加ヘ熱スルモ變色ナク又鹽化鐵水溶液ニテ黃色ナリ（石炭酸陰性）

四、（イ）餾液ニ「レゾルチン水溶液」二滴ト「カリ濾汁」一滴ヲ加ヘテ熱スルニ無色ナリ。

（ロ）「アルファナフトール」ノ水溶液ニ「カリ濾汁」ヲ加ヘ五十度ニ熱シタルモノニ餾液ヲ加フルニ無色ナリ

卽チ「クロ、ホルム」「クロラルヒドラート」「ヨードホルム」ノ存在ヲ微セズ

五、「ブロローム水」ヲ加フルニ何等ノ沈澱ヲ生ゼズ卽チ「アニリン」「ニトロベンゾール」ノ存在ヲ微セズ

六、「カリ濾汁」及醋酸鉛液ヲ加ヘ熱スルニ白色ノ沈澱ヲ生ゼズ（硫化炭素陰性）

七、「重クローム酸カリ水溶液」少許ト硫酸ノ一滴ヲ加ヘ熱スルニ變色ナシ（「アルコール」陰性）

八、「ニトロプルシツドナトリユーム」液少許ト加里濾汁ヲ加フルニ黃色ニシテ之ニ醋酸ヲ加フルニ褐色ス卽チ「アセトン」ノ存在ヲ微セズ

上記ノ化學的檢査ニ依リ有毒燐ノ存在ヲ證明シタルモ（甲第一項參照）ソノ他揮發性毒物ノ存在ヲ微セズ

乙、苦味質及「アルカロイド」檢査

甲項ノ殘液ヲ蒸發皿ニ移シ靜ニ重湯煎上ニ蒸散シテ軟泥樣トナシ更ニ「コルベン」ニ移シ之ニ九十三%ノ酒精ヲ加ヘ微溫ニテ浸出シ冷後濾過シソノ殘渣ニ酒精ヲ加ヘテ同一所置ヲ數回反復シ殘渣ハ金屬性毒物檢査（丙）ニ用ヒ濾液ヲ集メテ蒸發皿ニ入レ重湯煎上ニ熱シ酒精分ヲ蒸散シ殘液ノ乾燥セル後無水酒精ヲ以テ所謂スル

專數回之ヲ濾別シ得タル濾液ハ重湯煎上ニテ酒精分ヲ蒸散シ殘渣ヲ溫水ニ取リ之ヲ原液ト假稱ス原液ハ輕濁セル淡褐色ノ弱酸性液ナリ

天、上記ノ原液ヲガダーメル氏穿通浸出器ニ移シ「エーテル」ヲ以テ浸出スル事二時間「エーテル」分ト原液トヲ分離シエーテル分ヲ蒸發皿ニ移シ蒸散シテ味噌臭ヲ有スル褐色粘稠物少許ヲ得タリ之ヲ溫水ニ取リ濾過スルニ濾液ハ弱酸性ニシテ無色無味ナリ之ヲ純白ノ小磁皿數個ニ分取シ重湯煎上ニ乾燥セシメ次ノ反應ヲ試ミタリ

一、（イ）濃硫酸ヲ滴加スレバ褐色トナリ更ニ重クロー酸加里ヲ加フレバ接觸線鮮紅色ニ變ジ後淡紫色ニ移行ス

（ロ）硝石ニ硫酸少許ヲ加ヘタルモノニテ濕シ之ニ「ナトロン濾汁」ヲ加フルモ無色ナリ

卽「ピクロトキシン」存在ノ徵標ナシ

二、硝酸ヲ加フルニ黃色トナリ之ニ「カリ濾汁」ヲ加フルニ變色ナシ又チアイセル氏反應陰性ナリ故ニ「コルヒチン」存在ノ反應ヲ呈セズ

三、硫化「アンモン」液ヲ加フルニ黃色トナリ「チアン加里」ヲ加ヘテ熱スルニ無色ナリ卽「ピクリン酸」存在ノ反應ヲ視ズ

四、鱗化鐵水溶液ヲ加フルニ黃色ナリ卽チ「サリチール酸」「アンチピリン」存在ノ徵標ナシ

五、ソノ他「ベロナール」「コフエイン」「カンタリデイン」「フエナセチン」「アセトアニリード」ノ反應ハ材料少キ爲メ之ヲ施行スル事能ハザリシト雖母液ノ性狀、臭、味等ヨリ考察スルニ此等ノ毒物ヲ含有セズ

地、原液（天項ニテ「エーテル」ヨリ分離セシモノ）ヲ「ナトロン濾汁」ヲ以テ「アルカリ」性トナシ前記ノ如ク「エーテル」ヲ以テ浸出スル事二時間原液ト「エーテル」分ヲ蒸發皿ニ取リテ重湯煎上ニ蒸散シ無色無味無臭中性ノ殘液少許ヲ得タリ之ヲ溫水ニ取リ數個ノ小磁皿ニ分取シ重湯煎上ニ乾燥シソノ反應ヲ試ムルニ濃硫酸ニテ淡褐色、エルドマン氏試藥ニテ淡褐色フレエデー氏試藥ニテ淡綠色、「硫酸ワナディン」ニテ無色、濃硝酸ニテ無色ナリ卽チ「アコユチン」「アトロピン」「コニイン」「デルヒニン」「エメチン」「ヒヨスチアシン」「ブルチン」「ヘリドニン」「ヒニン」「コカイン」「ナルコチン」「ニコチン」「パパベリン」「ヒゾスチグミン」「ピロカルピン」「ゾラニン」「テバイン」「ストリヒニン」「ベラトリン」等ノ存在ヲ微セズ

支、原液（地項ニテ「エーテル」ト分離セシモノ）ヲ「アンモニア」性トナシ前法ノ如ク「エーテル」ヲ以テ浸出スル事二時間「エーテル分」ト原液トヲ分離シ「エーテル分」ヲ蒸發皿ニ集メテ重湯煎上ニ蒸散シ無色無味中性ニシテ輕濁セル殘液少許ヲ得之ヲ濾過シ白色ノ小磁皿ニ取リ重湯煎上ニ乾燥シ濃硝酸一滴ヲ加ヘタル濃硫酸ヲ加フルニ淡褐色ナリ卽チ「アポモルフイン」ノ存在ヲ微セズ

黃、原液（支項ニテ「エーテル」ト分離セルモノ）ヲ蒸發皿ニ移シ重湯煎上ニテ全ク「エーテル」ヲ驅逐シ更ニガダーメル氏穿通浸出器ニテ「醋酸エーテル」ヲ以テ浸出スル事二時間原液ト「醋酸エーテル分」トヲ分離シ「醋酸エーテル分」ヲ蒸發皿ニ取リ重湯煎上ニ蒸散シ褐色中性ノ膠味ヲ有スル粘稠液少許ヲ得之ヲ溫水ニ取リテ濾過シ濾液ヲ數個ノ白色小磁皿ニ分取シ重湯煎上ニ乾燥シコレニフレーデ氏試藥ヲ加フルニ先ヅ褐色トナリ後綠色ニ移行スマルキー氏試藥ニ遭フチハ褐色トナル卽チ「モルヒネ」ノ存

在ヲ微セズ

丙、金屬性毒物ノ檢査

乙項ノ殘渣ヨリ酒精ヲ驅逐シ之ニ蒸餾水ノ適量ト鹽酸ヲ加ヘ重湯煎上ニ熱シツヽ時々鹽素酸加里ノ少量ヲ加ヘ重湯煎上ニ熱スルモ褐色乃至黑色ヲ呈セザルニ至リ濾過シ殘渣(天)ト濾液(地)トニ分ツ

天、殘渣檢査

前記ノ殘渣(天)ヲ乾燥セシメ送製坩堝內ニ移シ强熱シテ炭化セシメ之ニ硝石、ソーダ混合物ヲ加ヘテ靜ニ融解シ溫水ニ取リ炭酸ヲ通ズル事二十分間煮沸シテ濾過シ殘渣(イ)ト濾液(ロ)ニ分ツ

(イ)殘渣檢査

天項ノ殘渣(イ)ヲ鹽酸ニ溶解セシメ之ニ硫酸ヲ加フルニ透明ニシテ(白色ノ)沈澱ヲ生ゼズ卽チ「バリユーム」化合物ノ存在ヲ微セズ

(ロ)濾液檢査

一、天項ノ濾液(ロ)ノ一部ニ鹽酸ヲ加フルニ沈澱ナシ卽銀化合物除性ナリ

二、同濾液ノ一部ニ硫酸ヲ加フルニ透明ナリ卽チ「バリユーム」及鉛化合物ノ存在ヲ微セズ

地、濾液檢査

兩項ノ濾液(地)ニ少許ノ「アンモニア水」ヲ加ヘテ弱酸性ニ中和シ「コルベン」ニ入レ重湯煎上ニ微溫ヲ加ヘツヽ徐々ニ硫化水素ヲ通ズル事三時間、一夜之ヲ靜置シ翌朝尙硫化水素臭アリ淡褐色ノ沈澱少許ヲ生ズ茲ニ於テ濾過シテ濾液(イ)ト殘渣(ロ)ニ分ツ

(イ)濾液檢査

濾液(イ)ハ之ヲ「ビーカー」ニ取リ煮沸シテ硫化水素ヲ驅逐シ且乾燥セシメソノ殘渣ヲ坩堝ニ移シ「硝石ソーダ混合物」ヲ加ヘテ靜ニ融解シ冷後溫水ニ取リ次ノ試驗ヲナス

一、ソノ一部ニ「アンモニア水」ヲ加フルニ褐色ノ沈澱少許ヲ生ズ(鐵ノ少許陽性)

二、(ア)浸出液ヲ濾過シテ濾液ヲ醋酸々性トナシ硫化水素水ヲ加フルニ白色ノ沈澱多量ニ生ジソノ沈澱ハ酸ニ溶解ス

(イ)濾液ニ黃血鹽水溶液ヲ加フルニ黃色透明ナリ

(ウ)濾液ニ「ナトロン滷汁」及「ソーダ水溶液」ヲ加フルニ沈澱ヲ生ゼズ

(エ)更ニ原檢査物(第一號證)ヨリ約一〇・〇瓦ノ麥飯ヲ取リ白金坩堝內ニ强熱シテ炭化セシメ「硝石ソーダ混合物」ヲ加ヘテ融解セシメ冷後溫水ニ取リ濾過シテ濾液ヲ醋酸々性トナシ之ニ硫化水素ヲ加フルニ亦然リ

卽チ亞鉛ノ存在ヲ微セズ

三、濾液ヲ醋酸々性トナシ醋酸鉛液ヲ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ズ卽チ「クローム化合物」ノ存在ヲ微セズ

四、濾液ヲ鹽酸々性トナシ硫酸ヲ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ゼズ卽チ「バリユーム化合物」陰性ナリ

(ロ)殘渣檢査

地項ノ殘渣(ロ)ヲ濾紙ト共ニ蒸發皿ニ取リ發煙硝酸ニテ酸化シ重湯煎上ニ熱シテ殘餘ノ硝酸ヲ驅逐シ後鹽酸ト鹽素酸加里ニテ所置シテ濾過シ濾液ヲ重湯煎上ニ熱シツヽ硫化水素ヲ通ズル事三時間一夜之ヲ靜置シ後試臭スルニ硫化水素臭アルモ液體ハ褐色ニ變ズルノ他沈澱ヲ認ムル事能ハズ卽チ錫、砒素、「アンチモン」、水銀、鉛、銀、「ビスムート」、銅、「カドミユーム」等ノ化合物ノ存在ヲ微セズ

丁、强酸及「アルカリ」檢査

第一號證ヨリ麥飯五〇・〇瓦ヲ取リ蒸餾水ヲ加ヘテ微溫ニテ浸出濾過シテ酸性ノ濾液ヲ得タリコノ濾液ハ

一、「鹽化バリユーム」ヲ加フルニ輕濁ス而シテ此濁ハ酸ニ容易ニ溶解ス(硫酸陰性)

二、硝酸銀ヲ加フルニ淡黑色ヲ呈ス(鹽酸陰性)

三、「アルチン硫酸」ニ此濾液ヲ積層スルニ接觸面ニ褐色ノ輪ヲ生ズ卽チ硝酸反應ナシ

四、(一)、(二)、(三)ノ反應ヲ合セ考フル時ハ恐ラク燐酸ノ存在セルモノニシテ卽チ本液酸性ノ由テ來ル所以ナリ

尙「アルカリ論汁」ノ存在セザル事ハ言ヲ俟タズ

以上ノ檢査成績ニ依レバ第一號證(麥飯)中ニハ有毒燐ノ存在ヲ微シソノ他ノ毒物ヲ發見スル事能ハズ

下、有毒燐ノ定量

有毒燐ノ定量

茲ニ於テ檢査物中ニ有毒燐幾何ヲ含有スルヤヲ定メント欲シ第一號證ヨリ麥飯一五〇・〇瓦(予ノ檢査時此麥飯ヲ普通ノ飯茶碗ニ普通一杯ニ盛リシ重量ニシテ此重量モ時日ヲ經ルニ從ヒ麥飯乾燥シ水分ヲ失フヲ以テ自ラ變化ス)ヲ取リ水ヲ加ヘテ粥狀トナシヒルゲル、ナウテルマン氏法(ミツチエルリヒ氏法ノ改良法)ニ從ヒ炭酸瓦斯ヲ通ジツヽ蒸餾スル事三時間ソノ餾液及黑變セル硝酸銀液ヲ合併シ濃硝酸及鹽酸ヲ加ヘテ蒸發皿ニ移シ重湯煎上ニ蒸發乾固シ殘渣ヲ成ルベク少量ノ水ニ取リ小濾紙ニテ濾過シ少量ノ水ニテ洗滌シ濾液ニ「硝酸アンモニア」ノ飽和水溶液ト「モリブデン酸アンモニア液」トヲ加ヘテ一夜靜置スレバ美麗ナル黃色ノ沈澱ヲ生ズ濾過シテ此沈澱ヲ集メ「モリブデン酸アンモニア液」ト硝酸ノ混合液ニテ洗ヒ次ニ受器ヲ替ヘ濾紙上ノ沈澱ヲ三%ノ「アンモニア水」ニ溶解シ少量ノ「アンモニア水」ニテ洗滌シ此濾液ニ「マグネシヤ混合液」ヲ加ヘテ一夜靜置シ析出シタル「燐酸アンモニアマグネシヤ」ヲ無灰濾紙上ニ捕集シ少量ノ「アンモニア水」ニテ洗滌シ殘渣ヲ濾紙ト共ニ乾燥シ重量巳知ノ坩堝ニ移シ强熱シテ「焦性燐酸「マグネシヤ」」トナシソノ得タル重量〇・〇〇七瓦ニ〇・二七八九ヲ乘ジ換算スレバ燐ノ重量〇・〇〇一九五二瓦トナル

次ニ又第一號證麥飯一〇〇・〇瓦ヲ取リ前記ノ方法ニ依リ有毒燐ノ定量ヲナセシニ「焦性燐酸「マグネシヤ」」トシテ〇・〇〇五瓦ヲ得タリ之ヲ燐ノ重量ニ換算スレバ〇・〇〇一三九四瓦トナル

前述ノ如ク第一號證ノ麥飯ハ時日ノ經過ニ依リテ水分ヲ失ヒソノ重量ニ變化ヲ來シ又ソノ內ニ含有セラル、有毒燐モ時ヲ經ルニ從ヒ酸化サレテ有毒燐トシテ證明シ得ル量次第ニ減ズルヲ以テ予ノ檢査當時ノ現狀トソノ結果ニ依レバ普通ノ飯茶碗ニ普通ニ盛ル時ハソノ麥飯(第一號證)ノ量ハ約一五〇・〇瓦ニシテソノ內ニ含有スル有毒燐ノ量ハ約〇・〇〇一九五瓦ナリ然レ共多ク盛ル時ハ飯量約二〇〇・〇瓦ナレバソノ內ニ有毒燐〇・〇〇二六八瓦ヲ含有スル割合ナリ

第二、第三號證(藥品「猫イラズ」)ノ檢査

上、一般檢査

檢第三號證ハ「猫イラズ」ト表記シ且猫ト鼠取鼈トヲ商標トセル小紙箱內ニ納メタル小罐內ニ入リ居リ小罐ニモ紙箱同樣ノ商標ヲ附シ「醫藥用外毒物」ト記載シアリ罐ヲ開キテソノ內容ヲ窺フニ褐色「クリーム」樣ノ藥品ニシテ開罐ト同時ニ白霧少シク立昇リ燐臭ヲ發シ中性ノ反應ヲ呈シ無味ナリソノ全重量約二〇・〇瓦(罐ト共ニ)アリソノ少許ヲ載物硝子ノ上ニ取リ覆蓋硝子ヲ被セ鏡檢スルニ黃色、褐色乃至黑色ノ小塊、無色ノ三角形若クハ多角形ノ結晶

胸ヲ見ル

中、化學的檢査

本品約三・〇瓦ヲ取リ蒸餾水ヲ加ヘテ細分シ之ヲ以テ檢第一號證ノ通リ甲乃至丁ニ至ル毒物ノ檢査ヲ施行セリト雖ソノ重複スル記載ハ之ヲ省キ必要ナル點ノミヲ擧ゲム

甲、揮發性毒物ノ檢査

ミッチェルリヒ氏法ヲ施行スルニ當リソノ燐光類ル長時間繼續シソノ他ノ燐存在ノ反應モ亦著明ナリキ卽燐含有試遙ニ檢第一號證ヨリ多キ事ヲ示セリソノ他毒物ノ存在ヲ徵セズ

乙、苦味質及「アルカロイド」檢査

檢第一號證(乙)ノ部ト同樣ニシテ作リシ原液ハ無色透明無味無臭ニシテ一般ノ苦味質及「アルカロイド」試藥ヲ加フルニ何等ノ沈澱ヲ來サズ卽チ苦味質及「アルカロイド」ノ存在ヲ徵セズ

丙、金屬性毒物ノ檢査

檢第一號證檢査(丙)ノ部ト全ク同樣ニ所置シテ有機物ヲ碎解シ濾過シタル液(第一、(丙)ノ(地)ニ相當ス)ニ硫化水素ヲ通ズル事前ノ如クスルニ黃色絮狀ノ沈澱少許ヲ生ジ之ヲ濾過スルニ絮ハ濾紙ヲ通過シ濾過頗ル困難ニシテ濾紙上ニ殘存スルモノナシ卽チ輕濁液ニ强硝酸ヲ加ヘテ酸化スルニ直ニ透明トナリ後「鹽化バリユーム」ヲ加フルニ酸ニ溶解セザル白色ノ沈澱多量ヲ生ズ卽チ前記黃色ノ絮末ハ硫黃(硫化水素ヨリ來リシ)ナリシ事ヲ知ル

檢第一號證檢査(丙)(天)ニ相當スル殘渣ヲ檢スルニ銀、「バリユーム」、鉛化合物ノ存在スルノ徵標ナシ此所ニ「硝石ソーダ」混合物ヲ加ヘテ强熱スルモ融解セザル灰白色ノ殘渣極メテ多量殘存セル

二、醋酸々性トナシ硫化水素ヲ加フルニ淡黃色ノ沈澱ヲ生ズ

三、「鹽化バリユーム」ヲ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ジ酸ニ溶解ス

四、「アンモニア性」トナシ「マグネシヤ混合液」ヲ加フルニ白色ノ沈澱ヲ生ズ

五、硝酸々性トナシ「モリブデン酸アンモニア液」ヲ加フルニ黃色ノ沈澱ヲ生ジ「アンモニア水」ニ溶解ス

卽チ燐酸基ノ存在ヲ徵ス

ソノ他金屬性毒物ノ存在ヲ徵セズ

丁、强酸及「アルカリ」ノ檢査

第一、檢一第號證檢査(丁)ノ部ト略同樣ノ所置ヲナシ同樣ノ結果ヲ示スト雖燐酸或ハ燐酸基ノ存在ハ頗ル著明ナリ

下、有毒燐ノ定量

本品三・〇瓦ヲ取リ水ヲ加ヘテ細解シ第一、檢第一號證檢査(下)ノ部ト同樣ニシテ有毒燐ノ定量ヲナスニ「熊性燐酸マグネシヤ」トシテ〇・〇八八瓦ヲ得之ヲ有毒燐ニ換算スレバ〇・〇二四五二瓦トナル

第三、檢第二號證小皿在中ノ味噌中ノ毒物檢査

上、一般檢査

磁製小皿ハ八片(大片三個小片五個)ニ破碎シ內ニ味噌樣ノモノ少許ト檢第三號證ノ藥品樣ノモノ乾着セリソノ全量七七・〇瓦ニシテ「ルーペ」ヲ以テ窺フニ特異ノ所見ナク顯微鏡標本ヲ作リテ檢スルニ數多ノ植纖組織或ハ細胞ヲ見略檢第三號證ノ所見ニ同ジ

下、化學的檢査(有毒燐ノ定量)

小皿ノ破片ニ乾着セル味噌樣及藥品樣ノモノヲ丁寧ニ蒸餾水ヲ以テ洗滌シテ「コルベン」ニ集メ小皿ノ破片ヲ充分ニ乾燥セシメ秤量スルニ七六・〇瓦トナル卽チ檢査物ノ全量ハ一・〇瓦ノ割合ナリ

「コルベン」ニ集メタル水溶液ハ弱酸性ニシテ味噌樣ノ臭アリソノ全部ヲ第一、檢第三號證檢査(甲)ノ如ク蒸餾スルニ燐光ヲ發ス卽チソノ餾液ヲ集メテ同檢査(下)ノ如ク有毒燐ノ定量ヲナスニ「熊性燐酸マグネシヤ」トシテ〇・〇二四四三瓦ヲ得テ有毒燐ニ換算スルニ〇・〇〇六八瓦トナル

蒸餾後ノ殘渣ハ極メテ少量ニシテ之ヲ以テ苦味質及「アルカロイド」、金屬性毒物、强酸及「アルカリ」等ヲ檢出スル事頗ル困難ナル故之ヲ省略セリ

第四、說　明

前記第一乃至第三檢査ノ結果ニ依レバ檢第一、二、三號證內ニハ孰レモ有毒燐ヲ含有シソノ他ノ毒物ノ存在スル徵標ナシ

一般ニ人體ニ對スル毒物ノ致死量ハソノ攝取スルモノハ男女ノ別年齡、身體ノ狀況(病身ナルヤ將タ健康ノ人ナルヤ)毒物攝取ノ方法(飲用スルカ注射スルカ)、胃ノ強虛、中毒症候ノ如何、個人特異性等ニ依リ種々ノ變化アリテ一概ニ論ジ難ケレ共有毒燐(黃燐)ヲ大人ガ約〇・〇五乃至〇・一瓦內外ヲ內用スル時ハ死ニ至ル事アルモノナリ

檢第一號證ノ麥飯ハソノ二〇〇・〇瓦(飯茶碗一杯ノ量)中ニ約〇・〇〇二六八瓦ノ有毒燐ヲ含有スルヲ以テ(第一檢査(下))該麥飯十八杯(有毒燐〇・〇五ヲ含有ス)ヲ食スル時ハ人ヲ死ニ致スモノナリ

檢第二號小皿在中ノ味噌ハソノ一・〇瓦中ニ有毒燐〇・〇〇六七瓦ヲ含有スルヲ以テソノ八瓦(二匁)(有毒燐〇・〇〇五瓦含有)ヲ食用スル時ハ時トシテ人ヲ死ニ致スモノナリ

檢第三號證ノ藥品ハ第二檢査(下)ニ依レバソノ三・〇瓦中有毒燐〇・〇二四五瓦ヲ含有スルヲ以テ一時ニソノ六・〇瓦以上(有毒燐〇・〇五瓦上)ヲ內用スル時ハ時トシテ人ヲ死ニ致スモノナリ

茲ニ一言附加スベキハ有毒燐ハ酸化易キモノニシテ空氣ニ觸レ或ハ他ノ有機物ト混在スル時ハ徐々ニ酸化シテ亞燐酸或ハ燐酸モシクハソノ鹽類トナリ有毒燐トシテ證明スル事困難トナルヲ以テ予ノ證明定量セル有毒燐ノ量ヲ以テ直ニ中毒時含有セル量ト見做ス事能ハズ卽チ尙注意スベキハ假籠中ノ麥飯ナリコハ時日經過ト共ニ乾燥シ水分ヲ失フヲ以テ予ノ檢査時ノ容量及重量ト一定時日前ノソレトハ多少ノ差アル事ヲ考ヘザルベカラズ換言スレバ檢査物ハ一方水分ヲ失フヲ以テソノ濃度ヲ增シ他方ニ酸化サルトニ依リ有毒燐トシテ證明シ得ル量次第ニ減ズコノ二要約ヲ頭腦スル時ハ一定時日前ノ有毒燐含有量ヲ確定スル事ハ頗ル困難乃至不可能ナリ

第五、鑑　定

前記檢査ノ結果及說明ニ據リ鑑定スル事左ノ如シ

一、檢第一號證(飯籠中ノ麥飯)同第二號證(小皿在中ノ味噌)同第三號證(藥品「猫イラズ」)中ニハ孰レモ有毒燐(黃燐)ヲ含有セリ

二、檢第三號證(藥品)六・〇瓦(一匁六分)內外ヲ服用シ或ハ檢第一號證ノ麥飯魯通飯茶碗ニ約十八杯(三六〇〇・〇瓦)內外ヲ食用ニ供シ若クハ檢第二號小皿在中ノ味噌約八・〇瓦(二匁)內外ヲ食スル時ハ時トシテ人ヲ死ニ致スニ足ルモノナリ

追記、證據品ノ殘餘ハ密封シテ之ヲ保刑事ニ返却セリ

此鑑定ハ大正〇年十月十五日着手

同年十一月八日結了

大正〇年十一月八日

宿　所

鑑定人　醫師　小南又一郎殿

砒素劑中毒

二、砒素劑中毒

金屬砒素自身トシテハ無毒ノモノナレドモ、空氣中ニ於テハ直ニ酸化シテ亞砒酸トナリ猛毒ヲ有スルニ至ル、亞砒酸(或ハ砒石)ハ無臭無味白色ノ結晶或ハ粉末ニシテ、冷水中ニハ溶解シ難ク、温水或ハあるかり性ノ水ニハ溶解ス、亞砒酸加里、亞砒酸なとりゆむモ亦有毒ナリ、亞砒酸ハ古來毒物ノ王者ト稱セラレ彼ガ無味無臭ナルヲ利用シテ、他殺的中毒ニハ最モ多ク用ヒラル、予ハ亞砒酸ヲ以テ一家五人ヲ鏖殺セル例及自己ノ妻ヲ保險ニ加入セシメ、其妻ガ風邪ニ罹レル際、醫藥ニ亞砒酸ヲ混ジテ毒殺シ、保險金ヲ詐取シ、同樣ニシテ保險金ヲ目的トシ第二、第三ノ妻ヲ毒殺シ、第四ノ妻ニ至リテ發覺シ遂ニ予ノ化學的檢査ニ依リテ、ソガ亞砒酸ノ中毒ナルコト明トナリ、且第二、第三等ノ妻ノ火葬遺骨ヨリモ、砒素ヲ發見セル例ニ遭遇セリ、亞砒酸ハ亦種々工業ニ用ヒラル、故、職業上ノ中毒ヲ來シ、或ハ自殺ノ目的ニ使用セラルヽコト多シ。

作用

其他砒素化合物トシテハちゝ、めちるあるせん、かこぢる酸、あときしる、さるばるさん及其異名同體等ハ醫療ニ供セラル、故往々中毒ヲ來シ、鶏冠石、石黄等ハ純粹ナラバ毒性少キモ、不純物ヲ混合スル時ハ一部ハ亞砒酸ニ變ジ、一部ハ砒酸トナリ、毒性ヲ發揮ス、次ニしねーる氏綠及ふくしんハ又砒素含有ノ染色劑ニシテ、之ヲ以テ敷物、玩具、食用品等ヲ染色シ、中毒ヲ來スコトアリ。

此等ノ砒素化合物中、最モ多ク中毒例トシテ顯出スルハ亞砒酸中毒ニシテ、自殺或ハ他殺ノ目的ニ用ヒ誤用、醫藥ノ錯誤等ニヨリ中毒ヲ來ス、即チ法醫學上最モ大切ナル毒物ナリ。

作用、接觸セル局部ヲ刺戟シ、且吸收サレテ血球ヲ犯シ、實質性臟器ヲ害シ出血ヲ來シ、粘膜ニ炎症ヲ

中毒症狀

發シ、强キ新陳代謝障害ヲ來スモノナリ。其他內臟神經及心臟ノ麻痺ヲ供ヒ、外皮及中樞神經ノ作用ヲ害シ諸種ノ腺ニ排出セラレテ亦ソノ排出口ヲ犯スモノナリ。

中毒症狀、大量ヲ服用セル時ハ、通常半乃至一時間ノ後ニ至リ始メテ中毒症狀ヲ現ハシ、往々三乃至十時間以後ニ中毒ヲ來スコトアリ。即チ胃腸益虛ノ如何ニ依リテ差アリ。

急性中毒症狀ヲ分チテ二種トナス、一ハ急性胃腸炎ノ症狀ヲ以テ來リ、他ハ重ニ神經症狀ヲ以テ終始ス。

即前者ニ於テハ服毒後咽頭食道等ニ熱灼苛辣ノ感アリ、次デ劇シク嘔吐シ、吐物ハ無色粘液樣ニシテ、ソノ末期ニハ血液ヲ混ズ。砒素ヲ含有セル色素中毒ノ際ハ、吐物中ニソレ等ノ毒物ヲ發見スルコトアリ、胃及腹部ニハ劇痛ヲ覺エ、多量ノ米泔汁樣便ヲ瀉出シ、便中ニハ剝脫セル上皮ト多量ノ粘液ヲ混ズ、其他裏急後重、頻渴、頭痛、薦骨部ノ拘攣、腓腸筋ノ攣痛ヲ訴ヘ、尿ハ其量ヲ減ジ、蛋白及血液ヲ含有シ、時々尿閉ヲ來ス、四肢厥冷シ、顏面及手足蒼白トナリ、次デ紫藍色ニ變ジ、脈搏小、呼吸促迫、聲音嗄嗄、胸內苦悶等ヲ來シ、意識ハ明瞭ナルモ、終ニ虛脫ニ陷リ、五乃至二、三十時間ニシテ死ス。恰モ虎列刺病ノ症狀ニ彷彿タリ。故ニこれら流行ノ際ニ、往々砒素劑ニテ中毒セシメ其罪ヲ掩ハント企ツルモノアリ。此等ノ鑑別ニハ細菌學的ニ、これら菌ノ有無ヲ檢シ、化學的ニ毒物ノ證明ヲナシテ、ソノ何レナルヤヲ決定スベシ。

前記胃腸炎ノ症狀ハ輕ク、反テ神經症狀ノ劇烈ナルモノアリ、此症ニ在ツテハ初メ頭痛眩暈ヲ訴ヘ、四肢ニ拘攣ヲ發シ、瞳孔散大シ、次デ失神、譫語、麻痺症狀ヲ來シ、厥痙攣ヲ起シ、遂ニ全身麻痺ニ依リ、數時間乃至十數時間ニシテ死ス、之ヲ特ニ腦脊髓性砒素劑中毒ト云フ。

砒素劑ノ吸收緩徐ニシテ、經過數日ニ亘ルモノニ在テハ、劇甚ノ嘔吐ハ一、二日ノ後ニ輕快スルモ、皮膚ニ熱灼ヲ覺エ、脈搏細小頻數不正トナリ、舌ハ乾燥シ、紅色トナリ、蛋白尿、血尿等實質性腎臟炎ノ徴ヲ來シ、不眠呼吸困難アリ、皮膚ニハ發病後第三乃至五日ニ紫斑、丘疹蕁麻疹、黃疸等ヲ生ジ、遂ニ三乃至十日ニシテ斃ル。

慢性中毒、小量ノ砒素劑ヲ毎日少シヅヽ、吸入、服用乃至外用スルモノニハ、胃腸かたーる、肋膜炎、腹膜炎、知覺異常麻痺、震顫、攣縮、神經炎、帶狀匐所疹等ヲ來シ、皮膚ニハ亞砒酸黑皮症乃至角化症等ヲ見精神ヲ抑鬱シ、不眠、營養不良ヲ來シ、遂ニ衰弱ニ依リテ死スルニ至ル。

剖檢所見

剖檢所見、急性中毒ニテ死セルモノハ嘔吐下痢ノ爲メニ水分ヲ失ヒ、眼窩陷沒シ、皮膚彈力ナク、藍紫色ヲ呈シ、腸間膜及胃腸粘膜下ノ血管ハ暗赤色濃厚ノ血液ヲ以テ滿サレ、胃ノ內面ニハ粘稠ニシテ膠樣若クハ血液樣ノ粘液ヲ附着シ、噴門及幽門部ノ粘膜ハ溷濁腫脹シ、一部ハ充血シ、一部ニハ溢血點アリ、此部ニ往々砒素劑ノ顆粒ヲ觸知スルコトアリ。ソノ內容ハ米泔汁樣ナリ、慢性中毒者ニテハ胃腸、肝腎及心筋等ニ脂肪變性ヲ來ス、神經性中毒症狀ニテ急死セルモノハ、中毒後ニ於ケル生存時間ニ比例シテ胃腸ノ症狀明トナレドモ、最モ急ニ死亡セルモノニテハ、何等胃腸ノ症狀ヲ發見セザルコトアリ。

砒素劑中毒死者ハ多量ニ水分失ヒ居リ、又砒素劑ハ防腐ノ効アルニヨリ、往々容易ニ木乃伊トナルコトアリ。

致死量

致死量、亞砒酸ノ中毒量ハ〇・〇一乃至〇・〇五瓦ニシテ、致死量ハ〇・一乃至〇・一五瓦ナリト云フ、然レドモ人々ニヨリテ多少ノ差アリ、砒素劑ヲ常ニ美容劑トシテ用ヒ、或ハ之ヲ貪食スルモノニハ十數瓦ヲ

用ユルモ差支ナシト云フ。

砒素ノ化學的證明ニ就テノ注意

化學的證明、砒素劑ハ最モ多ク他殺ニ用セラル、モノニシテ、而モ其證明最モ困難ナリ、何トナレバ小量ノ砒素ハ、地上何レノ處ニモ散在シ、或ハ中毒死ナラザル死體ノ外部ニアル飾花等ヨリ、砒素ガ體內ニ滲入スルコトアリ、或ハ埋葬地ノ土壤ニ含砒ノ處アリ。故ニ砒素劑中毒ノ疑アル死體ヲ發掘セル場合ニハ周圍ニアル物品及土壤等ヲモ採集シ來ルノ必要アリ、ソノ他砒素劑ハ醫療ニ甚ダ屢々使用サレ、一度使用サレタルモノハ數ケ月間肝臟等ニ蓄藏セラル、コトアリ、或ハ吾人使用ノ化學的藥品ハ、一定量ヲ超過スレバ常ニ證明スルニ足ル砒素ヲ含有シ、最モ含砒量多キハ鹽酸ナレバ、吾人ハ常ニ無砒ノ藥品ヲ使用スルコトニ努力セザルベカラズ。此等ノ諸方面ニ充分ナル注意ヲナシ、而モ比較的多量ノ砒素ヲ發見シ、中毒症狀解剖所見ヲ合セ考ヘテ、始メテ砒素中毒ナル診定ヲ下スベシ、微量ノ砒素ヲ發見シタル場合ニハ、十分ナル考慮ト研究ノ上ナラデハ、ソノ斷定ヲナサヾルヲヨシトス。

砒素析出

砒素劑ヲ臟器等ヨリ析出スルニハ、ふれせにゆす、ばほー氏法ニテ有機物ヲ碎解シ、濾過シテ得タル透明濾液ニ微溫ヲ加ヘツヽ、硫化水素瓦斯ヲ通ジ、暫時靜置後得タル黃色沈澱ヲ濾別シ、此沈澱ヲ溫硫化あんもんニテ所置スレバ、砒素化合物ハ皆溶解ス、之ノ溶液ヲ水浴上ニテ乾燥シ、二、三回發煙硝酸ニテ酸化シ、過剩ノ硝酸ヲ去リ、なとろん滷汁ニテ濕シ、而シテ後まいはる氏ノ溶融物ヲ作リ、之ヲ水ニ取リ無砒硫酸ヲ加ヘテ煮沸シ、而シテ後まるしゆ氏裝置ニ導キ、砒素鏡ヲ作リテ檢スベシ。砒素鏡ニ類似セルモノハ硫黃鏡及あんちもん鏡ナレバ注意シテ鑑別スベシ。

砒素鏡

尙此ノ如ク砒素鏡ニ依リテ砒素劑ノ存在ヲ知リタレバトテ、直ニソガ如何ナル化合物トシテ使用セラレシ

カハ不明ナリ、此際毒物材料ガ尚殘存セル場合ニハ、鏡檢シテ結晶形等ヲ研究スベシ、予ハ粉類ニ混ジタル亞砒酸結晶幷ニ藥瓶ノ器底ニ沈澱シ居リシ沈渣ヲ檢シテ、亞砒酸ニ特有ナル結晶ヲ發見シ、ソガ亞砒酸中毒ナルコトヲ確定シタルコトアリ。ソノ他砒素劑ヲ、糸狀菌ヲ應用シテ檢出セント企テタルモノアリト雖實際ニハ用ユルニ足ラズ。

あんちもん中毒

三、あんちもん中毒

あんちもん化合物中最モ多ク中毒ヲ來スモノハ吐酒石ニシテ、五硫化あんちもん、しりつぺ氏鹽等モ往々中毒スルコトアリ、多クハ醫療上ノ錯誤、或ハ誤用等ニヨリ本劑ノ中毒ヲ來ス、自殺或ハ他殺ノ目的ニ用ユルコトハ少シ、あにりん色素中ニあんちもん含有ノモノアリ注意スベシ。

作用、ハ砒素劑ニ酷似ス、只ソノ作用ハ砒素劑ニ比シ弱シ。

中毒症狀、急性中毒ノ症狀トシテハ、惡心、金屬味、垂涎、甚シキ嘔吐及胃腸炎ヲ來シ、これら樣ノ症狀ヲ來ス、次デ皮膚厥冷、脈搏細小、頭痛、眩暈、人事不省、腓腸筋痙攣、全身ノ痙攣來リ虛脱ニ陷ル。職業等ニ起因スル慢性中毒トシテハ、胃腸かたーる、頭痛、眩暈、聲音斷續、筋力衰弱、皮膚厥冷、蛋白尿、甚シキ下痢等來リ、虛脱ニ陷ルコトアリ。

剖檢所見、胃腸炎、腎、肝、心、血管壁ニ於ケル脂肪變性等ノ所見ハ砒素中毒ノ場合ニ於ケル所見ニ酷似ス。

致死量、モ亦一定セズト雖一般ニ砒素劑ニ比シ多量ナリ。

化學的證明　砒素劑ニ於ケル場合ト同ジ方法ヲ取レドモ、まいゐる氏融解物ヲ水ニ溶解セル際、砒素劑ハ水ニ溶解スルモ、あんちもん劑ハ溶解セズ、又まるしゆ氏法ニ依リ得タル砒素鏡トあんちもん鏡トヲ鑑別センニハ、前者ハ次亞鹽素酸などりゆむニ溶解スルモ、あんちもん鏡ハ否ラザルヲ以テ、容易ニソノ何レナルカヲ知ルコトヲ得ルモノナリ。

砒素鏡トあんちもん鏡トノ鑑別

鉛中毒

四、鉛中毒

鉛化合物中鉛糖ハ腐蝕性ヲ有ス、ソノ他ノ酸化鉛炭酸鉛等ハ接觸局部ヲ犯スコトナシト雖、吸收サレテ所謂慢性鉛中毒ヲ發ス。諸種ノ顏料、白粉、べんき等ニハ鉛化合物ヲ主成分トスルモノアレバ、往々職業上、食用上ノ中毒ヲ來スコトアリ、鉛糖ハ甘味ヲ有スルヲ以テ、往々錯誤ニヨレル中毒アリト雖モ、鉛化合物ヲ以テ自殺或ハ他殺ヲ企ツルモノハ非常ニ少シ。

作用、大量ヲ內用スレバ口腔、胃腸等ノ粘膜ヲ犯シソノ外觀恰モ鞣シタルガ如ク見ユト雖モ、小量ニテハ之ヲ見ズ、多クハ吸收サレテ新陳代謝障害ヲ來シ、中樞神經麻痺、營養不良、胃腸ノ强キ痙攣、筋肉羸瘦等アリテ、慢性ニ經過スルヲ常トス、鉛化合物ハ永ク臟器中ニ蓄積セラレ、徐々ニ腸、腺、腎臟、皮膚唾液、乳汁等ヨリ排出サル。

中毒症狀、トシテハ急性中毒ノ場合ニハ垂涎、一種ノ金屬味、齒牙ニ於ケル鉛條、胃痙攣、腹痛、便秘、發汗、蟻走ノ感等アリ。脈搏ハ硬ニシテ遲徐トナリ、知覺異常、四肢ノ麻痺、人事不省等來ル。慢性中毒症狀トシテハ一般ニ氣分勝レズ、腹痛、關節痛、知覺異常、視力減弱、譫語、搖搦、撓骨神經麻痺等ヲ見ル。

剖檢所見、急性中毒ノ場合ニハ特有ナル剖檢所見ナキコト多シ。慢性中毒死ノ場合ニハ、上肢ニ於ケル

伸展筋ノ羸瘦、副腎ノ硬變、肝臟實質ノ腫脹等ヲ見ル。

致死量、鉛醋ニテハ二〇・〇瓦以上、鉛糖ニテハ五〇・〇瓦以上ナリ。

化學的證明、可檢物ニふれせにゆすばぼー氏法ヲ施シ、高溫ニテ濾過スレバ、濾液ノ冷ユルニ從ツテ鹽化鉛ヲ析出ス、此濾液ニ硫化水素瓦斯ヲ加ヘバ、直ニ黑色沈澱ヲ、硫酸ヲ加フレバ白色ノ沈澱ヲ、くろーむ酸かりヲ加ヘテ、黃色ノ沈澱ヲ生ズレバ鉛化合物ノ存在ヲ徵ス。鉛化合物ハ往々食器等ヨリ微量ヅヽ人體內ニ攝取サレ居ルコトアレバ、化學的證明ノ際注意ヲ要ス。

五、麥角中毒

麥角中毒

麥角トハ麥實ニ一種ノ糸狀菌(Claviceps purpurea)ノ寄生セルモノニシテ、此中ニハ無毒ナル色素及脂肪ノ外ニ、有毒ナルすぱちるりん酸及こるぬちんヲ含有ス。前者ニヨリテ所謂壞疽性麥角中毒ヲ來シ後者ニヨリテ痙攣性麥角中毒ヲ惹起シ、兩者相合シテ亦蟻走感症ヲ起スコトアリ、麥角ハ往々麵麭中ニ混入シテ食用中毒ヲ來シ、或ハ墮胎ノ目的ニ使用シテ中毒ニ陷ルコトアリ、自殺或ハ他殺ノ目的ニ麥角ヲ使用スルコトハ甚ダ稀ナリ。麥角ハ收獲後一、二月間ハ最モ毒性强キヲ以テ、食用中毒ハ多クハ此期間ニ來ル。

作用、すぱちるりん酸ハ接觸セル局所、并ニ吸收後身體ノ末端ニ所謂麥角壞疽ヲ來ス、之レ其部ニ於ケル細血管ガ痙攣ニ陷ルニ由ル、こるぬちんハ最初中樞神經ヲ刺戟シ、次デ之ヲ麻痺セシム、時トシテ神經或ハ筋纖維ニ退行變性ヲ伴フコトアリ、此等ノ副作用トシテ子宮ヲ收縮セシムルノ力ヲ有ス。

症狀、壞疽或ハ痙攣ハ麥角中毒ノ際各別ニ來ルコトアリ、或ハ相伴フテ顯ハル、コトアリ、時トシテ壞疽性ノモノヨリ痙攣性ニ移行スルアリ、兩者共最初ハ四肢端ニ蟻走ノ感及吐瀉アリ、次デソノ末端感覺純麻

欠

三、酸化炭素中毒

酸化炭素ハ木炭、石炭等ノ不完全ナル燃燒ニ依リテ發生スルモノニシテ、燈用或ハ燃燒用瓦斯ハ石炭ヨリ製セラル、際ハ、六乃至十%ノ酸化炭素瓦斯ヲ含有シ、薪材ヨリ製セラル、時ハ六十%以上ノソレヲ含ム、ソノ他水製燈用瓦斯ハ酸化炭素ト水素トノ混合物ニシテ、前者ハ凡ソ三十%アリ、坑氣ハ四乃至十%ノ酸化炭素、一%内外ノ硫化水素、五十三%ノ炭酸瓦斯ヨリ成ル。無烟火藥爆發ノ際ニハ三十%ノ酸化炭素瓦斯、二十%ノ炭酸瓦斯、十%ノめたん瓦斯、八%ノ窒素瓦斯、二十三%ノ水蒸氣等ヲ發生シ甚ダ危險ナルモノナリ。

酸化炭素中毒ハ燈用瓦斯漏洩、密閉室内ニ於ケル多量ノ炭火等ニヨリ、不注意ノ爲メニ中毒死ニ至リ或ハ故意ニ自己ノ室内ニ少量ヅ、燈用瓦斯ヲ漏ラシテ、一夜中ニ徐々ニ中毒死ニ至ルモノアリ。而シテ呼氣中ニ於ケル燈用瓦斯ノ含有量ノ多少ト、吸入時間ノ長短トニ依リテ中毒症狀ニ强弱アリ。

作用、酸化炭素ハ赤血球中ノ血色素トノ結合力强ク、所謂酸化炭素へもくろびんヲ作リテ酸化へもくろびんニ復歸スルコトヲ得ズ、爲メニ赤血球ハ最早酸素ノ輸送器官タル能ハズシテ、内窒息ニ陷ルモノナリ。而モ同時ニ先ヅ中樞神經ニ於ケル痙攣中樞ヲ刺戟シ、次デ之ヲ麻痺セシム、中毒ガ徐々ニ經過シタル時ハ心臟、腎臟及肝臟ニ退行變性ヲ來スヲ常トス。

症狀、酸化炭素瓦斯含有ノ空氣ヲ吸入スレバ、先ヅ耳鳴、眩暈、嘔氣、嘔吐ヲ來シ、次デ呼吸ハ響音性トナリ、顏面潮紅シ、酩酊狀ヲ呈シ、感覺異常、知覺消失、痙攣、麻痺等ヲ來シ、昏睡狀態ニ陷ル、此ノ如キ中毒狀態ヲ呈スルモノヲ、新鮮ナル氣中ニ出セバ、知覺等ハ徐々ニ恢復スト雖、頭痛、嘔氣、全身衰

欠

弱ノ感ハ永ク殘存ス、或ハ精神異常ヲ來スモノアリ。本中毒ニ於ケル死因ハ呼吸麻痺、腦出血乃至腦軟化等ナリ。

剖檢所見、死斑及諸内臓ハ鮮紅色ニシテ、血液中ニハ酸化炭素ヘもぐろびんヲ證明ス、ソノ他心、肝及腎ニ於ケル退行變性、腦出血、皮膚ニ於ケル火傷發疱、唇瘡、肺炎、肋膜炎ヲ伴ヒ、尿ニ糖并ニぐるくろん酸及乳酸ヲ證明スルコトアリ。

致死量、〇・八瓦ナリト云フモ一定セズ。

化學的證明、血液中ノ酸化炭素ヘもぐろびんヲ證明シ、ソノ中毒ナルコトヲ確定スルヲ以テ一ノ據リ所トス。酸化炭素ヘもぐろびんヲ含有スル血液ニハ次ノ反應アリ。

酸化炭素ヘもぐろびん

(イ)酸化炭素ヘもぐろびん含有ノ血液ハ酸化ヘもぐろびんト略同樣ノ吸收線ヲ現ハスモ、之ニ還元劑ヲ加フルニ吸收線ハ何等ノ變化ヲ來サズ、然ルニ酸化ヘもぐろびんノミノ血液ナレバ還元劑ニヨリテ還元ヘもぐろびんトナリ、一條ノ吸收線ヲ顯出ス、コハ酸化ヘもぐろびんノ二條ノ吸收線ヲ融合セシメタル太キ稍薄キ一條ノ吸收線ナリ。

ぼつぺざいれる氏檢法

(ロ)ぼつぺざいれる氏檢法、十%ノなどろん滴汁ニ酸化ヘもぐろびん血液ヲ滴下スルニ、直ニ汚褐色トナルモ、酸化炭素ヘもぐろびん血液ナレバ毫モ變色セズ。

硫化水素水檢法

(ハ)硫化水素水ニ酸化炭素血液ヲ滴下スレバ鮮紅色ナルモ、通常ノ血液ナレバ徐々ニ汚綠色トナル。

(ニ)十%ノ硫酸銅水溶液ニ酸化炭素血液ヲ滴下スレバ、變色ナキモ通常ノ血液ナレバ汚赤褐色トナル。

(ホ)醋酸鉛液ニ酸化炭素血液ヲ加ヘ振盪スルモ變色ナシ、通常ノ同液ナレバ汚赤褐色トナル。

片山氏檢法

(ヘ)片山氏檢法、黄色硫化あんもんニ、血液ヲ水ニテ稀釋セルモノ同量ヲ加ヘ、之ニ氷醋酸ヲ加フルニ、酸化炭素ヲ含有スル血液ハ鮮紅色ノ沈澱ヲ作リ、通常ノ血液ニテハ帶綠灰色ノ沈澱ヲ生ズ。

たんにん法

(ト)たんにんノ一乃至三%ノ水溶液ヲ作リ、之ニ血液約二倍量ヲ加ヘ、放置スルコト二十四時間ニシテ窺フキハ、酸化炭素ヘもぐろびん血液ナレバ鮮紅色トナリ、通常血ナレバ汚灰色トナル。

此等ノ檢法ハ皆酸化炭素ヘもぐろびんハ酸化炭素ヘもぐろびんニ比シ、比較的安定ナルコトヲ基礎トシタルモノニシテ、酸化炭素中毒ノ際、血液ハ全部酸化炭素ヘもぐろびんトナルモノニ非ラズシテ、必ズ酸化ヘもぐろびんヲ混在スルモノナレバ、此等ノ檢査法ノ成績不明瞭トナルヲ免レズ、故ニ可檢液ハ確實ニ通常血液ナルコトヲ知レルモノニテ、相對照シテ檢査スルヲ必要トス。此ノ他石油べんじん、にとろぐりせりん、ぼにん等動物及植物ヨリ由來セル血液毒數多アレドモコレ等ハ多クハ藥物學的興味ヲ有スルモノニシテ法醫學的ニハ大ナル意義ナキヲ以テ之ヲ省略ス。

丁、神經及心臓毒

神經及心臓毒

本項ニ屬スル毒物ハソノ接觸局部ニハ注意スベキ症狀ヲ起サズ、吸收後主トシテ中樞神經及心臓ヲ侵害スルモノニシテ、ソノ他ノ内臓ニハ著變ヲ見ルコト少ナク、卽チ獨特ナル剖檢所見ヲ有セズ。而シテ植物性毒物、例ヘバ苦味質及あるかろいどノ多數ハ、主トシテ神經及心臓ニ作用シテ中毒ヲ來スモノナリ。

くろゝほるむ中毒

一、くろゝほるむ中毒

外科的手術ノ際、麻醉ニ用ヒラル、ニ由リ往々中毒死ヲ來ス、麻醉ノ際偶然くろゝほるむ死ヲ來スハ、約

五千人ノ麻醉施術ニ對シ死者一人ノ割合ナリト云フ。ソノ他くろゝほるむヲ自殺ノ目的ニ用ヒ、或ハ惡意ヲ以テ睡眠者等ニ之ヲ吸入セシムルコトアリ。

作用、くろゝほるむハ原形質毒ニシテ、先ヅ腦ノ節細胞ヲ麻痺セシメ、次デ赤血球ヲ溶解シ、組織ニ退行性變化ヲ來サシムルコトアリ。

症狀、接觸セル局部ヲ僅ニ刺戟シ、吸收サレテ先ヅ腦及其他ノ神經細胞ヲ刺戟シ、次デ之ヲ麻痺セシメ最後ニ延髓ヲ犯ス。瞳孔ハ最初縮小シ、終ニ開大ス、筋張力ヲ失ヒ、凡テノ反射機能亦消失ス、長時間麻醉ヲ繼續スル時ハ、赤血球ヲ犯シ黃疸ヲ惹起ス。慢性的ニくろゝほるむヲ用ユルモノハ、之ニ對スル習性ヲ得、羸瘦、貧血、黃疸、心臟衰弱等ヲ來ス。

くろゝほるむ急性中毒ノ際ノ死因ハ多クハ呼吸麻痺ニシテ、慢性中毒ノ場合ニハ心臟休止ニヨリテ死ニ至ルコト多シ。

剖檢所見、急性中毒死ノ場合ニハ、窒息急死ノ所見アルノミナリ、慢性中毒死ノ際ニハ、黃疸、肝、腎及心筋ノ脂肪變性、貧血等ヲ認メ、屍體或ハ臟器ガくろゝほるむ臭ヲ發スルコトアリ。

致死量、內用スレバ五〇・〇瓦內外ニテモ死ニ至ラズ、吸入スレバ一〇・〇瓦內外ニテ死ニ至リ、或ハ約一〇〇・〇瓦ヲ吸入シテ死ニ至ラザルコトアリ。卽チくろゝほるむノ致死量ハ、個人關係ニヨリテ多大ノ差異アルモノナリ。

化學的證明、屍體ヨリ腦及血液等ヲ採集シ、其ノ約百瓦ヲ取リ、酒石酸ノ少許ト水ヲ加ヘテ蒸餾スル時ハ、くろゝほるむハ餾液ノ最初ノ部分ニ油滴狀ヲナシテ餾出シ、特有ノ臭氣ヲ發ス。此餾液ニれぞるちん、

抱水くろらる中毒

水溶液(〇・一—二c.c.)及一滴ノなとろん滷汁ヲ加ヘ煮沸シ、帶黃赤色トナリ、透見スレバ帶黃綠色ノ螢火ヲ發シ、或ハあるふあなふとをるノ少許ヲ、三十%ノかり滷汁ニ溶解シ五十度ニ溫メ、之ニ可檢餾液ヲ加ヘ青色トナリ、次ニ綠色乃至褐色トナレバ、くろゝほるむ存在ノ徵ナリ。

二、抱水くろらる中毒

本劑ハ催眠劑トシテ使用セラル、故、錯誤ニヨリ往々中毒スルコトアリ、ソノ他自殺或ハ他殺ノ目的ニ稀ニ用ヒラル。

作用、本劑モ原形質毒ニシテ、先ヅ血管壁ヲ麻痺セシメ、次デ中樞神經ノ作用ヲ障害シ、腎臟ニ退行變性ヲ來サシム。

症狀、本劑ヲ多量內用スレバ、先ヅ嘔吐ヲ來シ、次デ甚シキ催眠感、血壓下降、表在血管ノ擴張ヲ見、呼吸遲徐トナリ、表皮ハ紫藍色ヲ呈シ厥冷ス、往々突然ニ來ル呼吸麻痺、心臟休止ニ依リ死ニ至ル、慢性中毒ノ際ハ、消化器障礙、口腔粘膜ノ腫脹、無力、羸瘦、下痢、譫言等ヲ來シ、時トシテ本劑ニ對スル習性ヲ得テ、恰モもるひね中毒ニ於ケルガ如クナルコトアリ。

剖檢所見、本劑ヲ內用シ死ニ至リタルモノニ在リテハ、口腔及咽頭粘膜腫脹シ、胃粘膜ニハ退行變性アリ、所々ニ溢血點ヲ認ム、細尿管上皮細胞ニハ脂肪變性ヲ來ス。

致死量、心臟疾患アルモノハ既ニ一・〇瓦ニテ死ニ至ルコトアリ、普通ニハ五・〇瓦以上ヲ用ヒザレバ中毒セズ。

化學的證明、前記くろゝほるむニ於ケルガ如ク蒸餾スレバ、ソノ餾液ハ亦くろゝほるむニ於ケルガ如キ

呈色反應ヲ呈スルモ、くろゝほるむノ有スルガ如キ特臭ナク、又餾液ニねすれる氏試藥ヲ加フレバ帶黃赤色ノ沈澱ヲ生ジ、又ちを硫酸などりゆむ溶液ト餾液トヲ加ヘ煮沸スレバ、煉瓦樣赤色ヲ呈スルニ依リ、くろゝほるむト鑑別スルコトヲ得。

三、急性あるこほる中毒

あるこほる中毒

あるこほる性飲料ノ濫用、自殺ノ目的、或ハ愚鈍ナル飲酒競爭等ニヨリあるこほる中毒ヲ來ス。

作用、本劑ハ接觸セル局部ノ水分ヲ奪取シ、蛋白ヲ凝固セシメ、血色素ヲ溶解セズ、卽チ局部ニ炎症ヲ惹起ス、吸收サルレバ先ヅ腦細胞ヲ刺戟シ、次デ之ヲ麻痺セシム。

症狀、急性中毒ノ場合ニハ、酩酊ニ次デ卒倒、人事不省、顏面潮紅、響音性呼吸、嘔吐、脫糞等來リ、終ニ脈搏細少、ちやのーせ、血壓及體溫下降ヲ招來シ、呼吸麻痺或ハ心臟障害ニヨリテ死ニ至ルコトアリ。慢性中毒ノ際ハ、消化器管ニ於ケル一般性炎症、肝臟ノ脂肪變性乃至硬化、血管硬化、譫語、震顫、體力減退及虛脫等ヲ來シ又特ニ精神的方面ノ甚シク犯サルゝコトアリ。

致死量、あるこほるノ含有量ト個人ノ特異性乃至習性ニヨリテ、ソノ致死量ハ一定セズ。

剖檢所見、急性あるこほる中毒死者ニハ、腦ニ於ケル充血乃至出血ヲ見、胃內容あるこほる臭ヲ放チ、胃腸炎ヲ見、肺水腫ヲ伴フコトアリ、慢性中毒者ニハ肝臟ノ脂肪變性乃至硬化、血管壁ノ硬化、消化器一般ニ亘レル炎症等ヲ見ル。

化學的證明、あるこほるハ水蒸氣ト共ニ容易ニ餾出スルモノナレバ、可檢物ヲ蒸餾シ、ソノ餾液ヲ取リ次ノ反應ヲ行フ。

めちるあるこほる中毒

(イ)餾液ニ沃度沃度加里液ヲ加ヘ微熱スレバ、沃度ほるむ臭ヲ發シ、又沃度ほるむノ結晶ヲ見ルヲ得。

(ロ)餾液ニ鹽酸少許ヲ加ヘ、更ニ重くろーむ酸加里液一、二滴ヲ注加シ、水浴上ニ熱シ綠色トナリ。

(ハ)且餾液ニあるこほる臭アレバ。

あるこほるノ存在ヲ確徵ス。尙僅徵ノあるこほる、あせとん等ハ屍體現象ノ進行ト共ニ、死後體內ニ於テ醱酵作用ニヨリ發生スルコトアレバ、化學的證明ノ際ハ此點ニ留意スベシ。

四、めちるあるこほる中毒

めちるあるこほるハ通常ノあるこほるニ比シ廉價ナル爲メ酒類僞造ニ用ヒ、或ハ不快ノ味アル故工業用あるこほるヲ飲用不能トナラシムル爲メ之ニ混入サレアリテ、ソヲ飲用シ中毒ヲ來スコトアリ、自殺或ハ他殺ニ用ユルコトハ稀有ナリ。あめりか合衆國ニテハ往時ヨリめちるあるこほる中毒ニ注意シ、之ヲ報告セシガ、獨乙及我國ニ於テ注意サルゝニ至リシハ、千九百十一、二年ノ交、伯林市ノ共同宿泊所ニテめちるあるこほるノ多數中毒アリテヨリ後ノコトナリ。

症狀、本劑ヲ內用スレバ、間モナク頭痛、眩暈、急性胃腸炎、視力減退、四肢ノ麻痺、呼吸困難、譫語人事不省、虛脫等來リ、遂ニ呼吸麻痺ニ依リテ死亡ス。此中毒ニテ特有ナルハ一種ノ視力障害ナリ。

剖檢所見、急性あるこほる中毒ニ略類似ス、胃內容ニハめちるあるこほるノ臭アリ、肝、腎ハ腫大シ、網膜炎、視神經炎等ヲ見ル。

致死量、百乃至二百瓦ナリト云フト雖、十瓦內外ニテモ視力障害ヲ來シタルモノアリ。

化學的證明、めちるあるこほるハ人身ニ入リテ、直ニ蟻酸化合物トナル故、吾人ハ可檢物ヲ蒸餾シ、餾

液中ヨリ蟻酸ノ證明ヲ行ヒテ、めちるあるこほるノ證明トナス。

五、阿片及もるひね中毒

阿片及もるひね中毒

阿片ハ罌粟果皮汁ヲ乾燥シタルモノニシテ、阿片中ニ含有スル數多ノあるかろいど中、最モ有力ナルモノハもるひねナリ。故ニ阿片中毒トもるひね中毒トハ略其形ヲ同ジクス、阿片及もるひねハ共ニ甚ダ厭醫療ニ供セラレ、又嗜好品トシテ汎用セラル、所アレバ、手ニ入リ易キヲ以テ、自殺及他殺ノ目的ニ用ヒラレ、又醫療上ノ中毒ヲ來スコトアリ。特ニ鎮痛劑トシテもるひねヲ用ユル時ハ、常習性ニ陷リ易ク、即チ慢性もるひね中毒ハ醫師、看護人、藥種商等ニ甚ダ多ク見ル所ノモノナリ、もるひねハ多ク皮下注射ニ用ヒ、阿片ハ多ク内用セラル、此兩者ノ中毒ハあるかろいど中毒中甚ダ屢遭遇スルモノナリ。

作用、猫、犬、牛、馬等ハもるひね劑ニ依リテ先ヅ大腦ヲ刺戟サル、モ、人類ハ之ニ由リテ麻醉セラル即チ反射機能及知覺ハ消失シ、嗜眠昏睡ニ陷リ、又腸ノ蠕動運動及呼吸運動ヲ低下乃至休止セシム、慢性中毒者ハ往々一種ノ精神異常ヲ來スモノナリ。

致死量、五歳以下ノ小兒ハもるひね〇・〇一乃至〇・〇四瓦ニテ甚シク中毒シ、大人ハ〇・四瓦ニテ死ニ至ル。但シもるひねニ習性アルモノハ、數瓦ヲ攝取スルモ生命ニ危險ヲ及ボスコトナシト云フ、阿片ノ致死量ハ稍多ク一・〇—二・瓦ニ達ス。

症狀、急性中毒ニテハ服用後三十分乃至一時間ニシテ、頭痛、眩暈、酩酊狀興奮アリ、視覺及聽覺混亂シ、光及音響ニ對スル感覺鋭敏トナリ、次デ人事不省ヲ來シ、反射機能消失シ熟睡ニ陷リ、鼾聲ヲ發シ、筋肉麻痺、脈搏ノ遲徐及細小、瞳孔縮小、尿閉等來リ、遂ニ昏睡ニ陷リ五乃至十二時間ノ後死ス、時トシテ一旦神識明亮トナリ、諸症輕快スルモ再ビ昏睡ニ陷リ死ニ至ルモノアリ、亞急性中毒ニテハ皮膚ニ瘙痒ヲ感ジ、口渴甚シクシテ便秘ス、稀ニ一、二日ノ後醒覺シテ治癒スルモノアリ。

慢性中毒者ハ睡眠及食慾少クナリ、便秘シ、瞳孔狹ク、注射癖アルモノニシテ、注射部位ノ皮膚ハ硬化シ、往々膿瘍ヲ生ジ、血便嘔吐等アリ、色慾及體力減弱ス、而シテ精神界ニモ異常ヲ來シ、家族妻子等ヲ省ミズ手指ニ震顫來リ、往々幻覺ヲ供フコトアリ。

もるひねト腐敗

剖檢所見、阿片ヲ内用セル時ハ、腸内容ニ特有ナル阿片臭アリ、もるひね中毒屍ニハ、何等特有ナル剖檢所見ナシ、時トシテ軟腦膜ニ於ケル血管充盈シ、腦脊髓液ハ腦室ニ集マリ、肺ニハ鬱血アリ、膀胱ハ尿ニテ充滿サル、等ノ所見アリ、慢性中毒者ニテハ注射痕跡、身躰ノ羸瘦、胃腸炎等ヲ認ム。

化學的證明、もるひねヲ内用シタルモノハ勿論、又注射セラレタルモノモ、大腸等ニ大部分ソヲ析出スルモノナレバ、此點ニ注目シテ材料ヲ蒐集スベシ、亦もるひねハ複雜ナルあるかろいどナルニ拘ラズ、死體内ニ於テ比較的永ク腐敗ニ抵抗シ、證明可能ナルモノナレバ、古キ屍體ヨリ得タル可檢物ニ付テモ、落膽セズシテ檢査ニ着手スベシ、予ハもるひね劑ヲ内用シテ中毒死ニ至レル一老女ノ屍體ヲ、埋葬後六ヶ月餘ニシテ發堀シ、ソノ臟器ノ中ヨリ明ニもるひねヲ證明シタル例ヲ有ス、尙もるひね中毒ノ際注意スベキハ、屍體もるひねナリ。コハ屍體現象進行中、體内ノ蛋白質ヨリ自然ニ分解生成スルモノニシテ、之ト實際ノもるひねトハ、動物試驗ノ結果ニ依リテ鑑別スルヲ得ルコトアリ。阿片ヲ内用セルモノハめこん酸ノ檢出、阿片ニ特有ナル鏡檢所見ニヨリ、ソヲ鑑定スルコトヲ得。

可檢物ヨリ化學的ニもるひねヲ檢出スルニハ、前記すたーすをつとー氏法ニ從ヒ所置シ、コハソノあん

もるひねノ呈色反應

もにあ性母液ヨリくろゝほるむ或ハあみーるあるこほるニ移行スルモノナレバ、此くろゝほるむノ蒸散殘渣ニ更ニ一、二回精製法ヲ施シテ後、所謂もるひねノ實性反應ヲ試ムベシ。卽チ可檢物ヨリもるひねヲ比較的純粹ニ析出スルコトヲ得バ、次ノ呈色反應ヲ行フベシ。

一、ふれゐで一氏試藥ヲ加フレバ、初メ紫色トナリ、次第ニ藍色、綠色、黃色、淡紅色ニ移行ス。

二、まるき一氏試藥ニテ鮮紅色ヲ呈ス。

三、ふーせまん氏法ニテ血赤色トナル。

四、沃度酸ノ結晶ヨリ沃度ヲ析出セシメ、或ハ鹽化鐵液ニ遭遇シ藍色ヲ呈ズ。

五、動物試驗トシテハ可檢物ヲ白鼠ニ注射シテ、尾ヲS字狀ニ曲グレバ眞正もるひねニシテ、否ラザレバ假令化學的ニもるひねノ呈色反應ヲ呈スルモ、もるひねニ非ラズト、併シ此動物試驗ノ結果ハ、尙此ノ如ク確實ナルモノニハアラズ。

もるひねノ中毒鑑定實例

鑑定實例

檢案書

O地方裁判所檢事SハYOガ明治〇十〇年八月六日解剖セルMノ死體中ヨリ採取セル左記物件ヲ化學的ニ檢査シテ「モルヒネ」ノ存否ヲ確定スベキ旨ヲ予ニ命ゼリ

第一號瓶　血液　二一〇・〇瓦
第二號瓶　腦　九七五・〇瓦
第三號瓶　胃腸及其內容　七一〇・〇瓦
第四號瓶　腎、肝、脾、心臟　一六〇〇・〇瓦

第一試驗　血液

第一號瓶中ノ血液ヲ檢スルニ暗赤色ヲ呈シ凝固シ「アルカリ」性ノ反應ヲ呈ス其半量卽チ一〇五・〇瓦ヲ取リ九十三「プロセント」ノ純「アルコール」約三倍量ヲ加ヘ醋酸ヲ以テ醋酸性トナシ水浴上ニテ攝氏五十度內外ニ加溫スル事數時間、冷後「アルコール」ヲ濾過シ殘渣ニ尙「アルコール」ヲ加エテ前同樣ニ所置スル事二回前後三回ノ「アルコール」濾液ヲ集メ水浴上ニテ靜ニ蒸散シテ舍利別樣ノ殘渣ヲ得タリ次デ之ニ無水「アルコール」ヲ加エ放置スル事十數時間ニシテ濾過シ殘渣ヲ更ニ無水「アルコール」ニテ所置スル事數回此濾液ヲ集メテ靜ニ「アルコール」ヲ蒸散シ冷却後等量水ヲ加エテ放置スル事十數時間濾過シ殘渣ヲ蒸餾水ヲ以テ能ク洗滌シ濾液ヲ集メテ淡黃色醋性ノ液ヲ得タリ之ヲ靜ニ蒸散シ約三〇・〇乃至四〇・〇瓦トナセリ。

一、右醋性ノ水溶液ヲ「ガダーメル」氏ノ浸出器ヲ以テ「エーテル」ニテ浸出スル事一時間、茲ニ於テ「エーテル」層ト水層トヲ分離シ。

二、ソノ水溶液ニ「ナトロン」濃汁ヲ加エテ「アルカリ」性トナシ更ニ「エーテル」ニテ浸出スル事一時間「エーテル」層ト水層トヲ分離シ。

三、ソノ水溶液ヲ靜ニ熱シテ「エーテル」ノ殘餘ヲ驅逐シ冷却後「アンモニア」水ヲ過剩ニ加ヘテ「アンモニア」性トナシ醋酸「エーテル」ヲ以テ浸出スル事數時間此醋酸「エーテル」ヲ集メテ大氣中ニ靜ニ蒸散セシメ得タル殘渣ヲ可成純粹ニスル爲メ。

四、ソノ殘渣ニ水ヲ加エ更ニ醋酸數滴ノ加エテ放置スル事十數時間、之ヲ濾過シ濾液ニ「アンモニア」水ヲ加エテ「アンモニア」性トナシ醋酸「エーテル」ヲ以テ前ノ如ク浸出スル事一間時後醋酸「エーテル」ヲ集メテ蒸散シ得タル殘渣ヲ更ニ前ノ如ク所置スル事數回ニシテ最後ニ比較的純粹ナル中性淡黃色ニシテ苦味ヲ有シ無色ノ結晶ヲ存スル結塊物ヲ得タリ。

此結塊物ヲ取リ「モルヒネ」ノ反應ヲ施行セリ。

卽チ、一、フレエデ氏試藥ニ依リテ先ヅ淡紫色ヲ呈シ暫時ニシテ藍色綠色、稍々時ニシテ黃色ニ移行ス。

二、マルキス氏試藥ニヨリ淡紅色ヲ呈ス。

三、一半鹽化鐵溶液ヲ加フレバ淡藍色ヲ呈ス。

四、沃度酸ニヨリテ紫色ヲ呈ス。

上記ノ反應ニ依リ第一號檢査物件中ニハ「モルヒネ」ノ痕跡ヲ存スルモノト認ム。

第二試驗　腦

腦ハ帶綠灰色ヲ呈シ酸性ナリ其半量卽チ四八七・〇瓦ヲ取リ第一試驗ト同樣ノ所置ヲナシテ「モルヒネ」ノ反應ヲ試ミ略同樣ノ結果ヲ得タリ。

第三試驗　胃腸及其內容

第三號瓶內ニハ汚穢綠灰色ノ粘稠物ト同色ノ胃腸壁ヲ存シ酸性反應ヲ呈ス、コノ三五五・〇瓦ヲ取リ第一試驗ト同樣ノ處置ヲナシテ苦味ヲ有シ褐色ニシテ中性ノ粘稠液少許ヲ得タリ之ヲ以テ「モルヒネ」ノ反應ヲ檢スルニ

一、「フレエデ」氏試藥ニヨリ美麗ナル紫色ヲ呈シ次第ニ藍色、綠色、黃色ニ移行ス。

二、マルキス氏試藥ヲ注加スルニ紫紅色ヲ呈ス。

三、一半鹽化鐵溶液ヲ加フレバ美麗ナル藍色ヲ呈ス。

四、沃度酸ニヨリテ紫色ヲ呈ス。

以上ノ反應ニヨレバ胃腸及其內容中ニハ「モルヒネ」ノ存在スル事明ナリ。

第四試驗　腎、肝、脾、心臟

此等ノ臟器ハ一般ニ帶灰赤褐色ニシテ弱酸性ヲ呈ス。其半量卽チ各臟器共約半分宛（八〇〇・〇瓦）ノ取リ第一試驗ト同處置ヲナシ第三試驗ト略同樣ノ結果ヲ得故ニ上揚ノ各臟器ニモ「モルヒネ」ノ存在ヲ確ムル事ヲ得タリ。

此試驗ハ明治〇十〇年八月十五日ヨリ同年同月二十九日ニモル期間京都帝國大學醫科大學法醫學教室東化學室ニ於テ施行セリ。

明治〇十〇年十月　日

京都市吉田町縣前一番地
小南又一郎

六、すとりきにーね中毒

すとりきにーね中毒

すとりきにねハ無色無臭ニシテ强キ苦味ヲ有シ、水ニ溶解シ難ケレドモ、ソノ鹽類ハ皆水ニ溶解シ、猛毒性ヲ有ス。之ヲ用ヰテ自殺セル例少ナカラズト雖、其味甚苦キヲ以テ他殺ニ用ユルニハ、びーる或ハ醫藥ニ混ジテ用ヒザルベカラズ、予ハ醫藥ト共ニすとりきにーねヲ服用セシメ、二名ヲ毒殺セル例ニ遭遇セリ。ソノ他すとりきにーねハ醫藥或ハ惡獸驅除用ニ供セラル、ヲ以テ、錯誤ニ依レル中毒往々アリ。

致死量ハ小兒ニ對シテハ四・〇瓩内外、大人ニ對シテハ〇・〇四乃至〇・〇八瓦トス。

作用、接觸セル局部ニハ何等ノ作用ナク、吸收セラレテ脊髓ニ在ル反射中樞及血管ノ運動神經中樞ヲ犯シ、痙攣及血管壁收縮ヲ來ス、往々ニシテ蓄積作用アリ、本劑ハ比較的速ニ尿ヨリ排出セラル。

症狀、通常服用後十五分乃至二十分ニシテ、先ヅ羞明、不安ノ感并ニ筋肉ノ攣縮ヲ以テ始マリ、呼吸及嚥下困難トナリ、皮膚紫藍色ヲ呈シ、終ニ僅微ノ刺戟ニ遇フモ、全身痙攣ヲ來スト雖、神識ハ初メヨリ明瞭ニシテ毫モ障害セラレズ、最後ニ呼吸筋强直ノ爲メ窒息死ニ至ル、全身痙攣ハ極メテ激烈ナレドモ、多クハ二乃至五分ニシテ諸症一旦輕快シ、更ニ多少ノ時間ヲ經テ發作スルモノアリ、服用後中毒症狀ヲ發スル迄ノ時間ハ、藥物ヲ水溶液トシテ服用セシカ、或ハ結晶ノ儘用ヒシカニ由リテ多少ノ差アリ、血管内ニ注入シタル時ハ最モ早ク中毒症狀ヲ惹起ス。

剖檢所見、死直後ニハ痙攣性死體强直アリ、腦脊髓ニ於ケル充血、或ハ出血ヲ見、肺ニハ鬱血シ、心臟

死體すとりきにーね

ニハ血液少ク、尿ニハ蛋白、乳酸、すとりきにーね及糖ヲ證明ス、肝臟及腦ニハすとりきにーねノ含有量多シ。一般ニ云ヘバ本中毒屍ニハ窒息急死ノ所見アリ。

化學的證明、すとりきにーねモ亦あるかろいど中腐敗ニ對スル抵抗强キ毒物ナレバ、死後數年ヲ經過シタル屍體ヨリモ、尙本毒ヲ證明スルコトヲ得ルコトアリ、次ニ本劑ノ化學的證明ノ際特ニ注意ヲ拂フベキハ、實際ノすとりきにーねト、死後蛋白ノ分解ニ依リテ生ズル一種ノすとりきにーね樣ノぶさまいんナリ。コハ亦死體すとりきにーねト稱シ、非常ニ眞正すとりきにーねニ類似ス、之ヲ鑑別スルニハ動物試驗ニ依ラザルベカラズ。

可檢物ヨリすとりきにーねヲ析出スルニハ、すたーす、をつとー氏法ニ從ヒ所置シ、ソノあるかり性母液ヨリゑーてるニ移行スルモノヽ中ニ、すとりきにーねヲ見出スコトヲ得、故ニ此ゑーてるヲ取リ之ヲ水浴上ニ蒸散シ、ソノ蒸發殘渣ニ一、二回精製法ヲ施シ、得タル比較的純粹ナル可檢物ヲ白色小皿ニ取リ、水浴上ニ乾燥セシメ、之ニまんでりん氏試藥ヲ加ヘテ、初メ美麗ナル紫色ヲ呈シ、次ニ赤色ニ移行シ、又別ニ之ヲ濃硫酸ニ溶解セシメ、重くろーむ酸加里ノ小塊ヲ投シ傾斜スレバ紫色ノ條線ヲ生ジ、且析出可檢液ノ少許ヲ蛙或ハ白鼠ニ注入シ、すとりひにん特有ノ痙攣ヲ發スレバ、慥ニ眞正すとりきにーね存在ノ徵標ナリ。屍體すとりきにーねニテハ動物ニ特有ナル痙攣ヲ發スルコトナシ。

今すとりきにーね中毒ノ鑑定例ヲ示サン。

すとりきにーね中毒鑑定實例

鑑定書

大正〇年〇月十三日M地方裁判所刑事部裁判長判事KMハKH及OM殺人事件ニ付

KHノ先妻G及後妻Rハ中毒死ナルヤ否ヤ若シ中毒死ナラバ其毒物ノ種類如何

右ハG及Rノ屍體ノ解剖シソノ屍體并ニ鑑定人WSノ作成シ

タル右G及ビKノ死因鑑定書(二通)ニ就キ鑑定スベシ

但證人Y及OMニ對スル各陳書調書及各聽取書ヲ參照スベシ

鑑定スベキ旨ヲS縣H郡A村大字宇袋ケ谷ニ在ル右Kノ墓地ニ於テ井ニ同郡F村大字宮渡ニ在ルGノ墓地ニ於テ予ニ命ゼリ依テ同判事井ニ判事○○○○檢事○○○○及裁判所書記○○○○立會ノ上右Kノ墓地ニ於テ同日午前九時乃至九時三十分ソノ屍體ヲ次ニ同日午前十一時三十分乃至午後零時二十分同縣同郡F村大字宮渡八百五十三番地ニ於テ右Gノ屍體ヲ發掘シ其ノ狀況ヲ調査ノ上檢査ニ必要ナル材料ヲ採集シ同月十五日ヨリ同年八月二日ニ至ル期間京都帝國大學醫科大學法醫學教室ニ於テソノ化學的毒物檢査ヲ施行シソノ結果ト與ヘラレタルWSガ作成セル鑑定書及證人Y井ニOMニ對スル各陳書調書及各聽取書ヲ參照シ資是ヲ綜合シテ此鑑定書ヲ作ル

第一編　KH先妻G(十八歳)ニ對スル記錄

第一章　病歴、死後經過狀態、屍體剖所見

甲、病　歴

一、右Gハ大正三年十月末頃部淋巴腺ノ腫脹ヲ來シタル爲メソノ治療ヲ受ケソノ後同十一月十日頃突然自宅前ノ川邊ニテ卒倒シタルコトアリソノ際ハ精神錯亂トシテ三十九度餘ノ熱發アリシト云フ發療ニ依リテ徐々ニ解熱シ居リタル所同十一月十五六日頃ヨリ輕度ノ痙攣ヲ來シ終ニ同月二十一日強度ノ痙攣ヲ起シ死亡シ埋葬シアリタルヲ大正五年三月四日前鑑定人WSガ發掘剖檢ノ上再ビ埋葬シ置キタルモノナリト云フ

乙、墓地概況

二、予ハ自ラ現場ニ至リテ檢スルニGノ埋葬セラレタル墓地(前項參照)ハ平坦ナル畑地ニ在リ地質ハ主トシテ黒色ニシテ濕潤セル軟泥狀土壌ナリ埋葬セラレタル棺ハ地面ヨリ棺蓋迄約三尺ノ深サニシテ棺蓋ノ上ハ藁ヲ以テ被ハル棺ノ側壁ハ會原形ヲ保テ共底及蓋ハ一部破壞シ殘メニ多量ノ土塊内部ニ充滿セリ塚穴中ニハ溜水ナケレドモ棺底ノ土壌ハ前記軟泥狀トナル

丙、一般所見

三、黒色ノ軟泥ヲ除去シ棺ノ内容ヲ取出スニGノ屍ハ全ク土色ヲ帶ビ屍臭化シ四肢ハ殘脱シ頭、胸、腹部赤破壞シ各臓器ハソノ形ヲ留メズ長及短骨一二ハ黒色ノ土塊様物質中ニ散在セリ

丁、内景所見

四、頭蓋骨ハ骨化シ黒色ヲ呈シ軟部ハ脱去シ頭毛等ノ存在ヲ認メズ頬部及眼窩部ニ在ル脂肪組織ハ屍臭化シ骨質ニ附着シ居ルヲ認ム此屍臭部ヲ碎キテ檢スルニ碎面白色ヲ呈シ筋及皮下組織ヲ鑑別スルコトヲ得

五、頭骨ヲ式ノ如ク鋸斷スルニ腦質ノ右半ハ全ク破壞シソノ形ヲ留メズ左半ハ全形ヲ存シ汚灰色ヲ呈シ其ノ腦ノ各溝ヲ見ルヲ得骨膜ハ全ク融解シテソノ形ヲ止メズ頭蓋骨ニハ損傷ナシ

六、四肢特ニ大腿ハ屍臭化シ石様ノ硬度ヲ呈ス腹腔ノ後壁ニハ表面所々ニ屍臭化セル腸管少許アリ内ニ汚黄色粘稠ナル糞便少量ヲ見ル但シ糞臭著明ナラズ

胸腔ノ位置ニ屍臭化セル肺臓ヲ認メソノ碎面ハ白色ニシテ肋膜ノ肥厚シ居ルヲ認ムルコトヲ得

戊、材料採集

七、上記解檢ノ結果化學的檢査ノ材料トシテ次ノ臓器ヲ採集ス

一、胃壁、鑑定人WSガ採集「フォルマリン」ヲ加ヘ貯藏セルモノヲ再ビ交附セラレタリ

二、腸壁及ソノ内容、其壁質ハ殆ンド存セザレドモ糞便ハ明ニ

鑑別スルコトヲ得タリ

三、骨片、小骨ノ一部

第二章　化學的檢査

八、前記(第三—六項)ノ如クGノ屍ハ甚シク死體現象ノ進行セル爲メ或ハ胃壁ノ如キハ貯藏後種々ノ人工加ハリシヲ以テ毒物檢査ノ際揮發性毒物ヲ探究スルモソノ効ナカルベク又前鑑定人WSガ貯藏シタル胃壁ヲ檢スルモ(第二節第二項參照)毒モ特殊ノ所見ナキヲ以テ強酸及強「アルカリ」ノ中毒ニアラザルコトヲ略推定スルコトヲ得

上記ノ理由ニ依リ予ハ本項毒物檢査ニ於テ植物性毒物及金屬性毒物ノ存否ヲ檢シ強酸及「アルカリ」井ニ揮發性毒物ノ檢査ハ之ヲ行ハズ

第一節　内臓檢査

(甲)　一般檢査

九、採集セルGガ内臓ノ脂肪アル部ハ皆屍臭化シ居リソノ他ハ孰レヲ孰レトモ鑑別スルコト能ハズソノ中腸管ラシキモノヲ白色平皿ニ移シ檢スルニ内ニ汚黄色粘稠ノ糞便ノ寄レソノ他特記スベキモノヲ認メズ

(乙)　化學的檢査

(天)　苦味質及「アルカロイド」檢査

十、此屍臭化セル内臓ノ一部ト糞便合シテ百三十瓦ヲ取リ「コルベン」ニ移シ「たあすたあつと氏法ニ從ヒ純「アルコール」約三倍量及少量ノ酒石酸溶液ヲ加ヘ約三尺ノ還流硝子管ヲ附セル「コルク」ヲ以テ栓塞シ攪氏約八十度ノ水浴上ニテ時々震盪シツヽ數時間放置シソレヨリ一日間室温ニ靜置セル後濾過シ殘渣ニハ更ニ純「アルコール」ヲ加ヘテ二回前同様ニ所置セリ最後ノ殘渣ハ第二十三項ニ用ユ

十一、前項ニ於ケル前後三回ノ濾液ヲ合シ磁皿ニ取リ弱風器ヲ以テ風ヲ送リ且攪拌シツヽ水浴上ニテ微熱ノ下ニ「アルコール」ヲ驅逐シ豆腐粕様ノ殘渣極メテ多量ヲ得之ニ蒸溜水ヲ加ヘテ數時間放置後浸出濾過ス濾液ハ淡褐色ニシテ極メテ多量ナリ之ヲ水浴上ニ濃縮スレバ褐色ニシテ透明ナル酸性液ヲ得之ヲ原液ト名ヅケ之ヨリ苦味質及「アルカロイド」ノ浸出ヲ行フ

十二、前項ニ於ケル原液ヲ分液漏斗ニ取リ「エーテル」ヲ加ヘテ振盪スルコト十數分、暫時靜置後「エーテル」層ヲ分離シ更ニ新ナル「エーテル」ヲ加ヘテ同様ニ所置スルコト數回、原液ハ次ノ第十四項ノ檢査ニ用ヒ前後數回ニ分離セル「エーテル」ハ之ヲ硝子皿ニ集メ靜ニ蒸散スルニ弱酸性ニシテ苦酸味ヲ呈スル褐色液少許ヲ得タリ此殘渣ヲ少許ノ水ニ取リ第十三項ノ一般「アルカロイド」沈澱試驗ヲ行フ

十三、各一滴ヲ硝子板上ニ取リ黒板ノ上ニ置キ各々次ノ「アルカロイド」一般試藥ヲ加フルニ

マイエル氏試藥	
シャイブレル氏試藥	
昇汞溶液	ヲ加フルニ陰性ナリ
鹽化金溶液	〃 〃
ピクリン酸溶液	〃 〃

即チ「ピクロトキシン、コルヒチン、ピクリン酸、アセトアニリド、フェナセチン、アンチピリン、コツフエイン、カンタリデイン」等ノ存在ヲ微セズ

十四、第十二項ニテ「エーテル」層ト分離セル原液ニ「ナトロン」溶液ヲ加ヘテ「アルカリ」性トナシ更ニ第十二項ト同様ニ「クロ、

ホルム」ヲ以テ所置シ原液(第十八項ニ用ユ)ト「クロ、ホルム」層トヲ分離シ「クロ、ホルム」ハ之ヲ小硝子皿ニ取リ水浴上ニ蒸散シテ褐色ノ殘渣中ニ針狀結晶性ノモノヲ有スル殘渣少許ヲ得タリ

十五、前項ノ殘渣ハ中性ニシテ無臭強苦味アリ結晶ハ水ニ溶解シ難シ此殘渣ヲ温水ニ取リ前記第十三項ノ如クシ一般「アルカロイド」ノ沈澱試驗ヲ行フ

イ、マイエル氏試藥
ロ、シヤイブレル試藥
ハ、昇汞溶液
ニ、鹽化金溶液
ホ、單寧酸溶液
ヘ、ピクリン酸溶液
}ヲ加フルニ皆沈澱ヲ生ズ

十六、前項ノ溫水ニ取レル液ヲ小磁皿ニ分取シ水浴上ニ乾燥シ次ノ檢査ヲナス

イ、濃硫酸ヲ加フルニ無色ニシテ之ニ重クローム酸加里ノ小塊ヲ加フルニ紫色トナル
ロ、エルドマン氏試藥ニテ無色トナリ
ハ、フレエーデ氏試藥ニテ無色ナリ
ニ、マンデリン氏試藥ニテ直ニ紫色トナリ後ニ血赤色トナル
ホ、濃硝酸ヲ加フルニ無色ナリ

即チ「アコニチン、アトロピン、ブルチン、ヘリドニン、ヒニン、コカイン、コデイン、コニイン、デルヒニン、エメチン、ヒホスチアミン、ナルコチン、ニコチン、パパベリン、ヒゾスチグミン、ピロカルピン、ゾラニン、テバイン、ベラトリン」等ノ存在ヲ微セズシテ「ストリキニーネ」ノ存在ヲ微ス

十七、第十五項及第十六項ノ化學的反應ニ依レバ「ストリヒニン」存在ノ徵標アリト雖、本檢査物ノ如ク死體現象ノ進行セルモノニハ蛋白質ノ分解產物タルぷとまいん多ク存在スルアリテ實際「ストリキニーネ」ニ用ヒザル死體ヨリモ往々化學的ニ「ストリキニーネ」類似ノ反應ヲ來スコトアルヲ以テ之ト鑑別セン爲メ次ノ生理的試驗ヲ行フ

イ、十七瓦ノ白鼠ニ可檢液〇・五ヲ背部ノ皮下ニ注入スルニ五分ニシテ強キ痙攣ヲ起シテ死亡ス
ロ、十一瓦ノ蛙ニ可檢液〇、五ヲ背部ノ皮下ニ與フルニ三分目ニ角弓反張ヲ來ス
ハ、十九瓦ノ蛙ニ可檢液一・〇ヲ皮下ニ與フルニ五分ノ後ストリキニーネ」ニ特有ナル痙攣ヲ起シテ死ス

即チ「ストリキニーネ」ノ存在ヲ確證ス

可檢液ノ殘餘(全量ノ三分ノ一)ハ更ニ結製法ヲ施シテ比較的純粹ナル「ストリキニーネ」ノ結晶ヲ作リ之ヲ秤量スルニ〇・〇〇三瓦アリ即チ全量中ニハ〇・〇〇九瓦アル理ナリ

十八、第十四項ニテ「クロ、ホルム」ト分離セル原液ヨリ「クロ、ホルム」ヲ驅逐シ鹽酸ヲ加ヘテ揮發性トナシ暫時放置後「アルカリ」性ヲ呈スル迄「アンモニア」水ヲ加ヘテ「エーテル」ヲ以テ第十四項ニ於ケルガ如ク所置シ原液(第二十項ニ用ユ)ト「エーテル」層トニ分離シ「エーテル」ヲ硝子皿ニ集メ靜ニ蒸散シテ無色無味ニシテ中性ヲ有スル液少許ヲ得タリ此液ヲ以テ次項ノ檢査ヲ施行ス

イ、マイエル氏試藥
ロ、シヤイブレル氏試藥
ハ、昇汞溶液
}ヲ加フルニ何等沈澱ヲ生ズ

ニ、ピクリン酸溶液
ホ、タンニン酸溶液
ヘ、鹽化金溶液
}ヲ加フルニ何等ノ沈澱ヲ生ズ

十八、第十八項末節ノ水溶液ヲ白色小磁皿ニ分取シ水浴上ニ乾燥シ次ノ反應ヲ行フ

イ、濃硝酸ヲ加フルニ無色ナリ
ロ、濃硫酸ヲ加ヘ硝酸ノ一滴ヲ加フルニ無色ナリ

即チ「アポモルヒヒ子」ノ存在ヲ微セズ

二十、第十八項ニテ分離セル原液ヨリ「エーテル」ヲ驅逐シ約三倍量ノ「クロ、ホルム」ヲ加ヘ十分間强ク震盪シ後靜置シテ「クロ、ホルム」ト原液トヲ分離シ分離セル原液ニハ更ニ新鮮ナル「クロ、ホルム」ヲ加ヘテ同樣ニ所置スルコト二回、前後三回ノ「クロ、ホルム」ヲ小硝子皿ニ集メ水浴上ニ蒸散シ淡黃色ニシテ無味ナル中性液少許ヲ得タリ此殘渣ヲ溫水ニ取リソノ一部ヲ以テ次ノ檢査ヲ行フ

イ、マイエル氏試藥
ロ、シヤイブレル氏試藥
ハ、昇汞溶液
ニ、鹽化金溶液
ホ、單寧酸溶液
ヘ、ピクリン酸溶液
}ヲ加フルニ何等ノ沈澱ヲ生ゼズ

二十一、前項ニテ溫水ニテ浸出セル液少許ヲ白色小磁皿ニ取リ水浴上ニ乾燥シ之ヲ以テ次ノ檢査ヲ行フ

イ、フレエーデ氏試藥ヲ加フルニ青色トナル
ロ、フーゼマン氏反應陰性

即チ「モルヒヒ子」ノ存在ヲ微セズ

二十二、前記第十項乃至第二十一項檢査ノ結果ニ依レバG中ニハ明ニ「ストリキニーネ」ノ存在ヲ微ス而シテ余ノ得タル「ストリキニーネ」ノ量ハ決シテ死後周圍ヨリ滲入スルモノニ非ラザルヲ以テコハGガ生前攝取セシモノナラント思料ス

(地)　金屬性毒物檢査

二十三、第十項ノ濾過殘渣ヨリ殘餘ノ「アルコール」ヲ驅逐シ「コルベン」中ニ蒐集シふれぜにゆすばほー氏法ニ從ヒ濃鹽酸四四瓩ヲ加ヘテ一夜放置後約三尺ノ硝子管ヲ穿通セル「コルク」ヲ以テ栓閉シ水浴上ニ加溫シツヽ時々開栓シテ鹽素酸加里ノ粉末少許ヲ加ヘ震盪混和シ有機物ノ大略碎解セシ後冷却シ濾過シテ濾液(第二十九項ニ用ユ)ト殘渣(次項ニ用ユ)ニ分ツ

二十四、前項ノ濾過殘渣ハ之ヲ磁皿內ニテ灰化シ更ニ硝石合劑ヲ加ヘテ靜ニ融解シ銹色ノ融解物少許ヲ得タリ冷後之ヲ溫水ニ取リ炭酸瓦斯ヲ通ズルコト三十分次ニ十分間煮沸シ冷後濾過シ少許ノ銹色殘渣(次項ニ用ユ)ヲ得タリ

二十五、前項ノ銹色濾過殘渣ハ水ヲ以テ佳ク洗滌シ稀硝酸ニテ所置スルニ一部ハ溶解シ(濾液ハ第二十六項ニ用ユ)一部ハ銹色ノ殘渣トナリテ殘留スソノ殘渣ハ更ニ鹽酸ニテ所置シ濾液ニ

イ、硫酸ヲ加フルニ透明ナリ(バリューム化合物陰性)
ロ、黃血鹽溶液ヲ加フルニ濃藍色トナル
ハ、ロダン加里液ヲ加フルニ濃赤色トナル

即チ(ロ)(ハ)ニ依リ鐵化合物ノ多量ニ存在スルコトヲ知ル

二十六、第二十五項ノ濾液ト水浴上ニ蒸散シソノ殘渣ヲ溫水ニ取リ濾過シ濾液ヲ以テ第二十七項乃至第二十八項ノ檢査ヲナス

二十七、第二十六項ノ濾液ハ鹽酸ヲ加フルニ透明ナリ即銀化合物

ノ存在ヲ微セズ

二十八、第二十六項ノ濾液ニ

イ、硫化水素水ヲ加フルニ輕濁ス

ロ、硫酸ヲ加フルニ透明ナリ

卽チ鉛及「バリユーム」化合物ノ存在ヲ微セズ

二十九、第二十三項ノ濾液ハ淡褐色透明ニシテ强酸性ナリ之ヲ磁皿ニ取リ水浴上ニテ濃縮シツヽ鹽酸ノ過剩ヲ取リ「コルベン」ニ移シ「アンモニア」水ヲ加ヘテ酸性ヲ減弱シ水浴上ニ微熱シツヽ硫化水素瓦斯ヲ通ズルコト數時間ソレヨリ一夜靜置シ翌朝之ヲ嗅グニ尙硫化水素臭甚シ而シテ「コルベン」ノ上清ハ褐色ニシテ黑色ノ沈澱多量アリ之ヲ濾過シテ濾液(第三十項)ト沈澱(第三十一項ニ用ユ)トニ分ツ

三十、前項ノ濾液ハ帶黃褐色弱酸性ナリ之ヲ磁皿ニ取リ水浴上ニ蒸散シテ硫化水素瓦斯ヲ驅逐シ之ヲ三分シテ次ノ(イ)乃至(ハ)ノ檢査ヲナス

イ、第一分ハ硝酸ヲ以テ酸化シ更ニ水浴上ニテ硝酸ノ過剩ヲ去リ「アンモニア」水ヲ加ヘテ弱酸性トナシ濾過シ濾液ヲ陰酸々性トナシ硫化水素水ヲ加フルニ輕濁シコハ硝酸ヲ加フルニ變化ナシ卽チ亞鉛化合物ノ存在ヲ微セズ

ロ、第二分ハ鹽酸ニテ酸性トナシ濾過シ濾液ニ硫酸ヲ加フルニ沈澱ヲ生ゼズ

卽チ「バリユーム」化合物ノ存在ヲ微セズ

ハ、第三分ハ水浴上ニテ乾燥シ更ニ之ヲ灰化シ硝石合劑ヲ加ヘテ融解スレバ血色ノ融解物少許ヲ得タリ此融解物ヲ溫水ニ取リ濾過シ濾液ヲ醋酸々性トナシ醋酸鉛溶液ヲ加フレバ白色ノ沈澱ヲ生ズ

卽チ「クローム」化合物ノ存在ヲ微セズ

三十一、第二十九項ノ沈澱ハ黑色ニシテ稍多量アリ之ヲ硫化水素水ニテ洗滌シ溫硫化「アンモニン」ニテ所置スルコト數回、濾液(第三十五項ニ用ユ)ト殘渣(第三十三項ニ用ユ)トニ分ツ

三十二、第三十一項ノ殘渣ハ黑色ナリ佳ク洗滌後濃硝酸ニテ所置スルニ溶解スルモノ甚ダ少シ卽チ濾液(第三十三項ニ用ユ)ト殘渣(第三十四項ニ用ユ)トニ分ツ

三十三、前項ノ濾液ヲ磁皿ニ取リ水浴上ニ蒸散シソノ殘渣ヲ溫水ニ取リ濾過シ濾液ヲ以テ(イ)及(ロ)ノ檢査ヲナス

本項ノ濾液ニ

イ、「アンモニア」ヲ加フルニ無色透明ナリ

ロ、硫化水素水ヲ加フルニ白色、輕濁ス

卽チ「ビスムート」カドミユーム」及銅、錫、化合物ノ存在ヲ微セズ

三十四、第三十二項ノ殘渣ヲ更ニ鹽酸及鹽素酸加里ニテ處置シ次ニ濾過後濾液ヲ水浴上ニ蒸散乾燥スレバ鮮黃色ノ殘渣稍多量ヲ殘ス此殘渣ヲ溫水ニ取レバ黃溶解ス之ヲ以テ次ノ反應ヲナス

イ、硫化水素水ヲ加フルニ褐色ノ沈澱多量ヲ生ズ

ロ、光輝アル銅片ヲ加フルニソノ表面ニ白色ノ合金ヲ作ル此銅片ヲ「アルコール」ニテ洗ヒヨク乾燥セシメタル後硝子管內ニ納メ靜ニ熱スルニ銅片ハ直ニ赤變シ硝子管ノ冷後更ニ小ナル水銀球ヲ作ル之ニ沃度瓦斯ヲ觸レシメバ赤色ニ變ズ

卽チ水銀化合物ノ存在ヲ微ス

三十五、第三十一項ノ濾液ハ濃黑褐色ヲ呈ス之ヲ小磁皿ニ集メ水浴上ニ乾燥シ少許ノ發煙硝酸ヲ加ヘテ再ビ水浴上ニ乾燥スルコト二回、少許ノ「ナトロン」論汁ヲ以テ溫シ硝石合劑ヲ加ヘテ佳ク混和シ銑鐵坩堝內ニテ靜ニ融解シ冷後融解物ヲ溫水ニ取リ淡酸瓦斯ヲ通ズルコト二十分鍋色ノ沈澱稍多量アリ之ヲ濾過シテ濾液(第三十六項)ト殘渣(第三十七項)トニ分ツ

三十六、前項ノ濾液ニハ鹽酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシ煮沸冷却後硫化水素ヲ加フルニ白色ニ輕濁スルノミ卽チ砒素化合物ノ存在ヲ微セズ

三十七、第三十五項ノ殘渣ハ再ビ少許ノ鹽酸及鹽素酸加里ニテ處置後濾過シ濾液ヲ水浴上ニテ乾燥シ溫水ニ取リ濾過シ濾液ニ

イ、硫化水素水ヲ加フルニ白色ニ輕濁ス

ロ、「アンモニア」水ヲ加フルニ褐色ノ沈澱ヲ生ズ

卽チ「アンチモン」及錫化合物ノ存在ヲ微セズ

三十八、第一節第九項乃至第三十七項ノ化學的檢査ニ依レバGノ內臟百三十瓦中ニハ毒物トシテハ「ストリキニーネ」〇・〇〇九瓦ト尙多量ノ水銀化合物ヲ檢出ス然ルニGノ死體ハ予ガ檢査材料採集ノ際本節第三乃至六項ニ記載ノ如ク甚シキ屍體現象ニ陷リ埋葬期間中或時期ハ水中ニ浸漬シ居リタルノ證アルニ拘ハラズ此ノ如ク「ストリキニーネ」及水銀化合物ヲ檢出ス。生前Gガ體內ニ輸入サレタル毒物ハ餘程多量ナリシナラント想像サル

第二節　胃壁檢査

一、本檢査物ハ前述定醫W8ガ大正六年三月四日採集ノ上ソノ內容ヲ檢査ニ使用シ盡シ殘餘ノ胃壁ヲ「フォルマリン」液ニ貯造シ置キ同氏ノ必要上數回ソノ貯造液ヲ交換放棄シ今日ニ至リタルモノヲ更ニ檢査材料トシテ交附サレタルモノナリ此ノ如キ次第ナルヲ以テ本檢査ニ於テハ單ニ「アルカロイド」ノミノ檢査ヲ行フコトヽセリ

(甲)　一般檢査

二、交附セラレタル胃壁ヲ白色平皿ニ移シ肉眼ヲ以テ精檢スルニ切開セラレタル全胃壁ハ內外面共全部著白ニシテ特ニ淺色ノ部ナクソノ內面ニハ結膜缺損潰瘍等ナク「ルーペ」ヲ以テ檢スルニ結晶等異物ノ存在ヲ認メズ外面ニハ脂肪ノ小軟塊少許附着セリソノ他特記スベキ異常ナシ

(乙)　化學的檢査

三、胃壁ノ殆ンド全部七五・〇瓦ヲ取リ剪刀ヲ以テ出來得ル丈ケ細切シ「コルベン」ニ移シ「スタース、ヌットー」氏法ニ從ヒ純「アルコール」二〇〇・〇瓦及十%酒石酸液二十瓦ヲ加ヘ約三尺ノ遵流硝子管ヲ附セル「コルク」ヲ以テ栓閉シ搖氏約八十度ノ水浴上ニテ時々震盪シツヽ數時間浸出シソレヨリ一夜室溫ニ靜置セル後濾過シ殘渣ニハ更ニ「アルコール」ヲ加ヘテ二回前同樣ニ處置セリ

四、前項ニ於ケル前後三回ノ濾液ヲ合シ瓷皿ニ取リ煽風器ヲ以テ風ヲ送リツヽ水浴上ニテ微熱ノ下ニ「アルコール」ヲ蒸散シ含利別樣ノ殘渣ヲ得此殘渣ヲ純「アルコール」ニテ處置スルコト第三項ニ於ケル如クシ更ニ「アルコール」分ヲ去リ蒸發殘渣ヲ溫水ニテ浸出濾過ス濾液ハ淡黃色酸性ノ澄明溶ナリ之ヲ原液ト名ツケ之ヨリ苦味質及「アルカロイド」浸出ヲ行フ

五、前項ニ於ケル原液ノ分液漏斗ニ取リ「エーテル」ヲ加ヘテ振盪スルコト十數分暫時靜置後「エーテル」層ヲ分離シ更ニ數回「エーテル」ヲ加ヘテ同樣ニ處置スルコト數回、原液ハ次ノ第十四項ノ檢査ニ用ヒ前後數回ニ分離セル「エーテル」ハ之ヲ硝子皿ニ集メ靜ニ蒸散スルニ弱酸性ニシテ苦、酸味ヲ呈スル褐色粘稠液少許ヲ得タリ此殘渣ヲ少許ノ水ニ取リ第六項ノ一般「アルカロイド」沈澱試驗及第七項乃至第十三項ノ檢査ヲ行フ

六、ソノ各一滴ヲ硝子板ノ上ニ取リ黑板ノ上ニ置キ各々一般「アルカロイド」沈澱試藥ヲ加フルニ

イ、マイエル氏試藥ニテ　陰性

ロ、シヤイブレル氏試藥ニテ　陽性

ハ、單寧酸溶液ニテ　陰性

ニ、ピクリン酸溶液ニテ　陰性

ホ、昇汞溶液ニテ　陰性

ヘ、鹽化金溶液ニテ　陰性

七、第五項ニ於ケル最後ノ水溶液各數滴ヲ白色小磁皿數多ニ分取シ水浴上ニ乾燥シ次ノ本項乃至第十三項ノ試驗ヲ行フ

イ、濃硫酸ヲ加フルニ變色ナシ

ロ、ラングレー氏反應陰性

卽チ「ピクロトキシン」ノ存在ヲ徵セズ

八、第七項ノ可檢水ニ

イ、濃硝酸ヲ滴下スルニ褐色トナル

ロ、ツアイセル氏反應陰性(紫色)

卽チ「こるひちん」ノ存在ヲ徵セズ

九、第七項ノ可檢物ニ

イ、葡萄糖水溶液トなとろん滷汁極メテ少許ヲ加ヘ微溫スルニ帶赤褐色ナリ

ロ、青酸加里及「ナトロン」滷汁一滴ヲ加ヘ微熱スルニ淡黃色ナリ

卽チ「ピクリン」酸ノ存在ヲ徵セズ

十、第五項ノ可檢液ヲ試驗管ニ三瓶取リ鹽酸ヲ加ヘテ煮沸シ冷後一、二滴ノ飽和石炭酸及「クロールカルク」水一、二滴ヲ加フルニ白色ニシテ更ニ「アンモニア」水ヲ滴下スルモ變色ナシ

卽チ「フエナセチン、アンチフエブリン」ノ存在ヲ徵セズ

十一、イ、第五項ノ可檢液ニ「ミルロンス」氏試藥ヲ加ヘ加熱スルニ黃色ナリ

ロ、第七項ノ檢査物ニ鹽化鉛水溶液ヲ加フルニ黃色ニシテ之ニ水ヲ加フルモ變色ナシ

卽チざりちーる酸及ソノ鹽類ノ存在ヲ徵セズ

十二、イ、第七項ノ檢査物ニ鹽化鉛水溶液ヲ加フルニ黃色ナリ

ロ、同上物ニ發煙硝酸ヲ加フルニ黃色ナリ

卽チ「アンチピリン」ノ存在ヲ徵セズ

十三、イ、第五項ノ可檢物ハ單寧酸ニテ沈澱ヲ生セズ

ロ、同上ノ檢査物少許ヲ小磁皿ニ取リ「クロール」水ヲ加ヘテ水浴上ニ蒸散スルニ無色ノ殘渣少許ヲ留メ之ニ「アンモニア」水ヲ加フルモ着色セズ

卽チ「コツフエイン」ノ存在ヲ徵セズ

十四、第五項ニテ「エーテル」層ト分離セル原液ニなとろん滷汁ヲ加ヘテ「アルカリ」性トナシ更ニ第五項ト同樣ニ「クロ、ホルム」ヲ以テ處置シ原液(第十八項ニ用ユ)ハ「クロ、ホルム」層トヲ分離シ「クロ、ホルム」ハ之ヲ小硝子皿ニ取リ水浴上ニ蒸散シテ褐色ノ殘渣中ニ結晶性ノモノヲ有スル殘渣ヲ得タリ

十五、前項ノ殘渣ハ中性ニシテ無臭苦味アリ結晶ハ水ニ溶解シ易シ此殘渣ヲ溫水ニ取リ前記第六項ノ如クシ一般「アルカロイト」ノ沈澱試驗ヲ行フ

イ、マイエル氏試藥

ロ、シヤイブレル氏試藥

ハ、昇汞溶液

ニ、鹽化金溶液

ヲ加フルニ皆輕濁ヲ生ズ

ホ、單寧酸溶液

ヘ、ピクリン酸溶液

十六、前項ヲ溫水ニ取レル液ヲ小磁皿ニ分取シ水浴上ニ乾燥シ次ノ檢査ヲナス

イ、濃硫酸ヲ加フルニ無色ニシテ之ニ重「クロームム」酸加里ノ小塊ヲ加フルニ紫色ノ條線ヲ生ズ

ロ、エルドマン氏試藥ヲ加フルニ淡黃色ナリ

ハ、フレーデ氏試藥ヲ加フルニ無色ナリ

ニ、マンデリン氏試藥ヲ加フルニ始メ紫色ニシテ後赤色ヲ呈ス

ホ、濃硝酸ヲ加フルニ無色ナリ

卽チ「アロニチン、アトロピン、ヘルチン、ヘリドニン、ヒニン、コカイヤ、コデイン、コニン、デルヒニン、エメチン、ヒオスチアミン、ナルコチン、ニコチン、パパベリン、ヒゾスチグミン、ピロカルピン、ゾラニン、テバイン、ベラトリン等ノ存在ヲ徵セズ「ストリキニーネ」ノ存在ヲ徵ス

十七、第十五項ノ化學的反應ニ依レバ「ストリヒニン」存在ノ徵標アリト雖本檢査物ノ如ク死體現象ノ進行セルモノニハ蛋白質ノ分解產物タル屍毒(プトマイン)ノ多ク存在スルアリテ實際「ストリキニーネ」ヲ用ヒザル死體ヨリ往々化學的ニ「ストリキニーネ」類似ノ反應ヲ來スコトアルヲ以テ之ト區別セン爲メ次ノ生理的試驗ヲ行フ

イ、七・〇瓦蛙ニ可檢液〇・五ヲ背部ノ皮下ニ注入スルニ五分ニシテ蛙ハ輕キ搐搦ヲ來シコハ周圍ノ刺戟ニヨリテ間代性ニ亢進ス十分ニシテ死ス

ロ、五・〇瓦ノ蛙ニ可檢液〇・三ヲ臀部ノ皮下ニ注入スルニ三分目ニ特有ナル角弓反張ヲ來ス

八、八・〇瓦ノ白鼠ニ可檢液〇・五ヲ背部皮下ニ注入スルニ二分ノ後「ストリキニーネ」ニ特有ナル痙攣ヲ起シテ死亡ス

卽チ「ストリキニーネ」ノ存在ヲ確徵ス

木檢査物ニ於ケル「ストリキニーネ」ハ貯蓄液交換ノ爲メ大部分除去セラレ僅ニ一小部分存セルノミナレバ敢テ定量ヲ行ハズ

十八、第十四項ニテ「クロ、ホルム」ト分離セル原液ニ鹽酸ヲ加ヘテ弱酸性トナシ暫時放置後「アルカリ」性ヲ呈スル迄「アンモニア」水ヲ加ヘテ「エーテル」ヲ以テ第十四項ニ於ケルガ如ク處置シ原液(第二十項ニ用ユ)ト「エーテル」層トヲ分離シ「エーテル」ヲ硝子皿ニ集メ靜ニ蒸散シテ中性無色ニシテ弱酸味ヲ有スル結晶物少許ヲ得タリ此ヲ溫水ニ取リ本項及次項ノ檢査ヲナス

イ、マイエル氏試藥

ロ、シヤイブレル氏試藥

ハ、昇汞溶液

ニ、ピクリン酸溶液

ホ、タンニン酸溶液

ヘ、鹽化金溶液

ヲ加フルニ何等沈澱ヲ生ゼズ

十九、前項ノ可檢水溶液ヲ白色小磁皿二、三個ニ分取シ水浴上ニ乾燥シ次ノ反應ヲ行フ

イ、濃硝酸ヲ加フルニ無色ナリ

ロ、濃硫酸ヲ加ヘ之ニ硝酸一滴ヲ加フルニ無色ナリ

卽チ「アポモルヒネ」ノ存在ヲ徵セズ

二十、第十八項ニテ分離セル原液ヨリ「エーテル」ヲ驅逐シ約三倍量ノ「クロ、ホルム」ヲ加ヘ十分間强ク震盪シ靜置シテ原液ト「クロ、ホルム」トヲ分離シ更ニ新鮮ナル「クロ、ホルム」ヲ加ヘ

同樣ニ處置スルコト二回、前後三回ノ「クロ、ホルム」ヲ小硝子皿ニ集メ水浴上ニ蒸散シ褐色中性ニシテ稍苦味ヲ有スル殘渣極メテ少許ヲ得タリ之ヲ溫水ニ散リ一部ヲ以テ次ノ檢査ヲ行フ

イ、マイエル氏試藥

ロ、シヤイブレル氏試藥

ハ、昇汞溶液

ニ、鹽化金溶液

ホ、單寧酸溶液

ヘ、ピクリン酸溶液

ニテ何等沈澱ヲ生ゼズ

二、一、前項ニテ溫水ニ浸出セル液少許ヲ白色小磁皿ニ分取シ水浴上ニ乾燥シ之ヲ以テ次ノ檢査ヲ行フ

イ、フレエーデ氏試藥ヲ加フルニ無色ナリ

ロ、フーゼマン氏反應陰性ヲ呈ス

卽チ「モルヒネ」ノ存在ヲ徵セズ

二十二、第二節第三項乃至第二十一項檢査ノ結果ニ依レバGノ胃壁ニハ稍多量ノ「ストリキニーネ」ノ附着セルコトハ明ナリ但シ本檢査物ニ於テハ前記(第一、十七項)ノ理由ニ依リ他ノ毒物ノ檢査、并ニ「ストリキニーネ」ノ定量ハ之ヲ行ハズ

第三節　骨檢査

一、第一章ニ記セルGノ病歷ニ就テ見ルモ本章第一及第二節ノ化學的檢査ニ依ルモGノ中毒セル主要毒物ハ「ストリキニーネ」ナルヲ以テ第三節ニ於テハ單ニ「アルカロイド」ノ檢査ノミヲ行フコトヽセリ

(甲)　一般檢査

二、採集セルGノ骨ハ上膊骨二本前膊骨二本及肋骨數本合セテ二四五・〇瓦アリソノ表面ハ淡黃色ニシテ少許ノ泥土ヲ附着ス之ヲ清拭シテ檢スルニ骨體ト骨端トノ間ニ尙明ニ接合線ヲ認メ得特ニ上膊骨上端ノ如キハソノ接合比較的緩ニシテ骨體ト骨端トヲ容易ニ離脫スルコトヲ得

(乙)　化學的檢査

三、今全部ノ骨ヲ鋸斷シテ薄片ヲ製シ「コルベン」ニ移シ「アルコール」及酒石酸溶液ヲ加ヘテ溫浸シ以テ第二節第三項乃至第二十一項ノ如タ處置シ「ストリキニーネ」ノ有無ヲ檢スルニ陰性ナリ

之レ恐ラクハ死後體外ニ滲透シ盡セシニヨルナラン

第三章　Gノ死因決定

一、予ハ化學的檢査ニ入ルニ先チソノ必要上第一章ニ於テ已ニGノ病歷解剖所見等ノ大要ヲ述ベ而シテ第二章化學的檢査ニ於テ毒物トシテノ內臟百三十瓦ヨリ〇・〇〇九ノ「ストリキニーネ」并ニ多量ノ水銀ヲ及胃壁ヨリストリキニーネヲ檢出セリ而シテ此等ノ毒物ハ生理的ニハ體內ニ存在セザルモノナルヲ以テ前述G死直前ノ病狀ト併セ考ヘテ死因ニ關シテハ頗ル疑問ヲ挾マザルベカラズ

(甲)　死直前病狀

二、吾人ハ先ヅ以テGノ死ハ疾病ニ起因スルモノナルヤ否ヤヲ決定セザルベカラズ一件記錄ニ徵スルニ

大正〇年二月二十七日付醫師Y聽取書中ニ

問、KHノ先妻卽Rノ姉G死亡ノ際ニモ診察シタル趣左樣ナリヤ

答、左樣ナリ

問、其當時ノ模樣ハ如何ナリシヤ

答、之ハ多少時日ヲ經過シ居ルコト故確實ナル記臆ハナキガ大正三年十月末ナリシト思フ頭部ニ「グリ」ヲ生ジタリトテ診察ヲ求メニ來リシ故ニ診察シタル所梅毒ナラント認メラレシ故其手當ヲナシ置キタル所其後一度來テ來ラズ十一月十日頃突然前ノ川邊ニテ卒倒シタリトテ往診ヲ求メ來リシ故行キ見タルニ已ニ宅內ヘ擔ギ込ミ居リ診ルニ精神朦朧トシテ發熱三十九度餘ニ昇リ居リシ故梅毒ノ臨ヲ兇シタルモノト認メ其手當ヲナシ居タル所月二十一日强度ノ痙攣換言スレバ小ナル搐搦ヲ起シ終ニ同タル樣ノ次第ニテ梅毒症ノ腦炎ト認メタリ

大正五年十二月十一日付同人調書中ニモ

八問、KHノ先妻Gヲ診察セシ時ノ顚末如何

大正三年十一月初メ頃喉カ痛ムニ依リ見テ呉レト云フテGガ自分デ來リタルニ付診察シタルニ頸部ノ左ノ淋巴腺ガ腫大シ居リ梅毒性ノモノト考ヘ水銀劑ト「ヨジウム」丁幾ヲ投藥シ二日分ヅヽ二度與ヘタリ同月十二三日頃川端ニテ正氣ヲ失ヒシ故來テ呉レト申シ來リシニ付往診セシニ輕度ノ痙攣アリ精神朦朧トナリ居リ每日往診シタルガ追々衰弱ヲ加ヘ來リ同月二十一日病人ガ大變惡イカラ來テ呉レト申シ來リシヲ以テ往診セシニ搐搦ヲ起シ瞳孔ハ强直ヲ來シ已ニ危篤ニ陷リ居リシニ付注射ヲモ爲サズ終ニ死亡シタリ……中略……

十問ノ答、……保險醫ガ一度來リ診察セシ由ニテKHハ保險醫ガ流行性腦脊髓膜炎ト申シ居リ云々……中略……

十一問、Gニ就テハ「ストリキニーネ」ノ中毒ノ疑ハナカリシヤ

答、腦梅毒ニテモ搐搦及瞳孔强直ヲ來スコトアルヲ以テ此時ハ中毒ノ疑ハ起サヽリシ

大正六年五月十六日第三回公判始末書中證人Y訊問調書中ニ……

……前略……

問、是迄見テ居タルニ此ノ如キ急變ハ在ル筈ナリト思ヒタル樣ノコトハナカリシヤ

答、ソレハナカリシ

問、死亡ノ二三日前頃ニ死ノ結果ヲ來タス可キコトヲ認メタルヤ

答、左樣ニテ死亡ノ二三日前ニ於テ最早四五日位ヨリ持チヌモノト見込ミタルガ同人ハ梅毒性ノ腦炎ニテ急變ヲ來タシ死亡シタルモノト考ヘタリ

問、何故左樣ニ考ヘタリヤ

答、一月一日ニ同人ガ川邊ニ倒レタル時ヨリ左頸腺ニ腫起物ガ生ジタリ私ハ之ハ梅毒性腦炎ニ因ルモノト思ヒタルガ其時ヨリ餘程弱リ居リ死亡ノ二三日前ニ診察シタルトキ漸次虛脫スル症狀ノ現ハレ居リシ故ナリ……中略……トアリ

三、要之Gハ大正三年十月末頸部淋巴腺ノ腫脹ヲ示シタル徵メソノ治療ヲ受ケツヽ後同十一月十日頃突然自宅前川邊ニ於テ卒倒シ精神朦朧トナリ三十九度餘ノ熱發アリシモ治療ニ依リテ漸々解熱シ居リタル所同十五六日頃ヨリ經度ノ痙攣ヲ來シ同月二十一日ニ至リ强度ノ痙攣ヲ發シ終ニ死亡セルモノナリト云フニアリY醫師ハ單ニ此等ノ所見ノミヲ以テGノ死因ヲ梅毒性腦炎ニ歸セリ

四、然ルニY醫師ノ述ブル處單ナル二、三ノ症狀ヲ以テGノ疾病ヲ梅毒性腦炎ト決定スルハ其ダ早計タルヲ免レズ何トナレバ急性ノ熱發痙攣卒倒等ハ該腦炎ノ症狀ニアラザレバナリ今日ヨリ見レバ之等ノ陳述ノミニ依リテハ單ニGガ或種ノ疾病ニ罹リタルコトヲ推知シ得ルノミニシテ何病ナリシカハ之ヲ知ルコト能ハズ從テッガ死因トナリ得ル程ノモノナリシヤ否ヤモ全ク不明ナリ

（乙）解剖檢査記錄

五、茲ニ於テ吾人ハ大正五年三月四日WS醫師ガGノ死體ヲ剖檢シタル記錄ヲ參考シ死因決定ニ向フ一歩ヲ進メザルベカラズ

大正五年四月十五日付同醫師ノ提出セル鑑定書ヲ見ルニ……

……前略……

（一）女性屍全身ノ表面殆ンド屍蠟化シ身長體重等ヲ知ルコト能ハズ

（二）頭部、顏面、頸部、項部、胸部、腹部、背部、左右上下肢、外陰部、肛門等ニ損傷異常存在セザルモノ、如キモ表面ノ皮膚屍蠟化セルヲ以テ精細ノコトヲ檢スルコト能ハズ

（三）頭蓋腔內ハ既ニ腐敗軟化ニ陷リ檢査ノ目的ヲ達シ得ラレザルベキニ依リ開檢ヲ行ハズ

（四）胸、腹部ノ正中ヲ法ノ如ク縱斷シ次ニ胸腔ヲ檢スルニ左右肋膜ニ異常ヲ認メズ

（五）心囊內異常ヲ認メズ

（六）心臟大サ約本屍ノ手拳大ニシテ瓣膜及房室隔孔等ニ異常ナク房室內ニ血液存在セズ

（七）左右肺臟著シク萎縮シテ詳細ヲ檢スルコト能ハズ

（八）喉頭全骨ニ異常ヲ認メズ

（九）脾臟、腎臟、膵臟、肝臟、子宮等死後ノ變化ヲ來シ詳細ニ檢スルコト能ハズ

（十）胃、噴門及幽門部ニ於テ堅ク結紮ヲ行ヒ其結紮部ノ近傍ニ於テ切除シ清潔ナル硝子壺ニ採集シ置ケリ

（十一）小腸內ニハ汚穢草綠色ノ軟便存シ他ニ異常ヲ認メズ

（十二）大腸內ニハ汚穢草綠色ノ軟便ヲ存シ他ニ異常ヲ認メズ……

……中略……

前記解剖檢査記錄（十）ニ採集シ置キタル胃壁ヲ開檢スルニ汚穢赤褐色ノ流動性內容約百三十瓦存在ス依リテ右流動性內容物約七十瓦ヲ取リ毒物「ストリキニーネ」ノ存在スルヤ否ヤヲ檢査……

……後略……

トアリテ腐敗ノ進行甚シキ爲メ注目スベキ記載ナク予等ノ剖檢所見ニ於テハ特ニ然リ又極メテ必要ナル胃壁ノ性質ニ付テモWSノ鑑定書ニハ何等ノ記錄ナケレドモ貯造後予ニ交附セラレタル胃壁ヲ精檢スルニ內外面共全部黃白ニシテ特ニ淺色ノ部ナクソノ內面ニハ粘膜ノ缺損剝脫異物ノ附着ヲ見ズ（第二節第二項參照）即チ是等解剖所見ニ依リテモGガ死因ニ對シ何等ノ關リ所ヲ得ル能ハズ

（丙）檢出セル毒物ト死因トノ關係

六、最後ニ吾人ハ最早化學的檢査ノ成績ニ依リテGガ死因ヲ決定セザルベカラズ然リ而シテ予ガ毒物トシテGノ內臟ヨリ證明セル水銀ハY醫師（第三章第二項參照）ガ治療ニ用ヒタル水銀劑ヨリ由來セルモノナルベキハソノ死直前少シモ水銀中毒ノ症狀ナキヲ以テソノ證左トス即チGノ死因ト水銀劑トハ何等關係ナキモノナリ

七、次ニ予ガ檢出シタル「ストリキニーネ」ハ腐敗セル內臟百三十瓦中ニ〇・〇〇九瓦アリタリ夫レ毒物ガ身體內ニ輸入セラルヽヤ多クハ間モナク血行中ニ入リテ全身ニ分布スルモノニシテ又人類ノ臟器ガ腐敗シ或ハ水中等ニ置カルヽ時ハ毒物ハ外界ニ滲透シテソノ量逓減スルモノナレバモシ當人ガGノ死直後ニ毒物檢査ヲ行ヒ且全身ニ分布スル「ストリキニーネ」全部ヲ採集スルコトヲ得バ〇・〇〇九ノ十數倍ヲ得タル事明カナリコハ「ストリキニーネ」ノ大人ニ對スル致死量〇・〇三乃至〇・〇四瓦ノ數倍ニ相當ス而シテ該毒ガ死後體內ニ滲入シタルモノニアラザルコトハ骨ニソノ痕跡ヲ見出ス能ハザルヲ以テソノ證左トス

八、「ストリキニーネ」ノ大人ニ對スル致死量ノ少クトモ數倍ヲ攝取セルGガ間代性痙攣ヲ起シテ短時間中ニ死亡セリトセバGノ死因ガ「ストリキニーネ」ノ中毒死ナルコトハ殆ンド疑フノ餘地ナシ此ノ如クナルヲ以テ「ストリキニーネ」攝取當時Gガ病身ナリシニセヨ（Y醫師曰ク腦炎）彼女ノ直接死因ト該病トハ直接大ナル關係ナキモノナルベシ

九、尙Gガ「ストキニーネ」中毒死ナルコトWS醫師ガ胃內容中ヨリ相當量ノ同劑ヲ檢出セシコト及胃壁等ニ特記スベキ變狀ナカリシコトモ亦ソノ證左トスベシ

十、予ガ檢査セルGノ死體ノ如ク腐敗進行セルモノニ在リテハ假令「ストリキニーネ」樣物多量ヲ檢出シ得タリトモ之ニ類似セル「アトマイン」トハ充分ナル注意ヲ以テ鑑別セザルベカラズ予ガ作リ（第二章第一節第十五十六十七項參照）又動物ニ對シテ常ニ特有ナル痙攣ヲ來セシヲ以テ「アトマイン」（屍毒）ニアラザルコトハ明白ナリ屍毒ハ多クハ結晶ヲ作ルコトナク又「ストリキニーネ」ノ如ク特有ナル痙攣ヲ起スコトナシ

第二編　K日後妻R ニ關スル記錄（全部略ス）

以上神經毒及心臟毒トシテ甚ダ屢遭遇スルモノニ就テ述ベタルガ之ヨリ以下ノ毒物ハ法醫學的事件トシテ遭遇スルコト甚ダ稀有ナルモノナレバ單ニソノ名稱ト大要トニ就テ述ベン。

七、あとろぴね中毒

莨菪ノ實、根或ハ葉ヲ食スルカ、或ハあとろぴん溶液ヲ誤用スルニヨリテ中毒ヲ來ス、他殺ノ目的ニ本

第一章　病歷、死後ノ經過并解剖所見

第二章　化學的檢査

第一節　肝臟檢査「ストリキニーネ」陽性

第二節　腐及肝臟檢査　同右

第三節　腐及ソノ附着物檢査「ストリキニーネ」陰性

第四節　骨質檢査　同右

第五節　筋肉檢査　同右

第六節　胃壁檢査「ストリキニーネ」陽性

＊第三章　死因決定

鑑定

第一及第二編ニ於ケル檢査ノ結果及說明ノ如キ理由ナルニ依リ左ノ如ク鑑定ス

一、K日ノ先妻T及後妻Rノ直接死因ハ「すとりきにーね」中毒ニ在リ

此鑑定ハ大正〇年〇月〇日着手

同年〇月〇日終了

大正〇年〇月〇日

京都市外田中村大濱二十一番地

鑑定人　醫師　小南又一郎

劑ヲ用ユルハ甚ダ稀有ナリ。

致死量、大人ニ對シ〇・〇七乃至〇・〇八瓦ナリト云フ。

症狀、內用後二、三分ニシテ口腔咽頭ノ乾燥、嚥下、發語ノ困難、聲音嗄啞、顏面潮紅、瞳孔散大、筋肉震顫、體溫下降、觸覺減少、呼吸及脈搏緩徐、頭痛、眩暈及痙攣等ヲ發シ、次デ括約筋ノ麻痺ヲ來シ呼吸及脈搏頻數トナリ、全身麻痺ニ依リテ斃ル、剖檢所見ニハ特徵ナシ。

化學的證明、あるかり性母液ヨリねーてる或ハくろゝほるむニ移行シ、あとろぴんノ溶液ハ沃度沃度かり溶液ニテ沈澱ヲ生ジ、發烟硝酸ヲ加ヘテ蒸散シあるこほる性かり瀉汁ニテ濕セバ櫻赤色トナリ、あるこほる性昇汞溶液ヲ加フレバ先ヅ黃色トナリ次ニ瓦赤色トナル。

八、でいぎたりん、でいぎたれいん及でいぎときしん中毒

でいぎたりん等中毒

本劑ハ甚ダ多ク醫療ニ用ヒラル、故、ソノ錯誤ニヨリテ往々中毒ヲ來シ、或ハ之ヲ栽培スル地方ニテハでいぎたりす葉ヲ喰ヒテ中毒スルコトアリ。中毒ノ輕症ナルモノハ往々醫師ノ遭遇スル所ナレドモ本劑ヲ用ヒテ自他殺ヲ企ツルモノハ甚ダ稀ナリ。

致死量、でいぎたりすノ產地、ソノ收獲ノ時期、或ハ製劑ノ種類新古等ニヨリテソノ作用程度種々ナレバ、從テ致死量亦一定セズ。

作用、接觸セル局部ヲ輕ク刺戟シ、吸收サレテ後迷走神經中樞、心臟神經ヲ犯シ、遂ニ心臟ヲ麻痺セシム。

症狀、本劑ヲ內用スレバ嘔氣、嘔吐、胃部ノ疼痛、腹痛、下痢、心氣亢進ヲ來シ、次デ脈搏ハ非常ニ硬ク且ツ不正、遲徐、後ニハ速トナリ、頭痛、眩暈、耳鳴、視野暗黑、尿閉等ヲ招來シ、遂ニ心臟休止ニ依リ斃ル。

剖檢所見、本中毒ニ特有ナル所見ナシ、但シ輕キ胃腸かたーるヲ見ルコトアリ。

化學的證明、でいぎたりん等ノ小量ハ不變ニ尿ニ排出サルゝト雖モ、ソノ證明ハ困難ニシテ、寧ロ胃腸內容ヨリでいぎたりす葉片ヲ證明シタル時ハ鑑定確實ナリ。化學的ニハ可檢物ヲどらげんどるふ法ニテ所置スベシ、本劑ハいそぷちるあるこほるニテ振盪スルコトヲ得ト云フ報告アレドモ、ソノ成功ハ甚ダ困難ナリ。

にこちん中毒

九、にこちん中毒

烟草ノ濫用、灌腸劑トシテ本劑含有品ヲ應用スルコト等ニヨリテにこちん中毒ヲ來シ、ソノ他ノ原因ニヨリ來ル中毒ハ甚ダ稀有ナリ。

作用、接觸セル局所ヲ犯シ、あとろぴねニヨリ侵サル、臟器ヲ神經側ヨリ先ヅ刺戟シ、次デ麻痺セシム。又神經中樞ニモ同樣ニ作用シ、終ニ呼吸中樞ノ麻痺ニ依リテ斃ル。

本品多量ヲ內用スレバ先ヅ口內熱灼ノ感、垂涎、嘔氣、吐瀉ヲ來シ、次デ脈搏緩徐不正トナリ、發汗、瞳孔、縮少、眩暈、人事不省、呼吸困難、痙攣等ヲ招來シ、慢性中毒ノ際ニハ咽頭、喉頭及ヲいすたきー氏管ニ於ケルかたーる、心機昂進、視力減弱、眩暈、胃痛、動脈硬化等ヲ來シ、時トシテ精神異常ヲ惹起スルコトアリ。

剖檢所見、屍體及內臟ニ烟草臭アリ、咽頭、胃腸ニかたーる性變化ヲ見、心臟弛緩シ、硬、軟腦膜充血

ス、要之、にこちん中毒ニ特有ナル解剖所見ナシ。

致死量、純にこちんニテハ〇・〇六瓦ニシテ、烟草葉ニテハソノ量ヲ確定スルコト能ハズ。

化學的證明、にこちんハあんもにあ性溶液ヨリ石油ゑーてるニテ振盪抽出スルコトヲ得、或ハあるかり性溶液ヨリ蒸餾スルヲ得。にこちんノゑーてる溶液ニ沃度ヲ加ヘレバるびん紅色ノ結晶ヲ生ジ、くろーるる瓦斯ニ觸レシメバ血赤色トナル、尙植物學的ニ胃内容等ヨリ烟草葉片ヲ檢出スレバ、ソノ鑑定確實トナル。

あこにつと中毒
烏頭中毒

十、あこにつと中毒

あこにちんハ雙蘭菊ノ根及花中ニ含有スル有毒成分ニシテ、往々自殺又ハ他殺ノ目的ニ用ヒラレ、又藥用上ノ過失ニ依リ中毒ヲ來スコトアリ。我國ニテ烏頭、とりかぶと、またかぶと、かぶとばな、ふすいも、はなづる、たりこさす、わたりぎくト俗稱スルモノヽ中毒ハコノあこにつと中毒ナリ。

作用、接觸セル局所ヲ犯シ、次デ先ヅ中樞神經、并ニ心臟神經ヲ刺戟シ、然ル後麻痺セシ、尙瞳孔擴大中樞ヲ刺戟ス。

致死量、一・二瓩ナリ。

症狀、胃部ニ劇シキ刺スガ如キ痛ヲ覺エ、嚥下困難、流涎、嘔吐、舌麻痺ノ感、知覺異常、頭部壓重、三叉神經痛アリ、脈搏幽微ニシテ不正トナリ、呼吸緩徐、眩暈、痙攣四肢厥冷、胸内苦悶、筋力ノ衰弱等ヲ來シ、遂ニ呼吸及心動停止ニ依リ、痙攣ヲ供ヒテ死ス。

剖檢所見、本中毒ニ特有ナル剖檢所見ハナシ、往々胃腸粘膜或ハ漿膜ニ腫脹或ハ溢血點アリ、尿ニハ不變ナルあこにつとヲ出シ、肝腎血液等ニ之ヲ蓄積ス。

化學的證明、あこにつとハ甚ダ分解シ易キ毒物ナレバ、臟器ヨリ抽出檢査スルコトハ殆ド不可能ナリ、コハあるかり性母液ヨリ、くろゝほるむニ移行スレドモ、本品ヲ確實ニ證明スベキ呈色反應ハ尙未ダ發見セラレズ。

綿馬ゑつきす中毒

十一、綿馬えつきす中毒

綿馬ゑつきすハ驅虫劑トシテ用ヒラレ往々中毒ヲ來スコトアリ、重症ニ於テハ胃腸炎乃至神識障害及痙攣ヲ發シ、昏睡ヲ以テ斃ル、輕症ニテハ頭痛、眩暈、視力障害、并ニ神識障害及痙攣等ヲ發ス。

商陸中毒

十二、商陸中毒

商陸ハ民間ニ山午蒡ト稱ヘ、水腫或ハ黴毒ニ効アリトナシテ内用シ、往々中毒スルコトアリ。其症狀ハ急劇ノ嘔吐、腹痛、下痢ヲ發シ、便ハ水樣ニシテ四肢厥冷シ、脈搏幽微細小、顏面紫藍色トナリ、遂ニ心臟麻痺ニ依リテ死亡ス。

さんとにん中毒

十三、さんとにん中毒

さんとにんハちな花ノ有毒成分ニシテ、水ニ溶解シ難キヲ以テ胃腸内ニ於ケル吸收モ從テ遲ク、排泄モ亦遲ク、ソノ致死量ハ不明ナリ、本劑ハ驅虫劑トシテ用ユル爲メ、醫療上ノ錯誤ニ依リ中毒ヲ來スコト多シ。

症狀、本劑多量ヲ攝取スレバ、數時間ニシテ始メテ眩暈、頭痛、不安震顫、呼吸困難及顏面筋ノ搐搦等ヲ來シ、次デ癲癇樣痙攣ヲ發作ス、而シテ明所ハ黃色ニ、暗所ハ淡紫色ニ見エ、皮膚ニハ蕁麻疹ヲ生ジ、顏面ニハ水腫ヲ發シ、尿意頻數、尿閉、膀胱痙攣、黃疸、へもぐろびん尿ヲ起シ死ニ至ル、ソノ死因ハ多

クハ痙攣發作ノ際ニ於ケル窒息、若クハ反復スル痙攣ニ依ル虚脱ナリ。

剖檢所見、本中毒ニ特有ナル所見ハナシ、但シ本中毒死ニテハ腦ニ於ケル充血、溢血斑及黄疸等ヲ見、尿ニかり滷汁ヲ加フレバ赤色ヲ呈ス。

化學的證明、さんとにんハ酸性母液ヨリゐーてる或ハくろゝほるむニテ振盪抽出サレ、抽出物ヲ六十六%ノ硫酸ト共ニ熱シ、次デ鹽化鐵液ヲ加フレバ血赤色トナリ、漸時ニシテ紫色ニ移行ス、青酸かりト共ニ融解スレバ赤色ヲ呈シ、透視スレバ綠色ノ螢光ヲ發ス、さんとにんハ臟器内ニ於テ變化シテ證明困難トナルコト多シ。

急性こかいん中毒

十四、急性こかいん中毒

こかいんハこか葉ノ有効成分ニシテ、醫藥ノ誤用ニ依リ中毒スルコトアリ、或ハ嗜好品トシテ濫用シ中毒ヲ來ス、自殺或ハ他殺ニ用ヒラルゝコトハ甚ダ稀ナリ。

致死量ハ個人的關係ニヨリテ大差アリ、通常ハ大人ニ對シ一・〇瓦ナリト云フ。

作用、先ヅ中樞幷末梢神經ヲ刺戟シ、次デ之ヲ麻痺セシム、即チ知覺神經鈍麻シ、心臟ニ於ケル迷走神經ヲ麻痺セシメ、瞳孔ヲ擴大シ、慢性中毒者ニ在リテハ精神的異常ヲ來スコトアリ。

症狀、本中毒ニ於テハ先ヅ咽頭ニ於ケル乾燥及熱灼ノ感、嚥下困難、嘔氣、嘔吐等ヲ來シ、次デ腹痛、脈搏頻數、心機昂進、瞳孔擴大、呼吸困難等ヲ見、又精神的ニハ爽快ノ感アリ、酩酊狀トナリ、次デ抑鬱狀ヲ呈シ、胸内苦悶、不安、ちやのーせ、虚脱、視力減弱、知覺異常、搐搦、痙攣、麻痺等相次ギ來ル、慢性中毒者ハ非常ニもるひね中毒ニ類似シ、體力及精神的能力ノ減弱ヲ訴フ。

毒うつぎ中毒

十五、毒うつぎ中毒

本品ハ又いちろべころし、ねずみころし、うまをどろかし、みそやかず、河原うつぎ、をにうつぎ、いぼのき等ノ名アリ、本邦ニ於ケル植物性中毒中、本中毒ハ最モ多クシテ小兒ニ於テ食用上ノ錯誤ニ依リテ中毒スルヲ見ル、即チ毒うつぎノ果實ガ成熟シテ紅色ヲ呈スル七月ノ交ニ於テ、中毒者甚ダ多數ナリ。此果實中ニハこりあみるちんト稱スル猛毒ヲ含有スト云フ。

症狀、少量ヲ食シタル場合ニハ、食後一、二時間内外ニシテ腹痛ヲ起シ、下痢、嘔吐アルノミニシテ、治スルモ、稍多量ヲ攝取スレバ口唇ちやのーせヲ呈シ、不安苦悶、失神ヲ來シ、次デ腹痛、嘔吐、下痢、間歇性痙攣、呼吸促進、四肢厥冷、發汗、牙關緊急、全身搐搦、心機亢進、發音障碍、嗜眠、人事不省等ヲ來シ、遂ニ死ス。致死量ハ四、五粒以上ニシテ剖檢所見等未詳ナリ。

まんだらげ中毒

十六、まんだらげ中毒

食用上或ハ醫療上ノ錯誤ニ依リテ本品ノ中毒ヲ來ス、本品ハ俗ニきちがひ茄子或ハてうせんあさがほト

きちかひなすび

稱シ、果實ハ直徑一寸許ニシテ其形茄子ニ似タリ、種子ハ扁平ニシテ黑褐色ヲ呈シ西洋胡麻ト稱セラル、ひをすちあみん及あとろぴんヲ含有ス。

症狀、本品ヲ内用スレバ、數分ニシテ早ク四肢ノ自由ヲ失ヒ、起立スルコト能ハズ、脈搏急速、頻斷、發育障碍、顏面潮紅、皮下靜脈怒張、觸覺過敏、四肢厥冷、熱發、呼吸困難、四肢麻痺、痙攣ヲ來シ、次デ腹痛、嘔氣、頭痛、眩暈、煩喝、嚥下困難、視力及聽力減弱等アリ、服毒後數時間乃至十數時間ニシテ人事不省トナリ、譫語ヲ發シ、無意味ニ怒リ、或ハ笑ヒ、手指ノ異常運動アリ、瞳孔散大シテ光線ヲ忌ミ往々ニシテ錯覺ヲ來ス、然レドモ豫後ハ多ク良好ニシテ死スルモノ少ク、致死量ハ全ク不明ナリ。

十七、しきみ中毒

しきみ中毒

本品ハ又しきび、はなのき、はなしば、こうのき等ト云ヒ、枝葉根皮花實共ニ有毒ニシテ、種子ノ中ニハしきみんト稱スル結晶性ノ毒物ヲ含ム、食用上及醫療上ノ錯誤ニ依リ、往々本品ノ中毒ヲ來ス。

症狀、激烈ナル腹痛、嘔吐、瞳孔縮小、四肢厥冷、ちやのーせ、顏面蒼白、發作性ノ痙攣、次デ全身ノ麻痺、人事不省ニ陷リ、輕症ナルモノハ數日内ニ治癒スルモ、中毒者ノ約半數ハ死亡ス、致死量ハ大人ニ對シ種子四、五十粒以上ナルベキモ未定ニシテ、剖檢所見亦詳ナラズ、本品ノ有毒成分ハ人體内ニ入リテ後ハ直ニ變化サル、ガ如ク、ソノ證明不能ナルモ、植物學的ニ未消化ノ細片ヲ檢出スルコトヲ得バ鑑定スルコトヲ得。

上記ノ如ク毒うつぎ、まんだらげ、しきみ等特ニ我國ニ於テ見ラル、草木類ニ依ル中毒ニ就テ略述シタレバ、最近予等ノ統計ニ依レル此等各中毒ノ出現頻度ヲ表示スレバ左ノ如シ。

草木類ニ依レル中毒者三百九十五人中

毒うつぎ中毒	百七十七例	まんだらげ中毒	四十七例
蘇鐵粥中毒	三十例	蓬ニ似タル不詳草中毒	二十一例
しきみ中毒	十八例	うづ中毒	十五例
馬鈴薯中毒	十一例	商陸中毒	九例
麻中毒	七例	天星中毒	七例
蛇苺中毒	六例	以下略之	

戊、菌類ニ依ル中毒

菌類ニ依ル中毒

多クハ毒菌ヲ食用菌ト誤認シテ食スルニ依リ中毒ヲ來ス、我國ニ於ケル菌類中毒報告三百四十五名中、月夜茸五十五名、一本しめじ十六名、さゝ茸十三名、天狗茸十六名、軸大しめじ八名、千本しめじ七名、さゝ茸七名等ナリ今毒菌中毒ノ狀況ヲ略述スレバ左ノ如シ。

一、てんぐたけ中毒

てんぐたけ中毒

てんぐだけ又ハはいどりたけ、はいどりきのこ、どりしめぢ、はいたけ、はいころし、蠅どまらす、弱たけ等ト云ヒ、松蕈ヨリハ稍瘠セテ莖細長キ蕈ニシテ、傘ノ面ニ白キ疣狀ノ斑點散布ス、九、十月頃ニ山野ノ濕地ニ發生シ、傘ノ大サ約三、四寸、莖ノ長サ四五寸、傘ノ面ハ茶褐色、ソノ上ニ白キ疣狀物附着ス、莖ハ白色ヲシテ軟カナル鍔ヲ有ス、本品ハ往々松蕈ト誤認セラレテ食膳ニ供セラル、コトアリ、此菌中ニ

むすかりん

ハむすかりんヲ含有スルヲ以テ中毒ヲ來スモノナリ。

症狀、本品ヲ食スレバ十時間餘ニシテ胸苦クナリ、嘔吐ヲ催シ、次デ腹鳴ヲ發シ、頻リニ下痢シ、發熱頭痛、全身衰勞、瞳孔縮小ヲ來シ、輕キ場合ニハ三日計リニシテ全治スルモ、重症ナル時ハ中毒後數日ニシテ手足厥冷シ、視力朦朧トナリ、脈搏增加シ、瞳孔愈々縮少シ、呼吸及心臟麻痺ニヨリテ死ス。

致死量ハ不明ニシテ、剖檢的ニハ急性胃腸炎ノ所見アリ。化學的ニハむすかりんヲ證明シ、或ハ植物學的ニ未消化ノ豆片ヲ胃腸內容ニ發見シテ、ソノ鑑定ヲナスベシ。

紅天狗たけ中毒

二、紅天狗たけ中毒

又ノ名足高べにたけ、赤はひとり、Fliegenpilz 或ハ Fliummaita ト云フ、傘ハ紅色鮮美ニシテ白疣散在シ、表皮ノ直下ハ黃色、內部ハ白色ナリ、傘徑約五寸、莖ノ長六、七寸纖維質ニシテ正シク縱ニ裂クベシ、莖ノヤヽ上部ニ鍔アリ、襞ハ白色、密生シテ莖ニ離生ス、本菌ノ液汁中ニハむすかりんヲ含有シ、蠅之ヲ舐ルヤ直ニ斃死ス、人類ニ於テハ之ヲ食ヘバ、先ヅ酩酊狀態トナリ、次デ麻痺ニ陷ルト云フ。

卵子天狗たけ中毒

三、卵子天狗たけ中毒

天狗たけヨリハ小形ニシテ、傘色白キヲ常トスレドモ、往々帶黃帶綠色ノモノアリ、傘ハ表面粘性ニシテ、乾燥スレバ滑澤ニシテ光澤アリ、傘上ノ疣ハ日ヲ經レバ剝離シ去ル、徑二寸內外、肉ハ純白ニシテ少シク臭氣アリ、襞ハ白色、密生、莖ハ長クシテ白色、二寸乃至五寸長ニ達スルコトアリ、本菌ハふあーんト稱スル毒物ヲ含有シ、血球ヲ溶解スル性極メテ强シ、人若シ此菌ヲ食スレバ、血球溶解ヲ來シ患者ハ甚シク衰弱ス、食後十數時間ニシテ甚シキ腹痛、下肢及咀嚼筋ニ於ケル痙攣、脈搏幽微、吐瀉ヲ來シ、恰モ

これら樣症狀ヲ呈シ、終ニ人事不省トナリ二、三日中ニ斃ル。

べにたけ中毒

四、毒べにたけ中毒

夏期降雨多キ節ニ生ジ、傘ハ直徑二、三寸、初メ鐘狀後開キテ平面トナリ、中央部ニ窪ミヲナス、表面滑ニシテ光澤アリ、初メハ鮮紅色後暗赤色トナリ、降雨ニ逢ヘバ褪色スルヲ常トス、表皮ヲ去レバ肉ハ淡赤色ニシテ厚クシテ脆シ、莖ハ長サ二寸內外、質脆ク白色、襞ハ疎ニシテ幅廣ク純白、生ニシテ咬メバ辛味アリ、中毒スレバ笑ヒ死ニ斃レルト云フモ、中毒症狀、解剖所見、化學的證明等未ダ詳ナラズ。

月夜たけ中毒

五、月夜たけ中毒

傘ノ裏ナル襞ノ全面ヨリ夜間美麗ナル燐光ヲ發スル故此名アリ、其形香蕈ニ似タルヲ以テ錯誤ニ依リ中毒ヲ來ス、本菌ハ又わたり、くまべら、をめき、どくかたわト稱シ、通常九、十月頃ぶなノ木ノ枯朽セルモノニ生ズ。

傘ハ半月狀又ハ團扇狀ナレドモ、初メハ凸圓ニシテ後ニ平面トナリ、中央稍凹メリ、表面平滑ニシテ淡褐色ナレドモ、次第ニ紫褐色トナリ、全面ニ褐色ノ斑紋ヲ呈ス、傘徑大ナルハ六七寸、小ナルハ二寸、肉ハ白クシテ軟ク、一種ノ臭氣アリ、莖ハ常ニ傘ノ一側ニ附着シ、大クシテ短シ、本菌ハこりん或ハにゆーりんヲ含有シ、先ヅ心臟ニ働キテ血壓ヲ低下セシメ、次デ眩暈、麻醉、昏睡ヲ來シ、皮膚ニ紫斑ヲ來シ、腹痛、下痢、吐瀉ヲ伴ヒ、吐血シ死ニ至ル。

其他毒つるたけ、一本しめじ、からはつたけ、毒はつたけ、毒すぎたけ、わさびたけ、すつぽんたけ等皆有毒ナレドモ之ヲ省略ス。

魚介并ニ食物中毒

巳、魚介并ニ食物中毒

予等ノ集メ得タル食用品中毒者二千二百二十一名中、ふぐ中毒者五百〇三名、わび中毒者二百十五名、さば中毒者百五十六名、かに中毒者百五名、いか中毒者七十三名、たこ中毒者七十九名等ヲ最モ多シトス。

一、河豚中毒

河豚中毒

多クハ食用上ノ中毒ニシテ、時トシテ本品ヲ食ヘバ梅毒或ハ癩病ヲ治スト信ジテ内服シ中毒スルモノアリ、我國到ル處ふぐ中毒ヲ見、食用品中毒中最モ多數ヲ占ム、予等ノ集メ得タル河豚中毒五百〇三名中、三百十五名ハ死亡セリ。河豚ノ身體中、卵巣最モ有毒ニシテ、所謂てとろどときしんヲ含有シ、コハ神經系ヲ犯シテ麻痺症狀ヲ起サシメ、顔面潮紅、瞳孔縮小、嘔吐、四肢厥冷、言語澁滯全身麻痺、脈搏亢進、呼吸不正等ヲ來シ、心臟麻痺ニ依リ死亡ス。

剖檢所見トシテハ特異ノ徴ナク、本毒ノ化學的證明法トシテハ、未ダ確實ナルモノナシ。

二、食用品中毒

食物品中毒

新鮮ナラザル肉類、わび、かに、たこ、かまぼこ、腸詰、けーせ等ヲ食スル時ハ蛋白質ノ分解物、或ハたこ、わびノ如キニ至リテハ、ソノ生殖時期ニ有スル或毒物ニ依リテ甚シキ中毒ヲ來シ、時トシテハ宴會等ノ食物ノ爲メニ多數ノモノガ一時ニ此中毒ニ陷ルコトアリ。

症狀ニハ二種アリ、一ハ重ニ胃腸ヲ犯シ、即チ急性中毒性胃腸かたーるヲ起シテ、腹痛、吐瀉甚シクこれらトノ鑑別容易ナラザル如キ激症ヲ來スコトアリ、他ハ重ニ神經系ヲ犯シ、痙攣、麻痺、譫語等ヲ發ス。

醫術過誤

食用品中毒ナルヤ、或ハ藥劑中毒ナルヤノ鑑別ハ化學的毒物ノ證明ニ依ルノ外ナシ、又一面ニハ細菌學的ノ檢査ニ依リテ、急性傳染病ノ病源ヲ發見スルコト能ハズ、他面ニハ化學的檢査ヲ、充分ナル注意ト熟練ヲ以テ行フモ、何等毒物ヲ發見スルコト能ハズ、而モ臨床的症狀ガ前記食用品中毒ノソレニ一致スル時初メテ食用品中毒ナラントノ診定ヲ下スベキモノニシテ、此診定ヲ下スニハ充分ナル注意ヲ要ス。

予ハかずのこ及鯖ヲ食シテ中毒死ニ至レル母子ノ一例ガ、刑法上ノ問題トナレル事件ニ遭遇セリ、即チ母子ノ屍ヲ剖檢セルニ急性胃腸炎ノ外、特記スベキ解剖所見ナク、而モ採集セル材料ヨリハ、約一ケ年ニ亘レル化學的檢査ニ依リテ、何等毒物ヲ發見スルコト能ハズ、即チ死直前ノ症狀ヲ綜合シテ熟慮ノ結果、右母子ハ前記かずのこ及鯖ノ中毒死ナラント推定セシコトアリキ。

十三、醫術過誤

刑法第二百九條　過失ニ因リ人ヲ傷害シタルモノハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ズ
同　第二百十條　過失ニ因リ人ヲ死ニ致シタルモノハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
同　第二百十一條　業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタルモノハ三年以下ノ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

醫術過誤トハ醫師ガ醫術ヲ行フニ際シ、過失ニ依リ或ハ必要ナル注意ヲ怠リ、患者ノ比較的健康ヲ害シ若クハ死ニ至ラシムルヲ云フ。我國現行刑法ノ第二百九條乃至二百十一條ニ依レバ、過失ニ依リ人ヲ傷害シ或ハ死ニ致シ、若シクハ業務上必要ナル注意ヲ怠リ、人ヲ死傷ニ致シタルモノハ相當ノ刑ヲ課セラレ、又民法上ニハソノ七百九條乃至七百十一條ニ依リ、相當ノ損害賠償ヲナスノ義務ヲ負ハサル。

然ラバ法律家ハ過失トハ如何ナルモノヲ指スカト云フニ、行爲ヲ爲スニ際シ、ソノ結果ヲ豫見スルコトヲ必要トスルニモ拘ラズ、或ハ豫見シ得ベキニモ拘ラズ、豫見セズシテ之ヲ行ヒ、意外ノ結果ニ達スル時ハ過失ニ陷レルモノナリト云フ。換言スレバ、注意ダニナセバ如何ナル結果ニ到達シタルヲ云フ。

拘ラズ、ソノ注意ヲ爲サザリシ爲メ思ハザル結果ニ到達シタルヲ云フ。

獨逸及日本刑法ニハ前述ノ如ク醫術過誤ニ對スル特別ナル規定ナキヲ以テ、一般ニ過失傷害罪ニ問ハルトコトヽナリ居レルモ、ねすてるらいひニテハ醫術過誤ニ對スル特別ナル刑法規定アリテ、醫師ガ患者取扱ノ際、過失ニ依リ患者ヲ傷害シタルハ彼ノ醫術未熟ナルコトニ基因スルコト明ナルニ於テハ、該醫師ハ再ビ國家試驗ヲ受ケ、彼ガ醫術未熟ニ非ラザルコトヲ證明サル、迄ハ、醫業ヲ停止セラル、コト、ナリ居レリ。

醫師ハ吾人々類ノ最モ貴ムベキ生命ヲ對象トスル業務ナレバ、ソノ術ヲ行フニ際シ出來得ル丈ケノ能力ト注意トヲ拂ハザルベカラザルハ云フ迄モナキコトニシテ、「官公吏ニ非ラズトモ、醫師ハ社會公安ニ對シ責任ヲ有スルモノナリ」トカ、「醫ハ仁術ナリ」トカ云フ語ノ慣用サル、ハ之レガ爲メナリ。

元來醫術ハ人體ノ如ク複雜ニ發達セルモノニ對シ施ス術ナレバ、何處ヨリ過失ノ範圍ニ入ルカ頗ル明瞭ヲ缺クモノナリ、卽チ醫師ハソノ職業ヲ行フニ際シ、決シテ數學的正確ヲ以テ行フコト能ハズ、只僅ニ外部ヨリ視或ハ達シ得ル診察法ニヨリテ診斷ヲ下シ、之ニヨリテ治療ヲ行フモノナレバ、往々ニシテ誤謬ニ陷ルハ止ムヲ得ザルコトナリ、故ニ學者ニ依リテハ醫術過誤ナルコトヲ種々ノ程度ニ解釋シ居レリ、之ヲ純法律的ニ解スレバ、治療ノ結果ヲ豫見シ或ハ豫見スルヲ必要トスルニモ拘ラズ、之ヲ豫見セズシテ手ヲ

診察不應招

下シ、意外ノ結果ニ達スルヲ醫術過誤ト云フモ、コノ豫見ノ程度ハ醫師ノ學識經驗等ニ依リテ種々ノ階梯アリ、例ヘバ甲醫師ハ治療ノ結果ヲ豫見スルコトヲ得ルモ、乙醫師ハ之ヲ爲ス能ハザルコトアリ、此際甲醫師ヲシテ乙醫師ノ治療行爲ヲ鑑定セシムレバ明ニ醫術過誤ナルモ、乙醫師ト同程度ノ丙醫師ヲシテ見セシメバ、乙醫師ノ行爲ハ醫術過誤ニ非ラズ、卽チ鑑定人ノ學識ノ如何ニ依リテ、同行爲ガ醫術過誤トモナリ、或ハ否ラザルコトアリ、依之觀之、鑑定ノ標準ヲ何レニ置クカハ甚ダ困難ナル問題ナリ、一法律家ハ曰ク、醫術タルヤ甚ダ大切ナル人命ヲ以テ對象トス、最モ嚴格ナル標準ヲ取ルベシト、此言ヤ甚ダ良シト雖、一面ヨリ見レバ、コハ醫政上一考ヲ煩ハサヾルベカラズ、例ヘバ醫科大學附屬醫院ニテ行フガ如キ消毒法ヲ取ラザレバ醫術過誤ナリト、山間僻地ノ一小開業醫ニ迄强ユルハ殘酷ナルコトニシテ、サラデダニ少ナキ僻地ニ於ケル開業醫ヲ撲滅スルガ如キ結果ヲ示シ、醫政上由々シキ大事ヲ來スベシ、然ラバトテ醫術過誤ニ對シ餘リ寛大ニ過グル時ハ、種々ノ恐ロシキ弊害ヲ來スベシ、之レ法ハ法ノミニ依ルベカラズ人ニモ依ルベキ所以ナリト信ズ。

叙上ノ如クナルヲ以テ、醫術過誤ナルモノヲ一括シテ論ズルハ甚ダ困難ナルガ故ニ、普通醫師社會ニ於テ醫術過誤ナリト見做サル、モノヲ列擧セン。

一、往診或ハ治療ヲ拒ムコト、醫師ハ國家ト共ニ人ノ生命ヲ保護スルヲ天職トスルモノナレバ、如何ナルモノヨリ疾病ノ往診或ハ治療ヲ依賴サル、モ、故ナク之ヲ拒絶スルコト能ハズ、之レ疾病ハ何時如何ナル方法ニテ人ノ生命ヲ脅カスカ全ク不明ノモノナレバ、ソノ診療ヲ依賴サレタルモノハ「故ナクシテ」之ヲ拒ム能ハザルハ、我國ニテハ警察犯處罰令ノ規定スル所ニシテ、獨逸等ニモ所謂「べるトふすつわんぐ」ナ

誤診

不當手當

救急手當

手術ノ不注意

患者ヲ試驗的ニ使用

ルモノ存在シ、之ヲ取締ルコト、ナリ居レリ、「故ナクシテ」トハ「正當ノ理由」ナタシテノ意味ニシテ、更ニ「正當」トハ社會ノ秩序ヲ紊リ善良ノ風俗ヲ害セザル程度ノモノト解釋スルヲヨシトス、併シ之トテモソノ解釋ノ範圍茫然タルモノナレバ、行政官或ハ司法官ノ意向一ツニ依リテ、醫師ハ何時ニテモ警察犯處罰令ニ問ハル、ノ危險ヲ有スル弱キ職業ノ一ナリ。

二、誤診ノ爲メ不適當ノ治療ヲナシ、人ノ自由ヲ束縛シ、或ハ人ヲ死傷ニ致シタル時、例ヘバ動脈瘤ヲ腫瘍ト思惟シテ手術ヲナシ患者ヲ死ニ致シ、或ハ精神病ニ非ラザルモノヲ精神病院ニ監禁スル時ノ如キ、皆醫術過誤トシテ充分ノ責ヲ負ハサル。

三、手當ノ不當ナル爲メ人ヲ疾苦セシメタル場合、例ヘバ繃帶ガ固スギル爲メ手足ニ壞疽ヲ起シタルガ如キ、或ハ骨折ニ不適當ナル手當ヲナシ治療ノ功果充分ナラザル時ノ如キ之レナリ。

四、必須缺クベカラザル手當ヲ忽ニスル時、例ヘバ非常ニ出血シツ、アル患者ヲ眼前ニ控ヘ、或ハ瀕死ノ病人ガ診察ヲ乞ヘル際、醫家ニハ診察順アリナド云ヒ居リテ該患者ノ手當ヲ等閑ニ附シ、爲メニ患者ニ惡結果ヲ來セシ際ノ如キ之レナリ。

五、手術ノ際不注意ノ爲メ、創内ニ諸種ノ異物ヲ忘却シ置キタル爲メ、患者ヲ疾苦セシメタル場合、例ヘバ開腹術ニ際シ、腹腔内ニ「ピンセット」「ガーゼ」等ヲ忘レ置キ、患者ヲ疾苦セシメタル場合ノ如キ之レナリ。

六、患者ヲ試驗的ニ應用スルコト、例ヘバ新藥ガ出來タリトテ、ソノ作用ヲモ闡明セザルニ先チ、直ニ患者ニ用キ之ヲ疾苦セシメタル場合ノ如キ之レナリ。次ニ假令ソノ作用明カトナリ、或ハ患者自身得心シ

不充分ナル消毒

公文書僞造

報告責任

業務上ノ秘密

居ルトモ、生命ニ危害ヲ及ボスモノハ絕對ニ用ユルコト能ハズ。

七、消毒ガ十分ナラザリシ爲メ他ノ患者ノ疾病ヲ傳染セシメタル時、例ヘバ猩紅熱患者ニ用キタル舌壓子ヲ消毒セズシテ用ヒ、之ヲ他人ニ傳染セシメタル時ハ醫術過誤ナルモ、充分ナル消毒法ヲ行ヒタル後、之ヲ用ヒ尙何處ニカ病毒殘存シ居リテ、傳染ヲ惹起シタル場合ハ醫師ニ責任ナシ。

八、處方箋ヲ書キ違ヘ、或ハ藥物ノ作用使用法ヲ知ラズシテ患者ニ藥品ヲ授與シ、或ハ分量ヲ誤リ、中毒ヲ來セシ時モ亦醫師ハ充分ナル責任ヲ負ハサル。

九、助產ノ場合、充分適應症ノ來ラザルニ手術ヲ施ス場合モ醫術過誤ナリ、例ヘバ穿顱術ヲ行フベキ徵候未ダ備ハラザルニ、小兒ノ頭部ニ穿孔スルガ如キ之レナリ。

十、鑑定書、診斷書、死體檢案書、死亡診斷書等ニ虛僞ノ記載ヲナシ、官廳又ハ個人ニ損害ヲ與ヘタル場合モ醫師ニ充分ナル責任ヲ課セラル。

十一、傳染病者、中毒者、變死者等ヲ發見シタル場合二十四時間以内ニ所屬官廳ニ報告シテ相當ノ手續ヲ取ラザリシ場合、醫師ニハ一定ノ刑ヲ課セラル、之レ傳染病ノ傳播ヲ防ギ、或ハ公安ヲ保ツニ必要アレバナリ。

十二、業務上ノ秘密ヲ守ラザル爲メ、個人ニ對シ損害ヲ及ボシ、或ハ公ノ秩序ヲ紊シタル場合、醫師ハソノ損害ヲ賠償シ、且相當ノ刑ヲ課セラル、但シ法廷ニ於テ司法官ガ業務上ノ秘密ヲ守ルベキコトヲ司法上ノ必要ノ爲メ、法律ニ依リ解除シタル場合ハ醫師ノ責任ニ非ラズ、茲ニ注意スベキハ醫家ノ發表スル研究報告ニ患者ノ實名ヲ記載スルコトナリ？　コハ明ニ業務上ノ秘密ヲ破ルモノナレバ、謹ンデ避ケザルベカ

安死術

ラズ、但シ已ニ死亡セルモノニ在リテハ、ソノ氏名ヲ記載公表スルモ法律上差支ヘナシト云フト雖、之ニ依リテソノ遺族ガ損害ヲ被ルニ於テハ亦醫師ノ責任ニ歸セザルベカラズ。

十三、醫術ヲ超越セル診療ヲナスコト、例ヘバ或患者ガ最早到底恢復ノ見込ナク、非常ナル苦痛ト戰ヒツヽアル際、安死ノ爲メ麻醉劑ヲ與ヘテ靜ニ永眠セシムルハ、一ツノ功德ナリト謂シモ考ヘ及ブ所ナルモコハ大ナル誤ニシテ、醫師ニ對シテハ病者アルノミニシテ決シテ死セントシツヽアルモノナキ筈ナリ、故ニ患者ノ得心ナクシテ此ノ如キコトヲ行ハヾ殺人罪ヲ犯スモノニシテ、患者ノ依賴ニ應ジテ之ヲ行ハヾ自殺補助罪ナリ、但シ苦痛輕減ノ爲メニ麻醉劑ヲ與フルハ此限リニ非ラズ、又避姙ヲ欲スル健康人ニ對シ、避姙手術ヲ行フハ、假令本人ノ懇望ニ依ルモ、コハ醫術ヲ施行シタリトハ見做ナサレズ、此等ハ皆醫術ノ範圍ヲ超越セルモノナリ。

以上ハ醫術過誤ト見做サル、重ナル例ニ過ギズ、次ニ醫術過誤ニ關スル鑑定ヲ命ゼラル、ハ、醫師トシテ甚ダ苦痛ナルコトナルモ、醫術ノ信用ノ爲メ極メテ嚴格ナル鑑定ヲナスベシ、之レ往々法律家ニシテ醫師ノ失敗ヲ同業者ナル他ノ醫師ニ鑑定セシムルハ、不安ナリトノ感ヲ起サシムルコトアレバナリ、但シ一定ノ件ニ付甚ダ曖昧ナル事態ノアルアリテ、之ヲ善意ニ解スルモ將タ惡意ニ解スルモ合理ナルガ如キ場合アリ、此際ハ宜シク一般法理ノ指示スルガ如ク、善良ノ慣習ニ背カザル方ノ意味ニ解スルヲ穩當トス。

醫術過誤被告事件鑑定ノ際、吾人ノ注意スベキハ次ノ諸點ナリ。

一、患者ノ死傷ハ行ハレタル醫師ト因果ノ關係ヲ有スルヤ否ヤ。

二、モシ因果ノ關係アリトセバ、該醫術ノ結果ノミニ由リテ死傷ヲ來シタルカ、或ハ寧ロ他ノ惡シキ原因共同シテ結果ヲ來セシモノニ非ラザルナキカ。

三、他ノ醫術的方法ヲ用ヒバ患者ハ輕快或ハ治癒スルコトヲ得タルヤ。

四、該醫術モ適當ニ行ヘバ、其病氣ヲ輕快セシメ或ハ治癒スルコトヲ得タルヤ。

此等ノ疑問ニ對スル應答ハ多クハ困難ナルモノニシテ、彼等醫師ノ精細ナル申立ト、被害者ノ陳述及病狀トヲ調査シタル一件記錄ヲ丁寧ニ閲覽シ、或ハ自ラ訊問シ、然ル後今日ノ學問ノ程度トヲ考ヘ合セ鑑定ヲ下スベシ。

最後ニ注意スベキハ、醫術過誤問題ヲ惹起スルハ、多クハ醫師ノ病家或ハ患者ニ對スル所置ガ不親切ニ見エ或ハ同情ヲ有セザルガ如キ態度ヲ現ハス場合ニ多キ事ナリ、例ヘバ患者ハ大手術中ニテ生死ノ間ヲ彷徨シツヽアルニ際シ、醫師ハ戲談ヲ交ヘナガラ、或ハ酒氣紛々トシテめすヲ取リシト云フ如キコトアリテ、患家ニ同情ヲ失ヘルニ起因スルコト多シ、稀ニハ患者ガ金錢ヲ得ントシテ、無法ニモ醫師ヲ誣告スルコトアリ、然レドモ醫師ハ一身一家ヲ病者ニ提供シ、仁術ヲ施シ、同時ニ社會ノ公安ニ努力シツヽアルコトヲ常ニ世上ニ認メラレ居レバ、不幸ニシテ自己ガ過失ニ依リ醫術過誤ノ罪ヲ犯スコトアルモ、問題トナラザルコト多シ、我邦ニ於テ醫術過誤ガ訴訟問題トナル事少キハ、邦人一般ニ法律思想少キ爲メカ、或ハ醫師ニ仁者多キ爲メナルカ、吾人ハ其原因ノ願クハ後者ニ歸スルナランコトヲ望ンデ止マズ、惟フニ醫人ハ徹頭徹尾仁術ヲ旨トセザレバ、其本職ヲ遂行シ能ハザルモノト云フベシ。

第三編　法醫學的精神病學

甲、總論

一、緒言

法醫學的精神病學ノ定義

法醫學的精神病學トハ人ノ精神狀態ヲ探究シテ、立法、司法乃至行政ニ科學的幇助ヲ與フル學問ニシテ換言スレバ、應用精神病學ノ一ナリ。法醫學的精神病學ハ立法者、或ハ行政官ヲ裨益スルコト少ナカラズト雖、ソノ最モ重要ナル事業ハ法衙ニ訴ヘラレタル人ノ精神狀態ヲ調査診定シテ司法官ヲ裨益シ、法ノ適用ヲ誤ラシメザルニ在リ。卽チ以下予ハ重ニ司法上ノ問題トナル人ノ精神狀態鑑定ニ就キ述ブベシ。

刑法上ノ犯罪人分類

抑犯罪人ノ多數ハ多少ナリトモ、精神ニ異常アルモノニシテ、ろんぶろぞー氏ニ依レバ、犯罪人ハ皆生來性缺陷ヲ有スルモノナリト、然レドモ今日多數ノ學者ノ研究結果ニヨレバコハ事實ヲ誇張シ過ギタルノ嫌アリト云フ。通常刑法學者ハ犯罪人ヲ分チテ、生來性、慣習性、偶然性、激情性、乃至癲狂性犯人トナセリ、今仔細ニ此區分ヲ觀察スルニ偶然性犯人ヲ除キテ、他ノ四者ハ皆生來性缺陷ニ起因スルモノト云ハザルベカラズ、果シテ然ラバろんぶろぞー氏ノ言ヲ稍綏和シ、犯罪人ノ多數ハ生レナガラノ精神的缺陷者ナリト云フヲ得ベシ。而シテ此等犯罪人等ノ精神的缺陷ヲ調査シテ、ソガ如何ナル程度ニアルカヲ診定スルハ、法醫學的精神病學ノ對象トスル所ニシテ、ソノ診定ニ基キ社會ニ於ケル危險分子ヲ適當ニ所置シ、法益ヲ保護スルハ司法官幷ニ行政官ノ爲スベキ事業ナリ。輓近世界文明ノ躍進ト共ニ精神病者モ亦甚ダ增加シ、從テ一面ニハ犯罪人乃至訴訟事件增加シ、他面ニハ法ノ適用益々巧妙トナルニ從ヒ、法醫學的精神病ノ應用愈多キヲ加フルニ至レリ。論ジテ茲ニ至レバ、社會公安ノ義務ヲ分擔スル醫師ハ、ソノ職責上幷ニ彼ノ專門的技術上、是非共法醫學的精神病學ノ智識ヲ豐富ニシ、常ニ眼ヲ社會問題ノ上ニ放タザルベカラズ。

予ハ本書ニ於テ法醫學的精神病學ノ大要ヲ述ベ、一ハ初學者ノ嚮導トナリ、他ニハ實地醫家ノ參考ニ供セントス、卽チ本書ヲ閲ミスルモノハ、已ニ精神病學ノ大體ニ通曉シ居ラル、ヲ前提トシ、精神病學的事項、例ヘバ精神病ノ症候、診察法等ニ就テハ、精神病學書ニ讓リ、敢テ贅言ヲ費サズト雖、予ノ遭遇シタル鑑定例ハ長キヲ厭ハズ添加シテ、一面ニハ精神診察法等ノ補助トナシ、他面ニハ鑑定書記載方ノ參考トナサントト欲ス。

二、刑法ト精神病者

刑法ト精神病者

刑法ノ目的

刑法ノ目的トスル所ニ二學說アリ、一ハ報復主義ニシテ、コハ其犯シタル罪ノ結果ヲ以テ標準トナシ、社會又ハ個人ニ及ボシタル損害ノ程度ニ正比シテ罪ノ輕重ヲ定メ、以テ罪人ニ報復シ、同時ニ社會ヲ威嚇シテ、ソノ公安ヲ保持ストノ主意ヲ有スルモノナリシガ、現今ニ至リテハ此主義ニ贊同スルモノ少クナレリ。他ハ目的主義ト云ヒ、專ラ社會ニ犯罪ヲ斷絶スルヲ以テ原則トシ、犯罪者ノ心性ヲ矯正馴化シテ惡事ヲ再ビセザル樣ニシ、以テ出來ル限リ社會ヨリ犯罪ノ源泉ヲ除去セント欲スルニ在リ。今日ノ刑法學者ハ多ク此主義ニ從フ。刑法ノ目的此ノ如クナルニ於テハ、精神的缺陷ニ基キ、或ハ無意識ノ間ニ爲サレタル犯罪ニ對シテ、犯人ニ刑ヲ加フルモ、報復威嚇ノ効ヲ奏セズ、況シヤ矯正馴化ニ於テヲヤ、茲ニ於テ精神病者ノ犯行ニ就テハ、之ニ刑罰ヲ加フルニ當リ、司法官ハ一定ノ考量ヲ費サヾルベカラズ、卽チ犯罪人ノ

精神狀態鑑定ノ必要茲ニ於テカ起ル。ソノ他犯罪者ノミナラズ、刑法上ノ原告或ハ證人參考人等ニ就テモ豫メソノ精神狀態ニ異常ナキヲ確實ニシ置カザレバ、彼等ノ申立モ何等法廷上ニ價値ナキモノトナラン。

今刑法ト精神異常トノ關係ニ付、注意スベキ要點ヲ擧グレバ左ノ如シ。

精神病者ノ犯罪

(イ)精神病者ノ犯罪行爲、犯罪人ノ多數ハ、精神的缺陷者ナルコトハ已述ノ如シ、逆ニ精神病者ハ甚屢々犯法的行爲ヲナスモノニシテ、例ヘバ、癲癇病者、或ハ變質者ハ往々極メテ慘酷ナル殺人ヲナシ、老耄狂者、麻痺狂者或ハ變質者ハ、意外ナル猥褻行爲ヲナシ平然タルガ如キ之レナリ。ソノ他分娩直後ノ婦人ノ初生兒殺害、常習性犯罪、外見上動機ナキ犯罪等ヲ發見シタル場合ニハ、必ズ犯人ノ精神狀態ニ注目スベシ、實ニ精神病者ハソノ內的興奮、或ハ刺戟性亢進ノ爲メ、輕微ノ動機或ハ刺戟ニ依リ、不相應ナル反應的行動ヲ惹起シ、社會ニ不測ノ災禍ヲ來スモノナリ。

證人及原告ノ精神狀態

(ロ)證人及原告トシテノ精神病者、證人ノ證言及原告ノ申立ヲ確實ナラシメンニハ、ソノ精神狀態完全ニ正常ナルヲ必要トス、何トナレバ精神病者ハ妄覺、妄想及記憶錯誤等ニ依リテ、種々ノ虛言ヲ吐キ、事實ヲ忘ル、等ノ事アレバナリ。例ヘバひすてり患者ガ想像ヲ以テ事實ヲ虛談潤色シ、癲癇患者ガ記憶ノ缺損ヲ、想像的夢想ヲ以テ補綴シ、妄想性癡呆患者ガ妄想ヲ事實トシテ申立ツルガ如キ之レナリ。

精神病者ニ對スル犯罪

(ハ)精神病者ニ對スル犯罪、精神病者或ハ白痴ヲ利用シテ之ニ淫行ヲナシ、心神喪失或ハ抗拒不能ニ乘ジ種々ノ惡事ヲ行フコトアリ。

民法ト精神病

三、民法ト精神病者

民法上成年ニ達シタルモノハ、自己ノ財產ヲ合法的ニ且安全ニ處理シ、民法ノ規定スル所ニ從ヒ、財產權ニ對シ同意拒絕等ノ意志表示ヲ明瞭ニセザルベカラズ、卽物權及債權ニ於テ讓渡、契約、贈與、賣買、交換、貸借、委托、管理等ヲ履行シ、又親族關係ニ於テ婚姻、離婚、養子、扶養、相續遺言等ヲ所理セン爲メニハ、各般ノ習慣的乃至學習的智識、及正常ナル判斷、并ニ意思作用ノ完備ヲ緊要トス、今是等ニ對スル能力ノ幾分或ハ全部ヲ缺如セルモノハ、自己ノ家族ニ對シ相當ナル處分ヲナスコト能ハズシテ、小ニシテハ自己ノ不幸ヲ招キ、大ニシテハ國家管理上ノ障害ヲ來スモノナリ、斯カル能力缺如者ニ對シテハ、國家ハ其者ノ權利ヲ制限シ、以テ不測ノ災ヲ避ケザルベカラズ、之レ民法上精神狀態鑑定ノ必要アル所以ナリ。

精神狀態鑑定

四、精神狀態ニ關スル鑑定事項

刑法第三十九條及四十一條ニ依レバ、心神喪失者及滿十四歲以下ノ者ノ行爲ハ之ヲ罰セズ、心神耗弱者ノ行爲ハソノ罪ヲ輕減セラル、又民法第七條ニヨレバ心神喪失ノ常態ニ在ル者ハ一定ノ人ノ請求ニ依リ禁治產トナシ尙民法第七百十三條ノ規定ニヨレバ、心神喪失ノ間ニ他人ニ損害ヲ加ヘタルモノハ、賠償ノ責ニ任セズトアリ、ソノ他之ニ準ジテ心神耗弱者ヲ準禁治產トナスコトヲ得ルモノナレバ、此等ノ關係上醫師ガ屢法廷ニ關係アルモノ、精神狀態ニ關シ鑑定ヲ命ゼラル、コトアリ。

今醫師ノ鑑定ヲ命ゼラル、重ナル事項ヲ擧グレバ左ノ如シ。

一、犯罪者ガ刑法上ニ所謂心神喪失者ナルヤ、將タ心神耗弱者ナリヤ。(責任能力)

二、民法上自己ノ財產、又ハ家族ノ損益ニ關シテ之ヲ處分乃至管理スルノ能力アリヤ否ヤ。(處分能力)

三、處分或ハ管理能力ナキ爲、一旦禁治產、準禁治產ノ宣告ヲ受ケタルモノガ、若干ノ時日ヲ經テ精神上

ソノ能力ヲ恢復シタルヤ否ヤ。

四、證人トシテ信據スルニ足ルベキ陳述ヲナスコトヲ得ルヤ否ヤ。（信證能力）

五、契約又ハ遺言ヲ爲セシトキニ、其者ノ精神狀態ハ健全ナリシヤ否ヤ。（契約能力及遺言能力）

六、婚姻、養子又ハソノ他緣組ノ際ニ當リ、完全ナル意思表示ヲ爲シ得ルヤ否ヤ。

七、裁判未決ノ中ニ精神異常ノ疑アリテ、尙裁判上ノ審理ヲ續行シ得ル精神能力アリヤ否ヤ。（審理能力）

八、裁判確定後ニ精神異常ノ疑アリテ、刑ノ執行ヲ續行シ得ルヤ否ヤ。

九、負傷ノ結果トシテ精神障害ヲ起シタリト稱スルモノ、眞僞。

十、精神障礙ノ疑アルモノニ、虐待、淫行、自由束縛等ヲナシタル場合、ソガ犯罪ノ構成ニ關スル鑑定。

此等ノ件ニ關シ鑑定ヲ命ゼラレタル場合、醫師ハヨクソノ患者ノ心身狀態ヲ診定シ、精神病學上如何ナル疾患ニ罹レルモノナルカ、或ハソノ智識ノ程度ハ、凡ソ何歲位ノ小兒ノソレニ比敵スルヤ等ヲ記載スルニ止メ、問題ノ人ハ心神喪失者ナリ、或ハ耗弱者ナリト斷定スルコトハ成ルベク避クルヲ良シトス、然レドモ一般ニ司法官ハソノ鑑定命令ニ心神喪失者ナリヤ否ヤヲ問フヲ常トス、醫師ニシテ之ヲ心神喪失者ナリト答フル場合アリトセンカ、ソハ醫師ガ犯罪人ニ對シ、判決ヲ與フルガ如キ感ナキ能ハズ、然リ而シテ尙司法官ハ醫師ニ心身喪失者ナリヤ、將タ耗弱者ナリヤノ問題ヲ課スルトセバ、醫師ハ法官ノ云フ所ノ法律的術語ノ大要ヲ了解シ居リテ鑑定ニ從事シ、一面ニハ法官ノ命令ニ、他面ニハ個人ノ利益ニ悖ラザル樣心掛ケザルベカラズ、卽チ以下法律的術語ノ一、二ヲ說明セントス。

五、責任能力

刑法第三十五條　法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行爲ハ之ヲ罰セス

同　第三十六條　急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ之ヲ罰セス

防衛ノ程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

同　第三十七條　自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財產ニ對スル現在ノ危難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出テタル行爲ハ其行爲ヨリ生シタル害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エタル場合ニ限リ之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタル行爲ハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

同　第三十九條　心神喪失者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

心神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

同　第四十條　瘖啞者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス

同　第四十一條　十四歲ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス

責任能力ナル文字ノ定義ハ刑法學者間ニテモ區々タルガ如シ、大場氏ニヨレバ責任能力（負責能力）トハ自己幷ニ外界及ビ自己ノ行爲ノ事實上、幷ニ法律上ノ意義ヲ辨識シ、且此辨識ニ從ヒ現ニ存スル動機ニ關シ、行爲ヲ爲ヲ爲スヤ否ヤヲ通常ニ決定シ得ル能力ナリトアリ、人生レテ一定ノ年齡ニ達スル時ハ、精神病者及白痴者ヲ除ケル凡テノモノハ、各自理性ニ從ヒテ是非ノ辨別ヲナシ、自由意志ニ從テ行動スルモノナリ。健全ナル人ニシテ其理性、自由意志及是非ノ辨別アルニ係ハラズ、社會及人ニ對シ不法行爲ヲナスモノハ、ソノ行爲ニ關シ刑罰ヲ受クルハ自然ノ道理ナリ。卽チ此行爲ニ對シ責任ヲ負フベキ能力アルモノ、中ニ加

刑法施行法

第四十八條　刑事訴訟法第三百十八條ノ次ニ左ノ二條ヲ加フ

第三百十八條ノ二　死刑ノ執行ハ檢事及ヒ裁判所書記ノ立會ニテ之ヲ爲ス可シ死刑ノ執行ニ關スル者ノ外刑場ニ入ルコトヲ得ス但檢事又ハ監獄ノ長ノ許可ヲ得タル者ハ此限ニ在ラス

第三百十八條ノ三　死刑ノ言渡ヲ受ケタル者心神喪失シタルトキハ司法大臣ノ命令ニ因リ其痊癒ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル婦女懷胎ナルトキハ分娩後司法大臣ノ命令アルニ非サレハ執行ヲ爲スコトヲ得ス

第四十九條　刑事訴訟法第三百十九條第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

懲役、禁錮又ハ拘留ノ言渡ヲ受ケタル者ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其事故ノ止ムマテ刑ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

一　心神喪失ノ狀態ニ在ルトキ

二　刑ノ執行ニ因リ生命ヲ保ツコト能ハサル虞アルトキ

三　受胎後七月以上ナルトキ

四　分娩後一月ヲ經過セサルトキ

責任無能力者

ヘ込マル、モノヲ責任能力ヲ有スト云フ、元來責任能力或ハ負責能力ト譯スル Zurechnungsfähigkeit ナル文字ハ、「數ヘ込マル、能力」ト云フ意ナリ、而シテ精神病者白痴者ノ如ク意思ノ自由ヲ缺キ、是非ノ辨別ナクシテ行爲スルモノニハ、ソノ行爲ニ對シ責任ヲ負ハシムル能ハズ、換言スレバカ、ルモノ、犯罪行爲ハ、自由意思ナクシテ犯シタルモノナレバ、刑罰ヲ課スベキモノニ非ラズ、卽責任能力ナキモノナリト見做サル。

輕減責任能力

輓近諸種ノ科學ノ進歩スルニ從ヒ、人ニ實際意志ノ自由存在スルモノナルヤ否ヤノ疑問ヲ生ジ、且理性是非ノ辨別ノ有無ヲ以テ、責任能力ノ有無ヲ論ズトセバ、小兒或ハ或種ノ精神病者ニハ是非ノ辨別、或ハ一定度ノ理性ヲ有スルモノ少ナカラズ、從テ此等ノ理由ヲ以テ、十四歲以下ノ小兒或ハ智識ノ比較的犯サレザル精神病者ヲ、責任能力ヲ有セザルモノトスルハ、甚ダ根帶少キノ感ナキニアラズ、卽チ前述セルガ如ク、刑法ハ其目的ヲ變ジテ報復主義ヨリ目的主義トナリ、責任能力ニ對スル思想モ、犯罪ノ方面ヨリ考フル代リニ、刑罰ノ方面ヨリ考究セラル、ニ至リ、其極責任能力ヲ以テ刑罰ヲ加フルニ効アル能力ト解スルニ至レリ、卽チ矯正遷善ノ望ミナキモノニハ刑罰ヲ加フルモ効ナキニ依リ、責任無能力者ト見做セリ、予ヲ以テ之ヲ云ハシメバ、理想トシテコハ甚ダ良好ナル主義ナレドモ、我國ノ如ク感化院、孤兒院及精神病院ノ設備不充分ナル所ニ於テハ、一考ヲ費サヾルベカラズト思惟ス、何トナレバ此主義ニ從ヒ、到底改善ノ見込ナキ慣習性犯罪者等ノ如キヲ、責任無能力者トシテ刑罰ヲ課セズトセバ、彼等ヲ監禁スルニ所ナク從テ社會ニ散逸シテ公安ヲ害スルニ至レバナリ。

輕減責任能力トハ、報復主義ノ刑法學者ノ考案ニ基クモノニシテ、半バ理性ヲ保ツガ故ニ、責任無能力

處分能力

トスル能ハズ、サレバトテ完全ナル人格ヲ供フル人ニモ非ザルモノヲ云フ、例ヘバ、幼者ト成年トノ中間ニ位スル智識ヲ有スルモノ、或ハ精神病者ト健者トノ間ニ位スル精神薄弱者ノ行爲ハ、半バ責任ヲ有スルモノニシテ、幾分ノ刑罰ヲ受クベキモノトシ、之等ヲ輕減責任能力者トナセリ、精神病學及科學的ノ立場ヨリ云ヘバ、カ、ル中間性ノモノ、存在スルヤ否ヤハ甚ダ疑問タリ。

刑法上ノ責任無能力者ハ心神喪失者、滿十四歲以下ノ小兒及ビ强度ノ瘖啞者ニシテ、輕減責任能力者ハ弱度ノ瘖啞者及心神耗弱者ナリ。

民法上ノ責任能力トモ云フベキ處分能力ハ、成年滿二十年ヲ以テ完全ナルモノトナシ、未成年者ハ處分能力ナキモノトシタリ、民法ニ於ケル處分能力ノ發生ガ、刑法ニ於ケル責任能力ノ發生ヨリモ、尙高年ヲ要スルハ、是非善惡ノ辨別ハ卑近ナル道義的觀念ヲ以テ足ルモノニ過ギザレドモ、民法上ノ治產ニ關スル處分能力等ハ、多大ノ智識ト考慮決意ニ俟ツコト多キガ故ニ、心身ノ十分發育セル時期ヲ成年トシ、法律的行爲ヲナスヲ得ルコト、ナシタルモノナリ。

心神喪失

六、心神喪失者及耗弱者

刑法上ノ心神喪失乃至心神耗弱ナル文字ハ、モト立法者ガ類推的ニ責任無能力者及之ニ準スルモノヲ概括シテ命名シタルニ過ギザルモノニシテ、心理學的或ハ精神病學的名稱ニハアラズ、故ニ司法ノ局ニアルモノスラモ、ソノ解釋ヲ異ニシテ、或司法官ノ如キハ、心神喪失者ハ前後左右ノ辨別モ、自他ノ異同モ明ニセザルモノト思惟セリ。況ンヤ法律的術語ヲ知ラザル醫師ニ於テオヤ、元來心神喪失ト云ヒ耗弱ト云フハ、精神障礙ノ或程度ヲ表示セルモノニシテ、卽意識ノ清明、是非ノ辨別及自由ナル意志決定ニ障礙アル

心神耗弱

心神喪失トナルベキ條件

ヲ云フモノナリ。然レドモ此喪失ト耗弱トノ間ニ、嚴密ナル境界ヲ立ツコト能ハザルハ自明ノ理ナリ。刑法學者ハ行爲者ガ行爲ノ當時、事實上、自己外界及行爲ノ事實上及法律上ノ意義ヲ辨識スルノ能力ナキカ、又ハ現ニ存スル動機ニ關シ、通常ソノ意志ヲ決定スル能力ナキ者、又ハ此兩能力共ニナキモノヲ心神喪失者ナリトシ、心神耗弱者トハ行爲ノ當時、責任能力ニ必要ナル辨識及意志ニ完全ナラザル所アルモ、不完全ノ程度薄弱ニシテ、未ダ心神喪失ノ程度ニ達セザル者ヲ指稱セリ。

心神喪失トナルベキ重要ナル要件、是非辨別ノ缺如、衝動ニ對スル抑制力ノ缺如、熟慮、決意ノ障礙アル場合、病的動機ニ基ク動作等ニ起因スル犯罪行爲ニシテ、之ヲ精神病學上ヨリ見ル時ハ如何ナル狀態ニ在ルモノナルカト云フニ、大略左ノ如シ。

(イ)意識ヲ全然喪失セルモノ、例ヘバ卒中發作時、癲癇性或ハひすてり性痙攣發作時、全身麻醉時等ノ如キ之レナリ。

(ロ)强度ナル意識溷濁ニ陷レルモノ、例ヘバ癲癇性又ハひすてり性朧朧狀態、泥醉、酒客譫妄、熱性譫妄中毒又ハ急性傳染病ニ顯出スル意識障害、夢中遊行ニ陷レル際ノ意識溷濁等之レナリ。

(ハ)病的動機ニ基ク行爲、例ヘバ躁鬱病、早發痴狂、麻痺狂、憂鬱狂及偏執病ニ來ル衝動行爲及憂鬱者癲癇患者乃至あるこほる中毒ニ來ル暴動發作、病的性慾ニ基ク犯罪、妄想妄覺ノ爲メニナセル行爲等ノ如キ之レナリ。

(ニ)衝動ヲ抑制スルニ能力ナキ場合ノ行爲、例ヘバ强迫觀念、白痴、痴愚、悖德病、麻痺狂、早發痴狂、老耄性痴狂、中酒性痴狂等ニ罹レル爲メ衝動及抑制ノ能力ナキ行爲、卽チ此等ノ患者ノナセル猥褻、竊盜、暴行等ノ動作之レナリ。

心神耗弱者トナルベキモノ

民法上ノ心神喪失及耗弱

(ホ)熟慮決意ノ障碍アルモノ、卽チ白痴、痴愚、早發痴狂、麻痺狂、躁揚狂、ひすてり、癲癇者及變質者ノ重症ナルモノニ見ルソレノ如キ之レナリ。

心神耗弱者ノ範圍ニ入ルベキモノハ大略左ノ如シ。

(イ)輕度ノ痴愚者及魯鈍者。

(ロ)癲癇ノ小發作、ひすてりノ中等症、神經衰弱、ひよれあ等ニ於ケル氣質異常。

(ハ)酩酊者、變質者、悖德者、氣質異常者、中間者。

(ニ)精神病ノ前驅期タル輕度ノ精神變調、又ハ刺戟狀態ニ於ケル行爲。

心神喪失ノ狀況ナル文字ハ、カ、ル精神異常ガ現時ニ於テ存在シ、且ツ將來ニモ持續シテ永クソノ能力ヲ失墜セルコトヲ意味スルモノニシテ、自己ノ地位財產ニ對シ、之ヲ適應ニ管理處分スル能力、卽處分能力ノ喪失ヲ意味スルモノナリ。故ニ同程度ノ精神障碍モ、日々僅微ノ出納ヲ司ル車夫ノ如キモノニ在リテハ心神耗弱ニ過ギズシテ、大會社ノ重役等ニ在リテハ、心神喪失ト解スベキガ如キ場合アリ。卽チ民法上ノ心神狀態ヲ鑑定スル場合ニハ、ソノ人ノ精神狀態ト共ニ、財產或ハ四圍ノ狀況ヲ合セ考ヘテ診定スベキモノトス。

今　上記責任能力ノ有無、處分能力、罪科等ニ關スル大體ヲ表示スレバ左ノ如シ。